

だい もん ばら い せき
大 門 原 遺 跡

1999年3月

長野県飯田市教育委員会

だい もん ばら い せき
大 門 原 遺 跡

1999年3月

長野県飯田市教育委員会



大門原遺跡調査前全景（平成4年11月撮影）



III区調査区全景(1)



III区調査区全景(2)



S B 3 4



S B 3 4 遺物出土状況



S B 2 4 釣手土器出土状況



S B 2 4 遺物出土状況



SB 1-2 出土土器



SB 2-4 出土土器



SB 30 出土土器



S B 34出土土器



S B 2 7 出土土製品



その他土製品

序

社会の変化に伴って、飯田市内においても様々な開発事業が行われています。それらに関連し、飯田市教育委員会では、埋蔵文化財の発掘調査を実施し、記録保存をして後世に伝える事業を行っています。

近年、飯田市街地における開発は飽和状態に達しており、周辺地区の道路環境の整備が進みつつある状況と相まって、市街地周辺へ企業や住宅が拡散しつつあります。この座光寺地区においても国道153号バイパス以来、県道飯島飯田線バイパス建設等、道路整備が進みつつあります。今回の開発も、飯伊地方の経済活動の振興などを考えますと、是認すべきといえ、事前に発掘調査をして記録保存を図ることもまた必要不可欠であると考えます。

今回調査された座光寺大門原遺跡は、大正時代、鳥居龍蔵博士により学会に報告され、その遺物量の豊富さから注目を集めた遺跡であります。今回の調査ではこれを裏付ける遺構・遺物が出土しました。調査の結果は、本報告書のとおりであり、これまで積み重ねられてきた調査成果に、さらに重要な知見を加えたわけであります。すなわち、地域の歴史解明が進むとともに、ひいては縄文時代の復元の一助になると確信いたします。

最後になりましたが、文化財保護の本旨に厚いご理解を賜った地元の皆様、現地作業、整理作業に従事された作業員の方々に謝意を申し述べる次第であります。

平成11年3月

飯田市教育委員会

教育長 小林 恭之助

例　　言

1. 本書はふるさと農道整備事業（座光寺地区）に先立ち実施された、長野県飯田市座光寺大門原所在の埋蔵文化財包蔵地大門原遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は、飯田市産業経済部からの委託を受け、飯田市教育委員会が実施した。
3. 調査は、平成8年度に現地作業、平成9年度に整理作業、平成10年度に報告書刊行を行った。
4. 調査にあたり、基準点測量を株式会社ジャスティックに委託した。
5. 発掘作業・整理作業にあたり、遺跡略号としてDMHを一貫して用いた。遺構には、以下の略号を用いた。堅穴住居址・SB　土坑・SK
6. 本書の記載については、住居址・土坑の順とした。
7. 土層観察については主に、小山正忠・竹原秀雄 1996 「新版標準土色帳」を用いた。
8. 本書の執筆は、第IV章3を吉川豊が、それ以外を下平博行が担当した。また、編集は調査員の協議により、下平・吉川が行った。
9. 本書に関わる図面の整理は、調査員・整理作業員の協力により吉川・下平が行った。
10. 本書の遺構図の中に記した数字は、検出面・床面からそれぞれの穴の深さ(単位cm)を表している。
12. 本書に関連した出土遺物及び図面・写真類は、飯田市教育委員会が管理し、飯田市考古資料館に保管している。

目 次

本文目次

序	(19) S B 1 9	33	
例 言	(20) S B 2 0	33	
目 次	(21) S B 2 1	33	
第Ⅰ章 経 過	(22) S B 2 2	37	
1. 調査に至るまでの経過	1	(23) S B 2 3	37
2. 調査の経過	1	(24) S B 2 4	38
3. 調査位置・調査区の設定	1	(25) S B 2 5	38
4. 調査組織	1	(26) S B 2 6	38
第Ⅱ章 遺跡の環境	1	(27) S B 2 7	39
1. 自然環境	4	(28) S B 2 8	39
2. 歴史環境	4	(29) S B 2 9	39
3. 基本層序	8	(30) S B 3 0	39
第Ⅲ章 調査結果		(31) S B 3 1	42
1. 縄文時代の竪穴住居址 (S B)		(32) S B 3 2	42
(1) S B 0 1	13	(33) S B 3 3	42
(2) S B 0 2	13	(34) S B 3 4	45
(3) S B 0 3	15	(35) S B 3 5	45
(4) S B 0 4	16	(36) S B 3 6	45
(5) S B 0 5	16	(37) S B 3 7	48
(6) S B 0 6	16	(38) S B 3 8	48
(7) S B 0 7	19	(39) S B 3 9	48
(8) S B 0 8	19	(40) S B 4 0	50
(9) S B 0 9	19	(41) S B 4 1	50
(10) S B 1 0	23	(42) S B 4 2	50
(11) S B 1 1	23	(43) S B 4 3	52
(12) S B 1 2	23	(44) S B 4 4	52
(13) S B 1 3	25	(45) S B 4 5	52
(14) S B 1 4	25	(46) S B 4 6	55
(15) S B 1 5	28	(47) S B 4 7	55
(16) S B 1 6	29	(48) S B 4 8	55
(17) S B 1 7	29	(49) S B 4 9	57
(18) S B 1 8	32	(50) S B 5 0	57

(51) S B 5 1	57	挿図12 S B 0 5 • 0 6	18
(52) S B 5 2	59	挿図13 S B 0 7	20
(53) S B 5 3	59	挿図14 S B 0 8	21
(54) S B 5 4	59	挿図15 S B 0 9 • 1 0	22
(55) S B 5 5	60	挿図16 S B 1 1 • 1 2	24
(56) S B 5 6	60	挿図17 S B 1 3	26
(57) S B 5 7	60	挿図18 S B 1 4	27
(58) S B 5 8	64	挿図19 S B 1 5	28
2. S B 土層観察表	64	挿図20 S B 1 6	30
3. S B 炉址・埋甕土層観察表	67	挿図21 S B 1 7	31
4. 縄文時代の土坑 (SK)		挿図22 S B 1 8	32
(1) 土坑の形態分類について	71	挿図23 S B 1 9	34
(2) 土坑の遺物について	71	挿図24 S B 2 0	35
(3) 土坑観察表	72	挿図25 S B 2 1 • 2 2	36
(4) SK土層観察表	77	挿図26 S B 2 3	37
第IV章 総括		挿図27 S B 2 4 • 2 5	40
1. 縄文土器の概要	187	挿図28 S B 2 6 • 2 7 • 2 9 • 3 0	41
2. 第Ⅲ群 a 類土器について	191	挿図29 S B 3 1	43
3. 石錐について	199	挿図30 S B 3 2 • 3 3	44
4. 集落について	208	挿図31 S B 3 4	46
写真図版		挿図32 S B 3 5 • 3 6	47
報告書抄録		挿図33 S B 3 7 • 3 8	49
挿図目次		挿図34 S B 3 9 • 4 0 • 4 1	51
挿図 1 基準メッシュ図区画調査位置	2	挿図35 S B 4 2 • 4 3 • 4 4	53
挿図 2 調査遺跡及び周辺遺跡位置図	5	挿図36 S B 4 5	54
挿図 3 大門原遺跡調査位置図	6	挿図37 S B 4 6 • 4 7 • 4 8 • 4 9	56
挿図 4 基本層序	8	挿図38 S B 5 0 • 5 1 • 5 2	58
挿図 5 遺構全体図 (1)	9	挿図39 S B 5 3	61
挿図 6 遺構全体図 (2)	10	挿図40 S B 5 4 • 5 5 • 5 6	62
挿図 7 遺構全体図 (3)	11	挿図41 S B 5 7 • 5 8	63
挿図 8 遺構全体図 (4)	12	挿図42 SK103・140出土土製品	71
挿図9 S B 0 1 • 0 2	14	挿図43 土坑平面図 (1)	79
挿図10 S B 0 3	15	挿図44 土坑平面図 (2)	80
挿図11 S B 0 4	17	挿図45 土坑平面図 (3)	81
		挿図46 土坑平面図 (4)	82
		挿図47 土坑平面図 (5)	83

挿図48	土坑平面図(6).....	84	挿図83	S B 3 4 出土土器(3)	119
挿図49	土坑平面図(7).....	85	挿図84	S B 3 4 出土土器(4)	120
挿図50	土坑平面図(8).....	86	挿図85	S B 3 4 出土土器(5)	121
挿図51	土坑平面図(9).....	87	挿図86	S B 3 5 出土土器.....	122
挿図52	土坑平面図(10).....	88	挿図87	S B 3 6 出土土器(1)	123
挿図53	土坑平面図(11).....	89	挿図88	S B 3 6 出土土器(2)	124
挿図54	土坑平面図(12).....	90	挿図89	S B 3 7・3 9・4 0 出土土器.....	125
挿図55	土坑平面図(13).....	91	挿図90	S B 4 1・4 2 出土土器.....	126
挿図56	土坑平面図(14).....	92	挿図91	S B 4 3 出土土器.....	127
挿図57	S B 0 4・0 6・0 7・0 8	93	挿図92	S B 4 4・4 6 出土土器.....	128
出土土器					
挿図58	S B 1 0 出土土器	94	挿図93	S B 4 5 出土土器(1)	129
挿図59	S B 1 2 出土土器	95	挿図94	S B 4 5 出土土器(2)	130
挿図60	S B 1 3 出土土器	96	挿図95	S B 4 7~5 0 出土土器.....	131
挿図61	S B 1 4 出土土器	97	挿図96	S B 5 1 出土土器.....	132
挿図62	S B 1 5 出土土器	98	挿図97	S B 5 2・5 4 出土土器.....	133
挿図63	S B 1 7 出土土器	99	挿図98	S B 5 3 出土土器(1)	134
挿図64	S B 1 9 出土土器	100	挿図99	S B 5 3 出土土器(2)	135
挿図65	S B 2 0 出土土器(1).....	101	挿図100	S B 5 5・5 6・5 8 出土土器.....	136
挿図66	S B 2 0 出土土器(2).....	102	挿図101	SK 0 3・0 9・1 1・2 4・4 4 ・4 5 出土土器.....	137
挿図67	S B 2 0 出土土器(3).....	103	挿図102	SK 4 7・5 2・5 4・7 0・7 5 ・7 9 出土土器	138
挿図68	S B 2 1 出土土器	104	挿図103	SK 0 9・8 1・1 0 3・1 4 1 ・1 6 9 出土土器.....	139
挿図69	S B 2 2・2 3 出土土器	105	挿図104	S B 0 1・0 4・0 5 出土石器	140
挿図70	S B 2 4 出土土器(1).....	106	挿図105	S B 0 6 出土石器.....	141
挿図71	S B 2 4 出土土器(2).....	107	挿図106	S B 0 8 出土石器.....	142
挿図72	S B 2 5・2 7 出土土器	108	挿図107	S B 1 2 出土石器.....	143
挿図73	S B 2 8・2 9 出土土器	109	挿図108	S B 1 3 出土石器(1)	144
挿図74	S B 3 0 出土土器(1).....	110	挿図109	S B 1 3 出土石器(2)	145
挿図75	S B 3 0 出土土器(2).....	111	挿図110	S B 1 6 出土石器.....	146
挿図76	S B 3 0 出土土器(3).....	112	挿図111	S B 1 7 出土石器(1)	147
挿図77	S B 3 0 出土土器(4).....	113	挿図112	S B 1 7 出土石器(2)	148
挿図78	S B 3 1 出土土器(1).....	114	挿図113	S B 1 9 出土石器.....	149
挿図79	S B 3 1 出土土器(2).....	115	挿図114	S B 2 0 出土石器(1)	150
挿図80	S B 3 2・3 3 出土土器	116	挿図115	S B 2 0 出土石器(2)	151
挿図81	S B 3 4 出土土器(1).....	117			
挿図82	S B 3 4 出土土器(2).....	118			

挿図116	S B 2 1・2 2 出土石器	152	挿図152	飯伊地区の様相（2）	195
挿図117	S B 2 4 出土石器（1）	153	挿図153	飯伊地区の中期中葉末～後葉の土器群	197・198
挿図118	S B 2 4 出土石器（2）	154			
挿図119	S B 2 5・2 6 出土石器	155	挿図154	石錐に関するグラフ	201
挿図120	S B 2 7 出土石器（1）	156			
挿図121	S B 2 7 出土石器（2）	157			
挿図122	S B 2 7 出土石器（3）	158			
挿図123	S B 3 0 出土石器（1）	159			
挿図124	S B 3 0 出土石器（2）	160			
挿図125	S B 3 0 出土石器（3）	161			
挿図126	S B 3 0 出土石器（4）	162			
挿図127	S B 3 1 出土石器（1）	163			
挿図128	S B 3 1 出土石器（2）	164			
挿図129	S B 3 1 出土石器（3）	165			
挿図130	S B 3 3・3 3・3 5 出土石器	166			
挿図131	S B 3 4 出土石器（1）	167			
挿図132	S B 3 4 出土石器（2）	168			
挿図133	S B 3 4 出土石器（3）	169			
挿図134	S B 3 6 出土石器	170			
挿図135	S B 3 7 出土石器	171			
挿図136	S B 4 0～4 2 出土石器	172			
挿図137	S B 4 3・4 4 出土石器	173			
挿図138	S B 4 5 出土石器（1）	174			
挿図139	S B 4 5 出土石器（2）	175			
挿図140	S B 4 6 出土石器	176			
挿図141	S B 4 8・4 9・5 2 出土石器	177			
挿図142	S B 5 1 出土石器（1）	178			
挿図143	S B 5 1 出土石器（2）	179			
挿図144	S B 5 3・5 5 出土石器	180			
挿図145	S B 5 6 出土石器	181			
挿図146	SK出土石器（1）	182			
挿図147	SK出土石器（2）	183			
挿図148	SK出土石器（3）	184			
挿図149	遺構外出土石器（1）	185			
挿図150	遺構外出土石器（2）	186			
挿図151	飯伊地区の様相（1）	193			

第Ⅰ章 経 過

1. 調査に至るまでの経過

平成5年、飯田市役所耕地課から、ふるさと農道整備事業の一環として、飯田市座光寺の上段部に於いて、上郷町、高森町を結ぶ農道整備計画が提示され、埋蔵文化財包蔵地大門原遺跡に影響が及ぶと予想された。このため、平成5年3月8日に長野県教育委員会文化課・飯田市耕地課・飯田市教育委員会の3者による保護協議を実施した。その結果、事前に試掘調査を実施し、遺構・遺物が確認された場合、飯田市教育委員会において発掘調査し、記録保存することとなった。その後、飯田市長 田中秀典より、平成8年4月15日付 8 飯農林部第61号にて埋蔵文化財発掘の通知が出されたため、保護協議に基づき、平成8年4月18日から26日にかけて試掘調査を実施した。この折り、縄文時代中期の堅穴住居址・土坑など多数の遺構・遺物が確認されたため、飯田市農村整備課と再度協議を行い、現道部分を含めた本調査を実施することとなった。

2. 調査の経過

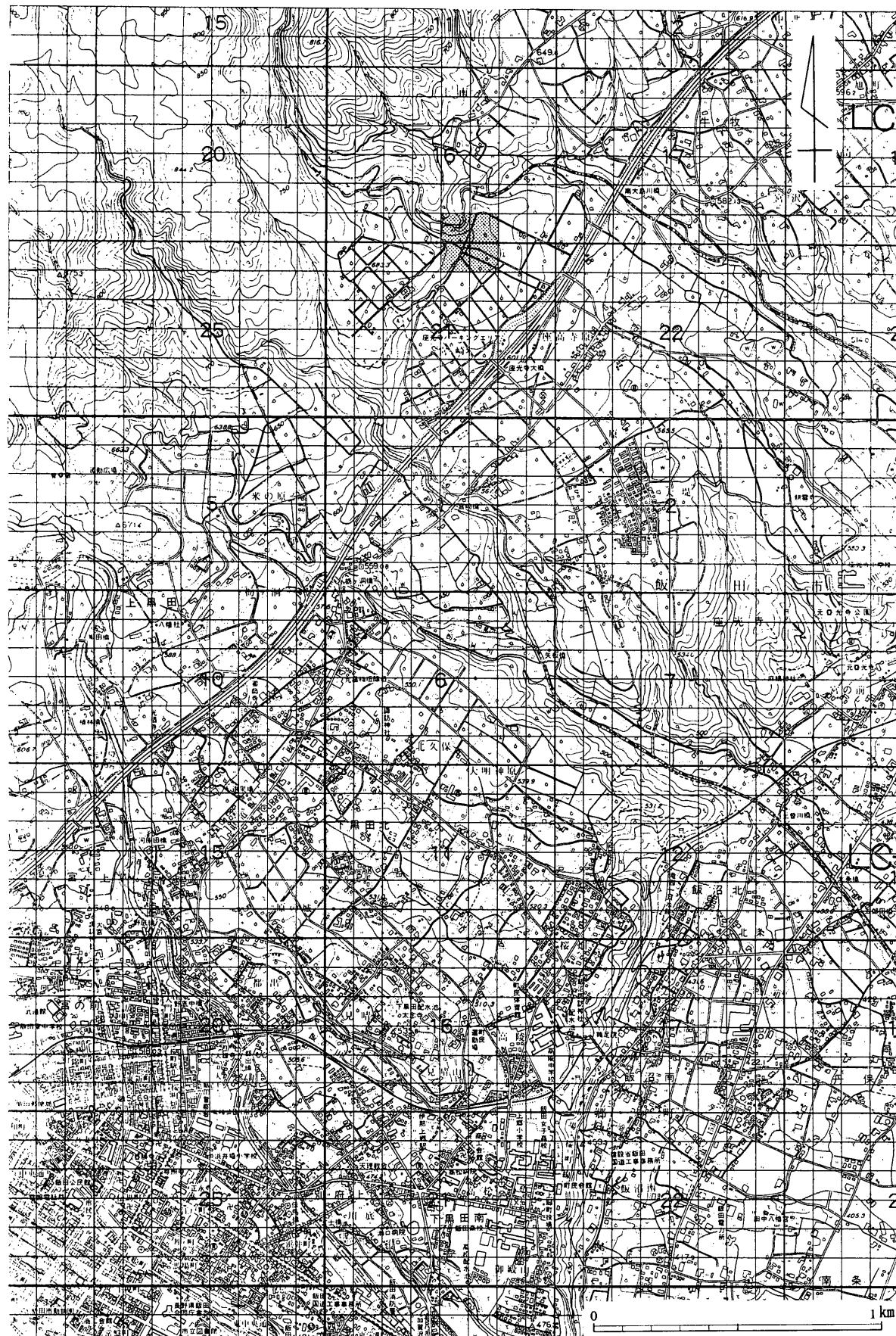
試掘調査の成果を受け、平成8年6月3日、飯田市農林部との間で協定を締結し、平成8年7月1日から発掘調査に着手した。まず、現道部を除く調査範囲を、重機により表土剥ぎを行い、ジャステック委託による基準杭設定を行った。そして、作業員の人力により、住居址・土坑などの検出作業を行った。遺構の掘り下げ作業は必要に応じて図面を取りながら進められ、その後個別の写真撮影を行った。平成9年2月10日からは現道部分の調査に着手した。道路のアスファルトを剥がし、同様の作業工程を実施し、平成9年2月28日現地での発掘作業を終了した。発掘調査の終了後、道路工事着手までの暫定的処置として、調査区部分の現道復旧工事を行った。

現地作業の終了後、平成9年度は飯田市考古資料館において図面・写真類の整理作業、出土遺物の水洗い・注記・復元・実測・写真撮影を行い、平成10年度は報告書刊行作業を行った。

3. 調査位置・調査区の設定

調査区の設定は、飯田市埋蔵文化財基準メッシュ図に基づいて、株式会社ジャステックに委託実施した。(基準メッシュ図の区画方法については、飯田市教育委員会 1996 『三尋石遺跡(II)』 参照)

調査地点は、LC 6 5 21-13 に位置する。



插図1 基準メッシュ図区画調査位置

4. 調査組織

(1) 調査団

総括 小林 正春
調査担当者 吉川 豊・福澤 好晃・下平 博行
調査員 山下 誠一・馬場 保之・吉川 金利・伊藤 尚志・佐々木嘉和
作業員 新井 幸子 新井ゆり子 池田 幸子 伊坪 節 伊藤 孝人 伊東 裕子
井上 恵資 太田 沢男 岡田 直人 奥村 英子 金井 照子 金子 裕子
唐沢古千代 北原 裕 木下 貞子 木下 早苗 木下 義男 木下 玲子
熊谷 義章 熊谷三代吉 小池金太郎 小池千津子 小島 妙子 小平 晴美
小平不二子 小平まなみ 小林 定雄 小林 千枝 斎藤 徳子 榊原 政夫
坂下やすゑ 佐々木文茂 佐々木真奈美 佐々木美千枝 佐藤知代子 清水 三郎
代田 和登 菅沼和歌子 関島真由美 瀬古 郁保 高木 純子 高橋 恭子
竹本 常子 田中 薫 中沢 温子 仲田 昭平 中田 恵 中平けい子
仲村 信 鳴海 紀彦 服部 光男 林 悟史 林勢 紀子 林 ひとみ
原 昭子 樋本 宣子 福沢 育子 福沢 幸子 福沢トシ子 古林登志子
牧内喜久子 牧内 八代 正木実重子 松井 明治 松下 成司 松下 節子
松下 友彦 松下 光利 松島 保 松島 直美 松本 恒子 三浦 厚子
三浦 照於 南井 規子 宮内真理子 麦島昭一郎 森藤美知子 柳沢 謙二
山田 康夫 吉川 悅子 吉川 和夫 吉川紀美子 吉川 正実 吉沢佐紀子

(2) 事務局

飯田市教育委員会博物館課

矢沢 与平 (博物館課課長 平成8年度)
小畠伊之助 (" 平成9年度~)
小林 正春 (" 埋蔵文化財係長)
山下 誠一 (" 埋蔵文化財係)
吉川 豊 (")
馬場 保之 (")
吉川 金利 (")
下平 博行 (")
伊藤 尚志 (")
福澤 好晃 (")
牧内 功 (" 庶務係)

第Ⅱ章 遺跡の環境

1. 自然環境

大門原遺跡の所在する飯田市座光寺地区は、市街地の北東約4kmにあり、北東には下伊那郡高森町、南東は天竜川を挟んで喬木村、南西を飯田市上郷地区と接しており、飯田市の北端に位置する。

飯田市は赤石山脈と木曽山脈にはさまれた伊那盆地（通称 伊那谷）の南端にあたり、盆地の中央には天竜川が南流する。天竜川両岸には典型的な河岸段丘が連続し、また山脈の形成に関わる断層地塊運動に伴い盆地・段丘崖が形成されており、複雑な段丘地形を呈している。

座光寺地区の場合、断層運動で作られた段丘で大きく上段と下段に分けられる。大門原遺跡の所在する上段は、木曽山脈の山裾から大規模な扇状地が発達し、扇端から段丘縁辺にかけては小河川の開析・湧水等の微地形の変化が著しい。一方、下段は数段の小段丘からなり、恒川遺跡群が立地する上位の段丘面の場合、北側は南大島川から扇状地が発達するのに対し、南側は比較的段丘面がよく残る複雑な微地形を呈する。

今回調査が行われた大門原遺跡は、飯田市座光寺地区の北西端に位置する。南大島川を挟んで対岸は下伊那郡高森町となる。遺跡は、北側を流れる南大島川の開析による扇状地全体に広がると推定され、扇状地南側には小河川の開析による溝状の湿地と思われる窪地がみられる。遺跡背後に当たる北西には小規模な扇状地が形成され、大門原山遺跡が所在し、南東扇端部は弥生時代の標識遺跡である座光寺原遺跡に連続する。北東側は南大島川に向かい緩やかな斜面になっており、前年度調査され縄文時代中期初頭の住居址などが確認された大久保遺跡に連続する。今次調査地点は標高651mを測り、扇状地の扇頂から扇央にかけての斜面部分に立地し、北側は、南大島川の浸食による比高差約20mを測る崖となっている。調査地点一帯はりんご等の果樹園として利用されている。

2. 歴史環境

座光寺地区は前述した地形的特徴から、各段丘崖下及び扇状地扇端からの豊富な湧水等を背景に縄文時代草創期から中世にかけての多くの遺跡が分布している。また、古くから知られた遺跡も多く、調査事例も多いことから、地区の歴史的変遷を具体的に描写することができる。こうした成果に基づき時代毎に遺跡の概観を行い座光寺地区の歴史的変遷を追ってみたい。

（1）縄文時代

縄文時代草創期の遺物は、美女遺跡のSK525から「爪形文土器」が出土しており、飯田市内でも最も古い時期の遺構・遺物として挙げられる。

縄文時代早期の遺跡としては美女遺跡・半の木遺跡・石行遺跡が挙げられる。特に美女遺跡では立野式押型文を主体とする住居址が12軒検出され、当該期の集落としては県内でも最大級の一つであり、縄文時代早期前半の集落形態・生活様式の解明に関して注目を集めた遺跡である。また、石行遺跡からは、細久保式・沈線文系土器等の押型文土器後半期の良好な資料が出土している。



1. 大門原遺跡 2. 半の木遺跡 3. 大井遺跡 4. 大久保遺跡 5. 美女遺跡 6. 米の原遺跡
 7. 宮崎A遺跡 8. 宮崎B遺跡 9. 大門原B遺跡 10. 大門原D遺跡 11. 井下横古墳
 12. 南原遺跡 13. 座光寺原遺跡 14. 中島遺跡 15. 北本城城跡 16. 北本城古墳
 17. 南本城城跡 18. 浅間岩 19. 壱丈藪3号古墳 20. 畦地1号古墳 21. 石行遺跡
 22. 新井原12号古墳 23. 高岡1号古墳 24. 高岡3号古墳 25. 高岡4号古墳
 26. ナギジリ1号古墳 27. 金井原瓦窯址 28. 如来寺境内 29. 古瀬平遺跡 30. 黒田大明神遺跡
 恒川遺跡群… A. 新井原 B. 新屋敷 C. 恒川B D. 恒川A E. 田中・倉垣外 F. 薬師垣外

挿図2 調査遺跡および周辺遺跡位置図



挿図3 大門原遺跡調査位置

半の木遺跡・美女遺跡・恒川遺跡からは早期後半の条痕文系土器の良好な資料が出土している。いずれの遺跡でも東海系の遺物が主体となり、縄文時代早期後半にはこの地域が東海地方と密接な関係にあったことを窺わせる。

縄文時代前期前半・後半では美女遺跡から住居址が検出されている。前半期では早期後半と同じく、東海系の土器群が主体となるものの、在地の中越式も少量みられるようになる。後半期になると関西系の大歳山式・関東系の十三菩提式がみられるようになり、当地域が関東・関西双方からの影響を受け始めた様相が示されている。

縄文時代中期では、今回調査された大門原遺跡から中期中葉の集落が、下段の低位段丘に所在する新井原遺跡から中期後葉の集落が確認されている。中期中葉では関東的色彩の極めて強い土器群が主体となるものの、在地色の強い土器群の萌芽がみられ、中期後葉では中部高地で主体となる唐草文系土器と東海系土器の融合した、いわゆる下伊那タイプの唐草文土器が主体となり、当地域が独自性を強めた時期であったと推定される。

縄文時代後期から晩期にかけては遺跡数が少ないものの、石行遺跡からは晩期終末の浮線文系土器・条痕文土器が出土しており、糞圧痕の観察される土器も出土している。

(2) 弥生時代

弥生時代前期・中期前半の資料は極めて断片的であるものの、中期後半では恒川遺跡群40軒以上の堅穴住居址が調査されており、段丘上で広範囲に広がる集落が構成されている。

弥生時代後期になると上段の座光寺原遺跡・中島遺跡からそれぞれ集落が確認されている。座光寺原遺跡では、扇状地の扇央部に一定の間隔をあけて住居址が散在しており、壺・甕・台付甕・鉢および有肩扇形状石器等の石器群が出土している。特に土器群は「座光寺原式土器」として型式設定されている。また、中島遺跡では多くの住居址とともに壺・甕・高坏・石器群が出土している。土器群については、「中島式土器」として型式設定され、伊那谷の弥生時代後期の標識資料となっている。また、両遺跡とも水田耕作に適さない段丘上に集落が形成され、下段の集落とは異なり、住居址が一定の間隔をあけ広範囲に広がることから、その生業形態について論議を呼ぶところとなり、畑作あるいは陸稲の栽培等が推定された。

(3) 古墳時代

古墳時代前期では下段の恒川遺跡群中の恒川B地籍を中心に集落が確認されている。遺構は恒川清水を中心に限定された範囲に集中しており、下段の弥生時代後期の様相に共通する。また中段の半の木遺跡から住居址が1軒確認されている。後期になると上段では集落は確認されていないものの、下段の恒川遺跡群全面に集落が展開する。遺物などからみた恒川遺跡群の変遷では奈良時代直前には新屋敷・恒川B地籍に住居址が限定的に集中することから、政治的な規制が加わった可能性が指摘されている（飯田市教委 1986）。

一方、古墳は竜丘地区・松尾地区に次いで多く築造されており、下段を中心に古墳時代後期の古墳が大半を占める。古墳の分布は高岡1号墳を中心とする北部の扇状地扇頂付近および西側の土曾川による扇状地扇頂部などに集中し、恒川遺跡群の集落域とは分布を異にしており、居住域と墓域が分離されて

いたことが推定される。上段では1981年に調査された北本城古墳ほか数基のみと少ない。この北本城古墳は6世紀中葉から7世紀後半の前方後円墳と考えられる。

(4) 奈良・平安時代

奈良時代には信濃国伊那郡に含まれ、恒川遺跡群はかねてより伊那郡郡衙あるいは「三代実録」にみられる定額寺である寂光寺の有力な比定地とされてきた。昭和51年度から実施された一般国道153号座光寺バイパス建設に先立つ恒川遺跡群範囲確認調査の結果、大型掘立柱建物址群・溝などの遺構に伴い、硯・鉄鎗・和同開珎銀錢などの官衙的な遺物が出土している（飯田市教委 1986）。この成果を受け昭和57年より飯田市教育委員会が継続実施している範囲確認調査のなかで、平成6年度に正倉が確認され、郡衙の中心が具体的地点を挙げて推定される段階に至った。また、金井原瓦窯址では西三河北野系の影響を受けた瓦が出土しており、当該期には瓦生産が始まったことを窺わせる。

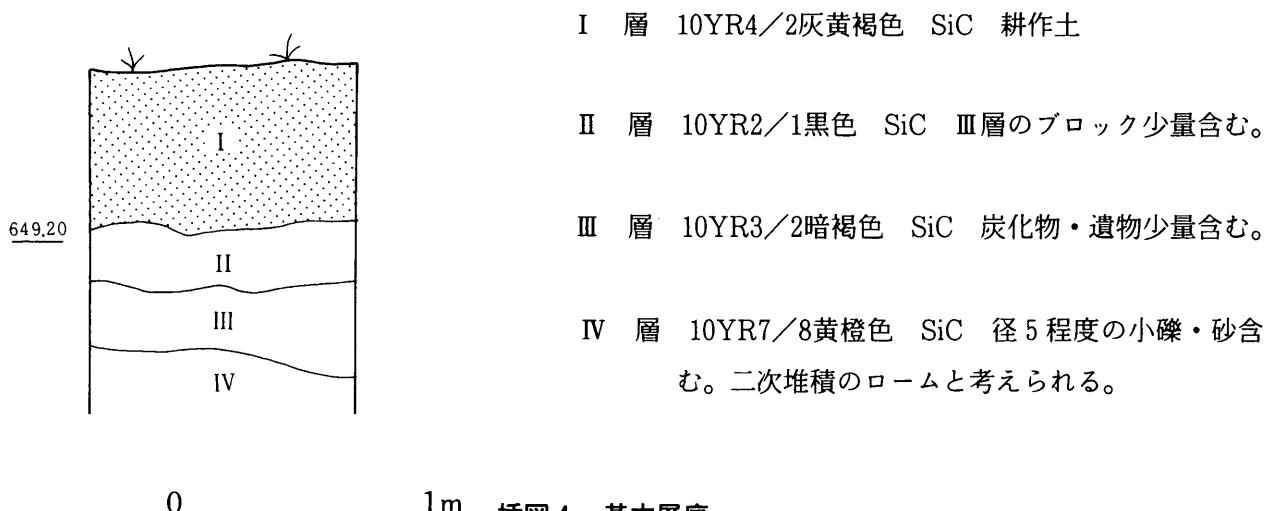
平安時代には恒川遺跡群を中心とした下段に住居址・建物址・火葬墓等が調査されている。恒川遺跡群では平安時代前期には前時代の名残として官衙的な遺構遺物があるが、中期以降一般集落に変貌していく。

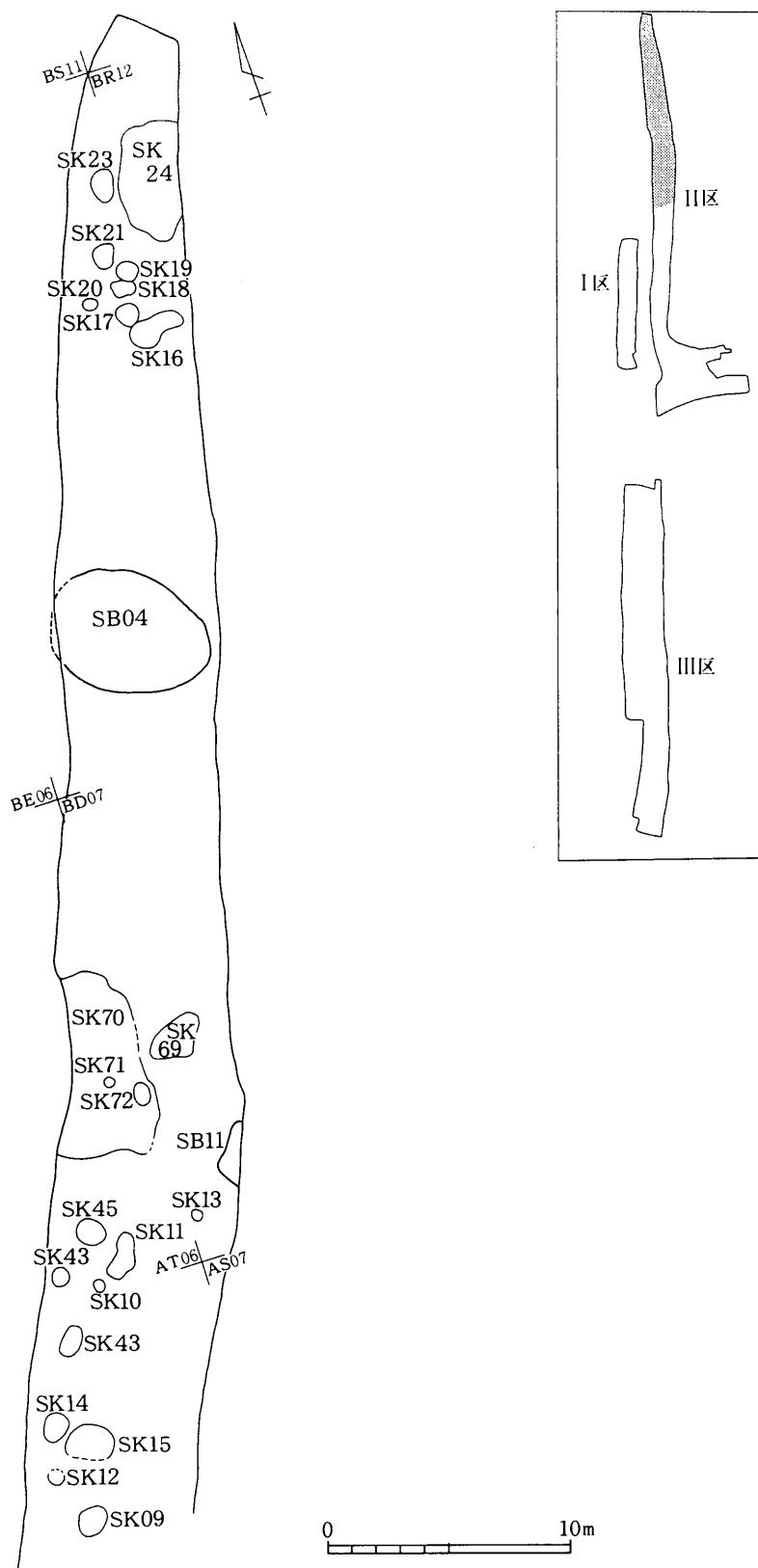
(5) 中世・近世

中世では上段と下段を分ける段丘崖上部に、小河川に開析された複雑な地形を生かし、北本城・南本城・浅間砦が築かれている。北本城は、16世紀中頃松岡氏の支城であったとの伝承が残る以外詳細は不明である。1981年の調査では、虎口・土壘・堀が確認され、前述した北本城古墳が土壘として転用されていた。また平成2年度には二の郭の調査が行われ、方形竪穴2基・多数のピット・溝などが検出されている。また出土遺物には、天目茶碗・灰釉・すり鉢などの陶磁器類をはじめ、鉄製品等が出土しており、15世紀から16世紀と推定されている。いずれにしても谷を二つ挟んで南西に所在する南本城とともに戦国期の攻防の中でかなり重要な位置にあったと思われる。

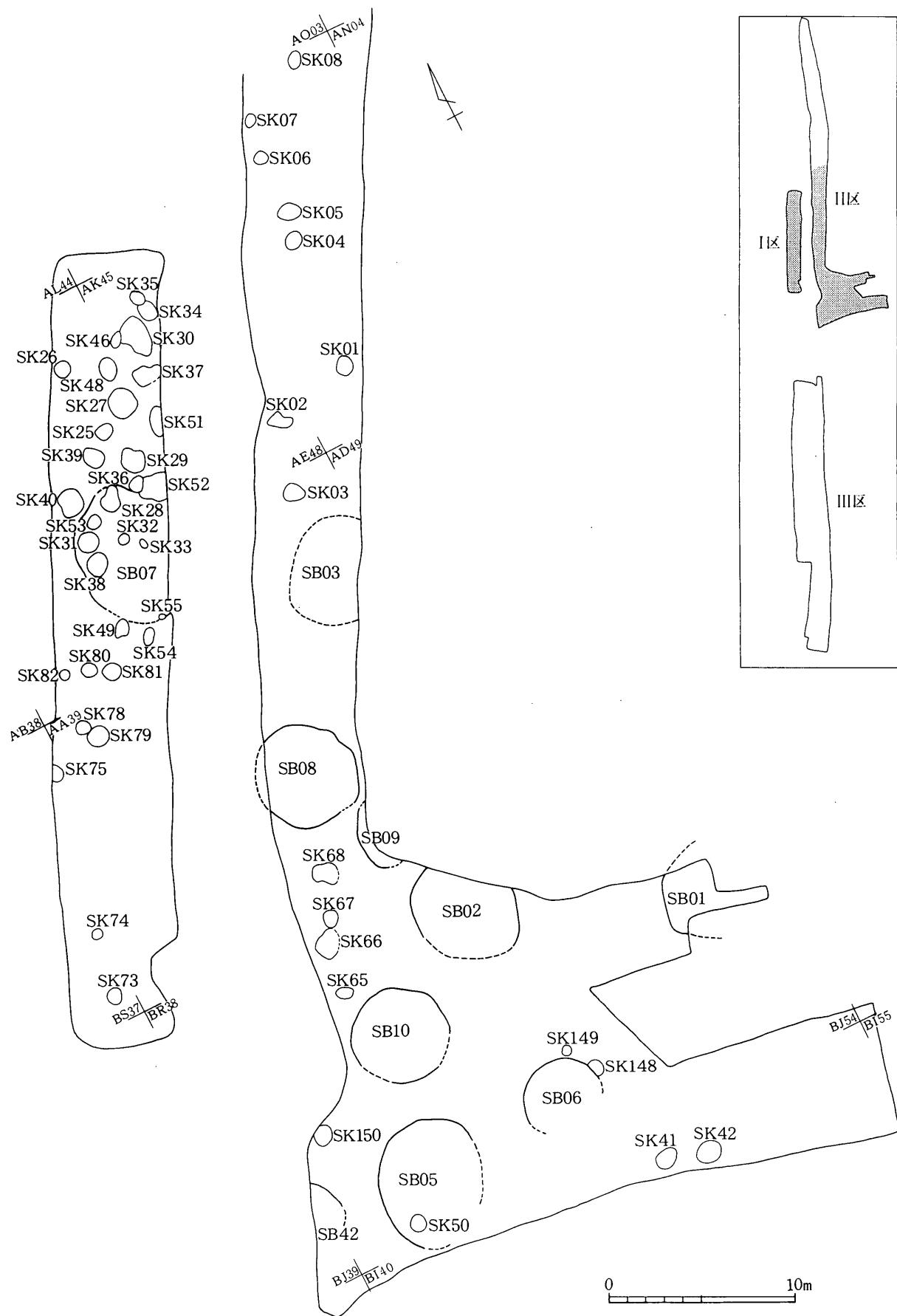
近世の遺跡としては今次調査地点東側、大門原D遺跡から、火葬墓及び土坑墓5基が検出されている。

3. 基本層序

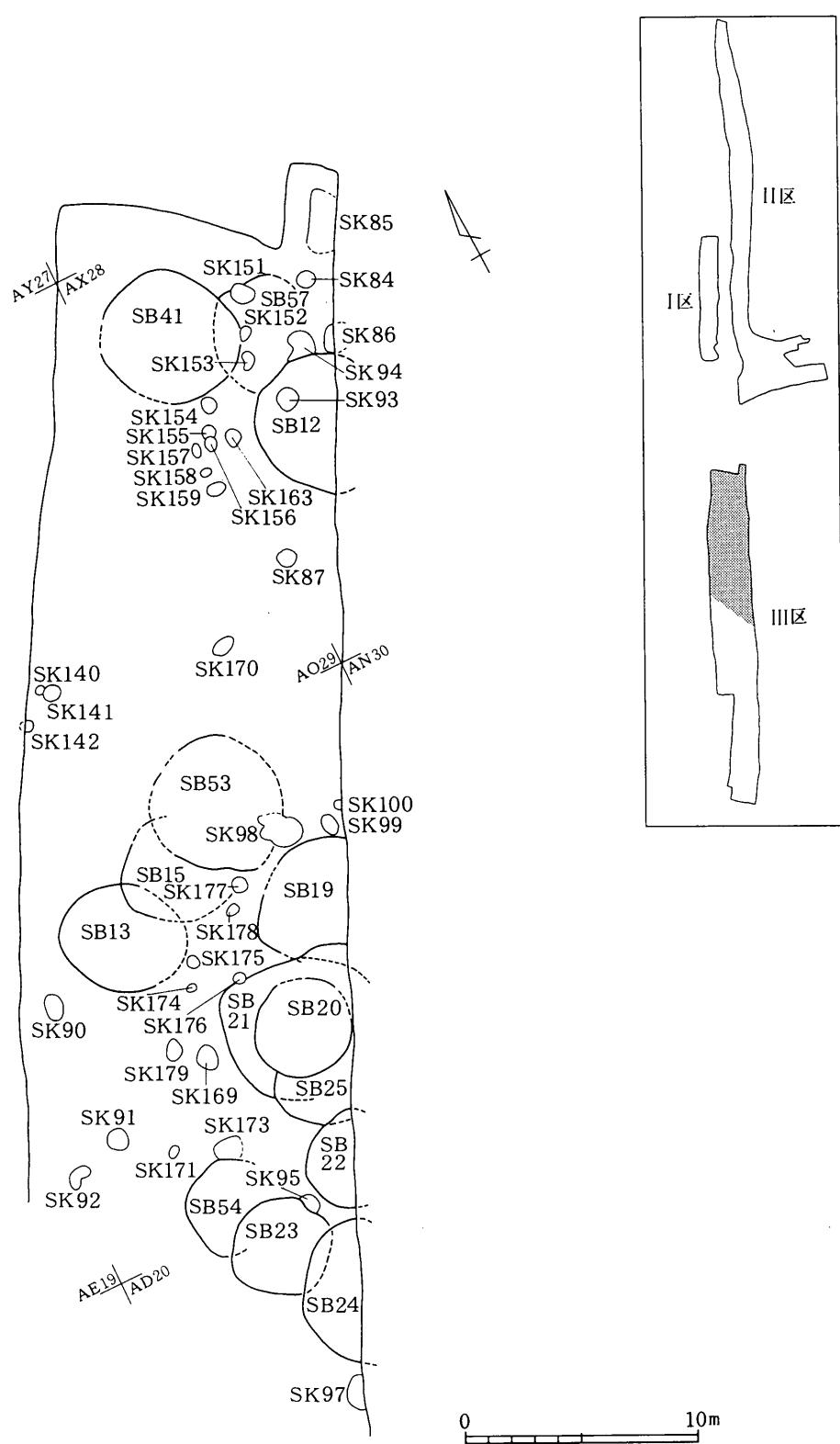




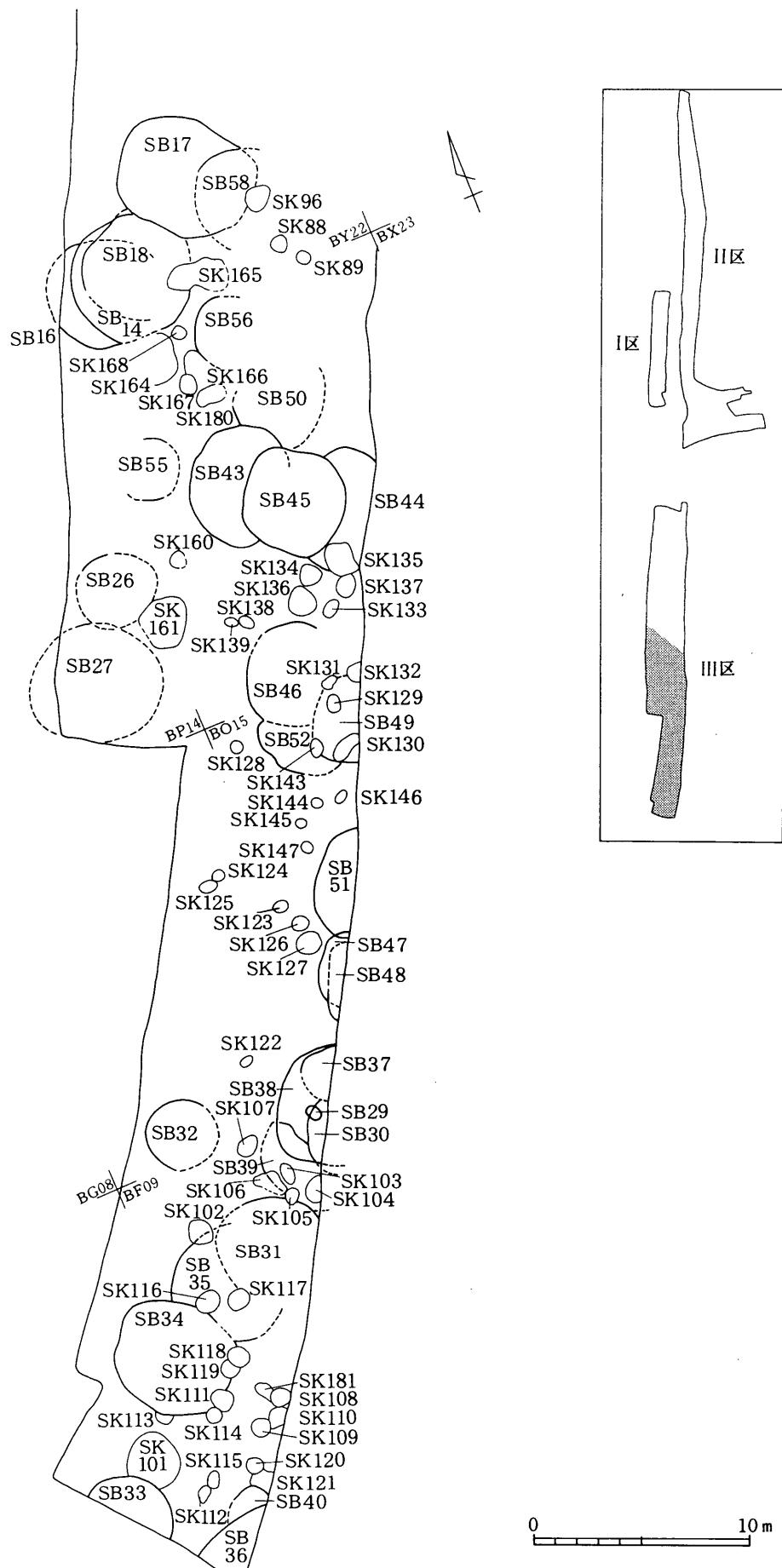
挿図5 遺構全体図(1)



挿図6 遺構分布図（2）



挿図7 遺構分布図（3）



插図8 遺構分布図(4)

第Ⅲ章 調査結果

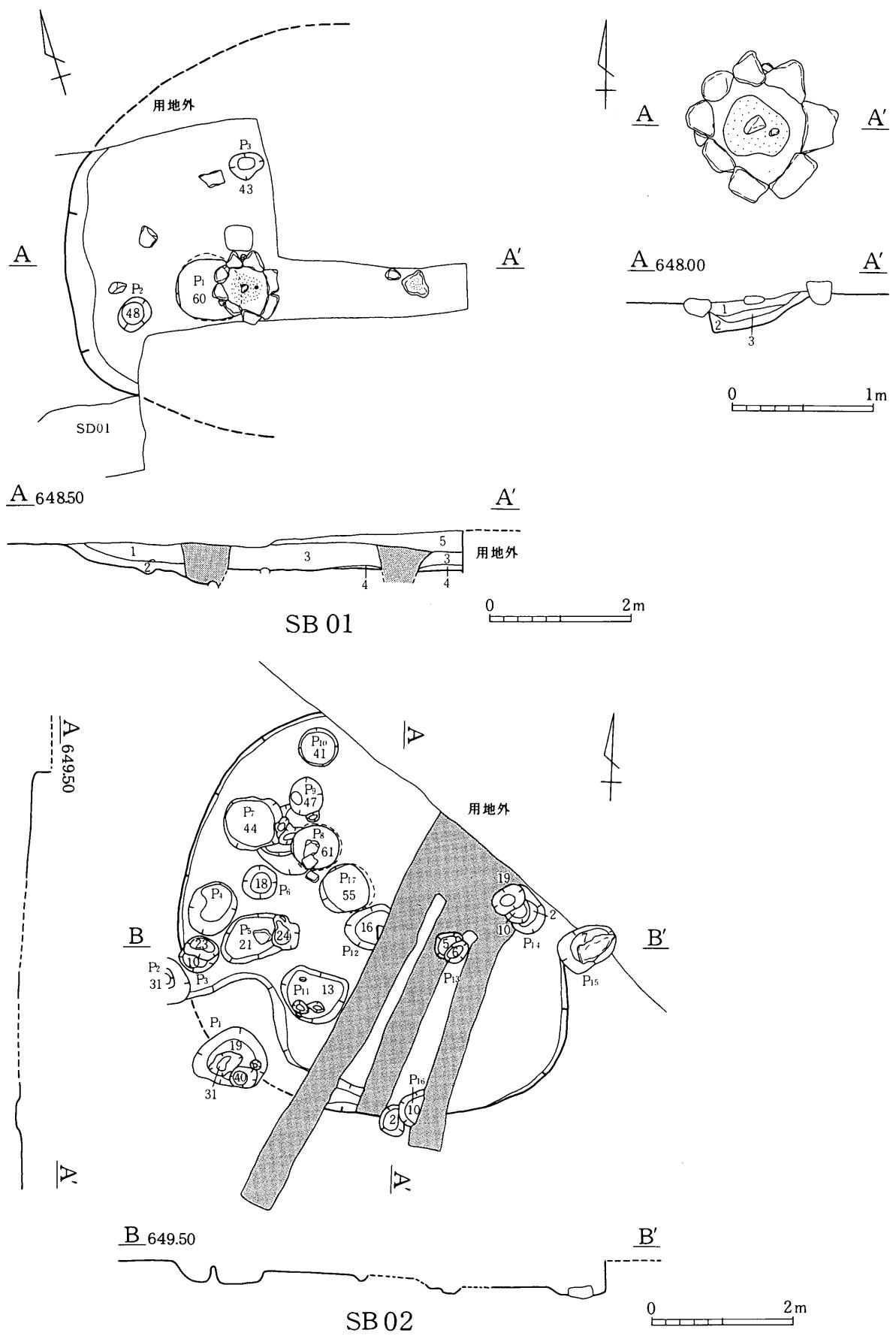
1. 繩文時代の竪穴住居址

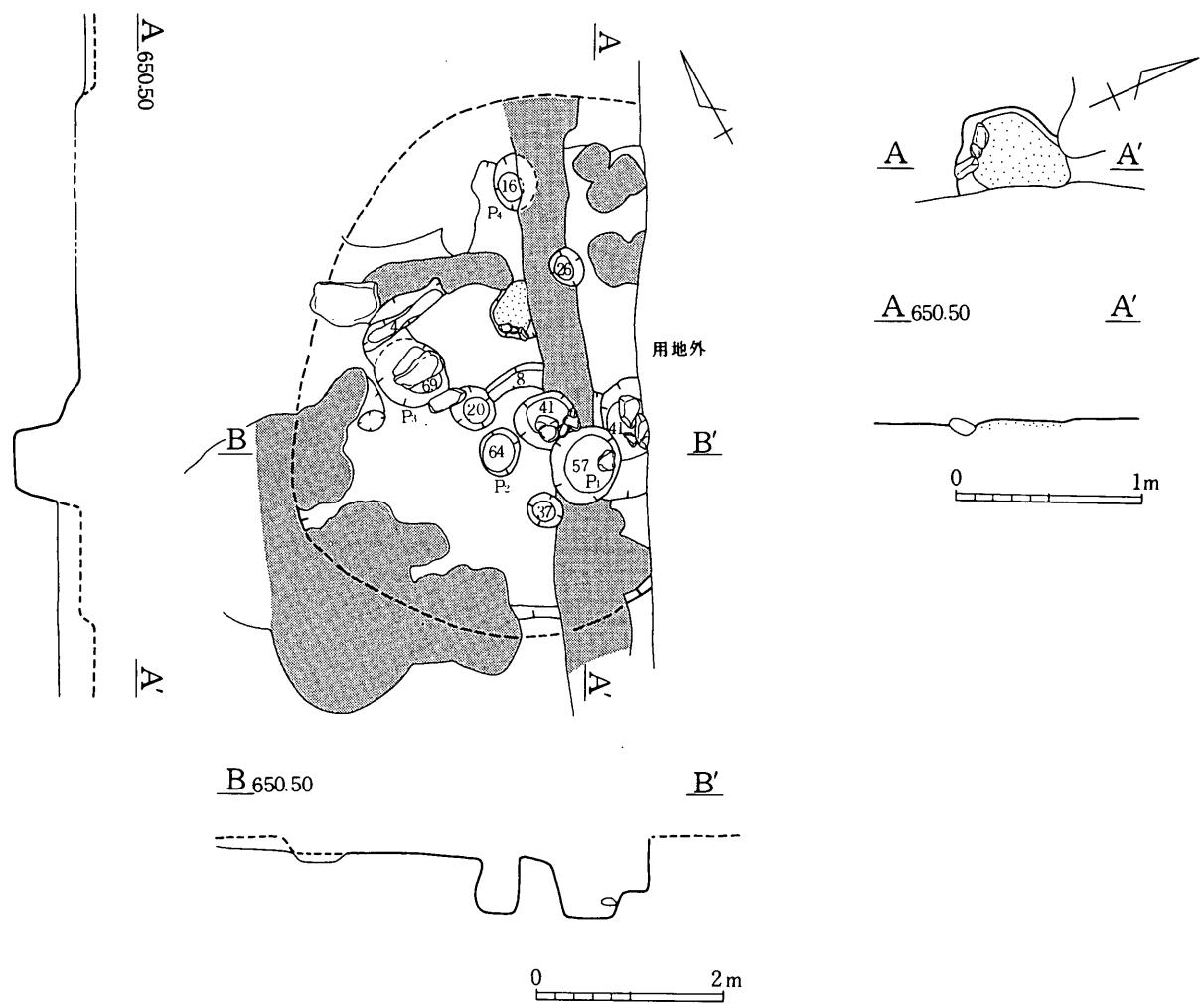
大門原遺跡では、縄文時代中期初頭から中期後葉にかけての住居址が総計58軒確認されている。住居址は段丘縁部にあたる北側の・I区で切り合いもなく少分布するものの、扇状地の扇端付近にあたる第Ⅲ区南半分に集中して確認されている。第Ⅲ区にみられる住居址は扇状地の東斜面を削平して構築されているため、斜面に面した部分の堀り方は深いもので1.5m以上に及ぶものもみられる。

第Ⅲ区では住居址の切り合い関係が不明なものもあり、遺物も混在して出土したものもみられる。また、SB28については埋甕のみの検出であり、SB29は炉址のみ検出されたためプランなどの詳細なデータを得ることができなかった。以下、各住居址の詳細を表記する。なお確定できない部分については表記していない。また、住居址土層図・埋甕土層図の土層注記は別頁に表記している。

遺構番号	SB01（挿図9）	検出位置	BQ3		
規模	—×—×60cm	長軸		平面形	
検出状況	埋土が地山と明瞭に異なる。全体の2/3が調査区域外に広がる。				
重複関係	なし				
壁	緩やかに立ち上がる。				
床	炉周辺堅固。				
柱穴	壁寄りに主柱穴1（P2）のみ検出。				
炉址	中央やや西寄りに径1mの円形の石囲炉。				
付属施設	なし				
遺物	埋土中から少量出土（中期中葉末）				
その他	遺物小片のため図示せず（土器）				

遺構番号	SB02（挿図9）	検出位置	BQ46		
規模	540×—×40cm	長軸		平面形	
検出状況	埋土が地山と明瞭に異なる。全体の1/3が調査区域外に広がる。中央部攪乱あり。				
重複関係	なし				
壁	ほぼ垂直に立ち上がる。				
床	堅固				
柱穴	壁寄りに主柱穴3本（P4・7・9）のみ検出。				
炉址	不明 付属施設 なし				
付属施設	なし				
遺物	埋土中から少量出土（中期中葉）				
その他	遺物小片のため図示せず				





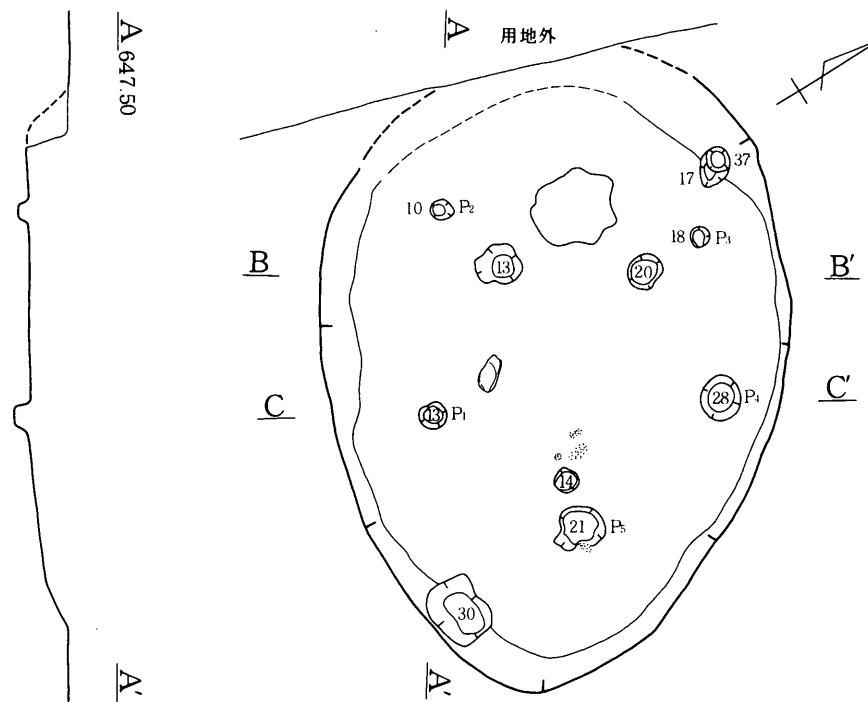
挿図10 SB 3

遺構番号	S B 0 3 (挿図10)	検出位置	A R 4 7		
規 模	- × - × 40cm	長 軸		平面形	
検出状況	攪乱除去中、炉址を検出。プランなどは推定				
重複関係	不明				
壁	不明				
床	炉址周辺堅固。				
柱 穴	不明				
炉 址	中央やや北寄りに石囲炉。石の大半は抜かれている。				
付属施設	なし				
遺 物	炉址周辺から少量出土。小片のため時期不明。				
そ の 他					

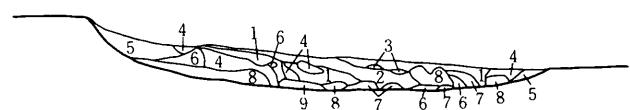
遺構番号	S B 0 4 (挿図11・57・104)	検出位置	BH 9		
規 模	— × 500 × 40cm	長 軸		平面形	橢円形
検出状況	埋土が地山と明確に異なる。住居址西側が一部調査区外に延びる。				
重複関係	なし。				
壁	緩やかに立ち上がる。				
床	炉址周辺及び中央部やや堅固。				
柱 穴	壁付近に主柱穴 5 本 (P 1 ~ 5)。いずれも穴は浅く細い。				
炉 址	住居址北西側壁寄りに地床炉。				
付属施設	なし。				
遺 物	床付近から五領ヶ台式集合沈線文系土器 1 個体出土。				
そ の 他					

遺構番号	S B 0 5 (挿図12・104)	検出位置	B H 4 3		
規 模	— × — × 40cm	長 軸		平面形	橢円形
検出状況	埋土が地山と明確に異なる。住居址西側が一部攪乱によって破壊される。				
重複関係	なし。				
壁	緩やかに立ち上がる。				
床	全面堅固。				
柱 穴	壁周辺に主柱穴 14 本。建て替え等の可能性が考えられる。				
炉 址	住居址東寄りに拳大の礫を用いた石囲炉。				
付属施設	なし。				
遺 物	全般に遺物少量 (中期中葉)。礫石錘 8 点				
そ の 他					

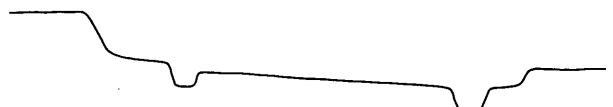
遺構番号	S B 0 6 (挿図12・57・105)	検出位置	B K 4 7		
規 模	— × 440 × 20cm	長 軸		平面形	ほぼ円形
検出状況	埋土が地山と明確に異なる。住居址南半分が削平される。				
重複関係	なし。				
壁	緩やかに立ち上がる。				
床	炉址周辺堅固。				
柱 穴	壁周辺に主柱穴 5 本 (P 2 · 4 · 5 · 6)。				
炉 址	20程度の橢円形の礫を用いた石囲炉。				
付属施設	なし。				
遺 物	床付近から土器 1 個体 (中期中葉)。礫石錘 6 点				
そ の 他					



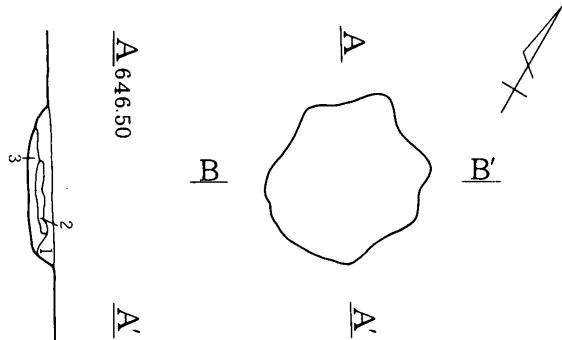
B 647.50 B'



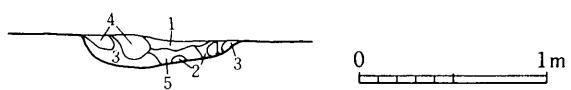
C 647.50



0 2m

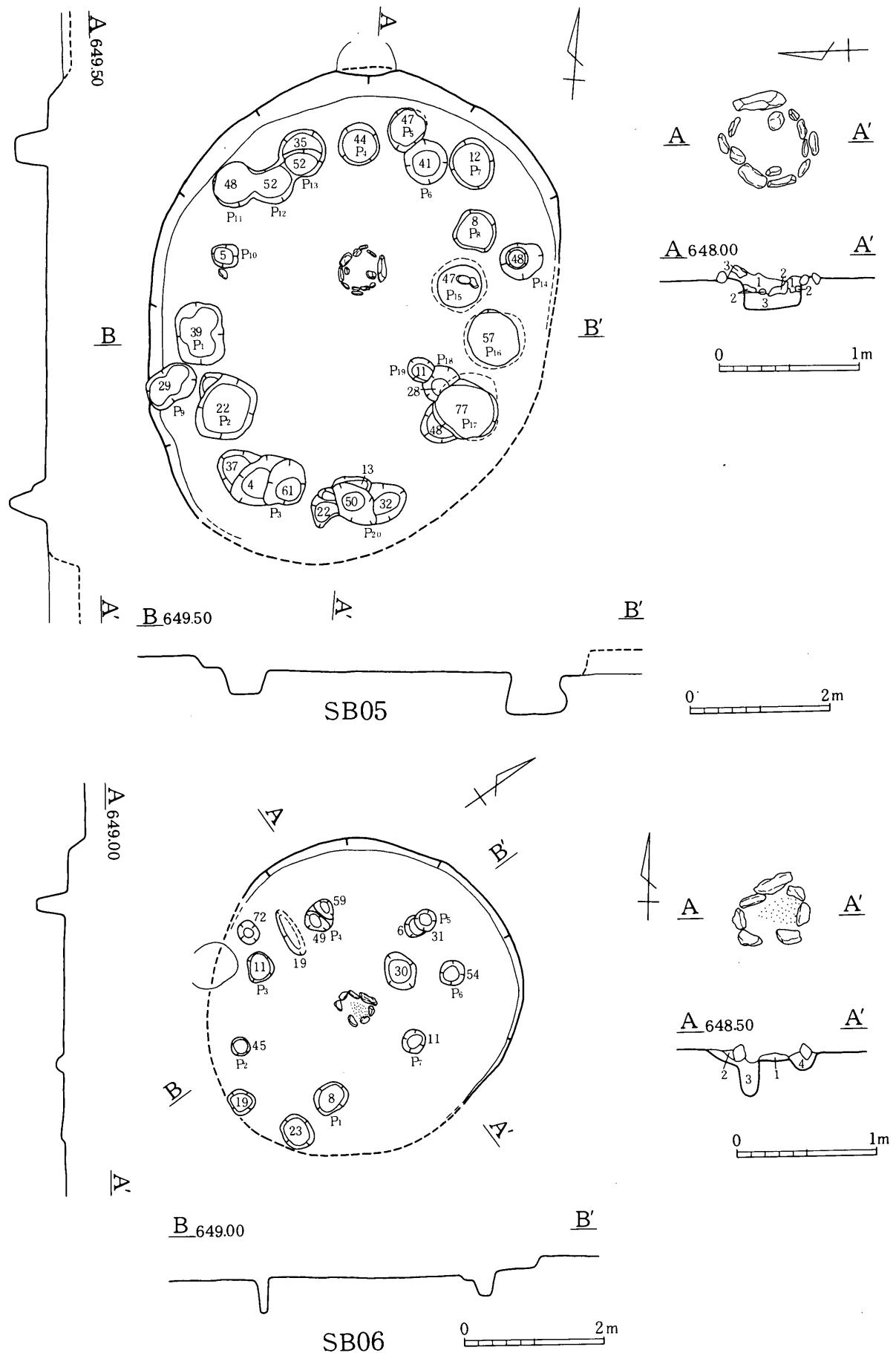


B 646.50 B'



0 1m

挿図11 SB04

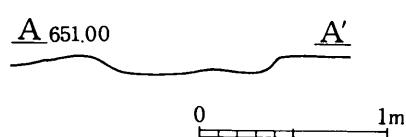
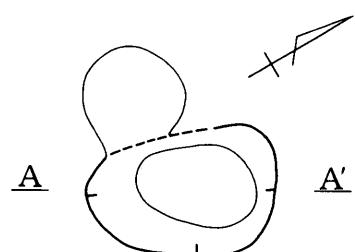
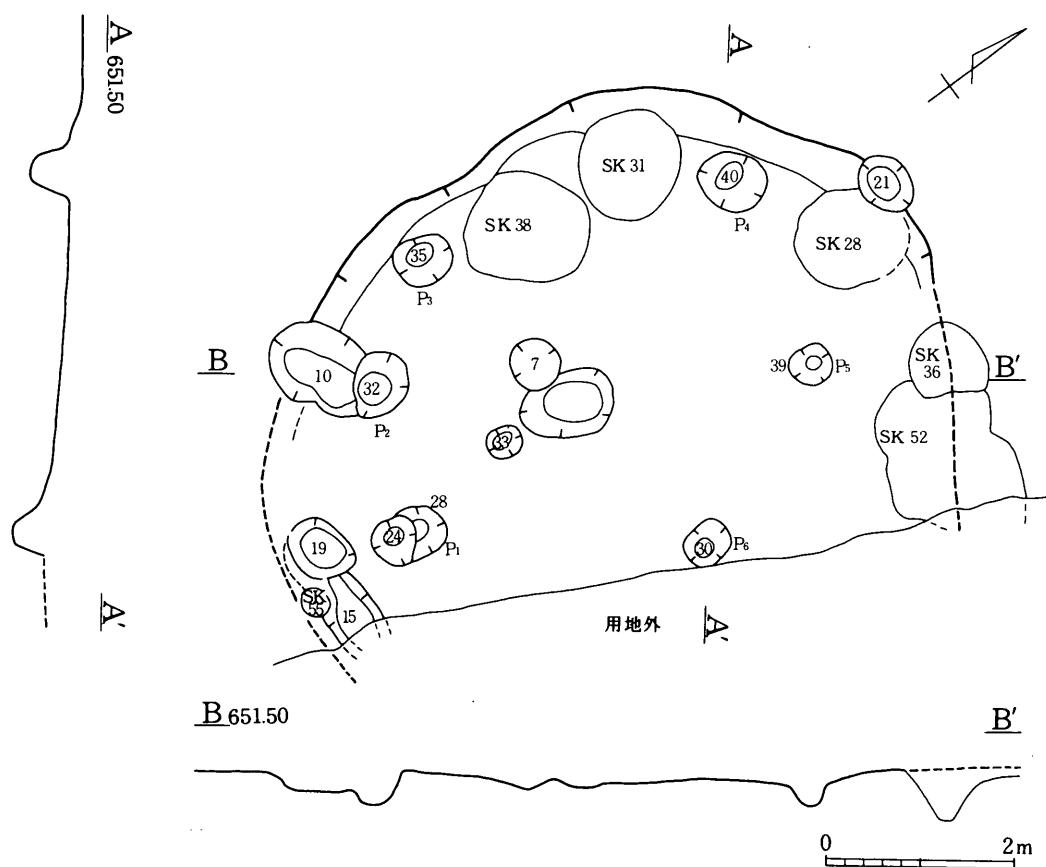


插図12 SB05・06

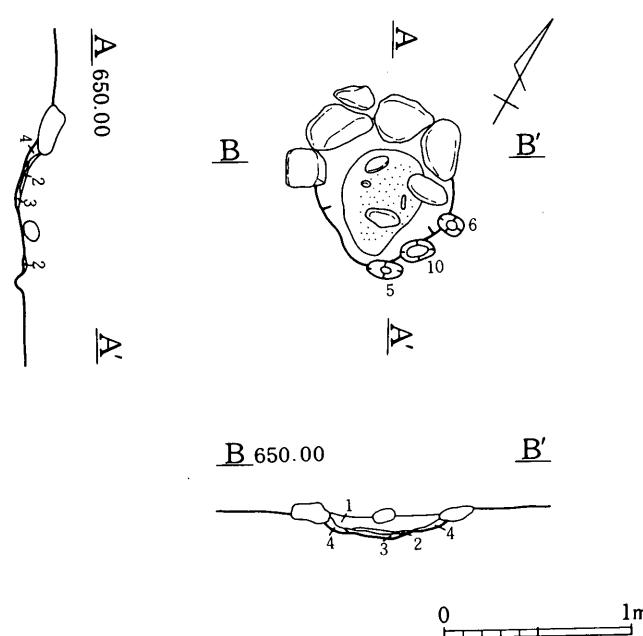
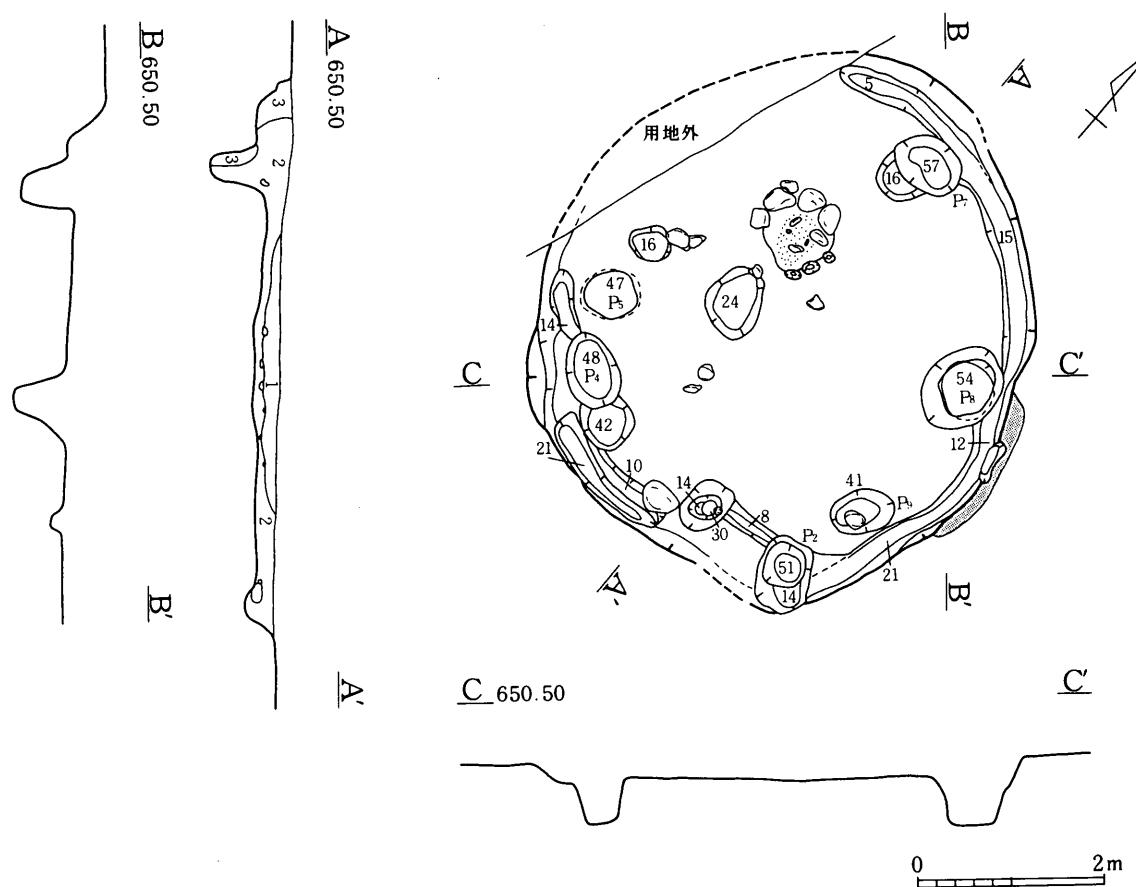
遺構番号	S B 0 7 (挿図13・57)	検出位置	A D 4 3		
規 模	- × - × 10cm	長 軸		平面形	
検出状況	不明確				
重複関係	SK 2 8 ・ 3 1 ・ 3 6 ・ 3 8 ・ 5 2 に切られる。				
壁	不明確。				
床	軟弱。				
柱 穴	壁周辺に主柱穴 5 本 (P 1 ~ 5)				
炉 址	住居址南側に楕円形の地床炉。				
付属施設					
遺 物	全般に遺物少量。覆土中から土器 (中期初頭)				
そ の 他					

遺構番号	S B 0 8 (挿図14・57・106)	検出位置	B W 4 4		
規 模	560 × 300 × 30cm	長 軸		平面形	
検出状況	地山と明確に異なる。住居址南側一部用地外に広がる。				
重複関係	なし。				
壁	緩やかに立ち上がる。				
床	全面堅固。				
柱 穴	壁周辺に主柱穴 6 本 (P 2 ・ 4 ・ 5 ・ 7 ・ 8 ・ 9)。				
炉 坂	住居址北側に石囲炉。構築石材一部抜き取られている。				
付属施設	周溝あり。				
遺 物	全般に少量。床付近から土器 2 個体 (中期後葉)。礫石錘 1 1 点				
そ の 他					

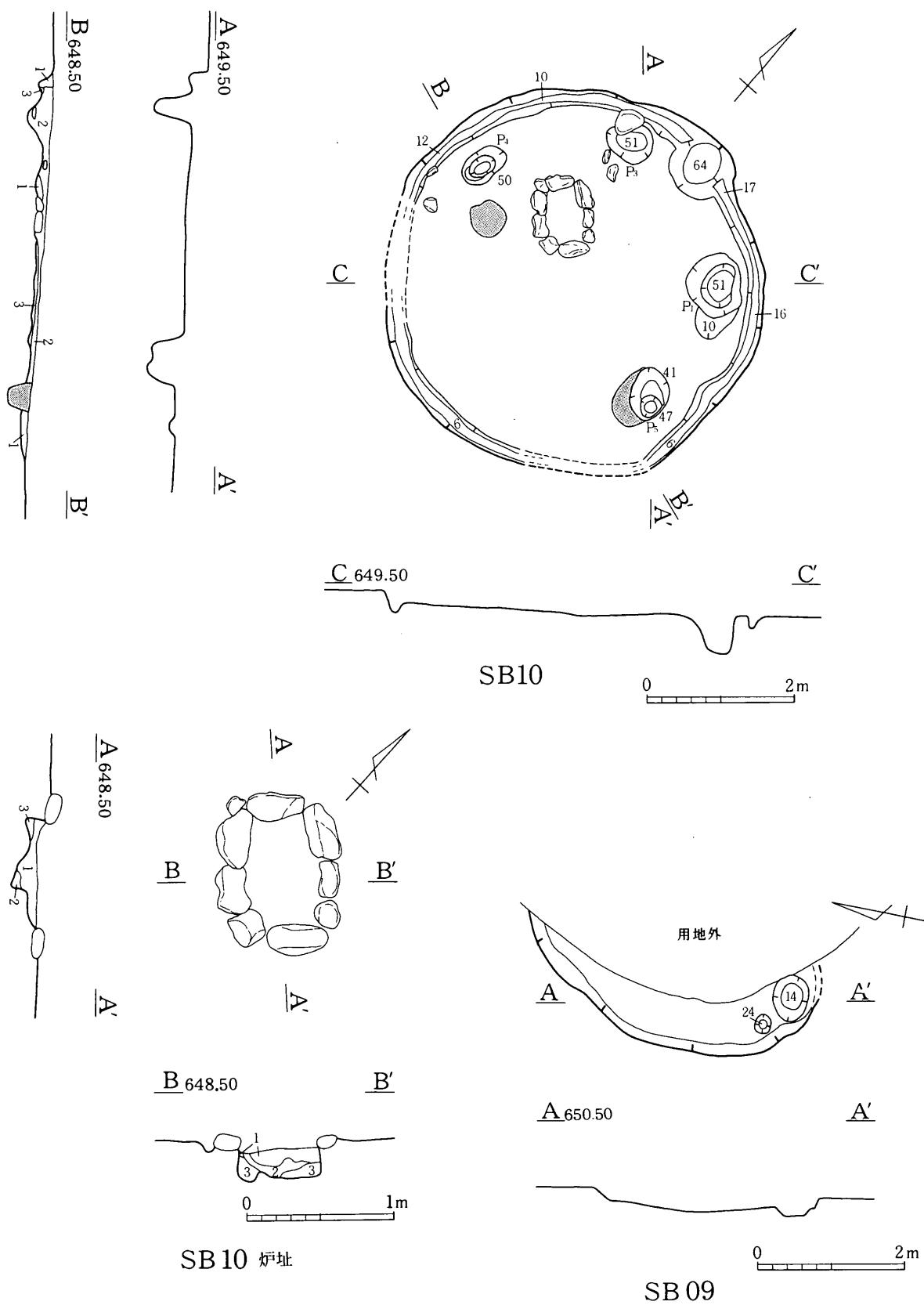
遺構番号	S B 0 9 (挿図15)	検出位置	B T 4 5		
規 模	- × - × - cm	長 軸		平面形	
検出状況	地山と明確に異なる。大半が用地外に広がる。				
重複関係	なし。				
壁	緩やかに立ち上がる。				
床	軟弱。				
柱 穴	不明。				
炉 坂	不明。				
付属施設	なし。				
遺 物	遺物ごく少量。時期不明				
そ の 他					



挿図13 SB07



插図14 SB08

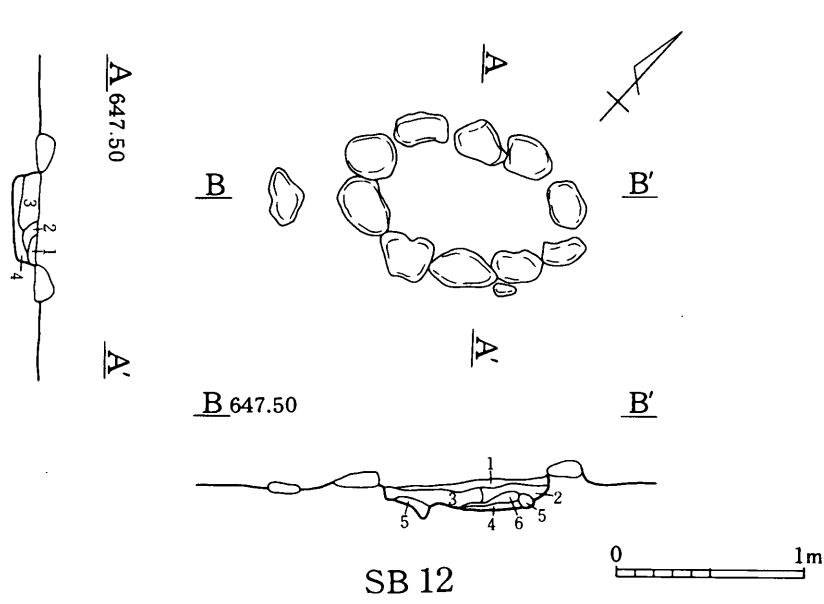
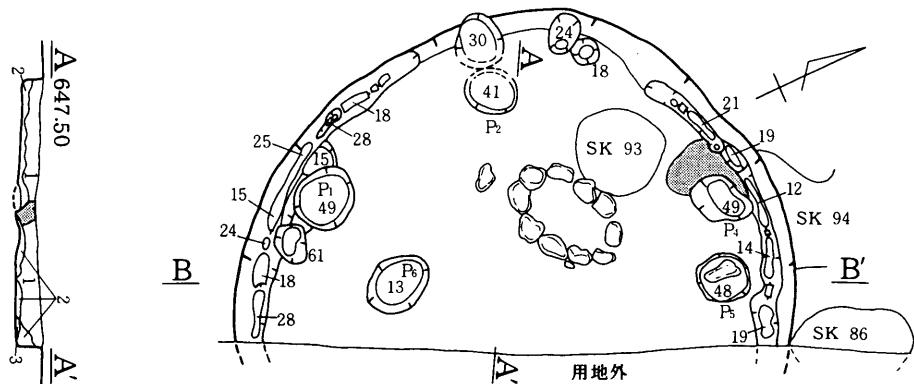
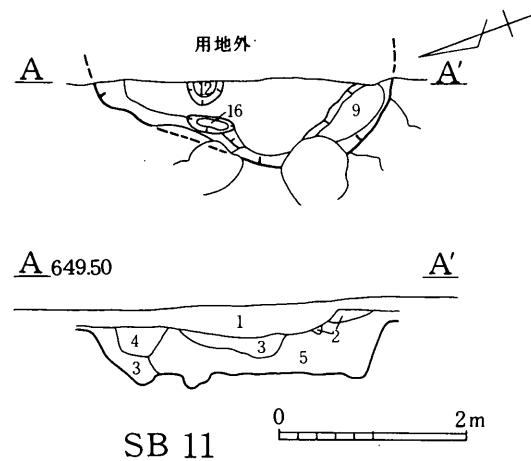


插図15 SB09・10

遺構番号	S B 1 0 (挿図15・18)	検出位置	B 0 4 3		
規 模	300×460 ×20cm	長 軸	N-40-W	平面形	円形
検出状況	地山と明確に異なる。住居址南東側一部削平により破壊。				
重複関係	なし。				
壁	緩やかに立ち上がる。				
床	全面堅固。				
柱 穴	壁際に主柱穴 4 本。				
炉 址	住居址北西側に長さ40cm程度の楕円形礫を用いた石囲炉。				
付属施設	住居址全周に周溝。北側壁際に径80の土坑 1 基。				
遺 物	床付近から土器 1 個体 (挿図58-1)。遺物の大半は覆土中から出土。(中期後葉)				
その 他					

遺構番号	S B 1 1 (挿図16)	検出位置	A R 4 7		
規 模	- × - × 80cm	長 軸		平面形	
検出状況	地山と明確に異なる。住居址東側大半が用地外に広がる。				
重複関係	なし。				
壁	緩やかに立ち上がる。				
床	軟弱。				
柱 穴	不明。				
炉 坂	不明。				
付属施設					
遺 物	遺物少量のため時期不明				
その 他					

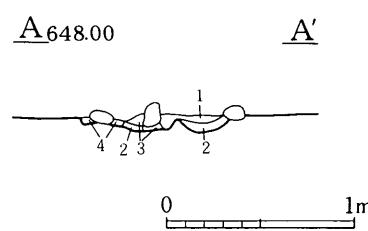
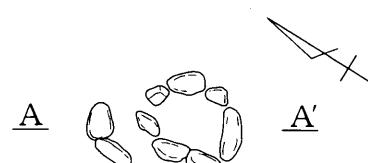
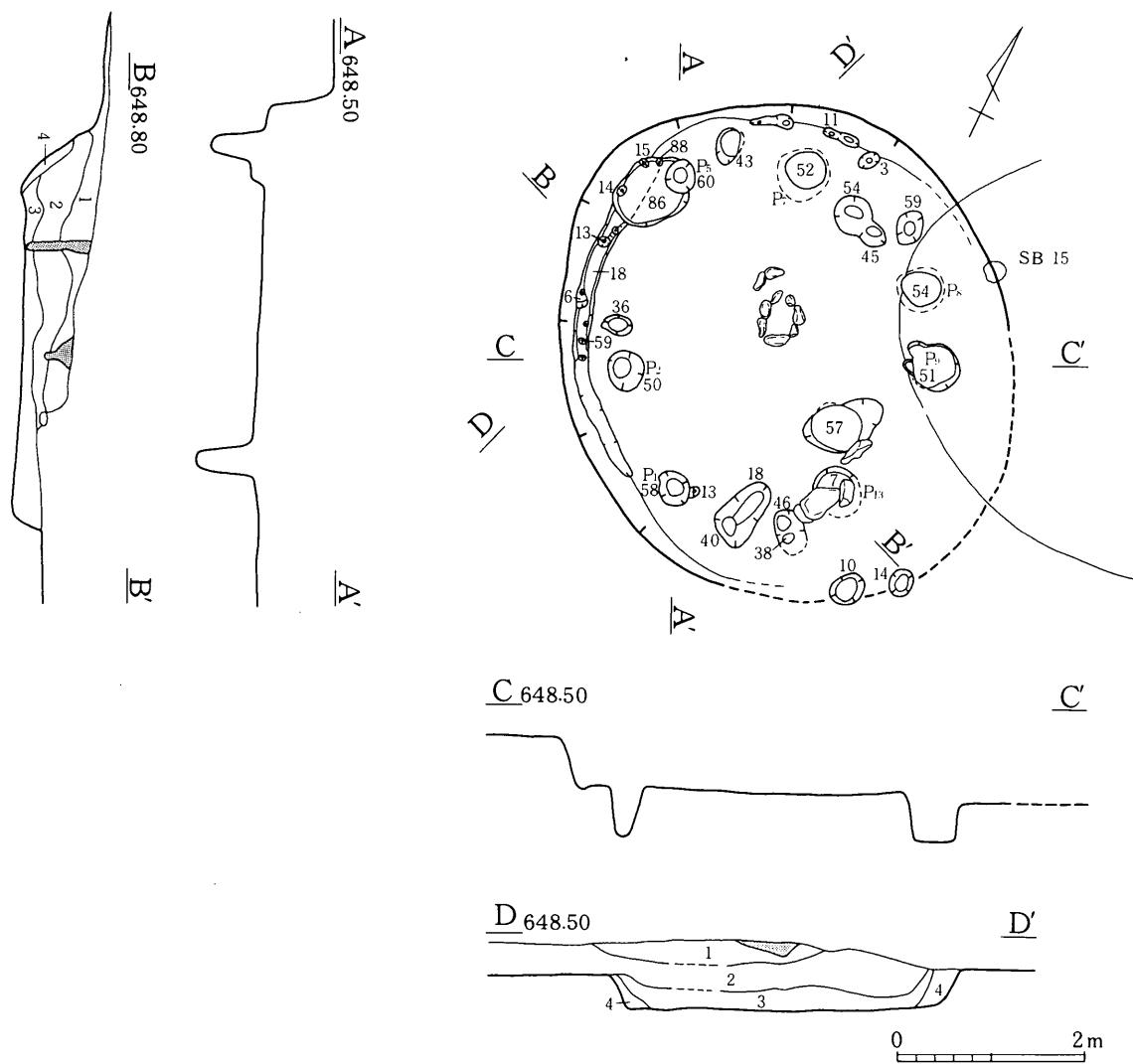
遺構番号	S B 1 2 (挿図16・59・107)	検出位置	A T 3 1		
規 模	600×- ×20cm	長 軸		平面形	円形
検出状況	地山と明確に異なる。住居址東側1/3が用地外に広がる。				
重複関係	なし。				
壁	緩やかに立ち上がる。				
床	全面堅固。				
柱 穴	住居址寄りに主柱穴 4 本 (P 1 ~ 4)。				
炉 坂	住居址北側に径30cm程度の礫を用いた石囲炉。				
付属施設	住居址壁際に周溝。				
遺 物	床面付近より土器 2 個体 (挿図12 中期後半)。大半は覆土中より出土				
その 他					



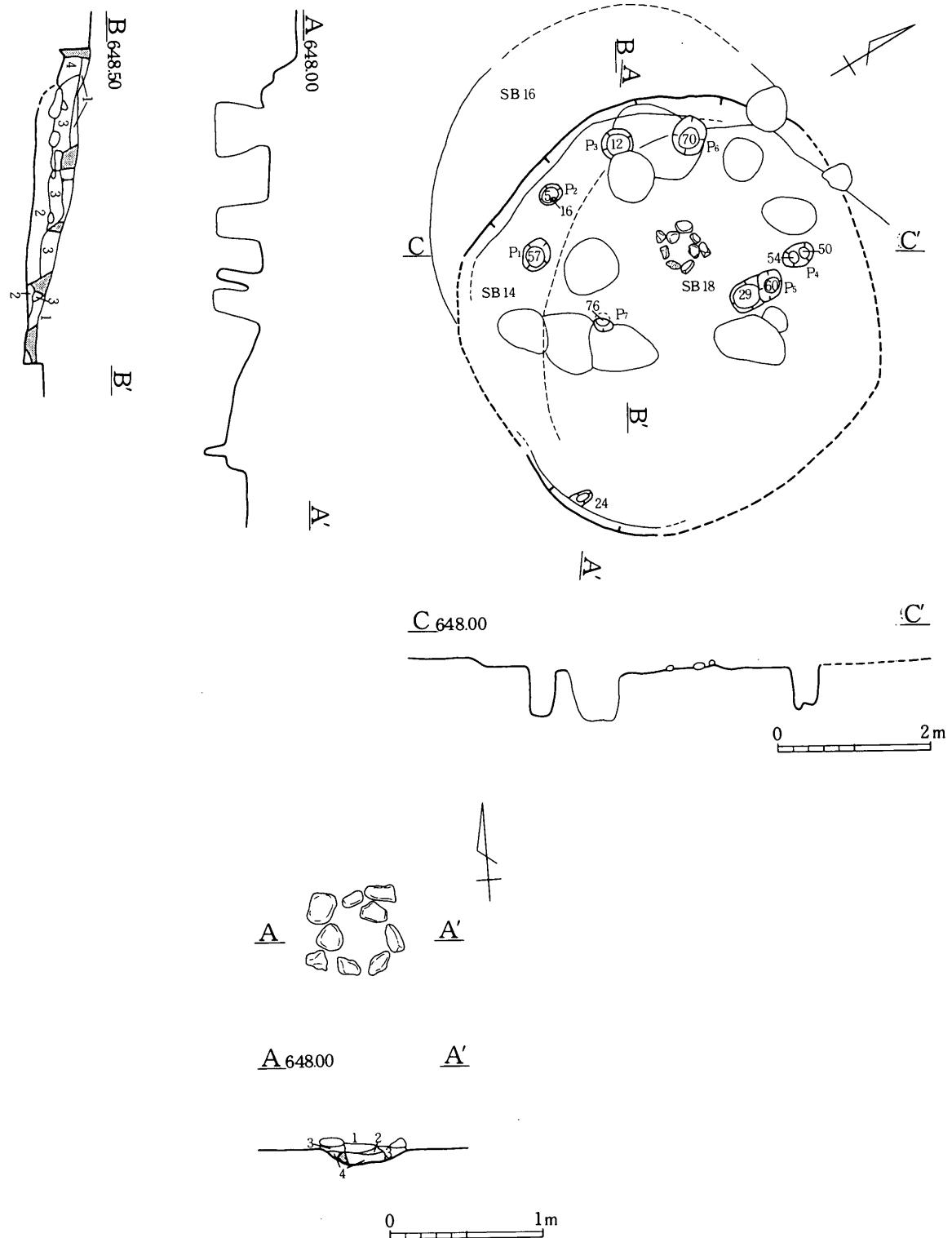
挿図16 SB11・12

遺構番号	S B 13 (挿図17・60・108・109)	検出位置	A L 2 3		
規 模	560×480 ×60cm	長 軸		平面形	橢円形
検出状況	地山と明確に異なる。住居址東側削平により破壊。				
重複関係	S B 1 5 に切られる。				
壁	ほぼ垂直に立ち上がる。				
床	全面堅固。				
柱 穴	壁寄りに主柱穴 7 本 (P 1・2・5・7・8・9・13)				
炉 址	住居址北西寄りに、長さ20cm程度の礫を用いた石囲炉。				
付属施設	住居址西側壁際に周溝。				
遺 物	遺物の大半が覆土中から出土 (中期中葉)。礫石錘 2 1 個・石錘素材 5 個				
そ の 他					

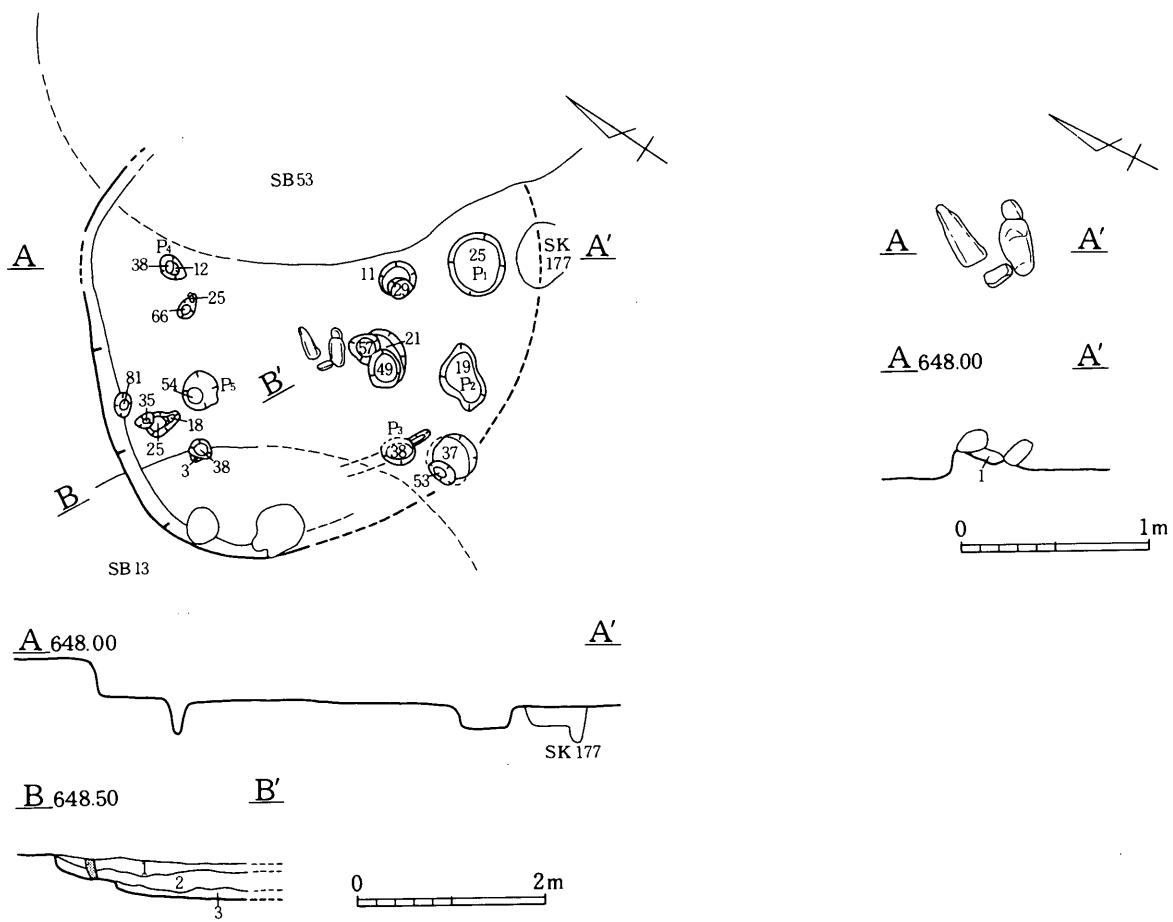
遺構番号	S B 1 4 (挿図18・61)	検出位置	A A 1 7		
規 模	580×- ×20cm	長 軸	N -52-w	平面形	
検出状況	S B 1 8 検出中、埋土の差から検出。				
重複関係	S B 1 6 を切り、S B 1 8 に切られる。				
壁	緩やかに立ち上がる。				
床	軟弱。				
柱 穴	壁寄りに主柱穴 4 本 (P 1 ~ 3 ・ 6)				
炉 坂	不明。				
付属施設					
遺 物	大半が覆土中から出土。新道式から中期後葉まで混在				
そ の 他					



挿図17 SB 13



挿図18 SB 14

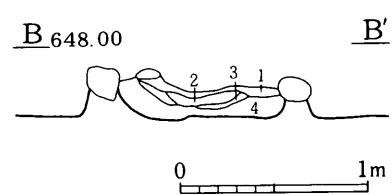
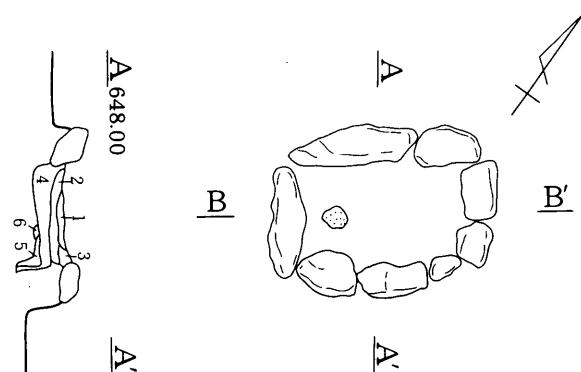
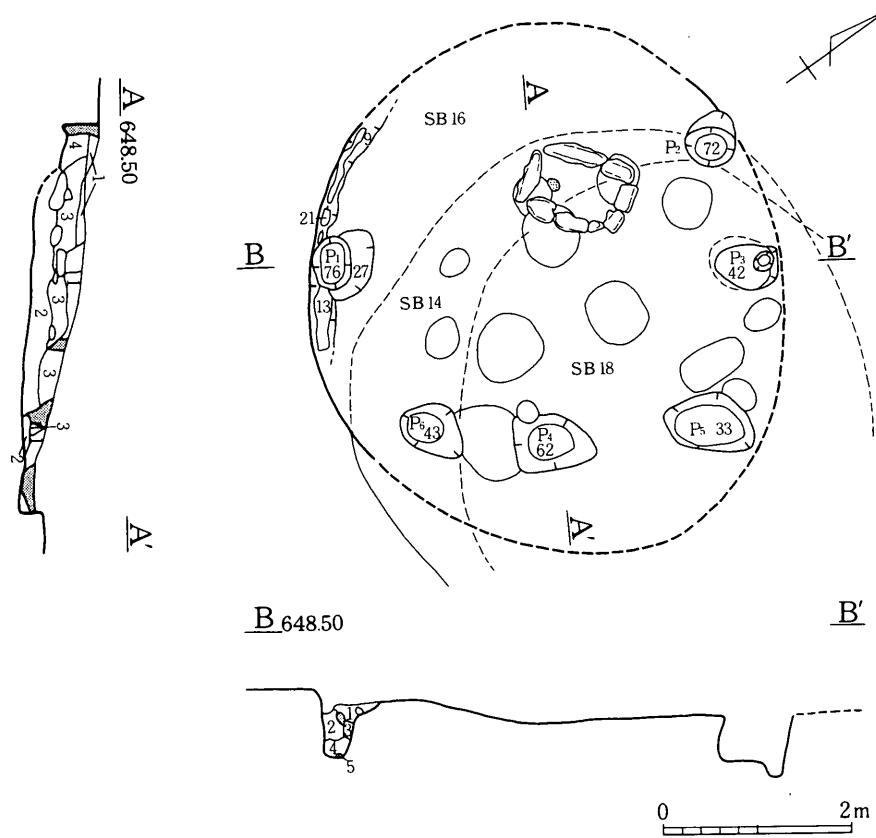


挿図19 SB 15

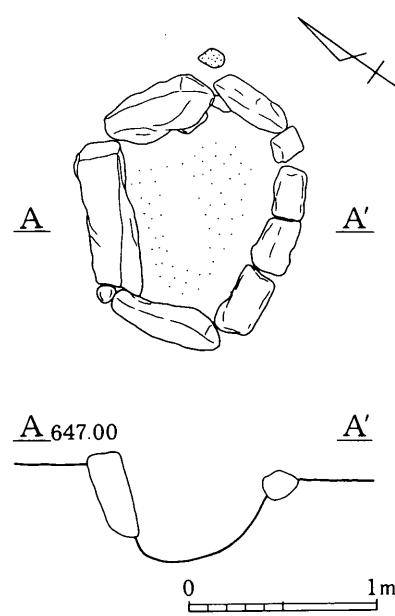
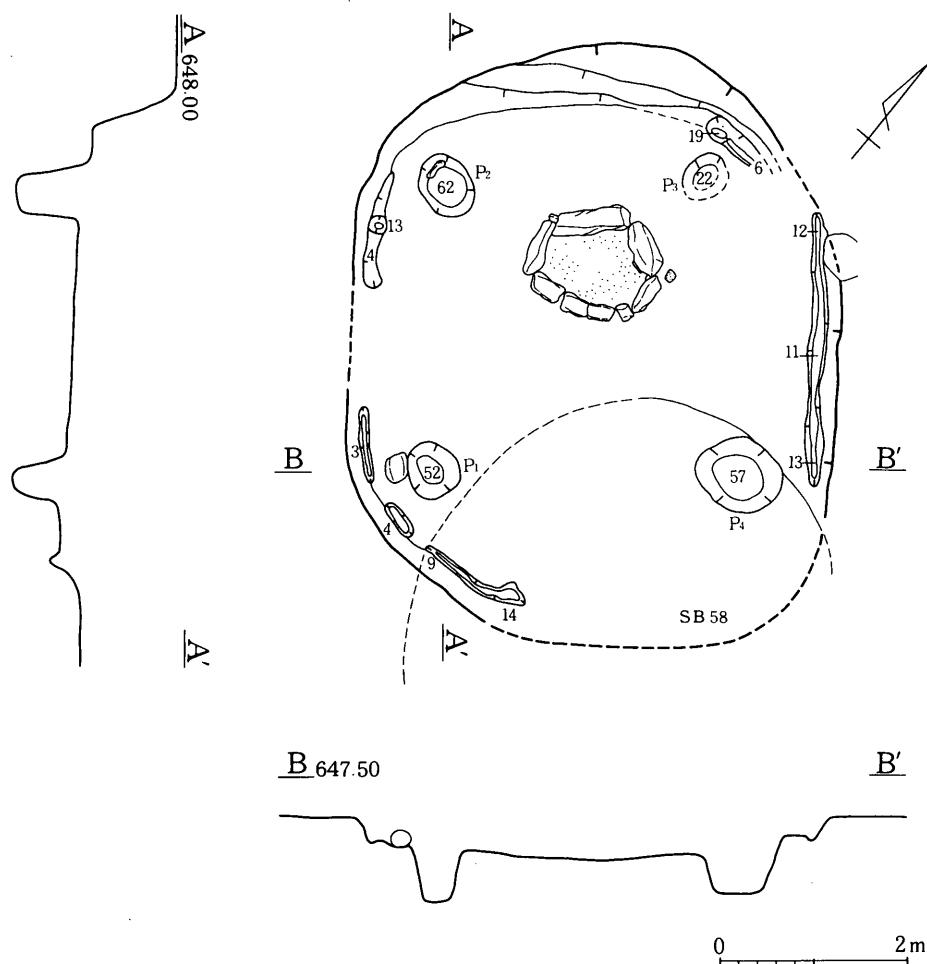
遺構番号	S B 1 5 (挿図19・61・110)	検出位置	AM 2 4		
規 模	- × - × 40cm	長 軸		平面形	
検出状況	地山と明確に異なる。重複関係 SB 1 3を切り、SB 5 3に切られる。				
重複関係	SB 1 3を切り、SB 5 3に切られる。				
壁	ほぼ垂直に立ち上がる。				
床	炉址周辺堅固。				
柱 穴	壁寄りに主柱穴3本(P1・2・5)				
炉 址	住居址ほぼ中央に石囲炉。構築材の大半が抜き取られる。				
付属施設					
遺 物	遺物の大半が覆土中より出土(中期中葉)。礫石錘8個				
そ の 他					

遺構番号	S B 1 6 (挿図20・110)	検出位置	A A 1 6		
規 模	- × - × 60cm	長 軸		平面形	
検出状況	明確に地山と異なる。西側が削平により破壊される。				
重複関係	S B 1 4 ・ 1 8 を切る。				
壁	ほぼ垂直に立ち上がる。				
床	炉址周辺堅固。				
柱 穴	主柱穴 6 本 (P 1 ~ 6)				
炉 址	西側壁寄りに、長さ30~60cm程度の礫を用いた石囲炉。				
付属施設					
遺 物	覆土中から少量の遺物 (時期不明)				
そ の 他					

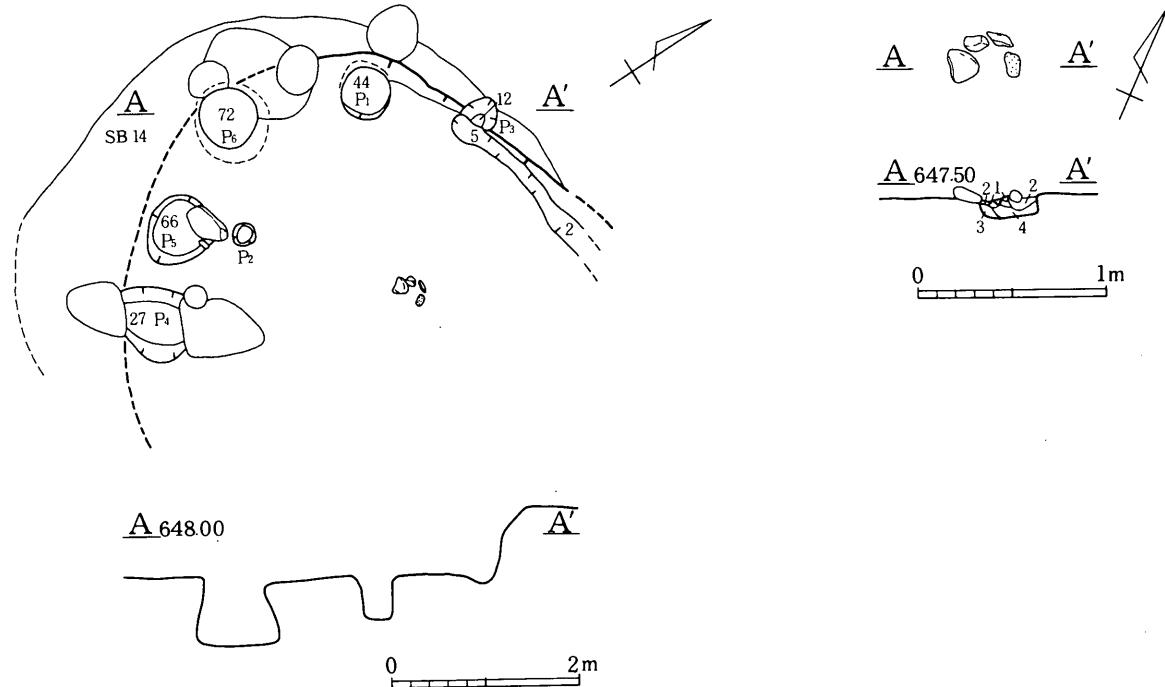
遺構番号	S B 17 (挿図21・63・111・112)	検出位置	A C 4 7		
規 模	- × 520 × 100cm	長 軸	N - 40 - w	平面形	隅丸長方形
検出状況	地山と明確に異なる。				
重複関係	S B 5 8 を切る。				
壁	ほぼ垂直に立ち上がる。				
床	全面堅固。				
柱 穴	住居址四隅壁寄りに、主柱穴 4 本 (P 1 ~ 4)。				
炉 址	住居址北西壁寄りに平石を用いた石囲炉。				
付属施設					
遺 物	東壁付近床面より土器 1 個体。他は埋土中から出土。礫石錘 1 1 個・石錘素材 1 個				
そ の 他					



挿図20 SB 16



挿図21 SB17



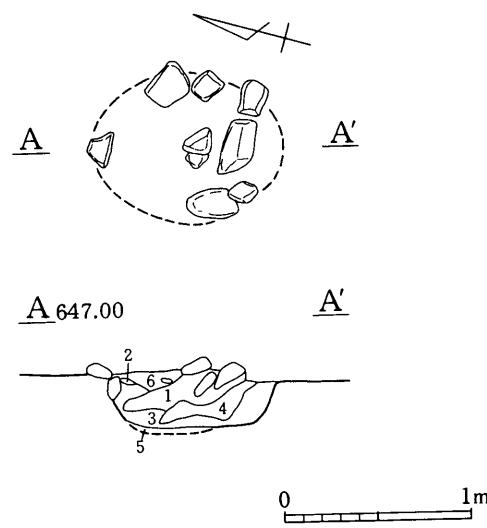
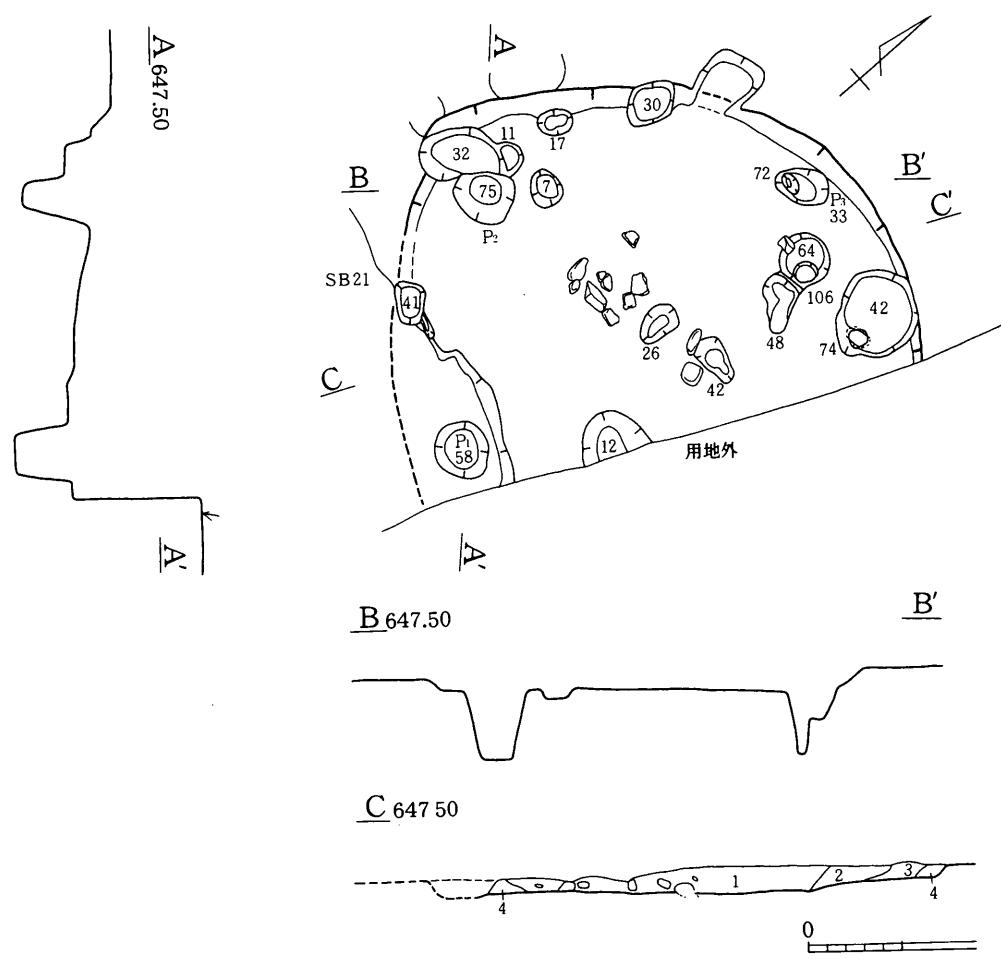
挿図22 SB18

遺構番号	SB18(挿図22)	検出位置	AB18		
規 模	$- \times - \times 80\text{cm}$	長 軸		平面形	
検出状況	地山と明確に異なる。削平により東側半分破壊。				
重複関係	SB14を切る。				
壁	ほぼ垂直に立ち上がる。				
床	炉址周辺堅固。				
柱 穴	壁際に主柱穴4本(P1・4・5・6)				
炉 址	住居址ほぼ中央に石囲炉。				
付属施設					
遺 物	遺物不明				
そ の 他					

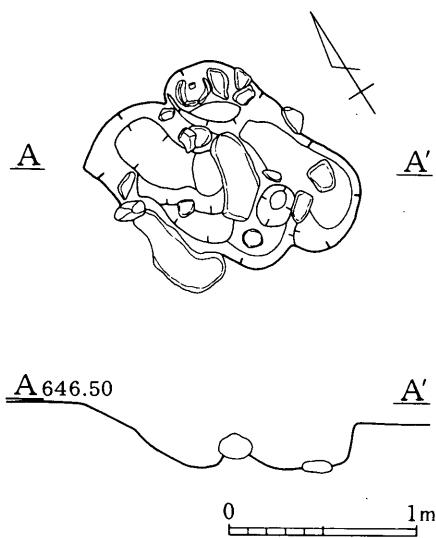
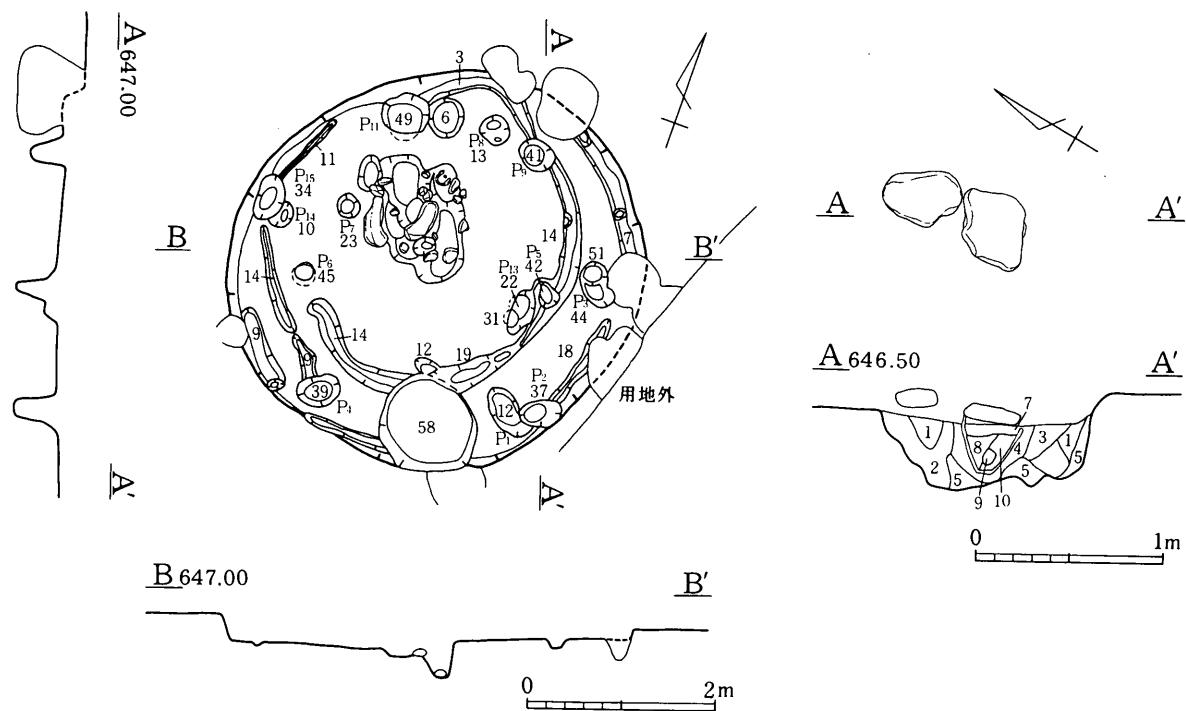
遺構番号	S B 1 9 (挿図23・64・113)	検出位置	A K 2 7		
規 模	- × - × 40cm	長 軸		平面形	
検出状況	地山と明確に異なる。住居址東側1/3が用地外に広がる。				
重複関係	S B 2 1 に切られる。				
壁	緩やかに立ち上がる。				
床	炉址周辺堅固。				
柱 穴	住居址壁寄りに主柱穴 3 本。				
炉 址	住居址ほぼ中央に炉址。炉址内外に礫が散乱する。炉址を構成する礫の可能性あり。				
付属施設					
遺 物	床面より土器 1 個体 (伏甕の可能性有り)。大半は覆土中から出土 (中期後半)				
そ の 他					

遺構番号	S B 2 0 (挿図24・65～67)	検出位置	A H 2 5		
規 模	440×400 × 20cm	長 軸	N - 22 - W	平面形	円形
検出状況	地山と明確に異なる。				
重複関係	なし。住居址の拡張が認められる。				
壁	緩やかに立ち上がる。				
床	全面堅固。一部貼り床が認められる。				
柱 穴	拡張前主柱穴 5 本 (P 5 ・ 6 ・ 9 ・ 11 ・ 15) 拡張後主柱穴 5 本 (P 1 ~ 3 ・ 9 ・ 11)				
炉 址	住居址北東壁寄りに石囲炉。構築材は抜かれている。				
付属施設	拡張前後共に周溝がほぼ全周に回る。炉址北側に接して埋甕 1 基。				
遺 物	埋甕 1 基 (中期後半) ・ 床面より土器 1 個体。遺物の大半は覆土中から出土				
そ の 他	出土土器は中期中葉から後半の土器が混在。時期比定は埋甕から行う。 礫石錘 2 1 個・石錘素材 5 個 (挿図114・115)				

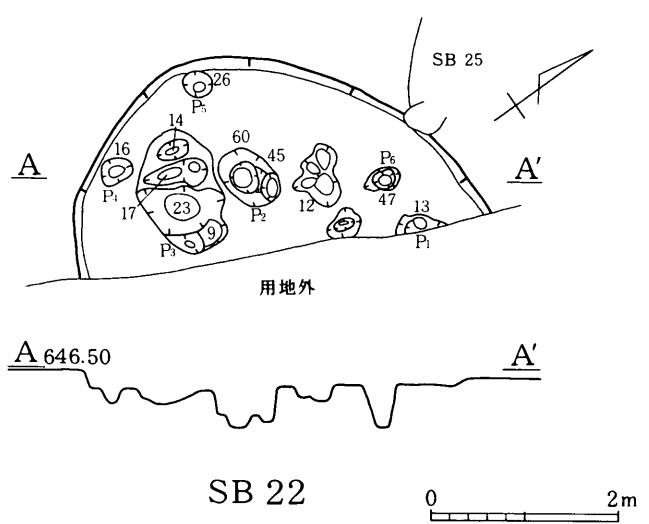
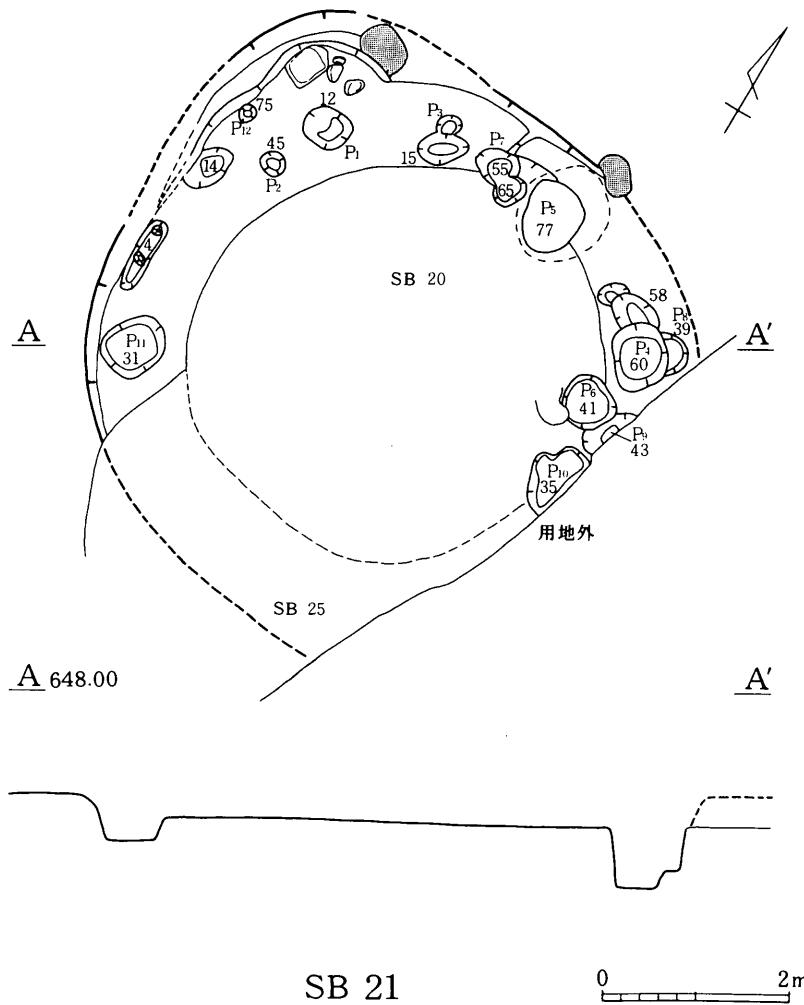
遺構番号	S B 2 1 (挿図25・68)	検出位置	A I 2 5		
規 模	- × - × 20cm	長 軸		平面形	
検出状況	S B 2 0 の検出中、埋土の差から確認。全体の1/4が用地外に広がる。				
重複関係	S B 2 0 ・ 2 5 にきられる。				
壁	緩やかに立ち上がる。				
床	軟弱。				
柱 穴	壁よりに主柱穴 4 本 (P 1 ・ 4 ・ 5 ・ 1 1)				
炉 址	不明				
付属施設	なし。				
遺 物	床面から土器 1 個体(挿図68-1 中期中葉) 大半は覆土中から出土。				
そ の 他					



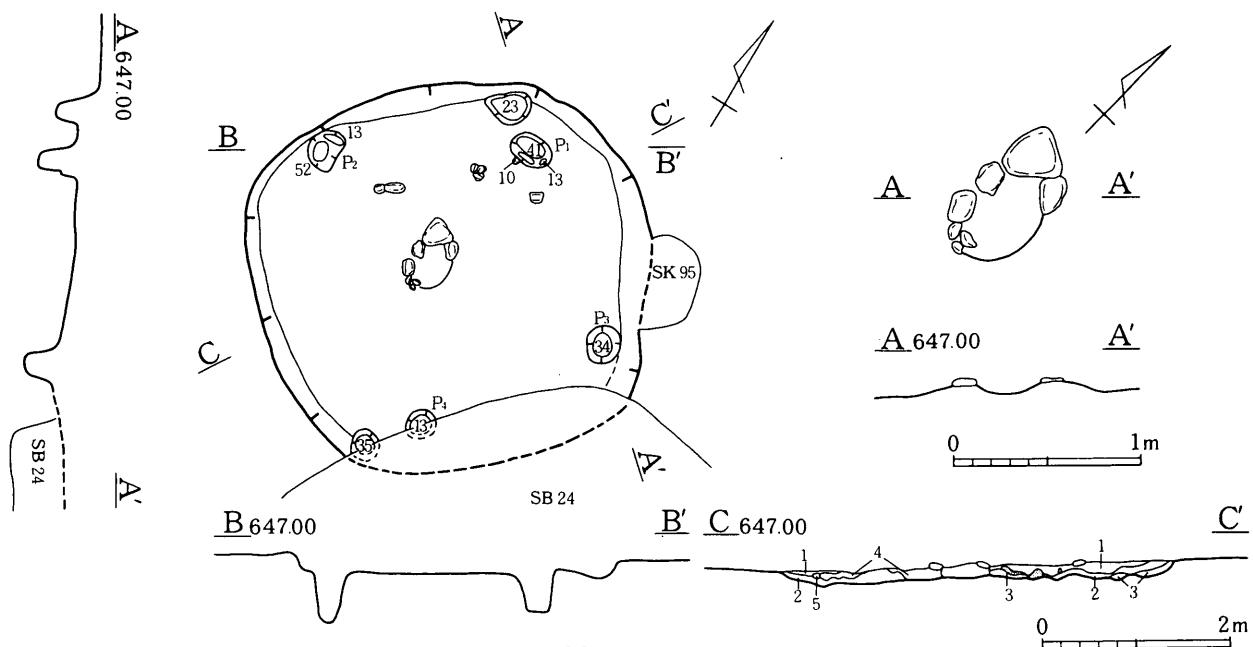
插図23 SB 19



插図24 SB20



挿図25 SB21・22



挿図26 SB 23

遺構番号	SB 22 (挿図25・69・116)	検出位置	AE 25		
規 模	- × - × 10cm	長 軸		平面形	
検出状況	地山と明確に異なる。東側半分が用地外に広がる。				
重複関係	SB 25 を切る。				
壁	緩やかに立ち上がる。				
床	軟弱。				
柱 穴	主柱穴 4 本 (P 1・4・5・6)				
炉 址	不明。				
付属施設	なし。				
遺 物	覆土中より遺物少量出土 (中期中葉)				
そ の 他					

遺構番号	SB 23 (挿図26・69)	検出位置	AD 23		
規 模	400×320 ×20cm	長 軸	N-42-W	平面形	隅丸方形
検出状況	地山と明確に異なる。				
重複関係	SK 95 を切り、SB 54 に切られる。				
壁	ほぼ垂直に立ち上がる。				
床	全面堅固。				
柱 穴	壁際に主柱穴 4 本 (P 1～4)				
炉 坂	住居址ほぼ中央に石囲炉。				
付属施設	なし。				
遺 物	覆土中より遺物少量 (中期中葉末)				
そ の 他					

遺構番号	S B 2 4 (挿図27・70・71)	検出位置	A C 2 3		
規 模	- × - × 60cm	長 軸		平面形	
検出状況	地山と明確に異なる。住居址東側半分が調査区内に広がる。				
重複関係	なし。				
壁	緩やかに立ち上がる。				
床	全面堅固。				
柱 穴	壁際に主柱穴 3 本 (P 1・5・6)				
炉 址	西寄りに平石を用いた掘炬燵状の石囲炉。				
付属施設	壁際に周溝がほぼ全周する。				
遺 物	床面より釣手土器 1 個体・浅鉢 1 個体 (中期後半)。礫石錘 1 6 個 (挿図117・118)				
そ の 他	遺物は覆土中が多く、中期中葉から後半にかけての土器が混在。				

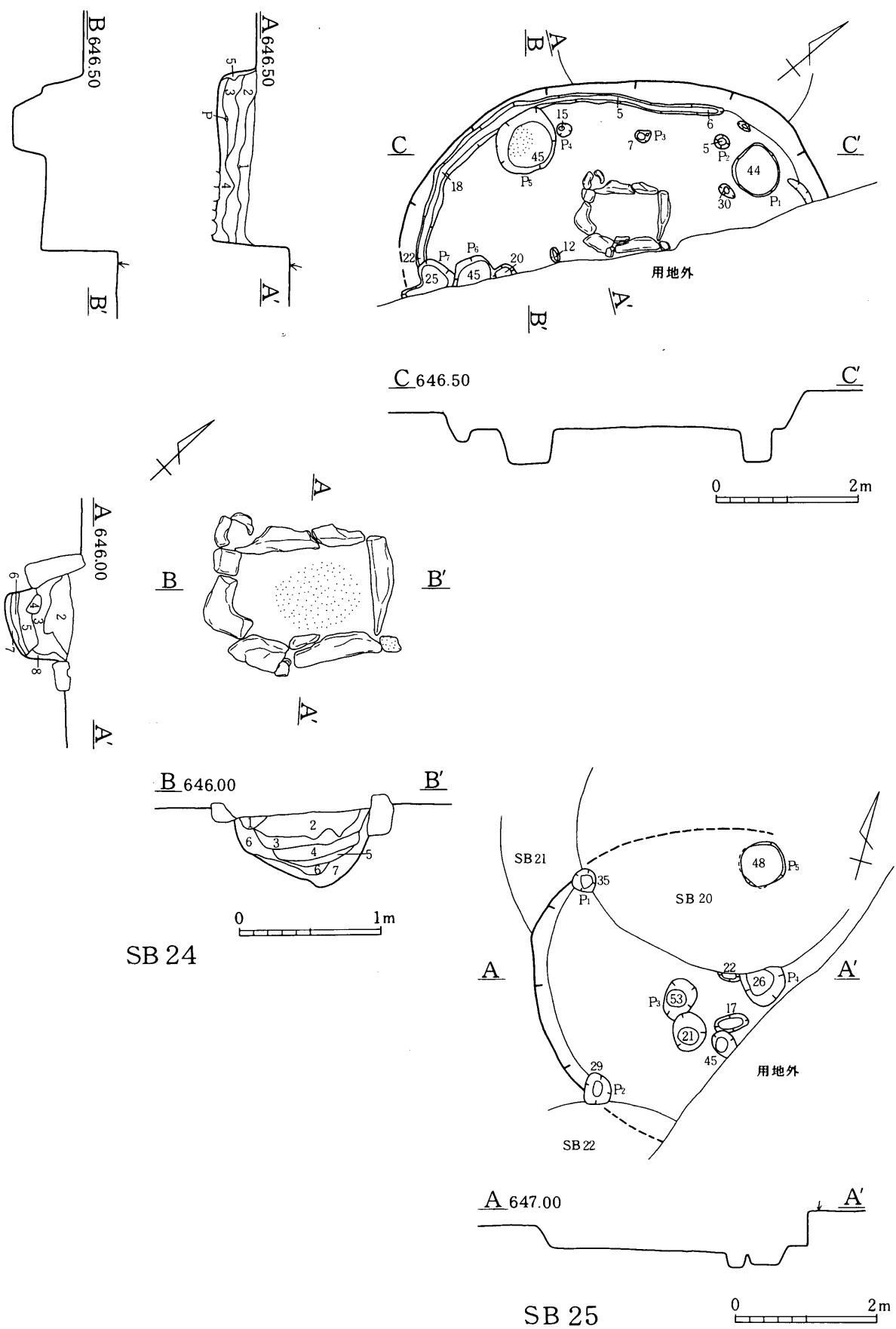
遺構番号	S B 2 5 (挿図27・119)	検出位置	A F 2 5		
規 模	- × - × 20cm	長 軸		平面形	
検出状況	不明確。S B 2 0 の調査中埋土の差から判断。東側1/3が調査区外に広がる。				
重複関係	S B 2 1 を切り、S B 2 0・2 2 に切られる				
壁	緩やかに立ち上がる。				
床	やや軟弱。				
柱 穴	主柱穴 3 本 (P 1・2・5)				
炉 坂	不明。				
付属施設	なし。				
遺 物	覆土中から少量出土。中期初頭から中葉にかけて混在。				
そ の 他					

遺構番号	S B 2 6 (挿図28・119)	検出位置	B T 1 4		
規 模	- × - × - cm	長 軸		平面形	
検出状況	地山と埋土が異なるが不明確。西側が一部調査区外に広がる。				
重複関係	S B 2 7 に切られる。				
壁	不明瞭。				
床	やや軟弱。				
柱 穴	不明確。				
炉 坂	不明。				
付属施設	なし。				
遺 物	遺物ごく僅か出土。住居址でない可能性有り。				
そ の 他					

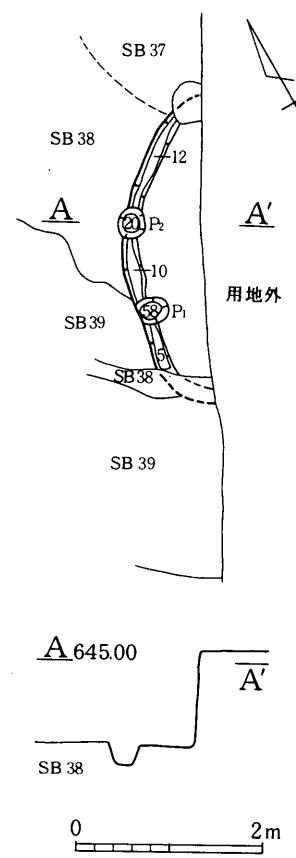
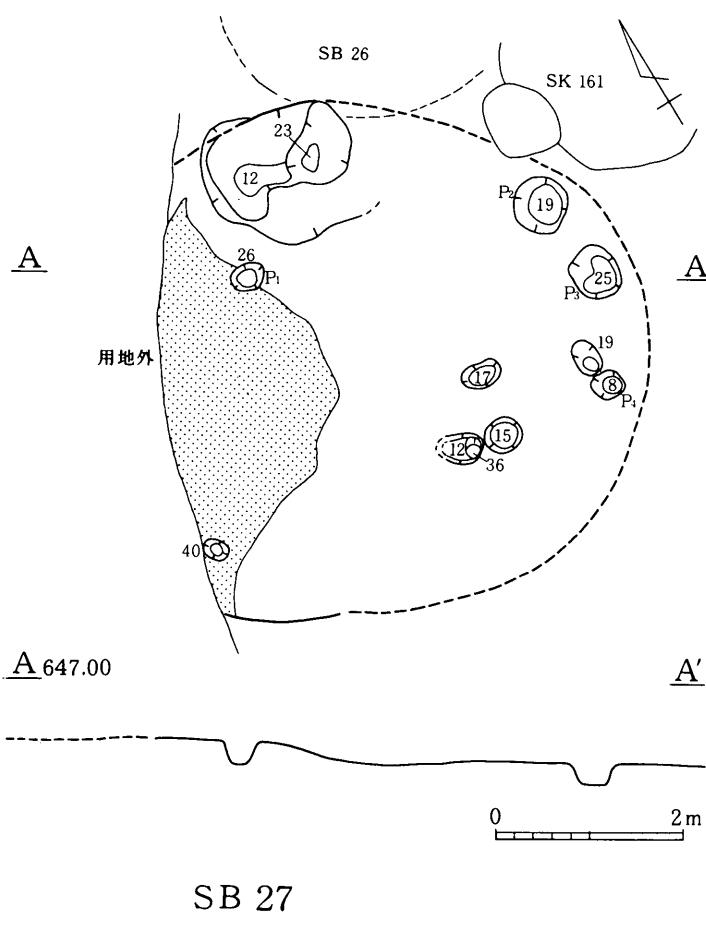
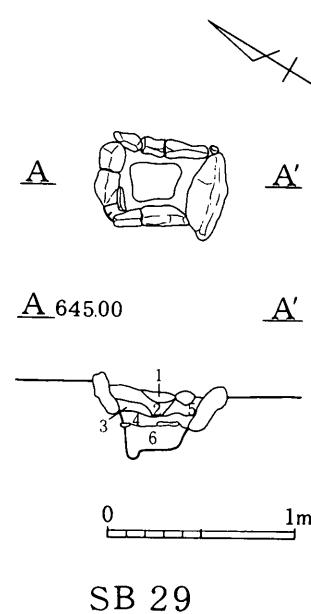
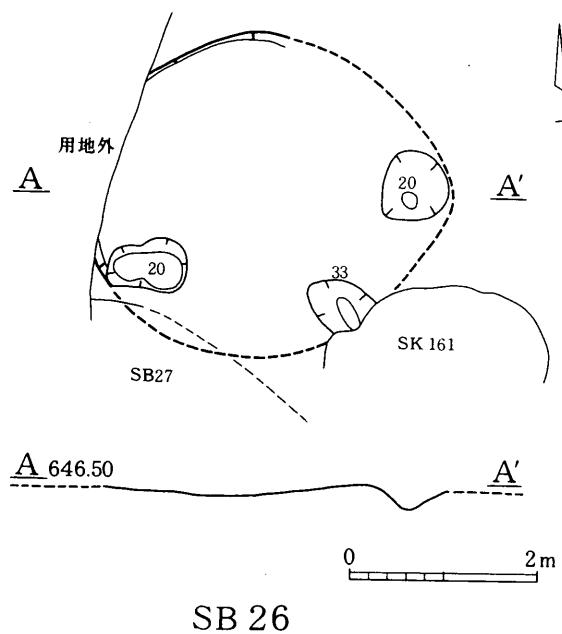
遺構番号	S B 2 7 (挿図28・72)	検出位置	B R 1 3		
規 模	— × — × 10cm	長 軸		平面形	
検出状況	南西隅のみ壁を検出。住居址全体が削平されている。				
重複関係	不明				
壁	不明				
床	やや軟弱。				
柱 穴	不明				
炉 址	不明				
付属施設					
遺 物	大半が覆土中から出土（中期初頭）。礫石錘16個（挿図120～122）				
そ の 他					

遺構番号	S B 2 9 (挿図28・73)	検出位置	B F 1 3		
規 模	— × — × 10cm	長 軸		平面形	
検出状況	耕作土を除去中、炉址のみ確認。				
重複関係	不明				
壁	不明				
床	不明				
柱 穴	不明				
炉 坂	幅広の平石を用いた掘炬燵状石囲炉。				
付属施設					
遺 物	炉址付近から少量出土（後期）				
そ の 他					

遺構番号	S B 3 0 (挿図28・74～77)	検出位置	B F 1 3		
規 模	— × — × cm	長 軸		平面形	
検出状況	S B 3 8 を調査中周溝を確認。東側大半が調査区外に広がる。				
重複関係	S B 3 7 ・ 3 8 ・ 3 9 を切る。				
壁	不明				
床	堅固				
柱 穴	不明				
炉 坂	不明				
遺 物	4軒の切り合いのため遺物は混在する可能性がある。床面付近の土器から時期比定（中期中葉末）。礫石錘32個・石錘素材1個（挿図123～126）				
そ の 他	切り合い関係のある住居址は4軒ともほぼ同時期と考えられる。住居址間の切り合い関係はS B 3 8 ・ 3 9 の床をS B 3 0 の周溝が壊していることから確認。				



插図27 SB 24・25

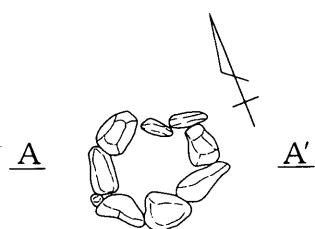
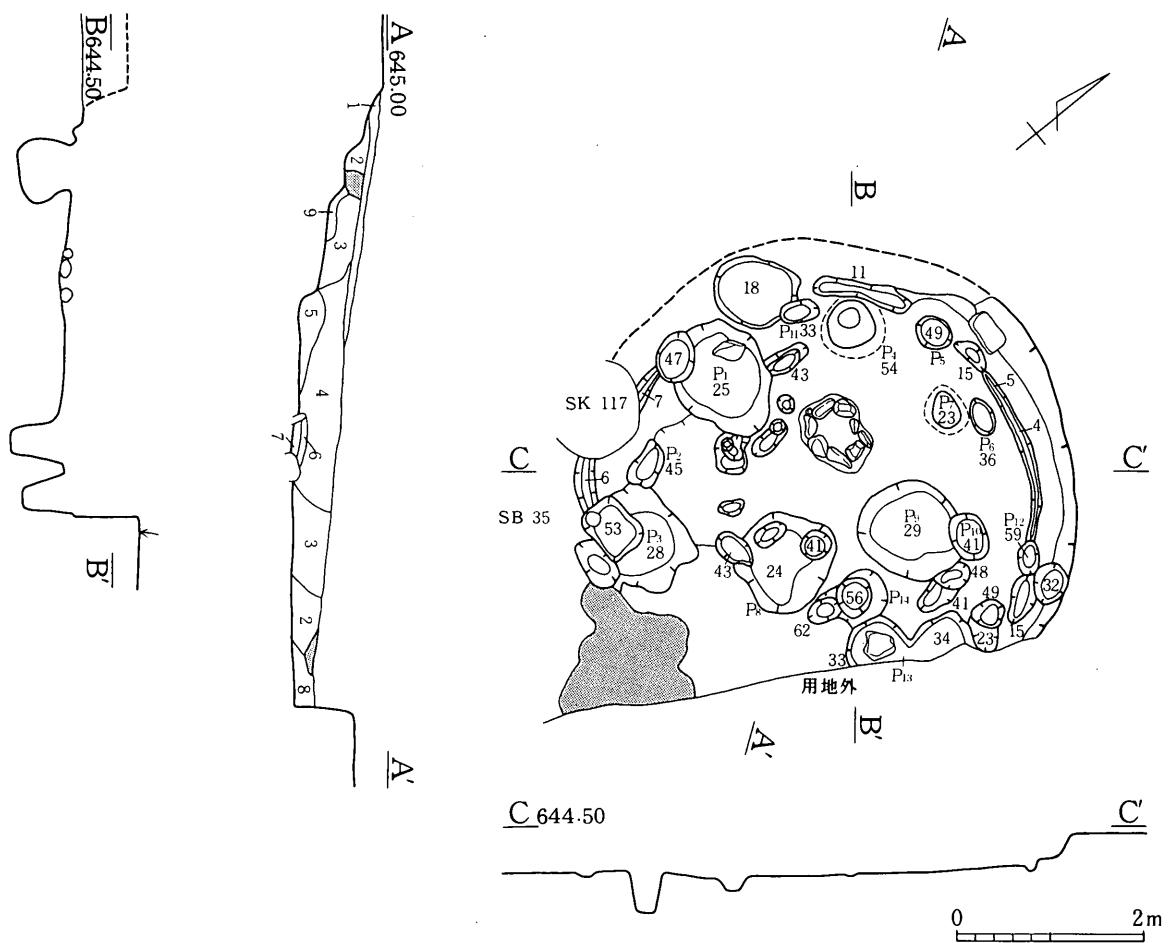


插図28 SB 26・27・29・30

遺構番号	S B 3 1 (挿図29・78・79)	検出位置	B D 1 1		
規 模	- × - × 40cm	長 軸		平面形	
検出状況	埋土が地山と明確に異なる。住居址北西側は削平のため不明瞭。南東側は調査区外。				
重複関係	SK 1 1 7 に切られる。				
壁	緩やかに立ち上がる。				
床	全面堅固。				
柱 穴	壁寄りに主柱穴 6 本 (P 2 · 5 · 7 · 1 0 · 1 1 · 1 4)				
炉 址	北西寄りに 2 0 cm程度の石を用いた石囲炉。				
付属施設					
遺 物	床面より土器 1 個体 (中期中葉末) その他は覆土中からが大半を占める。礫石錘 3 2 個・石錘素材 4 個出土 (挿図127~129)				
その 他					

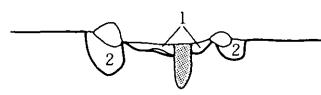
遺構番号	S B 3 2 (挿図30・80・130)	検出位置	B G 1 0		
規 模	- × 300 × 10cm	長 軸	N - 24 - W	平面形	
検出状況	埋土が地山と明確に異なる。南東側は削平により不明瞭。				
重複関係	なし				
壁	なだらかに立ち上がる。				
床	やや軟弱。				
柱 穴	壁際に主柱穴 5 本 (P 1 · 2 · 3 · 5 · 6)				
炉 坂	北西寄りに 2 0 cm程度の礫を用いた小型の石囲炉。				
付属施設	なし				
遺 物	遺物は覆土中から少量出土 (中期中葉)				
その 他					

遺構番号	S B 3 3 (挿図30・80・130)	検出位置	A Y 6		
規 模	- × - × 60cm	長 軸		平面形	
検出状況	埋土が地山と明確に異なる。住居址南半分は調査区外に広がる。				
重複関係	なし				
壁	緩やかに立ち上がる。				
床	やや堅固				
柱 穴	壁寄りに主柱穴 2 本 (P 1 · 2)				
炉 坂	不明				
付属施設					
遺 物	覆土中から大半が出土 (中期中葉末)。				
その 他					



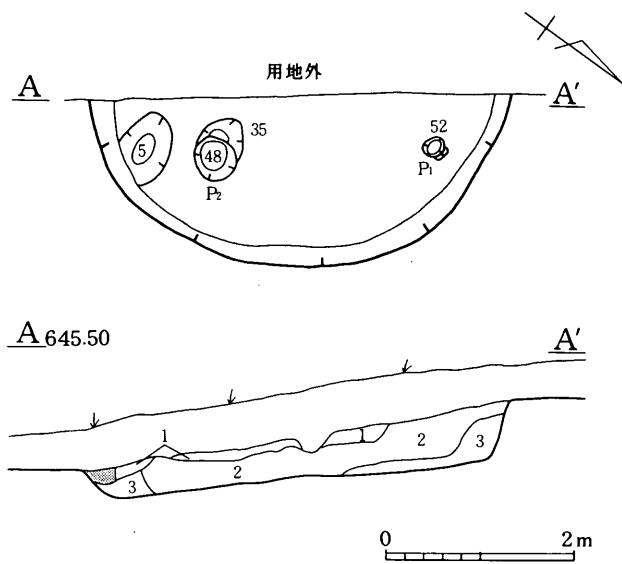
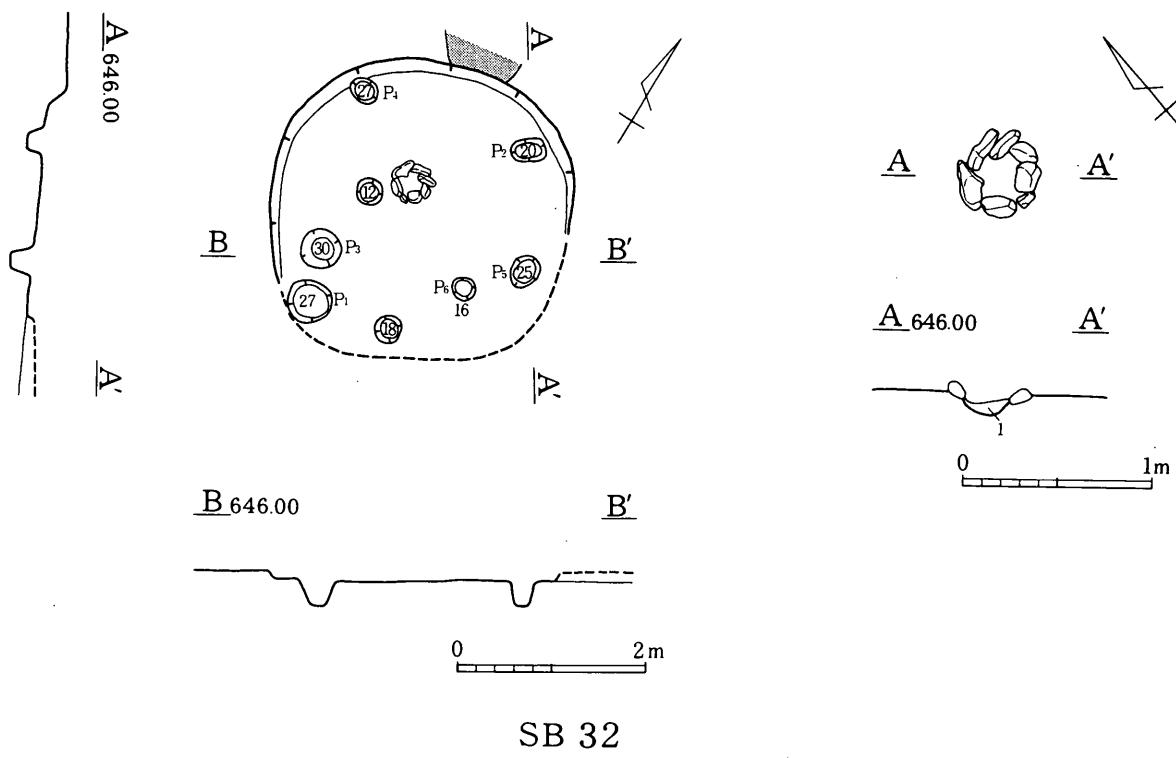
A 644.50

A'



A horizontal ruler scale starting at 0 and ending at 1 m. There are 10 equal-sized tick marks along the scale, including the start and end points.

挿図29 SB31

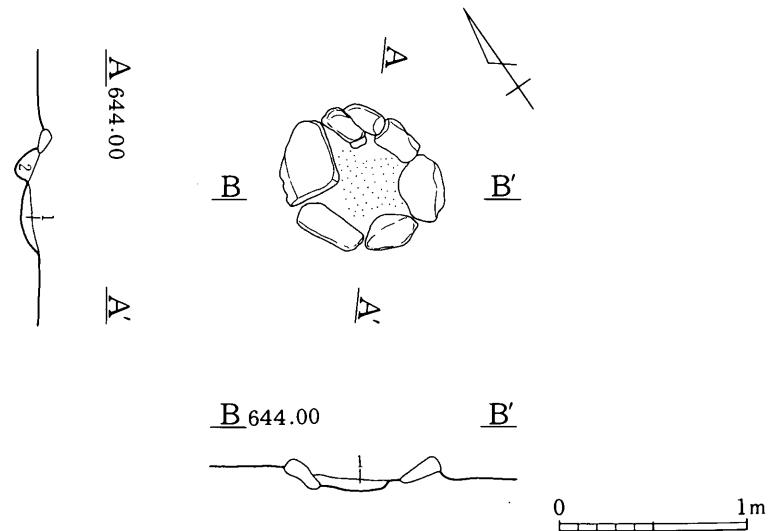
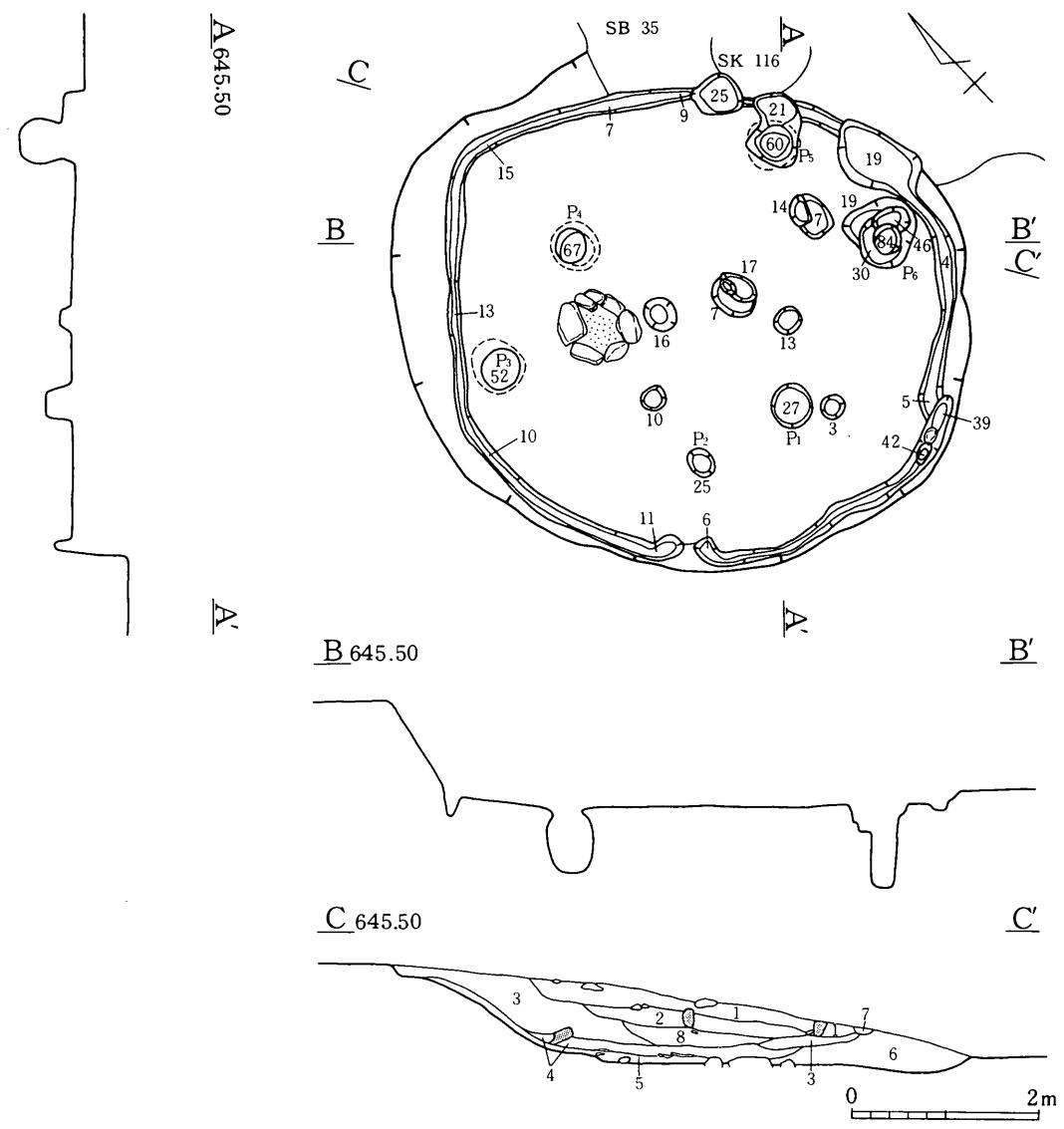


插図30 SB 32・33

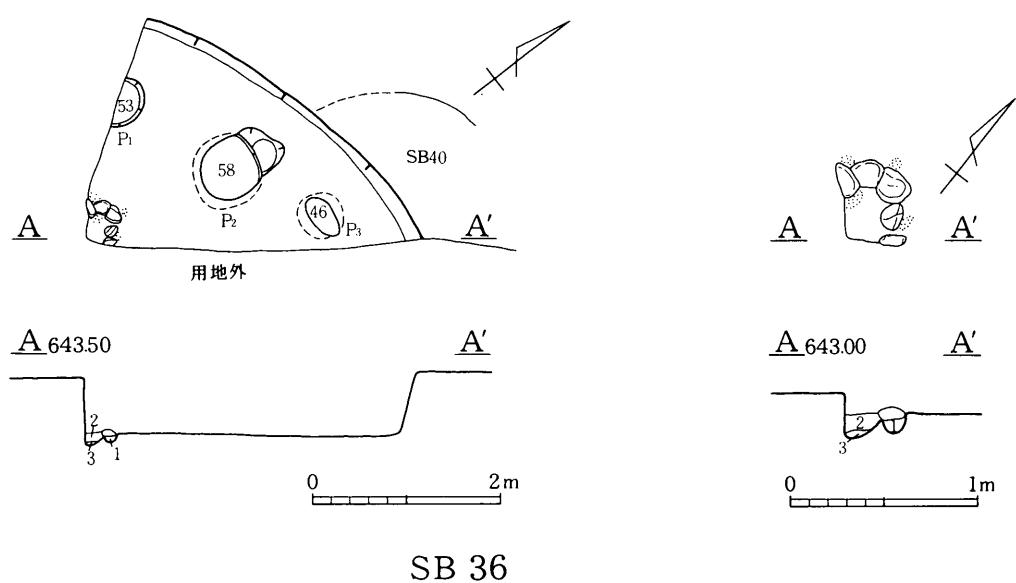
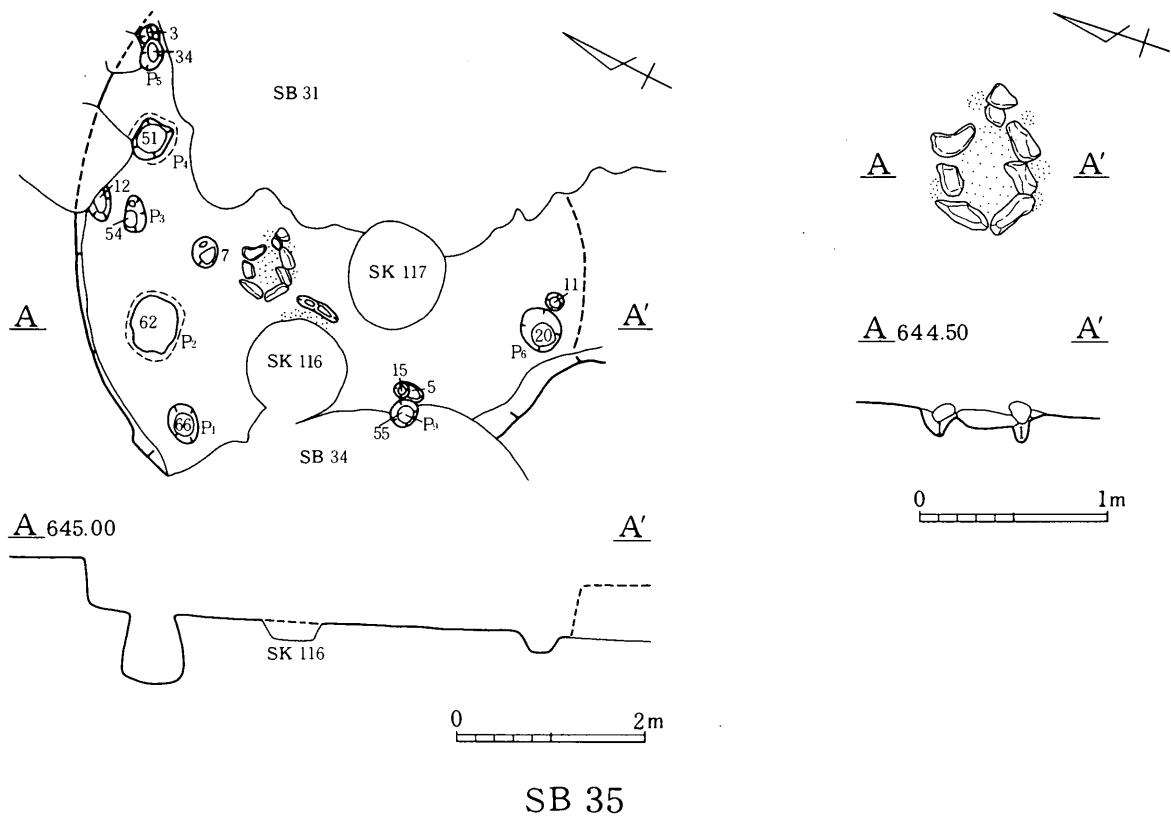
遺構番号	S B 3 4 (図版31・81~85)	検出位置	B C 8		
規 模	600×500 ×100cm	長 軸	N-45-W	平面形	橢円形
検出状況	埋土が地山と明確に異なる。				
重複関係	S B 3 5 を切る。				
壁	ほぼ垂直に立ち上がる。				
床	全面にわたり堅固。				
柱 穴	壁寄りに主柱穴 6本 (P 1~6)				
炉 址	北西寄りに 20cm程度の礫を用いた石囲炉。				
付属施設	壁際に全周する周溝。				
遺 物	大半が覆土 4層から床面にかけて出土。炉址周辺から土器 2個体 (中期中葉末)				
その他	P 2 から土器 1個体。礫石錘 37個 (挿図131~133)				

遺構番号	S B 3 5 (挿図32・86・130)	検出位置	B D 9		
規 模	- × - × 50cm	長 軸		平面形	
検出状況	埋土が地山と明確に異なる。				
重複関係	S B 3 1・3 4、SK 1 1 6・1 1 7 に切られる。				
壁	ほぼ垂直に立ち上がる。				
床	全面堅固。				
柱 穴	壁寄りに主柱穴 5本 (P 1~5)				
炉 址	北寄りに 20cm程度の礫を用いた石囲炉。				
付属施設	なし				
遺 物	大半が覆土から出土 (中期中葉)				
その 他					

遺構番号	S B 3 6 (挿図32・87・88)	検出位置	A W 8		
規 模	- × - × 80cm	長 軸		平面形	
検出状況	埋土が地山と明確に異なる。全体の3/4が調査区外に広がる。				
重複関係	S B 4 0 を切る。				
壁	ほぼ垂直に立ち上がる。				
床	全面堅固。				
柱 穴	壁寄りに主柱穴 3本 (P 1~3)。				
炉 址	径 20cm程度の礫を用いた石囲炉。				
付属施設	なし。				
遺 物	床付近から土器 1個体 (中期中葉末) 磕石錘 10個 (挿図134)				
その 他					



挿図31 SB34

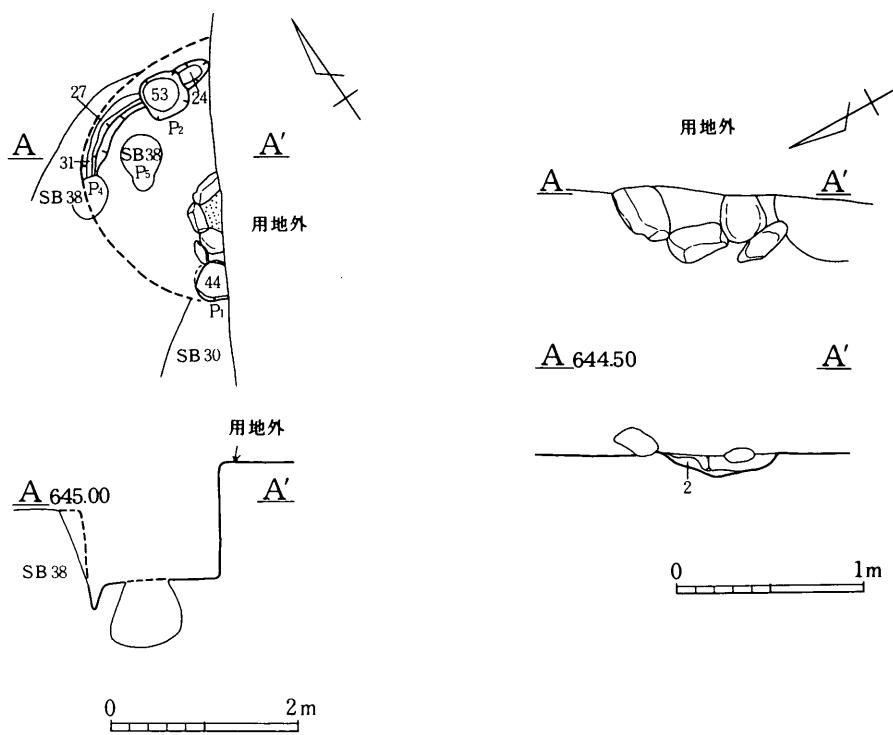


挿図32 SB 35・36

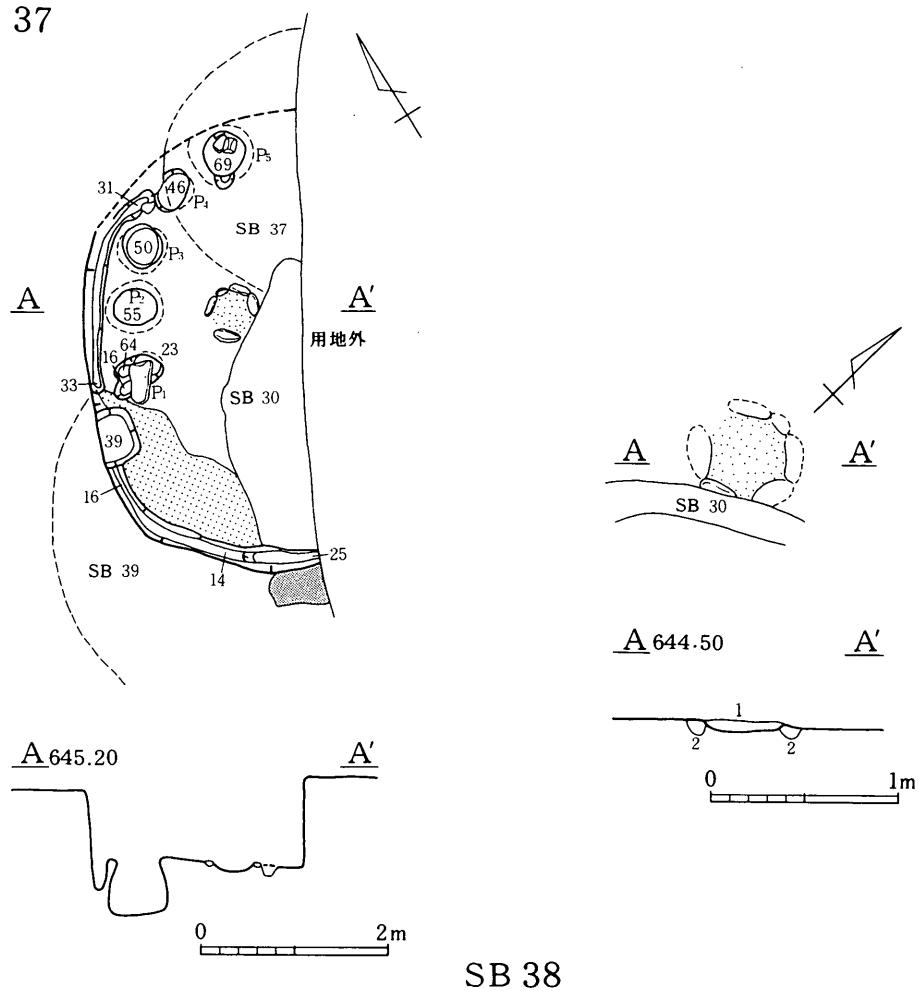
遺構番号	S B 3 7 (挿図33・89・135)	検出位置	B G 1 4		
規 模	- × - × 80cm	長 軸		平面形	
検出状況	S B 3 8 調査中、埋土の差から検出。全体の2/3が調査区外に広がる。				
重複関係	S B 3 0 ・ 3 8 に切られる。				
壁	ほぼ垂直に立ち上がる。				
床	全面堅固。				
柱 穴	周溝内に1本 (P 2)、炉址南側に1本 (P 1)。				
炉 址	長さ 30 cm程度の礫を用いた石囲炉。				
付属施設	住居址北側壁沿いに周溝。				
遺 物	遺物の大半が覆土中から出土 (中期中葉末) 磚石錘 6 個 (挿図135)				
その 他					

遺構番号	S B 3 8 (挿図33)	検出位置	B G 1 3		
規 模	- × - × 80cm	長 軸		平面形	
検出状況	埋土が地山と明確に異なる。				
重複関係	S B 3 7 ・ 3 9 を切り、S B 3 0 に切られる。				
壁	ほぼ垂直に立ち上がる。				
床	全面堅固、南西側に一部貼り床がみられる。貼り床は S B 3 0 に切られる。				
柱 穴	壁寄りに主柱穴 5 本 (P 1 ~ 5)。				
炉 址	住居址北寄りに、長さ 20 cm程度の細長い礫を用いた石囲炉。				
付属施設	壁際に周溝。				
遺 物	遺物少量 (中期中葉末)				
その 他					

遺構番号	S B 3 9 (挿図34・89)	検出位置	B F 1 2		
規 模	- × - × 20cm	長 軸		平面形	
検出状況	S B 3 8 調査中、埋土の差から確認。				
重複関係	S B 3 0 ・ 3 8 、SK104・105・106 に切られる。				
壁	なだらかに立ち上がる。				
床	やや軟弱。				
柱 穴	不明。				
炉 址	西寄りに地床炉。				
付属施設					
遺 物	遺物少量 (中期中葉)				
その 他					



SB 37

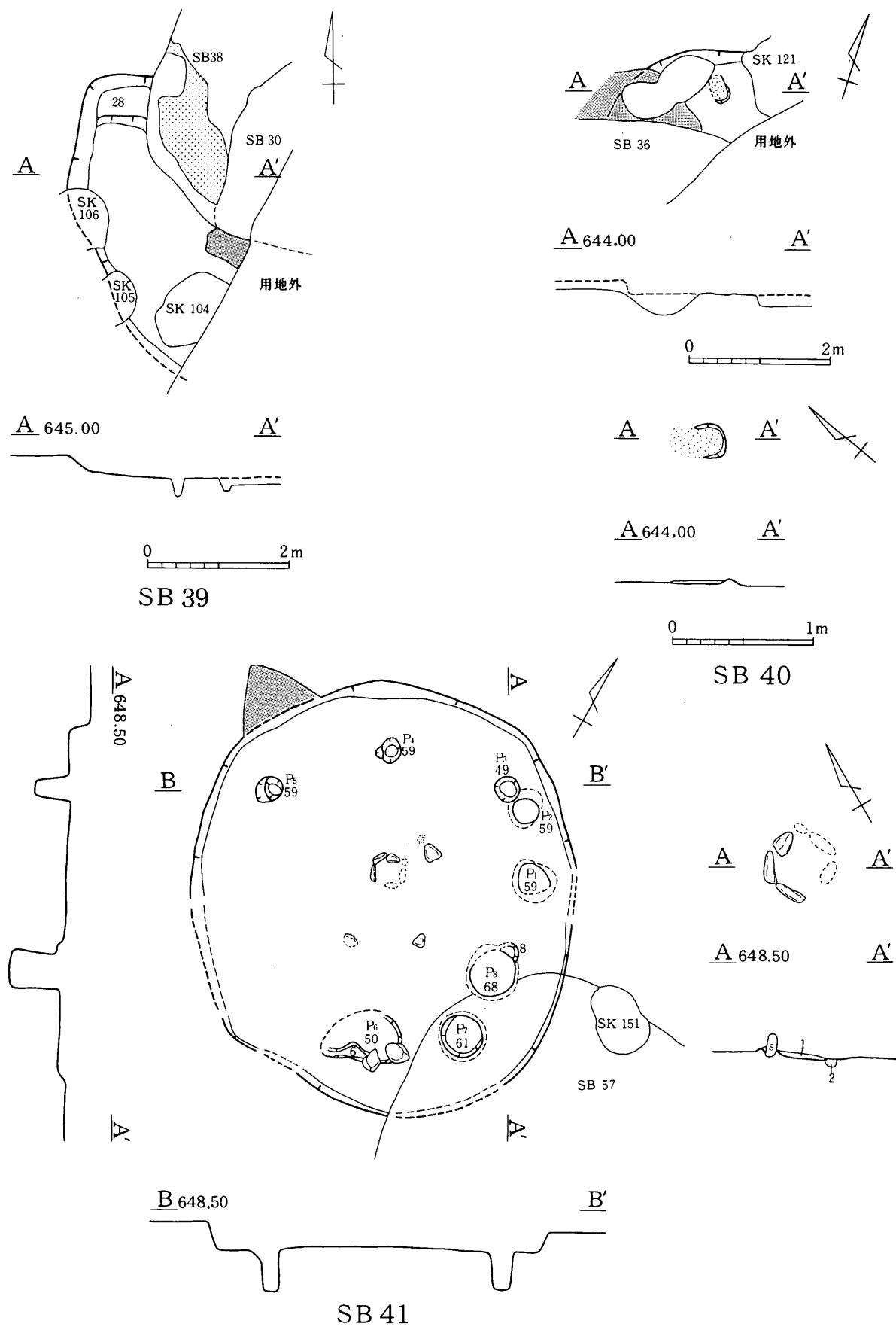


插図33 SB 37・38

遺構番号	S B 4 0 (挿図34・89・136)	検出位置	A X 9		
規 模	- × - × - cm	長 軸		平面形	
検出状況	S B 3 6 検出中、埋土の差から確認。遺構の大半は調査区外に広がる。				
重複関係	S B 3 6, SK 1 2 1 に切られる。				
壁	なだらかに立ち上がる。				
床	やや軟弱。				
柱 穴	不明。				
炉 址	北側壁際に焼土あり。				
付属施設					
遺 物	覆土中から少量出土（中期初頭）				
その 他					

遺構番号	S B 4 1 (挿図34・90・136)	検出位置	A W 4 1		
規 模	600 × 540×40cm	長 軸	N - 28 - W	平面形	橢円形
検出状況	埋土が地山と明確に異なる。				
重複関係	S B 5 7 を切る。				
壁	ほぼ垂直に立ち上がる。				
床	炉址周辺堅固				
柱 穴	壁寄りに主柱穴 8 本 (P 1 ~ 8)。				
炉 址	長さ 2 0 cm程度の細長い石を用いた石囲炉。石の抜き取り痕あり。				
付属施設					
遺 物	主に覆土中から出土（中期中葉）				
その 他					

遺構番号	S B 4 2 (挿図35・90・136)	検出位置	B K 4 0		
規 模	- × - × 10cm	長 軸		平面形	
検出状況	埋土が地山と明確に異なる。住居址の大半は用地外に広がる。				
重複関係	なし。				
壁	緩やかに立ち上がる。				
床	やや軟弱。				
柱 穴	不明。				
炉 址	不明。				
付属施設					
遺 物	遺物少量				
その 他					

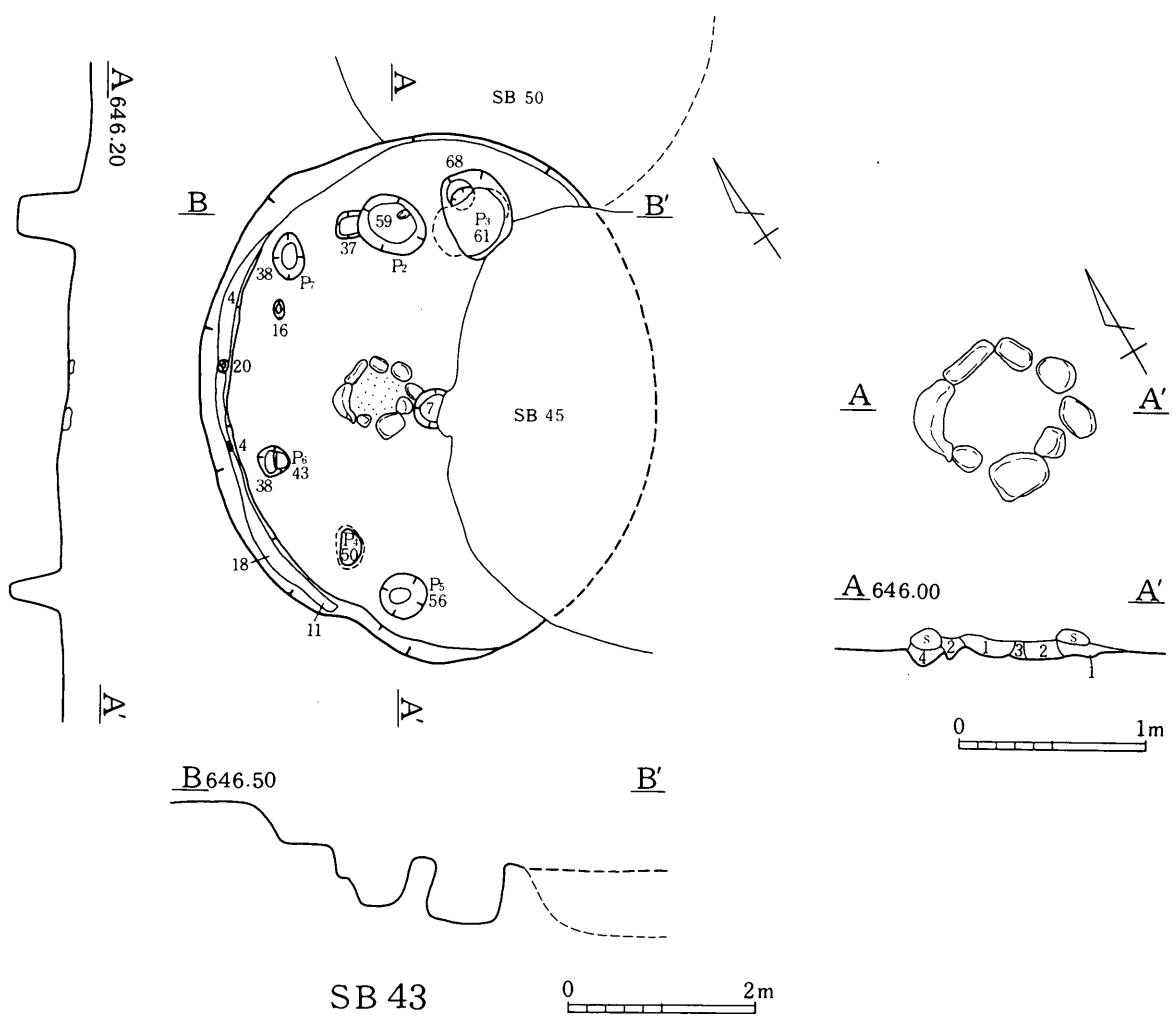
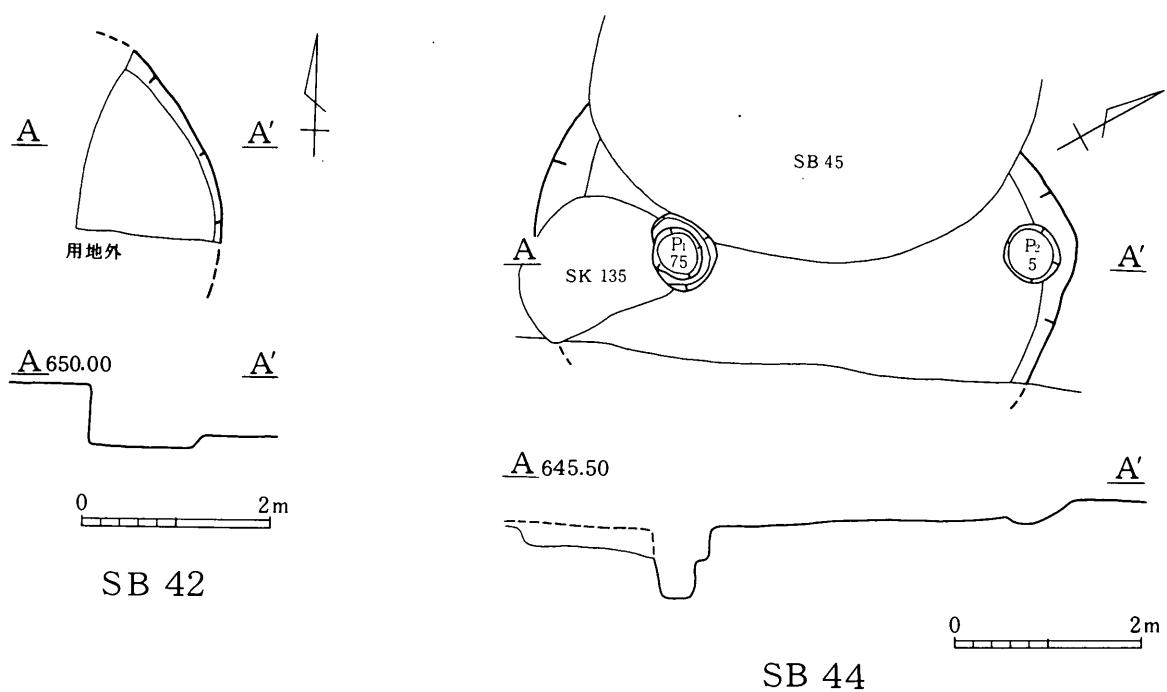


插図34 SB 39・40・41

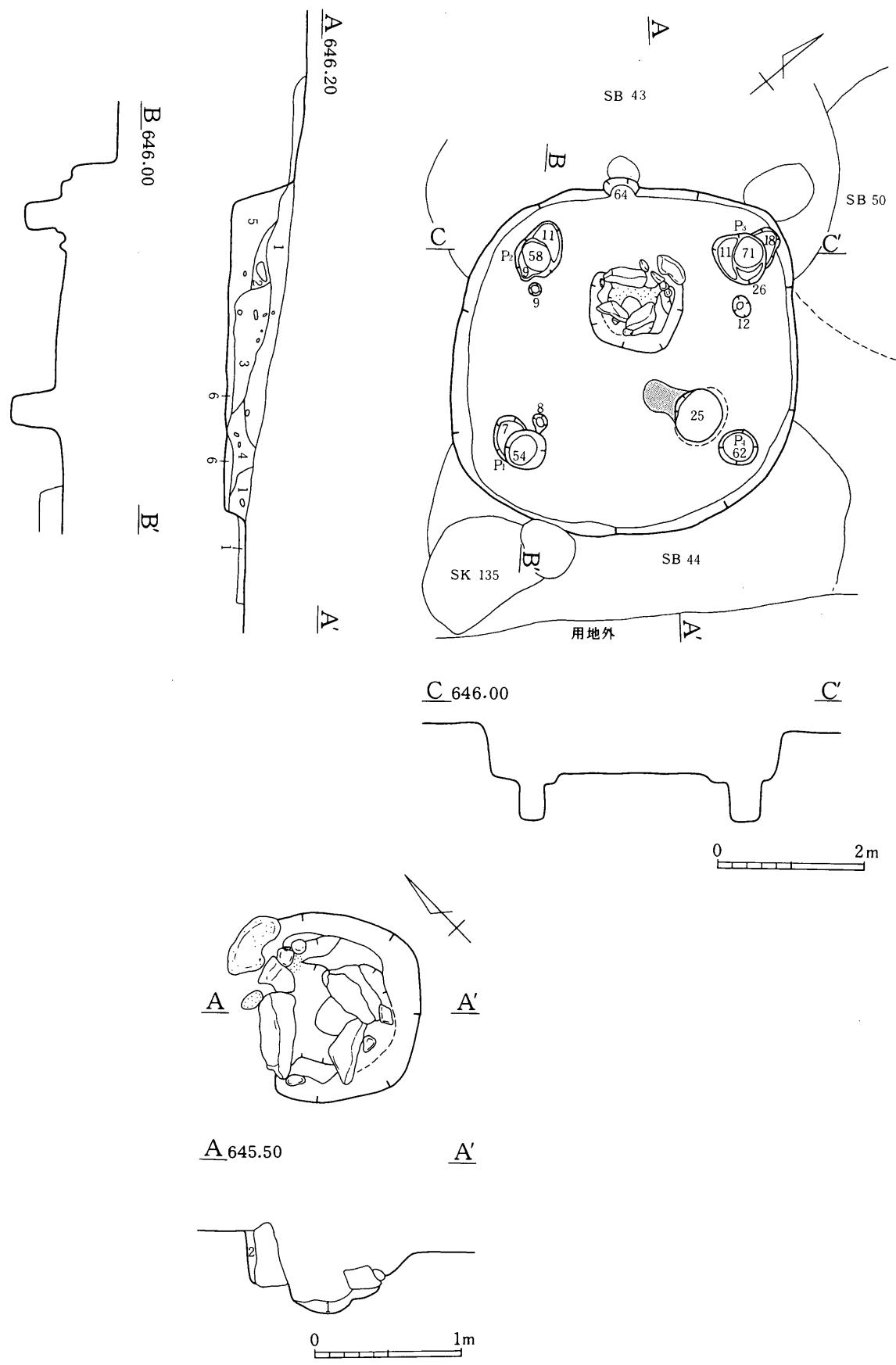
遺構番号	S B 4 3 (挿図35・91・137)	検出位置	B V 1 8		
規 模	560 × - × 20cm	長 軸		平面形	橢円形
検出状況	埋土が地山と明確に異なる。				
重複関係	S B 5 0 を切り、S B 4 5 に切られる。				
壁	緩やかに立ち上がる。				
床	全面堅固。				
柱 穴	壁寄りに主柱穴 6 本 (P 1 ~ 6)				
炉 址	西壁寄りに径 10 ~ 30 cm の礫を用いた石囲炉。				
付属施設	西壁沿いに周溝。				
遺 物	遺物の大半が覆土中より出土 (中期中葉末) 磕石錘 9 個				
その 他					

遺構番号	S B 4 4 (挿図35・92・137)	検出位置	B T 2 0		
規 模	320 × - × 20cm	長 軸		平面形	
検出状況	S B 4 5 調査中、埋土の差から検出。				
重複関係	S B 4 5, SK 1 3 5 に切られる。				
壁	なだらかに立ち上がる。				
床	やや軟弱。				
柱 穴	主柱穴 2 本 (P 1 ・ 2)				
炉 坂	不明				
付属施設	なし				
遺 物	遺物の大半が覆土中から出土 (中期中葉末)				
その 他					

遺構番号	S B 4 5 (挿図36・93・94)	検出位置	B T 1 9		
規 模	460 × 460 × 80cm	長 軸	N - 48 - W	平面形	隅丸方形
検出状況	埋土が地山と明確に異なる。				
重複関係	S B 4 3, S B 4 4 を切る。				
壁	ほぼ垂直に立ち上がる。				
床	全面堅固。一部貼り床あり。				
柱 穴	四隅壁寄りに主柱穴 4 本 (P 1 ~ 4)。				
炉 坂	大型の平石を組み合わせた掘炬燵状石囲炉。石の抜き取り痕あり。				
付属施設	北西壁に小ピット				
遺 物	遺物の大半が覆土 3 ・ 5 層より出土 (中期後半) 磕石錘 20 個 (挿図138・139)				
その 他					



挿図35 SB 42・43・44

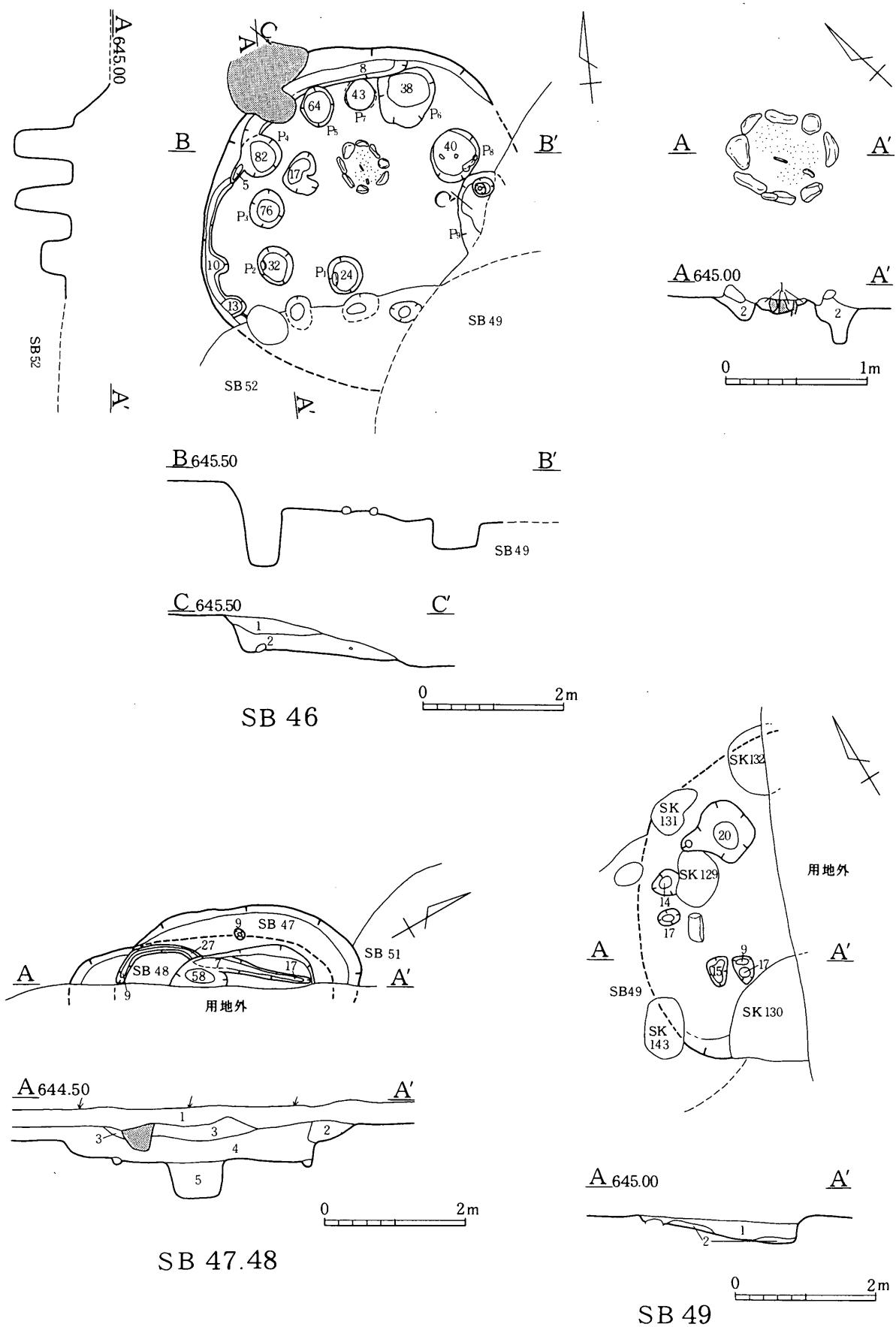


插図36 SB 45

遺構番号	S B 4 6 (挿図37・92・140)	検出位置	B P 1 7		
規 模	- × - × 40cm	長 軸		平面形	円形
検出状況	埋土が地山と明確に異なる。				
重複関係	S B 4 9 ・ S B 5 2 を切る。				
壁	ほぼ垂直に立ち上がる。				
床	炉址周辺堅固。				
柱 穴	壁寄りに主柱穴 8 本 (P 1 ~ 8)。				
炉 址	北壁寄りに長さ 20 cm程度の細長い礫を用いた石囲炉。				
付属施設	壁際に周溝。				
遺 物	遺物の大半が覆土 2 層より出土 (中期中葉末)				
その 他					

遺構番号	S B 4 7 (挿図37・95)	検出位置	B T 1 5		
規 模	- × - × 40cm	長 軸		平面形	
検出状況	埋土が地山と明確に異なる。住居址の大半は調査区外に広がる。				
重複関係	S B 5 1 を切り、S B 4 8 に切られる。				
壁	緩やかに立ち上がる。				
床	やや軟弱。				
柱 穴	不明				
炉 址	不明				
付属施設					
遺 物	遺物の大半が覆土 4 層から出土。S B 4 8 の遺物が混在する可能性有り。				
その 他					

遺構番号	S B 4 8 (挿図37・95・177)	検出位置	B T 1 5		
規 模	- × - × 40cm	長 軸		平面形	
検出状況	S B 4 7 調査中埋土の差から確認。住居址の大半は遺構外に広がる。				
重複関係	S B 4 7 を切る。				
壁	ほぼ垂直に立ち上がる。				
床	全面堅固。				
柱 穴	不明。				
炉 址	不明。				
付属施設					
遺 物	S B 4 7 の遺物と混在する可能性有り				
その 他					

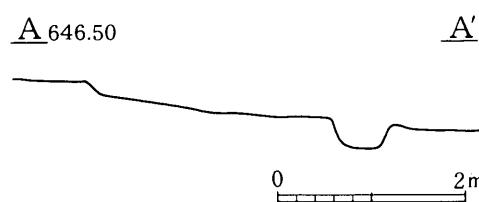
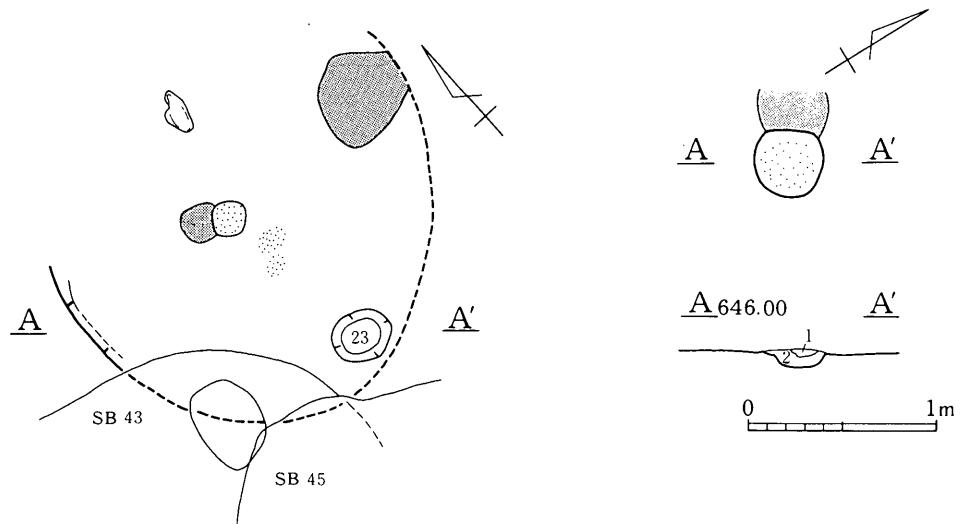


挿図37 SB 46・47・48・49

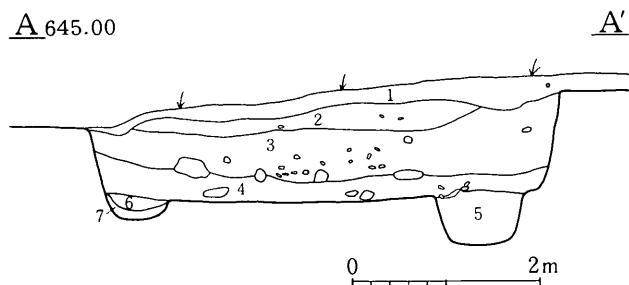
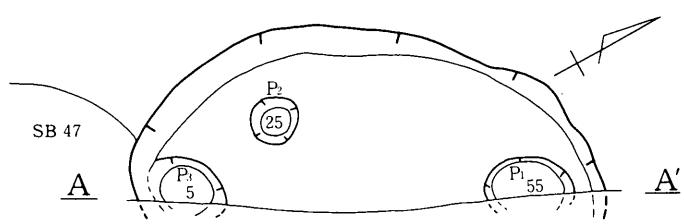
遺構番号	S B 4 9 (挿図37・95・141)	検出位置	B O 1 8		
規 模	- × - × 20cm	長 軸		平面形	
検出状況	S B 4 6 調査中、埋土の差から確認。住居址西半分が用地外に広がる。				
重複関係	S B 5 2 ・ S K 1 3 0 ・ 1 3 1 ・ 1 3 2 に切られる。				
壁	S B 4 6 と重複するため不明瞭。				
床	やや軟弱。				
柱 穴	不明				
炉 址	不明				
付属施設					
遺 物	遺物少量。中期中葉から後半にかけての遺物が混在				
そ の 他					

遺構番号	S B 5 0 (挿図38・95)	検出位置	B V 1 9		
規 模	- × - × 20cm	長 軸		平面形	
検出状況	埋土と地山が明確に異なる。住居址北側が削平のため不明瞭。				
重複関係	S B 4 3 ・ 4 5 に切られる。				
壁	緩やかに立ち上がる。				
床	やや軟弱。炉址周辺に貼床が一部見られる。				
柱 穴	不明				
炉 址	住居址ほぼ中央に地床炉。炉址南側に焼土が2カ所見られる。				
付属施設					
遺 物	遺物少量。中期後葉				
そ の 他					

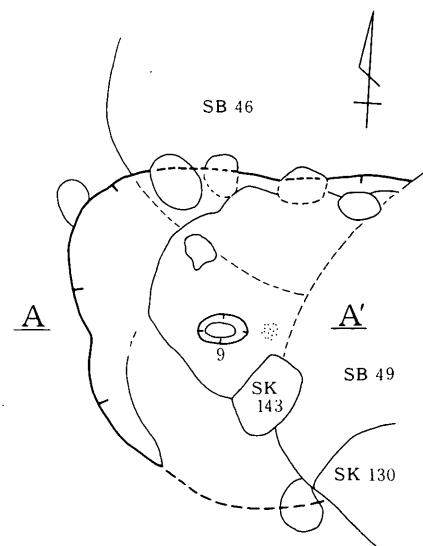
遺構番号	S B 5 1 (挿図38・96)	検出位置	B K 1 6		
規 模	- × - × 100cm	長 軸		平面形	
検出状況	埋土と地山が明確に異なる。住居址南東側が用地外に広がる。				
重複関係	S B 4 7 を切る。				
壁	ほぼ垂直に立ち上がる。				
床	全面堅固。				
柱 穴	壁沿いに主柱穴3本(P 1 ~ 3)				
炉 址	不明				
付属施設					
遺 物	遺物の大半が覆土3層を中心に出土(中期後半) 磯石錘12個(挿図142・143)				
そ の 他					



SB 50



SB 51



SB 52

挿図38 SB 50・51・52

遺構番号	S B 5 2 (挿図38・97)	検出位置	B O 1 7		
規 模	- × - × 40cm	長 軸		平面形	
検出状況	S B 5 6 調査中埋土の差から確認。				
重複関係	S B 4 9 を切り、S B 4 6 に切られる。				
壁	なだらかに立ち上がる。				
床	全面軟弱				
柱 穴	不明				
炉 址	不明				
付属施設					
遺 物	遺物少量 (中期中葉)				
そ の 他					

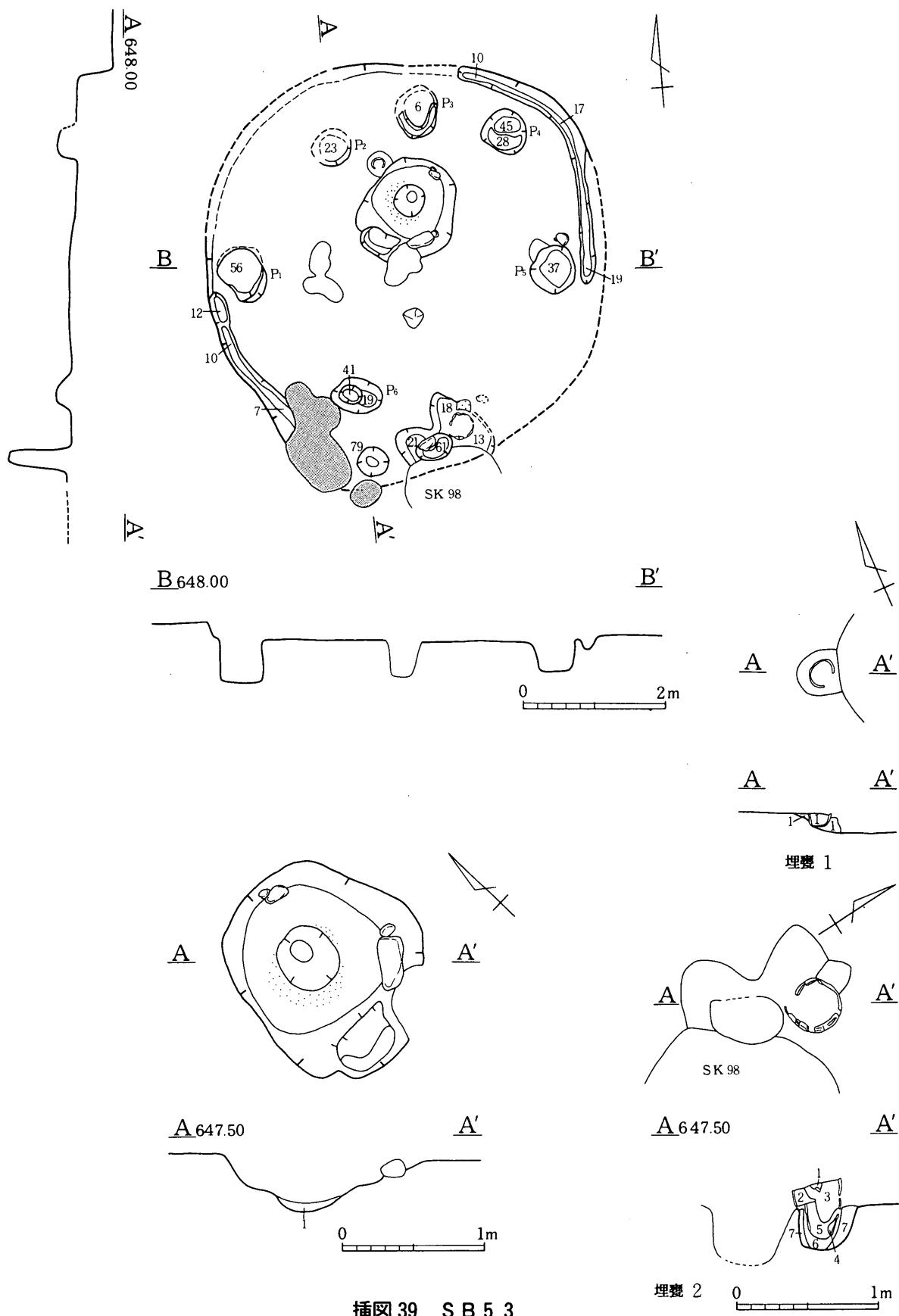
遺構番号	S B 53 (挿図39・98・99・144)	検出位置	A M 2 6		
規 模	- × - × 40cm	長 軸		平面形	円形
検出状況	埋土が地山と明確に異なる。				
重複関係	S K 9 8 に切られる。				
壁	ほぼ垂直に立ち上がる。				
床	全面堅固				
柱 穴	壁よりに主柱穴 6 本 (P 1 ~ 6)				
炉 坂	北壁よりに掘炬燵状炉址。石はすべて抜かれている。				
付属施設	南壁際に埋甕 (埋甕 2)。炉址北側に埋甕 (埋甕 1) 土器埋設炉の可能性あり。				
遺 物	中期中葉から後半にかけての遺物が混在。時期比定は埋甕から (中期後半)				
そ の 他					

遺構番号	S B 5 4 (挿図40)	検出位置	A F 2 2		
規 模	- × - × 40cm	長 軸		平面形	
検出状況	S B 2 3 調査中埋土の差から確認。				
重複関係	S B 2 3 に切られる。				
壁	緩やかに立ち上がる。				
床	やや軟弱。				
柱 穴	不明				
炉 坂	不明				
付属施設					
遺 物	遺物少量 (小片のため時期不明)				
そ の 他					

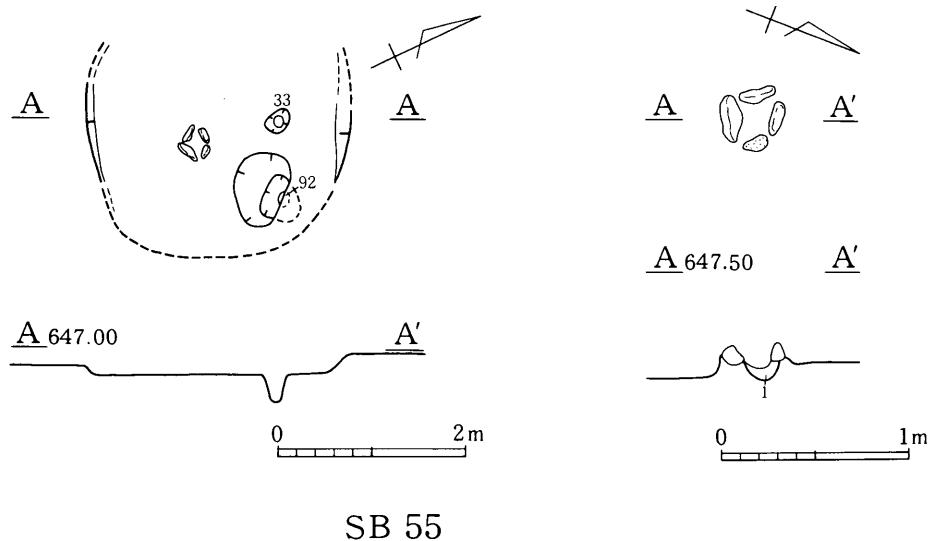
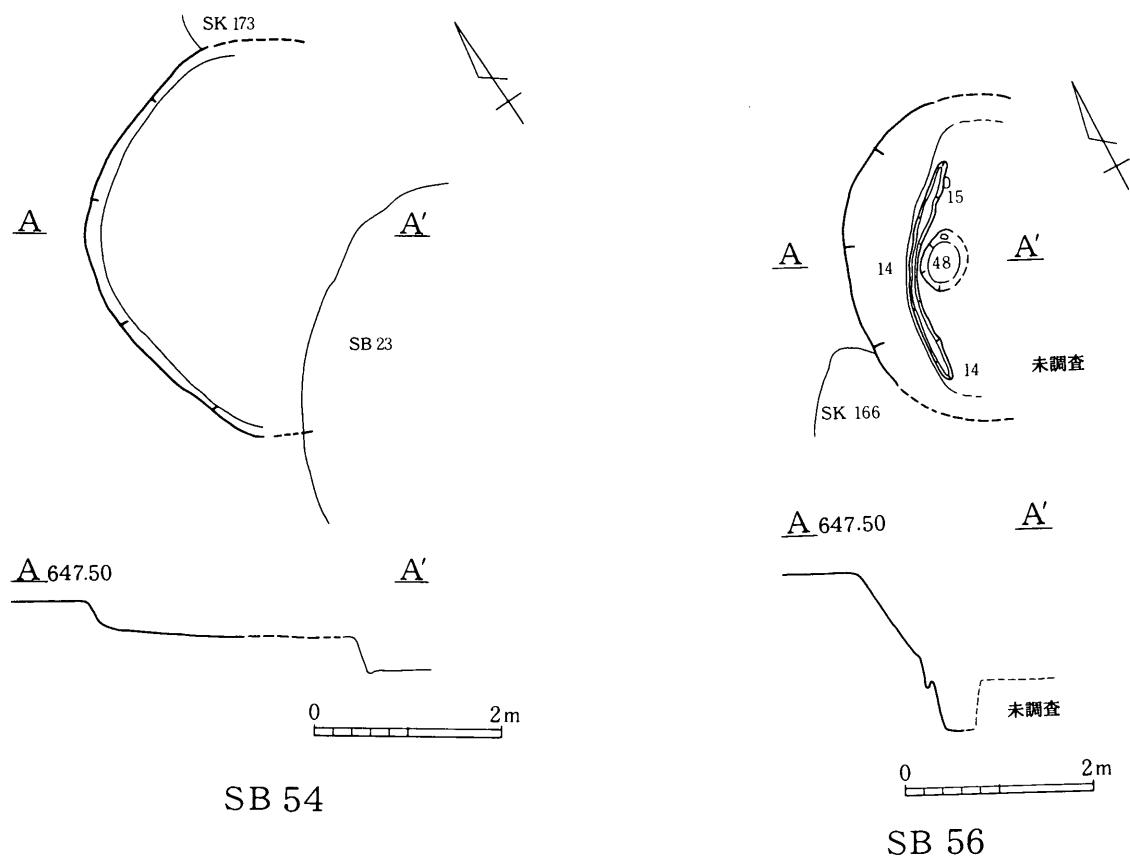
遺構番号	S B 5 5 (挿図40・100・144)	検出位置	B V 1 6		
規 模	- × - × 20cm	長 軸		平面形	
検出状況	埋土と地山が明確に異なる。住居址東西部分が一部削平を受けている。				
重複関係	なし				
壁	緩やかに立ち上がる。				
床	炉址周辺堅固				
柱 穴	不明				
炉 址	住居址南壁寄りに長さ 20 cm程度の石を用いた小型の地床炉。				
付属施設					
遺 物	遺物少量 (中期中葉から後半)				
そ の 他					

遺構番号	S B 5 6 (挿図40・100・181)	検出位置	BX 1 9		
規 模	- × - × 100cm	長 軸		平面形	
検出状況	埋土と地山が明確に異なる。住居址の大半が調査区外に広がる。				
重複関係	なし				
壁	急角度で立ち上がる。				
床	全面堅固				
柱 穴	不明				
炉 址	不明				
付属施設	壁際に周溝				
遺 物	遺物少量 (中期中葉) 磲石錘 7 個 (挿図181)				
そ の 他					

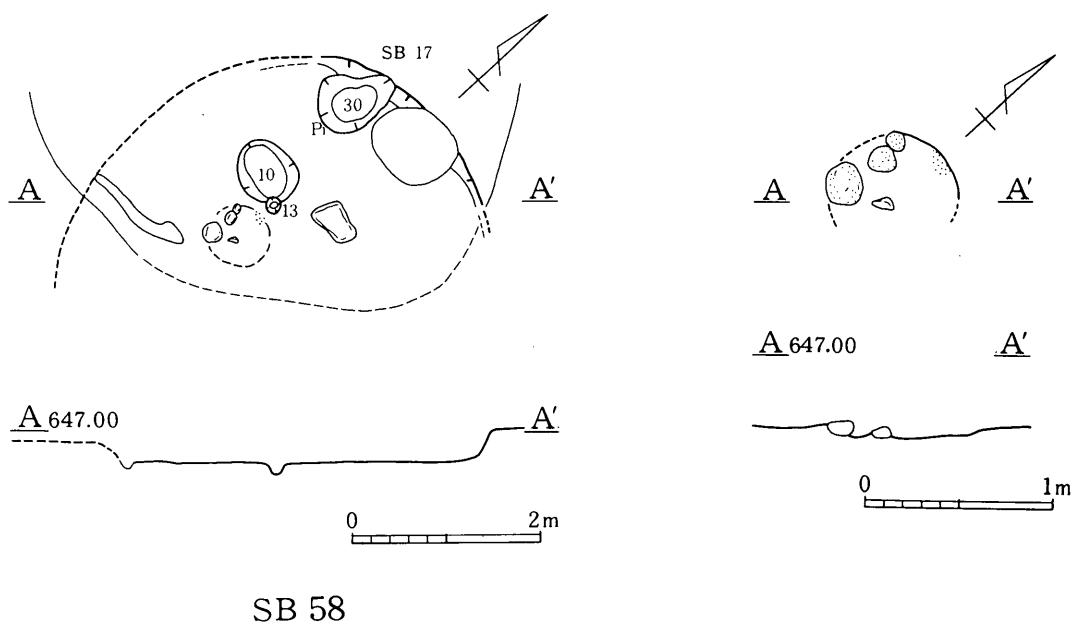
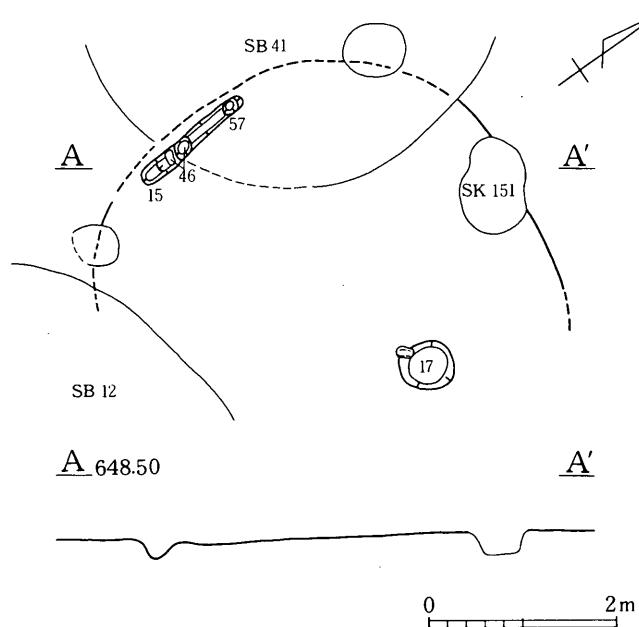
遺構番号	S B 5 7 (挿図41)	検出位置	A V 3 7		
規 模	- × - × - cm	長 軸		平面形	
検出状況	S B 4 1 調査中、周溝を確認。				
重複関係	S B 1 2 ・ 4 1 に切られる。				
壁	なだらかに立ち上がる。				
床	やや軟弱				
柱 穴	不明				
炉 址	不明				
付属施設	住居址西側に一部周溝が残る。				
遺 物	遺物少量のため時期不明				
そ の 他					



插図 39 SB 53



挿図40 SB 54・55・56



挿図41 SB 57・58

遺構番号	S B 5 8 (挿図41・100)	検出位置	A B 2 0		
規 模	- × - × 20cm	長 軸		平面形	
検出状況	S B 1 7 調査中埋土の差から確認。				
重複関係	S B 1 7 に切られる。				
壁	急角度で立ち上がる。				
床	炉址周辺堅固				
柱 穴	壁際に主柱穴 1 本確認。				
炉 址	西壁寄りに炉址。礫の大半は抜かれている。				
付属施設					
遺 物	遺物少量 (中期後半)				
そ の 他					

2. S B 土層観察表 (1)

遺構名	層	J I S 標準色票	土壤色	土性	しまり	粘性	備考
S B 0 1	1	10YR1.7／1	黒	SiC	良	有り	
	2	10YR3／4	暗褐	SiCL	良	有り	
	3	10YR4／3	にぶい褐	S C	良	有り	
	4	10YR4／6	褐	H C	良	有り	
	5	10YR3／1	黒褐	L	良	有り	
S B 0 4	1	10YR3／4	暗褐	SiCL	良	有り	
	2	10YR1.7／1	黒	SiC	良	有り	
	3	10YR3／4	暗褐	SiC	良	有り	
	4	10YR3／4	暗褐	SiC	良	有り	焼土粒混ざる
	5	10YR7／4	にぶい黄橙	SiC	良	有り	4層ブロック混ざる
	6	10YR7／3	にぶい黄橙	SiC	良	有り	
	7	10YR7／3	にぶい黄橙	SiC	良	有り	8層ブロック混ざる
	8	10YR4／4	褐	SiC	良	有り	
	9	10YR3／4	暗褐	SiC	良	有り	
S B 0 8	1	10YR3／2	黒褐		良	やや有り	炭化物少量混ざる
	2	10YR4／3	にぶい黄褐		良	やや有り	炭化物混ざる
	3	10YR8／4	褐		やや良	有り	地山ブロック混入
S B 1 0	1	10YR4／4	褐	SiCL			
	2	10YR2／1	黒	SiL			
	3	10YR7／6	明黄褐	SiC			

S B 土層観察表 (2)

遺構名	層	J I S 標準色票	土壤色	土性	しまり	粘性	備考
S B 1 2	1	10YR 3 / 4	暗褐	SiL		なし	
	2	10YR 4 / 3	にぶい黄褐	SiL		なし	黄色ブロック混入
	3	10YR 5 / 8	黄褐	SiL		なし	
S B 1 3	1		暗褐				
	2		黒				
	3		黒褐				
	4		黄褐				
S B 1 4	1		黄褐				
	2		黒				
	3		暗褐				
	4		黒褐				
S B 1 5	1	10YR 1.7 / 1	黒	SiC			
	2	10YR 2 / 1	黒	SiC			
	3	10YR 2 / 2	黒褐	SiCL			黄色ブロック混入
S B 1 6	1	10YR 4 / 3	にぶい黄褐	H C			
	2	10YR 2 / 3	黒褐	SiC			
	3	10YR 5 / 6	黄褐	SiCL			
	4	10YR 3 / 1	黒褐	SiC			
S B 1 9	1	10YR 2 / 2	黒褐	SiCL	やや良	なし	
	2	10YR 3 / 2	黒褐	SiCL	やや良	なし	
	3	10YR 3 / 3	黒褐	SiCL	やや良	なし	
	4	10YR 3 / 4	暗褐	SiL	やや良	なし	
S B 2 3	1	10YR 2 / 1	黒	SiCL			
	2	10YR 5 / 6	黄褐	SiCL			
	3	10YR 6 / 6	明黄褐	SiC			
	4	10YR 2 / 3	黒褐	SiC			
	5	10YR 7 / 8	黄橙	H C			
S B 2 4	1	10YR 2 / 2	黒褐	S L			
	2	10YR 3 / 2	黒褐	SiCL			
	3	10YR 4 / 4	褐	SiCL			
	4	10YR 2 / 3	黒褐	SiCL			炭・焼土混入
	5	10YR 6 / 8	明黄	SiC			

S B 土層観察表（3）

遺構名	層	J I S 標準色票	土壤色	土性	しまり	粘性	備考
S B 3 1	1	10YR 3 / 1	黒褐	SiCL			
	2	10YR 4 / 6	褐	SiCL			
	3	10YR 2 / 2	黒褐	SiCL			
	4	10YR 1.7 / 1	黒	SiCL			
	5	10YR 3 / 4	暗褐	SiCL			
	6	10YR 2 / 1	黒	SiC			
	7	10YR 6 / 4	にぶい黄橙	SiC			焼土混入
	8	10YR 3 / 2	黒褐	SiCL			
	9	10YR 6 / 8	明黄褐	SiC			
S B 3 2	1	10YR 5 / 4	にぶい黄褐	LiC	なし	なし	炭化物焼土少量混入
	2	10YR 3 / 1	黒褐	LiC			径 5 cm の礫少量混入
	3	10YR 5 / 4	にぶい黄褐	LiC	良	有り	径 5 cm 位炭化物混入
S B 3 4	1	10YR 4 / 3	にぶい黄褐	SiL			
	2	10YR 3 / 2	黒褐	SiL			
	3	10YR 2 / 1	黒	SiL			
	4	10YR 4 / 4	褐	SiL			
	5	10YR 7 / 8	黄橙	H C			
	6	10YR 5 / 8	黄褐	SCL			
	7	10YR 5 / 6	黄褐	SiCL			
	8	10YR 1.7 / 1	黒	SiL			炭
S B 3 6	1		にぶい黄色			有り	炉の石の掘り方
	2		灰黄褐				焼土・炭化物混ざる
	3		赤		良		炉址火床
S B 4 5	1	10YR 2 / 2	黒褐	SiC	なし	有り	径 5 mm 炭化物焼土
	2	10YR 3 / 3	暗褐	SiC			ロームブロック混入
	3				良		炭・焼土・ローム混入
	4	10YR 3 / 1	黒褐		良	有り	径 5 mm 炭化物混入
	5	10YR 5 / 4	にぶい黄褐				ロームブロック混入
	6	10YR 4 / 2	灰黄褐		良	有り	
S B 4 6	1	10YR 4 / 2	灰黄褐	SiC	有り	有り	
	2	10YR 3 / 1	黒褐	SiC	有り	有り	遺物・焼土混入
S B 4 7	2	10YR 4 / 3	にぶい黄褐	SiC	有り	有り	
S B 4 8	3	5 YR 4 / 3	にぶい赤褐		なし		
	4	10YR 3 / 2	暗赤褐	SiC	なし		
	5	10YR 3 / 2	黒褐				

S B 土層観察表（3）

遺構名	層	J I S 標準色票	土壤色	土性	しまり	粘性	備考
S B 4 9	1		暗褐		やや有		
	2		褐		有り		
S B 5 1	2	10YR 4 / 4	褐		なし	なし	土器少量
	3	10YR 3 / 3	暗褐				土器・礫多量混入
	4	10YR 5 / 2	灰黄褐				土器少量
	5	10YR 5 / 3	にぶい黄褐				遺物なし
	6	10YR 3 / 1	黒褐		なし		炭化物少量混入
	7	10YR 4 / 3	にぶい黄褐		なし		炭化物少量混入

3. S B 炉址・埋甕土層観察表（1）

遺構名	層	J I S 標準色票	土壤色	土性	しまり	粘性	備考
S B 0 1	1	5 YR 1.7 / 1	黒	SiCL			
	2	10YR 7 / 6	明黄	SiC			
	3	2.5YR 5 / 8	明赤褐	L			土混入
S B 0 4	1	10YR 3 / 4	暗褐	LiC	有り	なし	炭化物多量に混入
	2	10YR 4 / 4	褐	LiC	有り	なし	
	3	10YR 4 / 3	にぶい黄褐	SCL	有り	やや有り	炭化物少量混入
	4	10YR 4 / 2	灰黄褐	LiC	有り	なし	炭化物少量混入
	5	10YR 4 / 2	灰黄褐	LiC	有り	なし	3層4層混ざる
S B 0 5	1	10YR 3 / 2	黒褐	SiC	なし	有り	炭化物少量混入
	2	10YR 4 / 6	褐	LiC	なし	やや有り	
	3	10YR 5 / 6	黄褐	SiC	やや有	有り	炭化物少量混入
S B 0 6	1	10R 4 / 6	赤				焼土
	2	10YR 5 / 6	黄褐		有り	有り	炭化物少量混入
	3	10YR 4 / 1	褐灰		なし		炭化物少量混入
	4	10YR 5 / 3	にぶい黄褐		有り	有り	炭化物少量混入
S B 0 8	1	10YR 3 / 3	暗褐	SiC	有り	なし	
	2		褐				焼土
	3						焼土
	4		褐				掘り方
S B 1 2	1	10YR 2 / 1	黒	SiCL			炭混入
	2	10YR 5 / 3	にぶい黄褐	SiC			
	3	10YR 3 / 2	黒褐	SiC			
	4	10YR 6 / 6	明黄褐	SiC			粘土混入

S B 炉址・埋甕土層観察表（2）

遺構名	層	J I S 標準色票	土壤色	土性	しまり	粘性	備考
S B 1 2	5	10YR 4 / 3	鈍い黄褐	SiCL			
	6	2.5YR 6 / 6	橙				焼土
S B 1 3	1	2.5YR 1.7 / 1	黒	SiL			
	2	2.5YR 6 / 6	橙	SiL			
	3	10YR 2 / 2	黒褐	SL			
	4	10YR 4 / 3	にぶい黄褐	SL			
S B 1 4	1	10YR 3 / 3	暗褐	SiL			
	2	2.5YR 5 / 6	明赤褐				焼土
	3	10YR 3 / 2	黒褐	SiCL			掘り方
	4	10YR 6 / 8	明黄褐	SiC			地山
S B 1 5	1	2.5YR 5 / 6	明赤褐色				焼土
S B 1 6	1	2.5YR 3 / 2	暗赤褐	SiL			焼土
	2	2.5YR 5 / 8	明赤褐	SiL			焼土
	3	2.5YR 2 / 4	極暗褐	SiL			焼土
	4	10YR 3 / 2	黒褐	SiC			SB14の覆土
	5	10YR 4 / 4	褐	SiC			SB14の覆土
	6	10YR 6 / 6	明黄褐	SiCL			SB14の覆土
	7	10YR 2 / 3	黒褐	SiC			SB14の覆土
S B 1 8	1	2.5YR 6 / 8					焼土
	2	10YR 6 / 6	明黄褐	SiL			
	3	10YR 4 / 4	褐	SiL			
	4	10YR 2 / 3	黒褐	SiL			
S B 1 9	1	10YR 2 / 3	黒褐	SiC			
	2	10YR 6 / 8	明黄褐	H C			
	3	10YR 4 / 3	にぶい黄褐	SiC			
	4	10YR 5 / 4	にぶい黄褐	SiC			
	5	2.5YR 6 / 8	橙	SiCL			
	6	10YR 2 / 1	黒	SiC			
S B 2 0 埋甕	1	10YR 5 / 6	黄褐	SiL			貼り床下
	2	10YR 2 / 2	黒褐	SiL			
	3	10YR 2 / 1	黒	SiL			
	4	10YR 3 / 3	暗褐	SiL			掘り方
	5	10YR 4 / 4	褐	SiL			
	6	10YR 4 / 5	褐	L			
	7	10YR 5 / 8	黄褐	L			

S B 炉址・埋甕土層観察表（3）

遺構名	層	J I S 標準色票	土壤色	土性	しまり	粘性	備考
S B 2 0 埋甕	8	10YR 3／2	黒褐	L			
	9	10YR 4／4	褐	L			
S B 2 4	1	10YR 3／2	黒褐	SiCL	やや有	なし	
	2	10YR 3／2	黒褐				炭化物 20%混入
	3	10YR 3／2	黒褐				炭化物 2%混入
	4						焼土
	5	10YR 3／2					焼土 10%混入
	6	10YR 1.7／1	黒				炭に焼土 2%混入
	7						焼土
	8	10YR 5／4	にぶい黄褐	SiCL	やや有	なし	
S B 2 9	1	2.5YR 1.7／1	赤黒	SiC			
	2	2.5YR 3／1	暗赤灰				
	3	2.5YR 2／3	極暗赤褐	SiCL			
	4	2.5YR 6／4	にぶい橙	SiCL			
	5	2.5YR 2／1	赤黒	SiC			
	6	10YR 3／2	暗赤褐	SiC			
S B 3 1	1						
	2						
	3						焼土
S B 3 2	1		黒褐				
S B 3 4	1						焼土
	2		灰黄褐				
S B 3 5	1		極暗褐		なし	有り	黄色土ブロック混入
	2						焼土
S B 3 6	1	10YR 5／3	にぶい黄褐		有り	有り	
	2	10YR 4／2	灰黄褐				
	3	10R 5／8	赤				
S B 3 7	1		黒褐				灰炭化物混入
	2		明赤				堅くやき締まる
S B 3 8	1		明赤褐				
	2						
S B 4 0	1						焼土
S B 4 1	1						焼土炭
	2	10YR 3／1	黒褐		やや有	やや有	
S B 4 3	1						

S B 炉址・埋甕土層観察表（4）

遺構名	層	J I S 標準色票	土壤色	土性	しまり	粘性	備考
S B 4 3	2	10YR 3 / 1	黒褐	SiC	有り	やや有り	ローム少量混入
	3	10YR 3 / 2	黒褐	SiC	有り	やや有り	ローム少量混入
	4	10YR 3 / 2	黒褐	SiC	有り	やや有り	ローム少量混入
S B 4 5	1						焼土
	2	10YR 4 / 6	褐				
S B 4 6	1						焼土
	2	10YR 3 / 4	暗褐		やや有	有り	
S B 5 0	1	10YR 3 / 2	黒褐		やや有	やや有り	
	2						焼土
S B 5 3	1	2.5YR 5 / 8	明赤褐				焼土
埋甕 1	1	10YR 2 / 1	黒				焼土粒混入
埋甕 2	1	10YR 2 / 2	黒褐	SiC			
	2	10YR 3 / 2	黒褐	SiC			
	3	10YR 5 / 6	黄褐	H C			
	4	10YR 5 / 6	黄褐				
	5	10YR 4 / 4	褐	SiC			
	6	10YR 2 / 1	黒	SiCL			
	7	10YR 7 / 8	黄橙	H C			
	8	10YR 2 / 3	黒褐	SiCL			
S B 5 5	1	10YR 3 / 1	黒褐				焼土少量混入

2. 縄文時代の土坑

本調査区からは計175基の土坑が確認されており、これらの多くから遺物が確認されている。時期別にみてみると、縄文中期初頭11基・中期中葉～後葉61基・後期10基・晩期1基・遺物が小片のため時期判断が困難なもの92基となる。ここでは土坑の形態・遺物の出土状況・分布状況について全般にわたる観察を行い、各土坑は一覧表でデータを示す。

(1) 土坑の形態分類について

土坑の平面形態は、短径と長径がほぼ同一のものについては円形とし、径の比が明らかなものについては橢円形とし、その他を不整形として分類している。一方、断面形等の属性から、いわゆるフラスコ状になるもの（SK 45・65・73・75・111・142）、Tピット状になるもの（SK 69・130）、土坑内に礫が混入するもの（SK 09・31・96・121）、土坑内に平石がしかれるもの（SK 103）、大型で住居址の可能性があるもの（SK 24・106）、掘り込みも浅く、形も不整形なものに分類される。

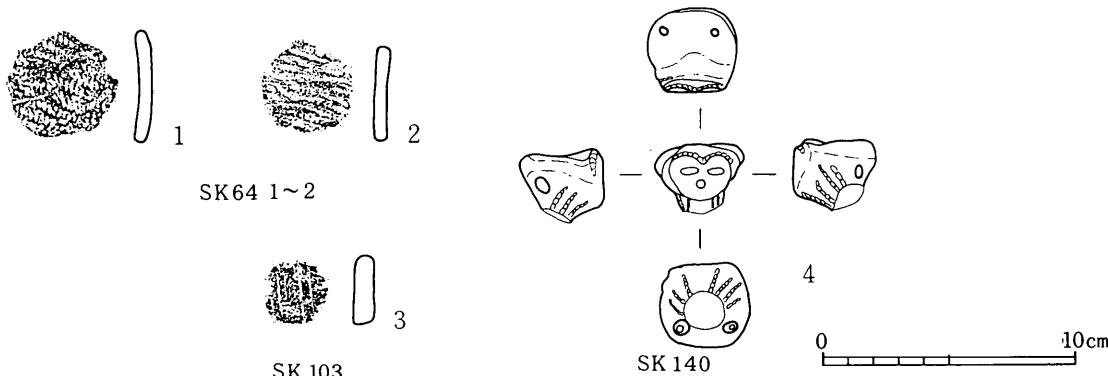
土坑の時期決定については、器形復元が可能な土器・埋設土器・土坑内の遺物が同時期となる場合についてはその遺物の時期とした。また、各時期にわたる遺物が混在する場合、明確な混入遺物をのぞく時期とし、遺物が小破片で不明瞭な場合、土坑の時期比定は行っていない。

土坑の時期別の分布状況をみると、縄文中期初頭の土坑（SK 38・51・52・74・75・79・81・82）は、調査区北側のI区に集中してみられる。北西に隣接する大久保遺跡では、五領ヶ台期の住居址・土坑が確認されており、当該期の集落が遺跡北側の段丘崖縁辺に広がると推定される。また、縄文中期中葉から後葉にかけての土坑は、当該期の住居址が集中するIII区を中心に、調査区全面にわたり広がっている。一方、縄文後期の土坑はI区・II区の南側に集中する傾向が見られる。

今回は道路建設に伴う調査のため南北に細長い調査区となり、集落の中での土坑の位置関係は完全に把握されたわけではない。しかし分布状況から各期の占地状況がある程度把握されたと考えられる。

(2) 土坑の遺物について

各土坑における遺物の出土状態については、大多数の土坑は少量の遺物が土坑底面から浮いた状態で確認されており、遺物と土坑の関係は不明確である。しかし、平石がひかれたSK 103からは、土器2個体以上が埋納されており、墓坑等の特殊な機能が推定される。また、SK 140からは土偶頭部、SK 64・103からは土製円盤が出土している。



挿図42 SK 64・103・140出土土製品

(3) 土坑観察表

土坑観察表 1

土坑No.	挿図No.	検出位置	長×短×深 cm	形 態	時 代	備 考
Sk01	4 3	A F 0	104×82×46	円 形	縄文中期	
02	4 3	A F 4 8	124×84× 6	楕円形	縄文中期	
03	4 3	A D 4 7	120×100×40	不整形	縄文中期	
04	4 3	A J 0	100×82×44	楕円形		
05	4 3	A K 0	126×100×20	楕円形		
06	4 3	A L 0	68×60×28	楕円形		
07	4 3	A M 1	64×60×26	楕円形		
08	4 3	A N 2	86×66×22	不整形	縄文中期	
09	4 3	A O 3	140×108×48	楕円形	縄文後期	
10	4 3	A T 4	46×40×26	楕円形		
11	4 3	A T 5	200×82×24	不整形	縄文後期	
12	4 3	A P 2	60×-×40	不整形		
13	4 4	A U 7	44×40×40	楕円形		
14	4 4	A Q 3	126×100×40	楕円形		
15	4 4	A Q 3	200×140×60	不整形	縄文中期	
16	4 4	B M 1 1	224×120×60	不整形	縄文中期	
17	4 4	B N 1 1	84×80×20	円 形	縄文中期	
18	4 4	B N 1 1	100×66×20	不整形		
19	4 4	B N 1 1	80×80×20	円 形	縄文中期	
20	4 4	B N 1 0	46×40× 8	円 形		
21	4 4	B O 1 1	104×88×20	不整形		
22	4 4	B O 1 2				
23	4 4	B P 1 1	132×100×28	楕円形		
24	4 4	B P 1 2	500×-×60	不整形	縄文後期	住居址の可能性あり
25	4 5	A H 4 3	88×80×36	不整形	縄文中期	
26	4 5	A J 4 3	92×88×68	円 形		
27	4 5	A N 4 4	160×128×40	楕円形	縄文中期	埋設土器 1 個体
28	4 5	A F 4 3	140×100×12	不整形	縄文中期	
29	4 5	A F 4 5	160×120×40	不整形	縄文中期	
30	4 5	A I 4 5	220×128×20	不整形	縄文中期	
31	4 5	A E 4 2	120×108×44	円 形		
32	4 5	A E 4 3	60×44×40	楕円形		
33	4 5	A E 4 3	60×40×18	楕円形		
34	4 5	A J 4 6	-×100×28	不整形		

土坑観察表 2

土坑No.	挿図No.	検出位置	長×短×深 cm	形 態	時 代	備 考
Sk35	4 5	A J 4 6	80 ×60×28	楕円形		
36	4 5	A F 4 4	88 ×80×48	不整形		
37	4 6	A H 4 5	- ×52 ×-	不整形	縄文中期初	
38	4 6	A D 4 2	140×120×28	不整形	縄文中期初	
39	4 6	A G 4 3	120×92 ×40	不整形	縄文後期	
40	4 6	A F 4 1	140×124×24	不整形		
41	4 6	B J 4 8	120×100×38	楕円形	縄文中期	
42	4 6	B I 4 9	136×100×22	不整形		
43	4 6	A S 4	140×80 ×20	楕円形		
44	4 6	A F 4	80×68×32	楕円形		埋設土器 1 個体
45	4 6	A V 4	120×100×60	不整形	縄文後期	
46	4 6	A J 4 5	96×56 ×24	不整形		
48	4 6	B H 4 8	136×100×24	楕円形	縄文晚期	埋設土器 1 個体
49	4 6	A C 4 2	- ×80 ×16	不整形	縄文中期	
50	4 7	B K 4 1	100×80 ×72	不整形	縄文中期	
51	4 7	A H 4 5	80×60×34	円 形	縄文中期初	
52	4 7	A F 4 4	- ×120×60	不整形	縄文中期	埋設土器 1 個体
54	4 7	A B 4 2	92×60×32	楕円形	縄文後期	注口土器
55	4 7	A C 4 3	40 ×24×32	楕円形	縄文中期	
65	4 7	B P 4 3	100×76 ×60	楕円形		
66	4 7	B R 4 3	168×- ×20	不整形		
67	4 7	B R 4 3	94×- ×40	不整形		
68	4 7	B S 4 4	- ×100×20	不整形		
69	4 7	A X 7	160×152×60	不整形	縄文中期初	
70	4 8	A X 6	700×- ×40	不整形	縄文後期	住居址の可能性あり
71	4 8	A X 6	40×40×20	円 形	縄文中期	
72	4 8	A W 6	80×72×40	不整形		
73	4 8	B S 3 7	80×80×28	円 形		
74	4 8	B U 3 7	52×48×60	楕円形	縄文中期初	
75	4 8	B Y 3 8	84×- ×60	円 形	縄文中期初	
78	4 8	A A 4 0	80×80×28	円 形	縄文後期	
79	4 8	B Y 4 0	120×100×60	楕円形	縄文中期初	
80	4 8	A B 4 0	80×80×40	円 形		
81	4 8	A B 4 1	100×100×60	円 形	縄文中期初	

土坑觀察表 3

土坑No.	挿図No.	検出位置	長×短×深 cm	形 態	時 代	備 考
Sk82	4 8	A B 4 0	52 ×44×40	円 形	縄文中期初	
84	4 9	A V 3 2	80 ×68×20	楕円形	縄文中期	
85	4 9	A U 3 4	—×254×80	不整形	縄文中期	
86	4 9	A U 3 2	120×—×40	楕円形		
87	4 9	A Q 2 9	80 ×80 ×24	楕円形		
88	4 9	B Y 2 0	88×80×24	楕円形		
89	4 9	B Y 2 1	68×58×48	楕円形		
90	4 9	A K 2 1	124×76 ×28	不整形	縄文中期	
91	4 9	A G 2 0	100×100×32	楕円形	縄文後期	
92	4 9	A G 2 0	88×48×20	楕円形		
93	4 9	B Y 2 3	100×88×20	不整形	縄文後期	
94	4 9	A U 3 2	—×80×24	不整形		
95	4 9	A D 2 4	100×—×34	楕円形		
96	5 0	A A 2 0	124×100×68	楕円形		
97	5 0	A A 2 0	160×—×48	不整形	縄文中期	
98	5 0	A L 2 7	140×—×58	不整形	縄文中期	
99	5 0	A K 2 8	108×72 ×40	円 形	縄文中期	
100	5 0	A K 2 8	—×40×68	不整形		
101	5 0	B A 6	80×80×20	円 形	縄文中期	
102	5 0	B E 1 0	—×120×60	円 形		
103	5 0	B E 1 2	—×60×34	不整形		
104	5 0	B E 1 3	120×—×28	不整形		
105	5 0	B E 1 2	72 ×60 ×24	楕円形		
106	5 0	B E 1 2	60 ×60 ×60	不整形	縄文後期	住居址の可能性あり
107	5 1	B F 1 2	100×80×60	不整形	縄文中期	
108	5 1	B A 1 0	108×98×60	円 形		
109	5 1	A Y 1 0	—×80×42	楕円形	縄文中期	埋設土器 1 個体
110	5 1	A Y 1 0	120×—×54	不整形	縄文中期	
111	5 1	B A 9	112×100×52	不整形	縄文中期	
112	5 1	A X 7	100× 60×28	不整形	縄文中期	
113	5 1	B A 6	80 ×—×68	円 形		
114	5 1	B A 9	—×48×48	楕円形		
115	5 1	A X 7	72×60×40	楕円形		
116	5 1	B C 9	108×108 ×20	不整形		

土坑觀察表 4

土坑No.	挿図No.	検出位置	長×短×深 cm	形 態	時 代	備 考
Sk117	5 1	B C 1 0	112×100×32	橢円形		
118	5 1	B B 9	104×96×40	橢円形	縄文中期	
119	5 2	B A 9	- × 68 × 44	不整形	縄文中期	
120	5 2	A X 9	- × 80 × 40	橢円形	縄文中期	
121	5 2	A X 9	- × 112 × 20	不整形	縄文中期	礫混入
122	5 2	B H 1 3	68×40×12	橢円形	縄文中期	
123	5 2	B K 1 5	64×56×24	橢円形	縄文中期	
124	5 2	B L 1 3	60 × 48 × 32	橢円形	縄文中期	
125	5 2	B L 1 3	80 × 60 × 24	橢円形	縄文中期	
126	5 2	B J 1 5	80×72×20	円 形		
127	5 2	B J 1 5	124×120×48	不整形	縄文中期	
128	5 2	B O 1 5	68×64×40	不整形	縄文中期	
129	5 2	B O 1 8	88 × 40 × 68	不整形	縄文中期	
130	5 2	B N 1 7	- × 68 × 80	不整形	縄文中期	
131	5 3	B O 1 8	80 × 48 × 20	不整形		
132	5 3	B O 1 8	100×- × 32	不整形		
133	5 3	B Q 1 8	88 × 60 × 20	橢円形		
134	5 3	B R 1 8	120×100×48	不整形		
135	5 3	B R 1 9	- × 128 × 28	不整形	縄文中期	
136	5 3	B Q 1 8	- × 120 × 60	円 形	縄文中期	
137	5 3	B Q 1 9	100×80×36	不整形	縄文中期	
138	5 3	B Q 1 6	72 × 48 × 20	橢円形	縄文中期	
139	5 3	B Q 1 6	60 × 40 × 32	橢円形	縄文中期	
140	5 3	A P 2 3	44 × - × 40	不整形	縄文中期	土偶頭部
141	5 3	A P 2 3	76 × 68×20	不整形	縄文中期	
142	5 3	A P 2 3	47 × - × 40	不整形		
143	5 4	B N 1 7	80 × 48×28	不整形	縄文中期	
144	5 4	B M 1 6	52 × 40×20	円 形	縄文中期	
145	5 4	B M 1 6	48 × 37 × 12	橢円形		
146	5 4	B M 1 7	- × 42 × 22	不整形		
147	5 4	B L 1 6	60 × 48 × 40	円 形		
148	5 4	B K 4 8	84×- × 28	橢円形		
149	5 4	B L 4 8	60×44×60	不整形		
150	5 4	B M 4 0	104×100 × 40	円 形	縄文中期初	

土坑觀察表 5

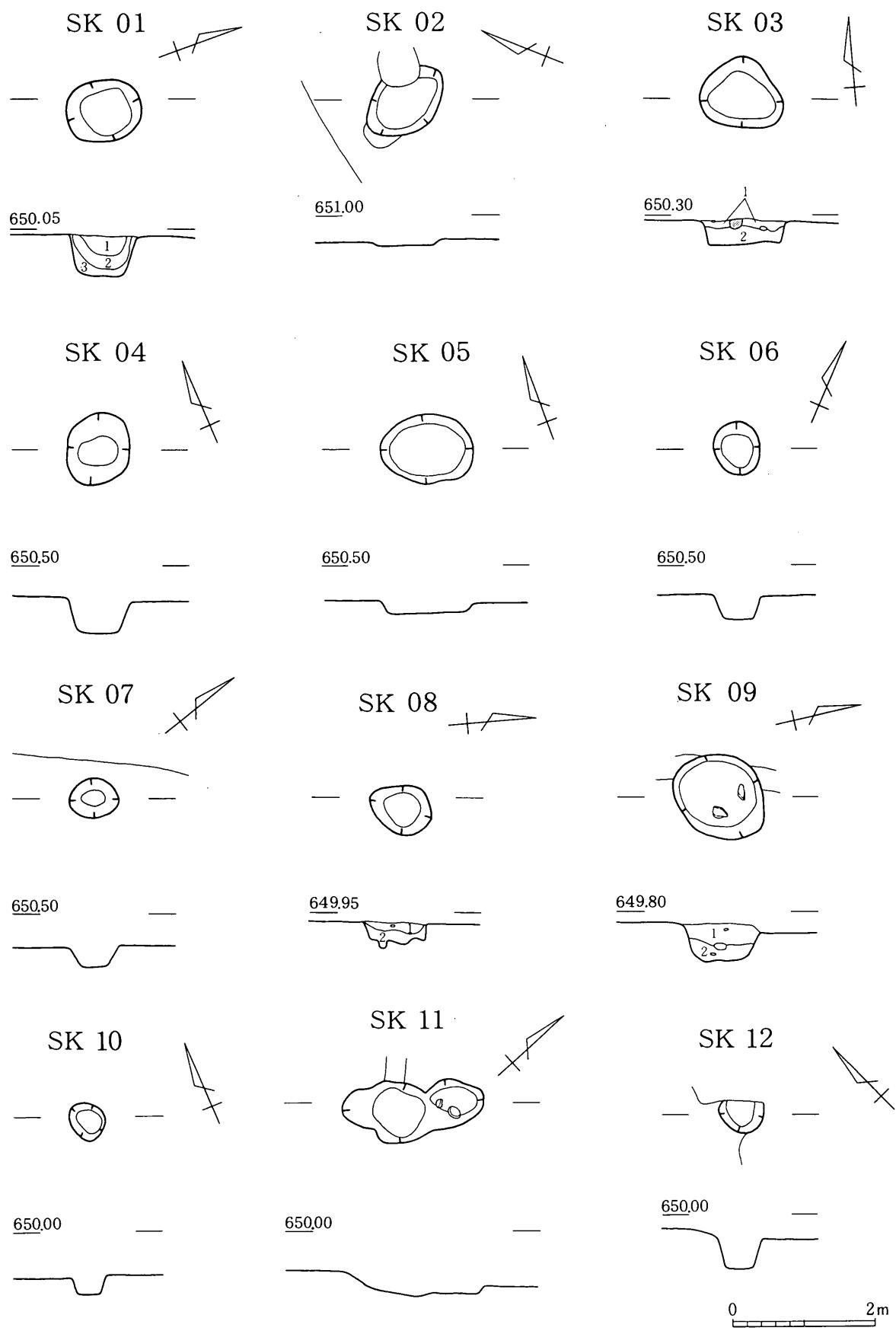
土坑No.	挿図No.	検出位置	長×短×深 cm	形 態	時 代	備 考
Sk151	5 4	A W 3 1	104×72 ×28	楕円形		
152	5 4	A V 3 1	64 ×40×24	不整形		
153	5 4	A U 3 1	72 ×24 ×40	不整形		
154	5 4	A U 2 9	72 ×58×48	不整形		
155	5 5	A T 2 0	60 ×40 ×20	楕円形		
156	5 5	A T 2 9	60×40×40	不整形		
157	5 5	A T 2 9	48×36×24	楕円形		
158	5 5	A T 2 9	42 ×28 ×20	楕円形		
159	5 5	A S 2 9	80 ×60 ×20	楕円形		
160	5 5	B L 1 5	84× ×8	円 形		
161	5 5	B K 1 5	240×204 ×40	不整形		
163	5 5	B Q 1 4	64×60×44	不整形	縄文中期	
164	5 5	B X 1 5	240× ×28	不整形	縄文中期	
165	5 5	B Y 1 9	×124×60	不整形	縄文中期	
166	5 5	B W 1 6	× ×60	不整形	縄文中期	
167	5 5	B W 1 6	100×68 ×60	不整形	縄文中期	
168	5 6	B X 1 6	68 ×60 ×40	楕円形		
169	5 6	A H 2 3	112×96 ×60	楕円形	縄文中期	有孔鍔付土器
170	5 6	A P 2 7	100×58 ×20	不整形		
171	5 6	A F 2 1	48×40 ×	楕円形	縄文中期	
173	5 6	A F 2 3	×100×48	不整形	縄文中期	
174	5 6	A I 2 5	48 ×36 ×20	楕円形		
175	5 6	A I 2 3	60 ×52 ×48	楕円形	縄文中期	
176	5 6	A I 2 4	40 ×20 ×16	楕円形		
177	5 6	A K 2 5	68 ×60×20	不整形	縄文中期	
178	5 6	A K 2 5	68 ×52 ×28	不整形	縄文中期	
179	5 6	A H 2 3	100× ×18	不整形	縄文中期	
180	5 6	B V 1 9	×80×60	不整形		
181	5 6	B A 1 0	64 × ×44	楕円形		

(4) SK土層観察表(1)

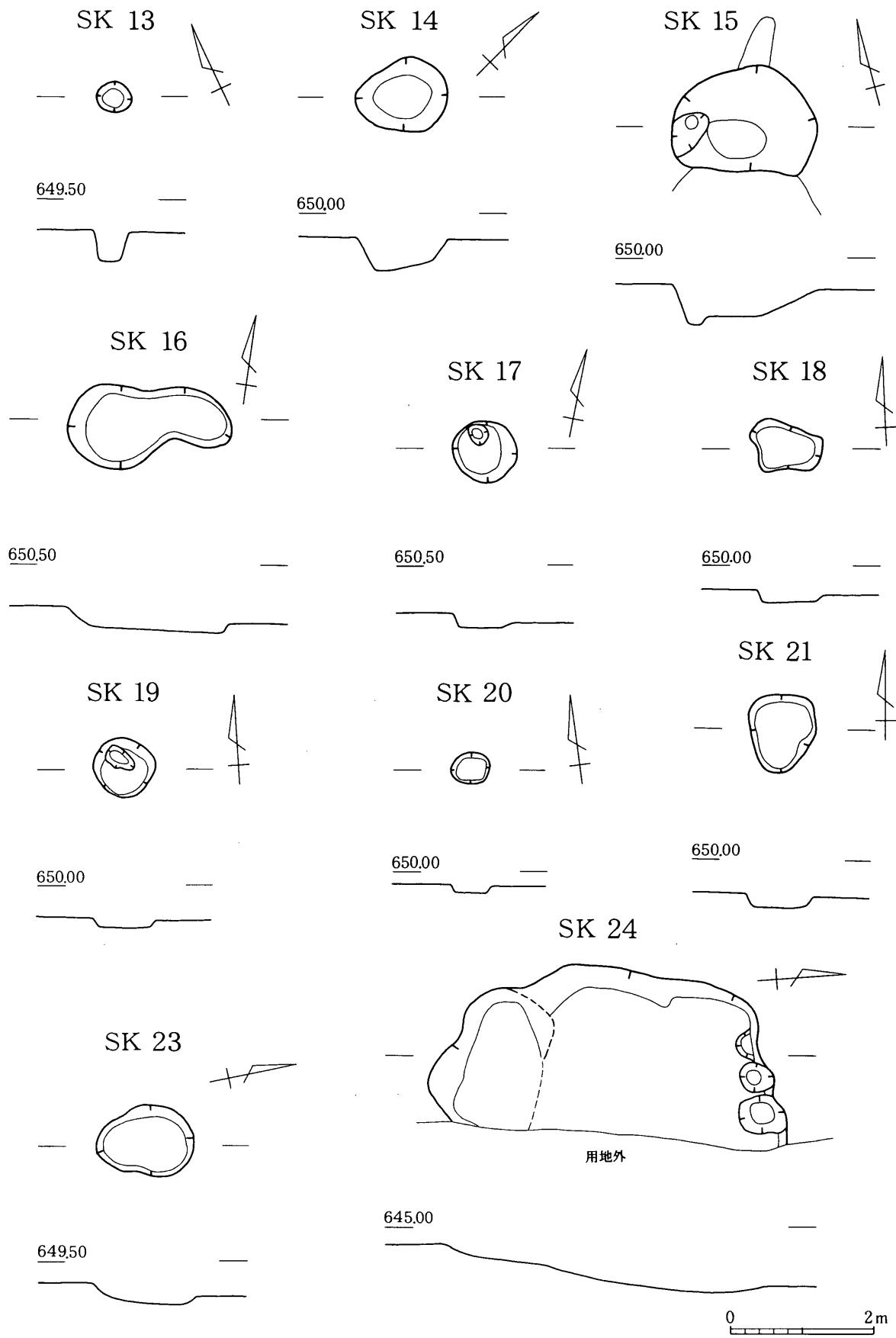
遺構名	層	J I S標準色票	土壤色	土性	しまり	粘性	備考
SK01	1	10YR 3/4	暗褐	SL			
	2	10YR 4/6	褐	L			
	3	10YR 6/6	明黄褐	SL			
SK03	1	10YR 3/4	暗褐	SiC			
	2	10YR 6/8	明黄褐	SiCL			
SK08	1	10YR 4/2	灰黄褐	SiCL			
	2	10YR 5/6	黄褐	SCL			
SK09	1	10YR 4/3	にぶい黄褐	SiCL			
	2	10YR 3/4	暗褐	SiCL			
SK26	1	10YR1.7/1	黒	SiCL			
	2	10YR 4/3	にぶい黄褐	SiC			
	3	10YR 2/1	黒	SiCL			
SK27	1	10YR1.7/1	黒	SiCL			
	2	10YR 4/3	にぶい黄褐	SiCL			
SK31	1	10YR1.7/1	黒	SiCL			
	2	10YR 4/3	にぶい黄褐	SiC			
	3	10YR 5/4	にぶい黄褐	SiCL			
SK38	1	10YR1.7/1	黒	SiCL			
	2	10YR 4/3	にぶい黄褐	SiC			
	3	10YR 7/6	明黄褐	SiC			
SK40	1	10YR1.7/1	黒	SiCL			
	2	10YR 4/3	にぶい黄褐	SiL			
SK41	1	10YR 1/2	黒		中	強	
	2	10YR 3/1	黒褐				
	3	10YR 4/2	灰黄褐				
SK42	1	10YR 2/2	黒褐		弱	強	
	2	10YR 4/2	灰黄褐				
	3	10YR 4/4	褐				
SK65	1	10YR 4/6	褐	SiC			
	2	10YR 2/1	黒	SiL			
SK66	1	10YR 3/2	黒褐	SiC			
	2	10YR 4/3	にぶい黄褐	SiC			
	3	10YR 4/4	褐	SiC			
SK68	1	10YR 3/2	黒褐	SiC			
	2	10YR 4/3	にぶい黄褐	SiC			

SK土層観察表(2)

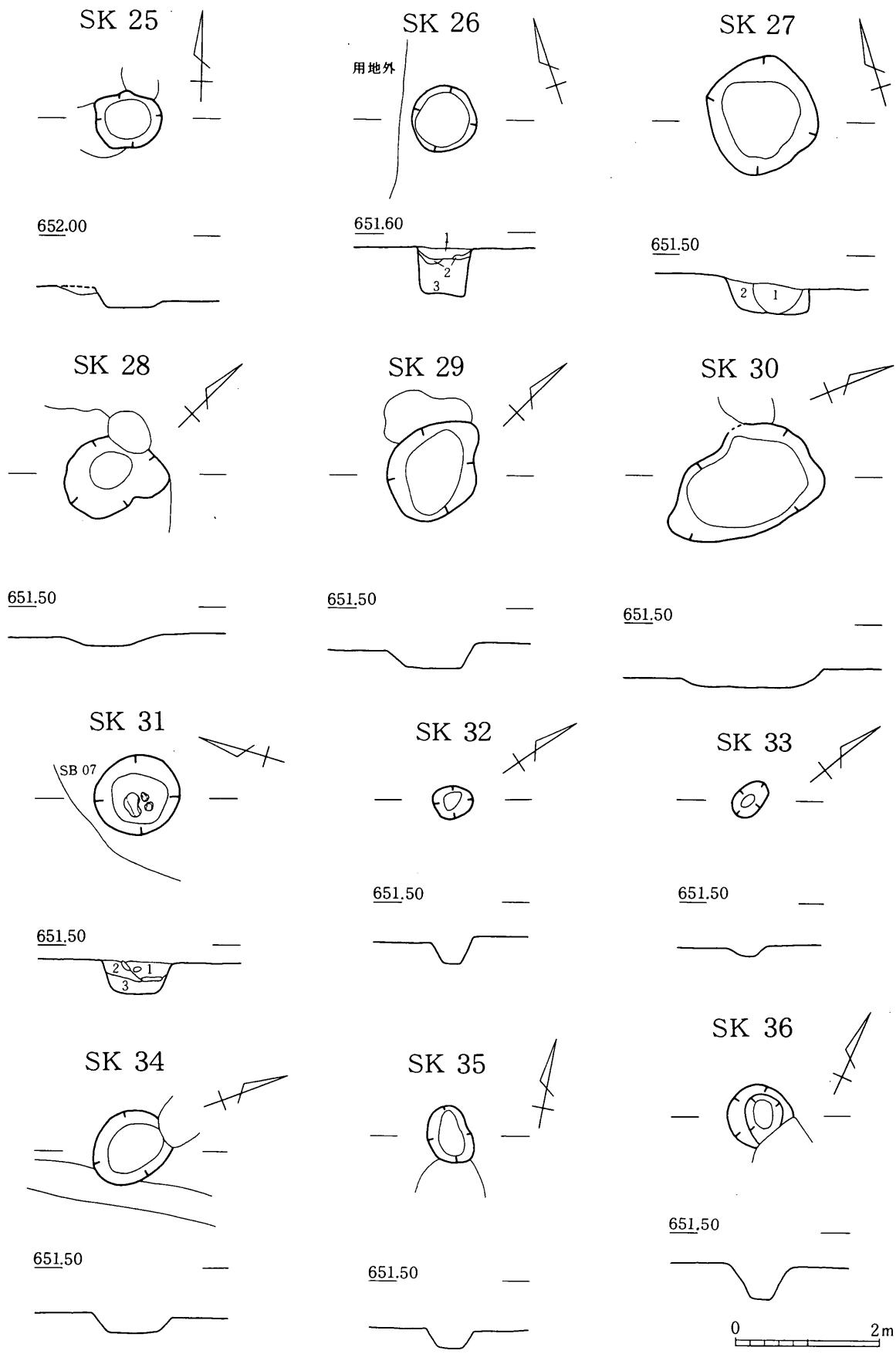
遺構名	層	J I S 標準色票	土壤色	土性	しまり	粘性	備考
SK68	3	10YR 4/4	褐	SiC			
SK75	1	5Y 2/1	黒				
	2	10YR 3/2	黒褐				
SK90	1		黒褐				
	2		褐				
SK91	1	10YR 3/1	黒褐				
	2	10YR 4/2	灰黄褐				
	3	10YR 4/3	にぶい黄褐				
	4	10YR 4/2	灰黄褐				
	5	10YR 7/6	明黄褐				
SK92	1	10YR 1.7/1	黒				
	2	10YR 3/2	黒褐				
	3	10YR 4/3	にぶい黄褐				
SK95	1	10YR 3/1	黒褐				
	2	10YR 1.7/1	黒				
	3	10YR 5/4	にぶい黄褐				
	4	10YR 3/3	暗褐				
SK96	1	10YR 2/2	黒褐				
	2	10YR 1.7/1	黒				
SK98	1	10YR 2/2	黒褐				
	2	10YR 3/2	黒褐				
	3	10YR 5/6	黄褐				
	4	10YR 4/4	褐				
	5	10YR 2/1	黒				
	6	10YR 7/8	黄橙				
	7	10YR 2/3	黒褐				
SK101	1	10YR 3/4	褐				
	2	10YR 6/8	黄褐				
	3	10YR 7/8	黄橙				
SK116	1	10YR 2/1	黒				
	2	10YR 6/8	明黄褐				
	3	10YR 3/2	黒褐				
SK117	1	10YR 6/8	明黄褐				
	2	10YR 2/1	黒				
	3	10YR 4/6	褐				



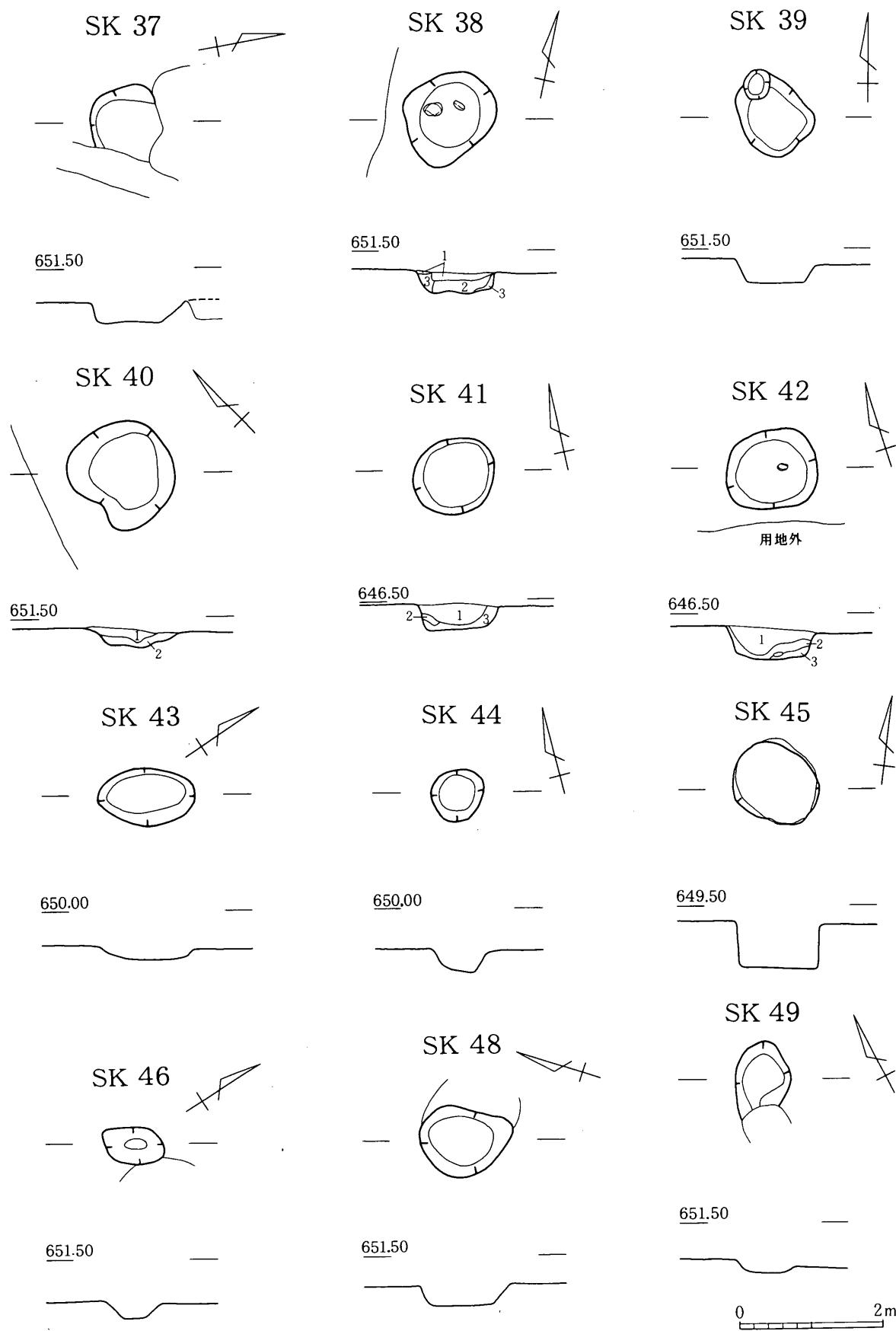
挿図43 土坑平面図（1）



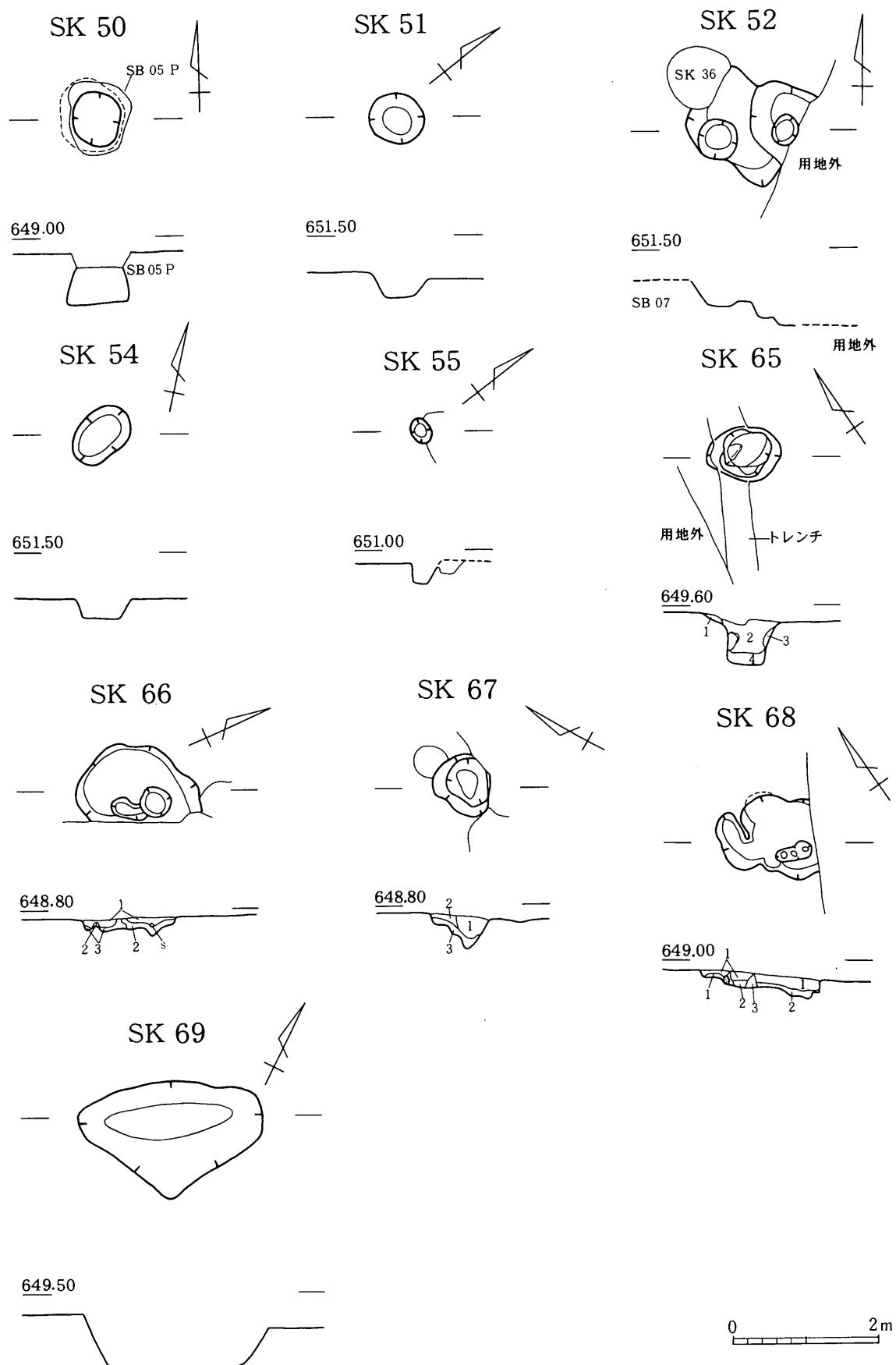
挿図44 土坑平面図 (2)



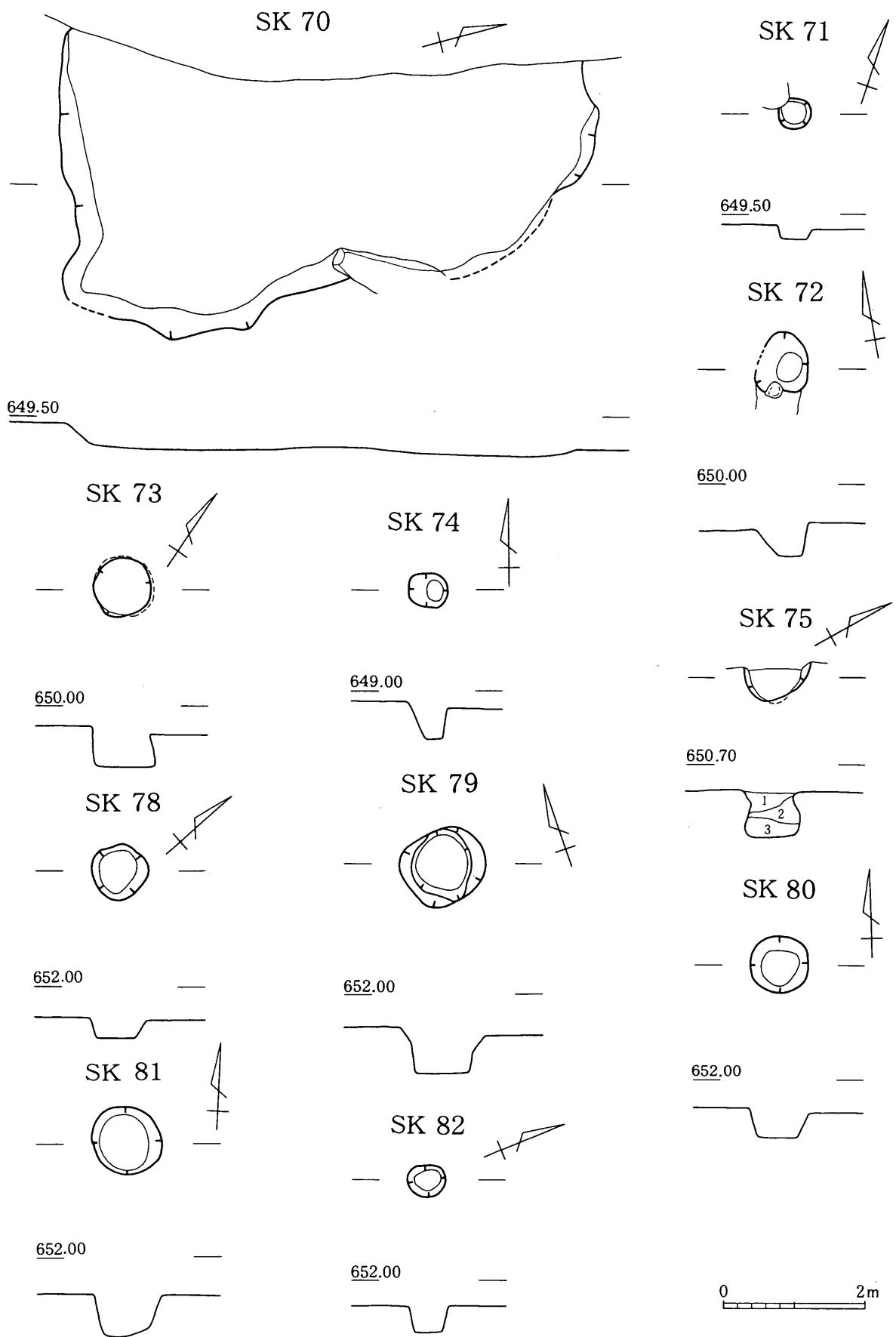
挿図45 土坑平面図 (3)



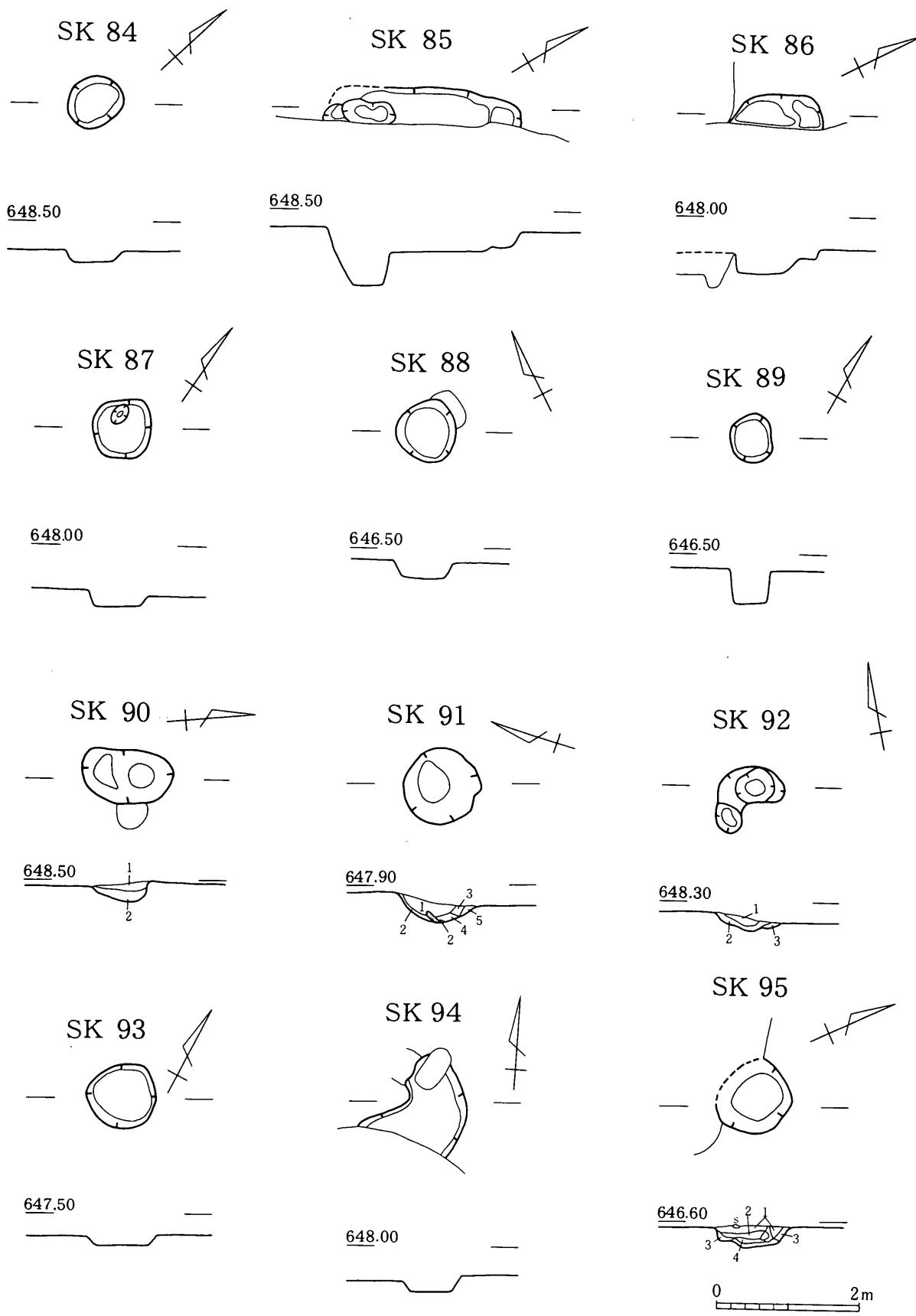
挿図46 土坑平面図（4）



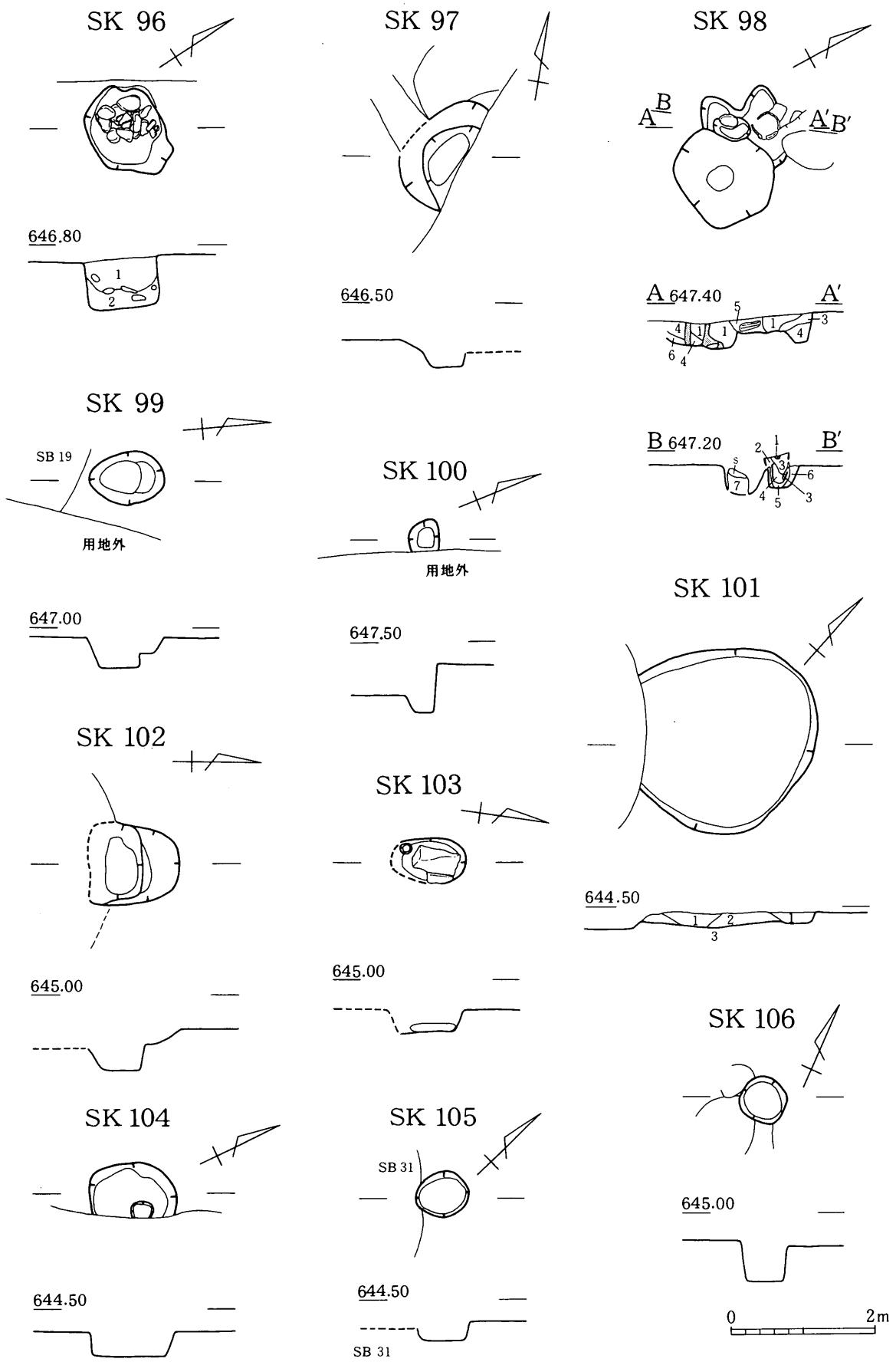
挿図47 土坑平面図 (5)



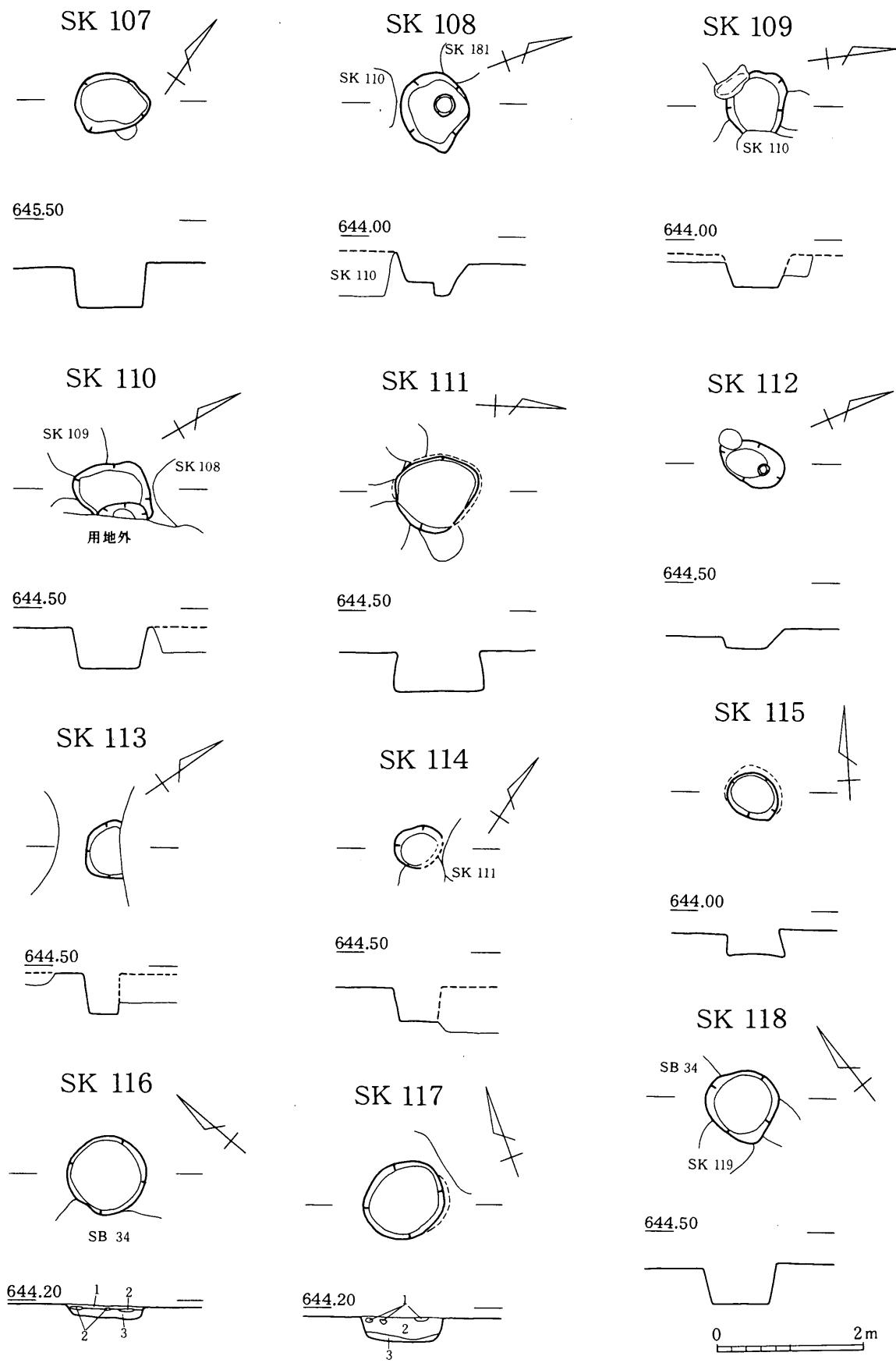
挿図48 土坑平面図 (6)



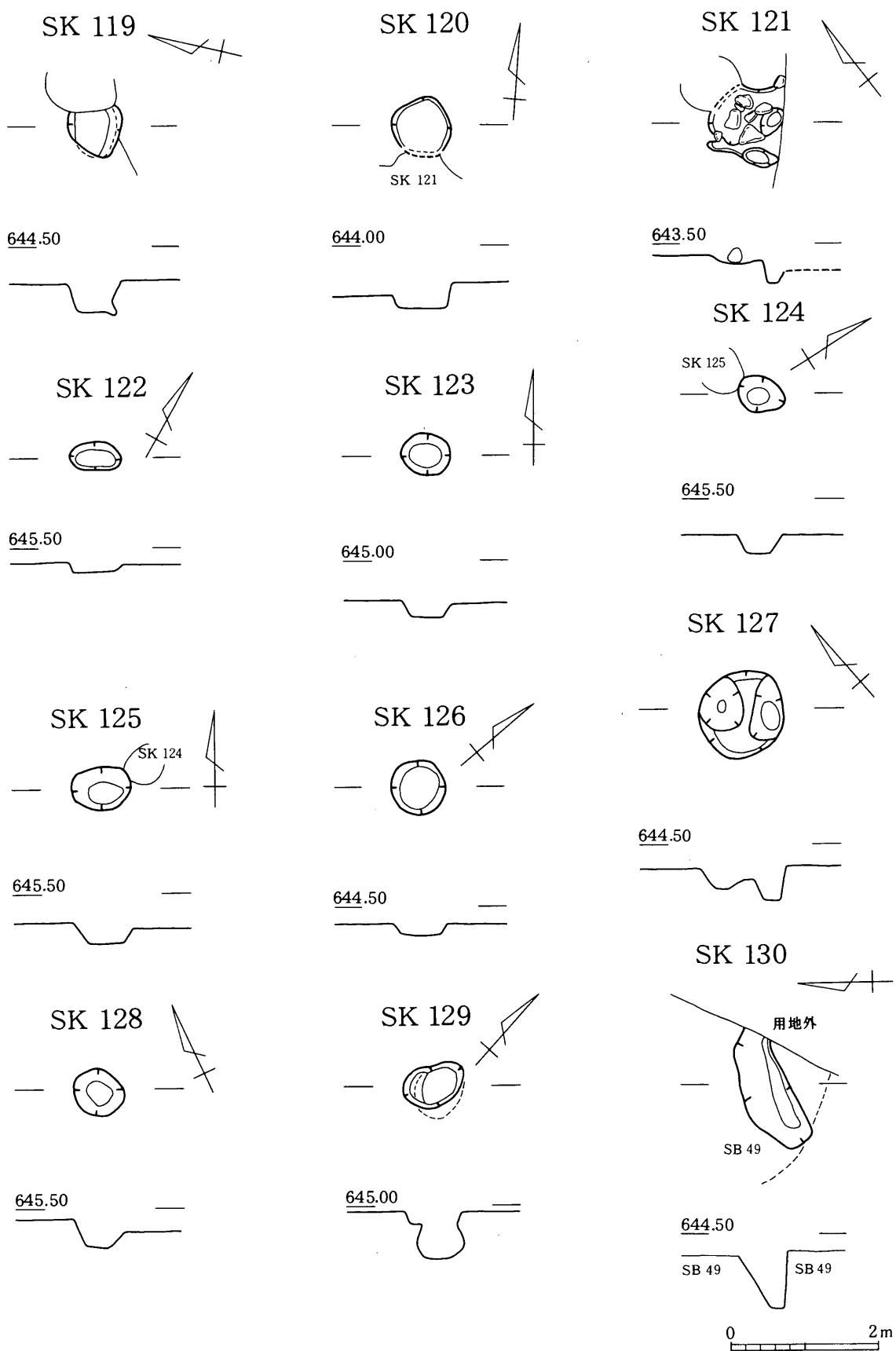
插図49 土坑平面図 (7)



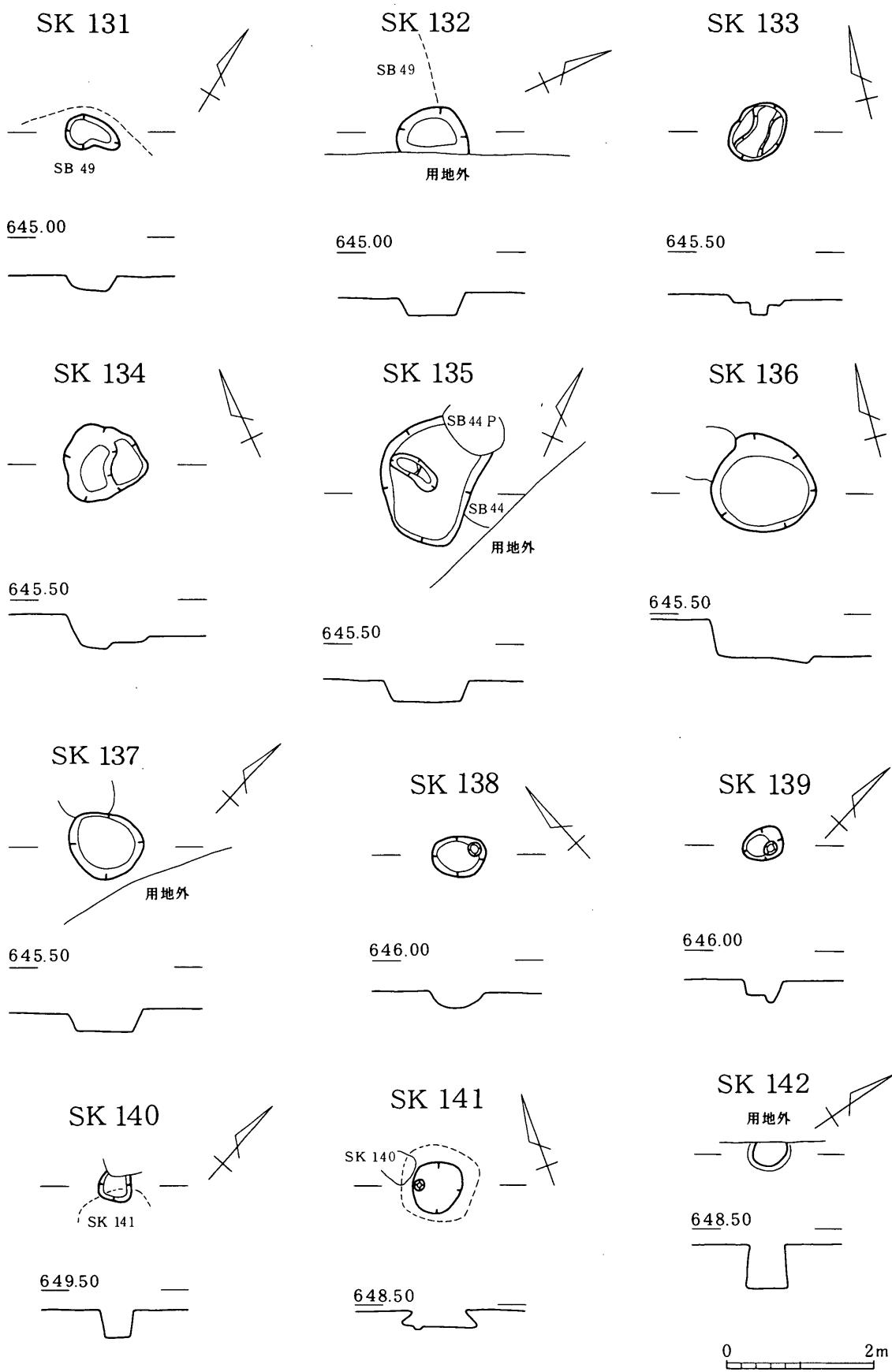
插図50 土坑平面図 (8)



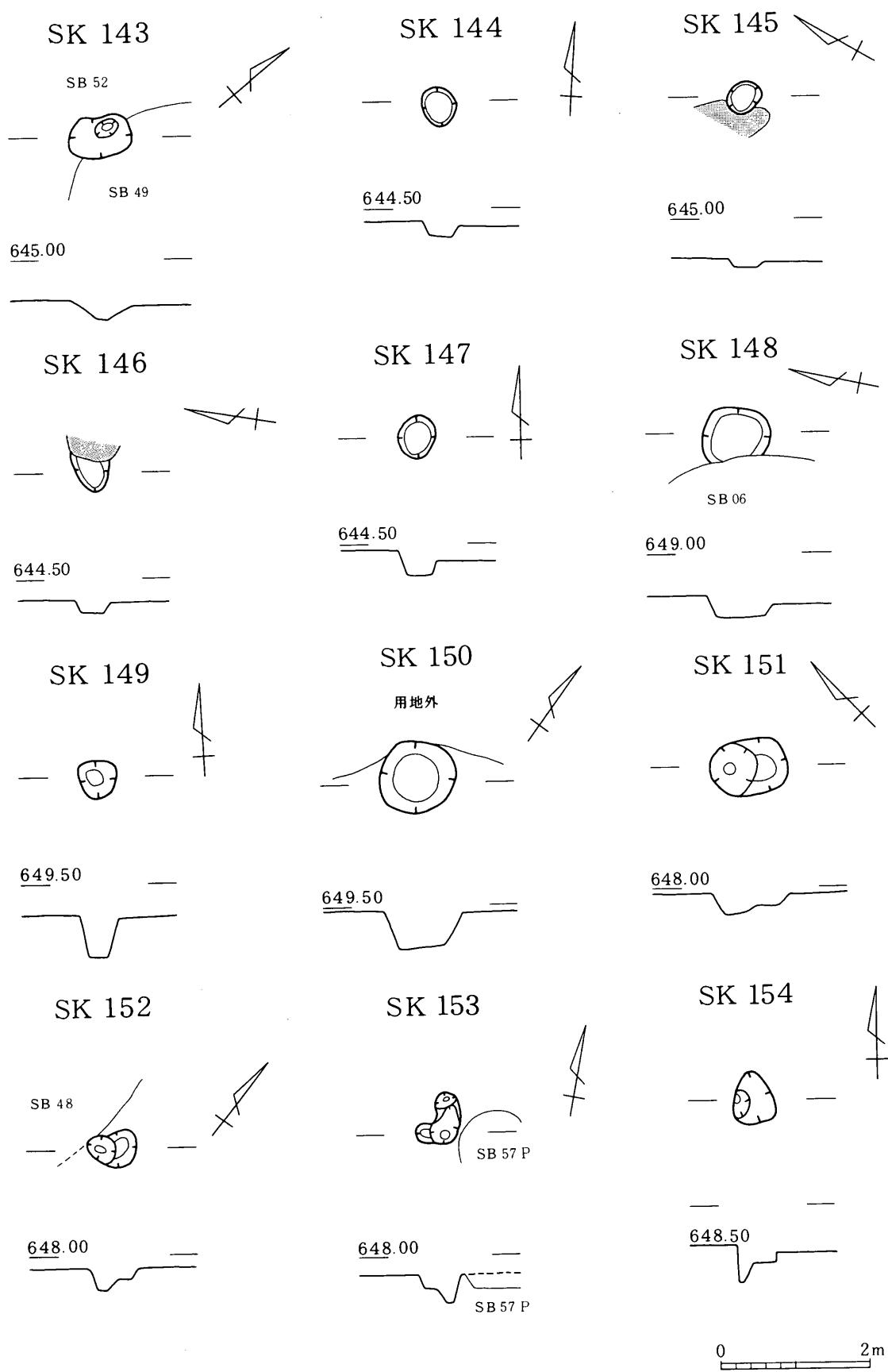
挿図51 土坑平面図 (9)



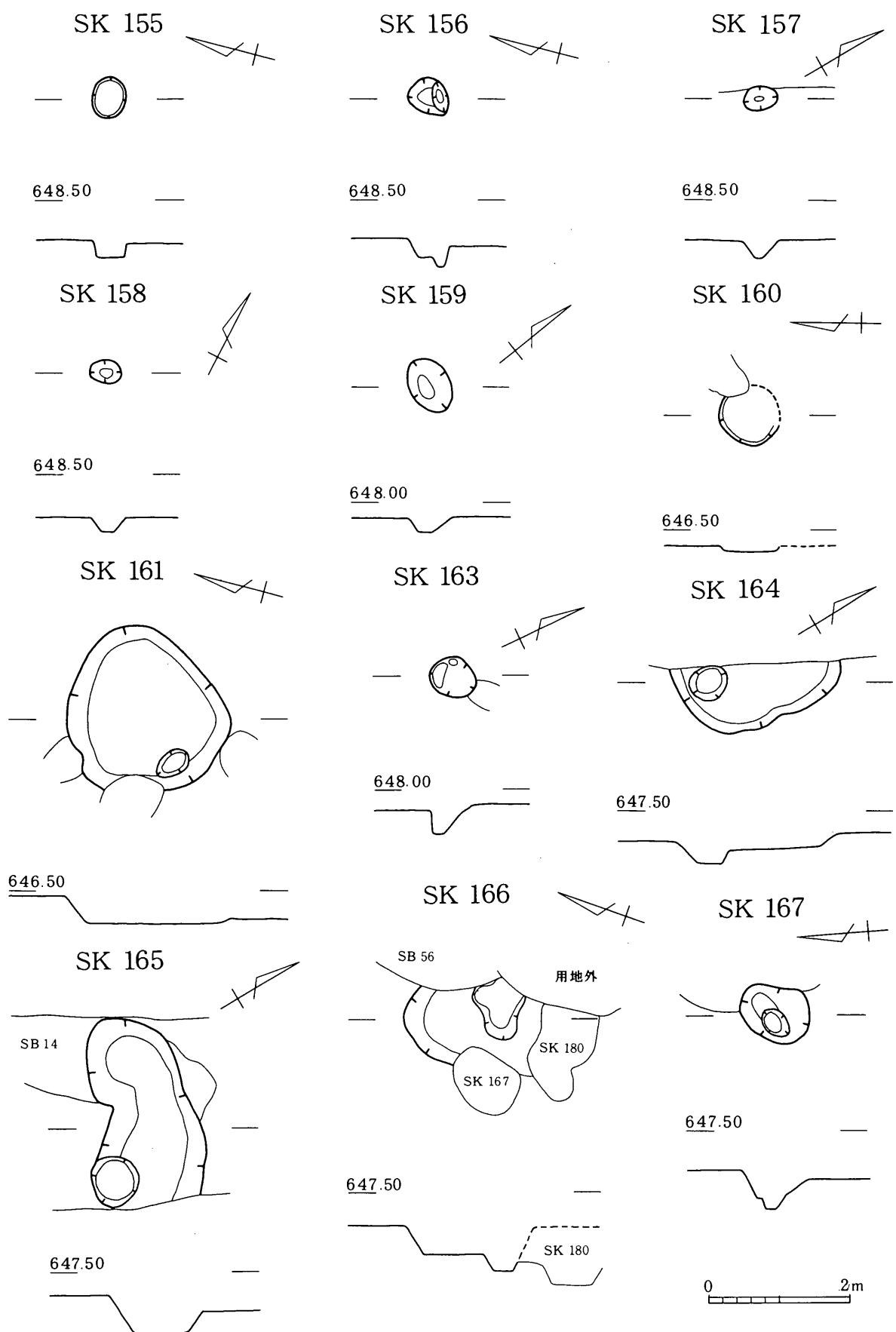
插図52 土坑平面図 (10)



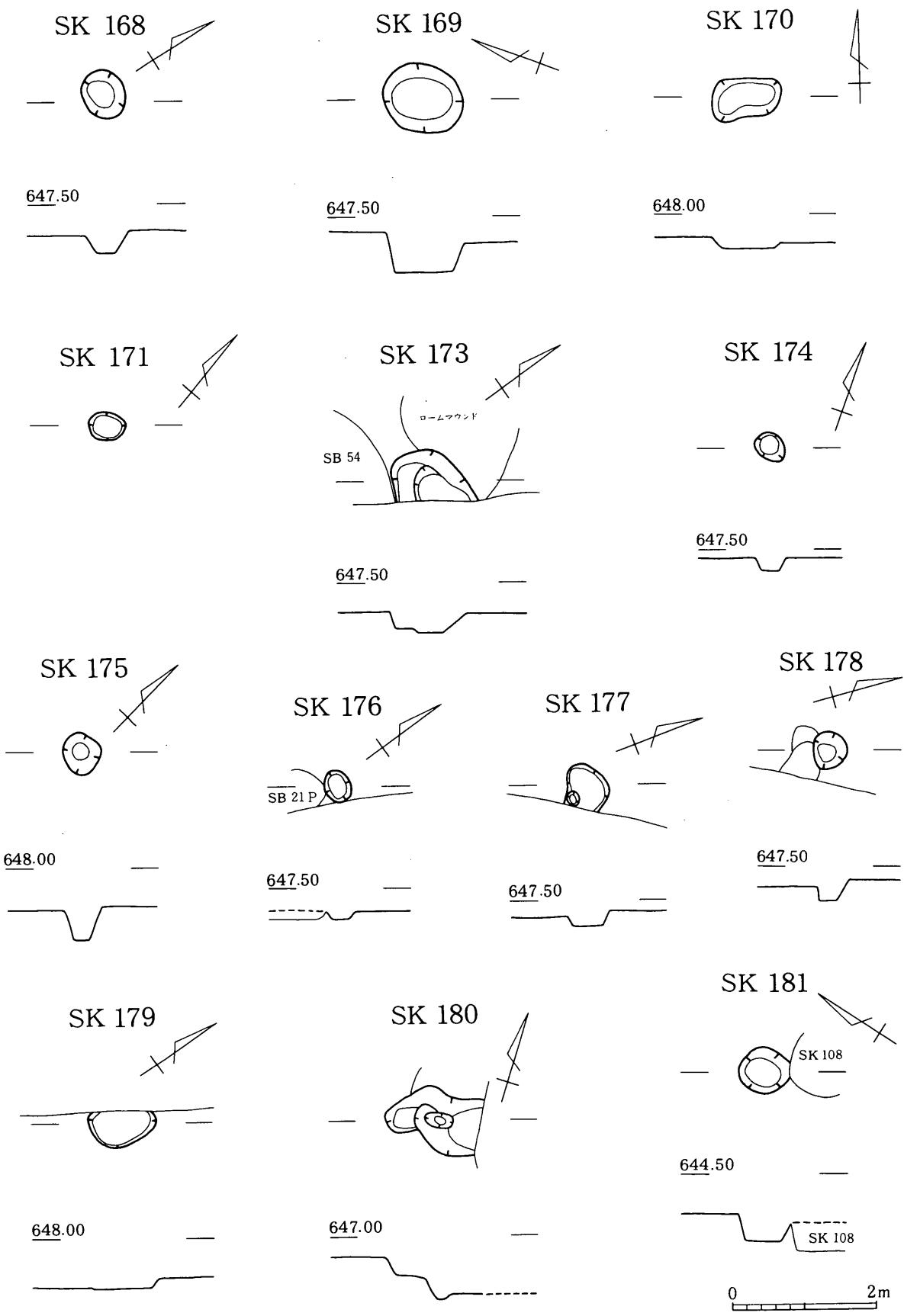
挿図 53 土坑平面図 (11)



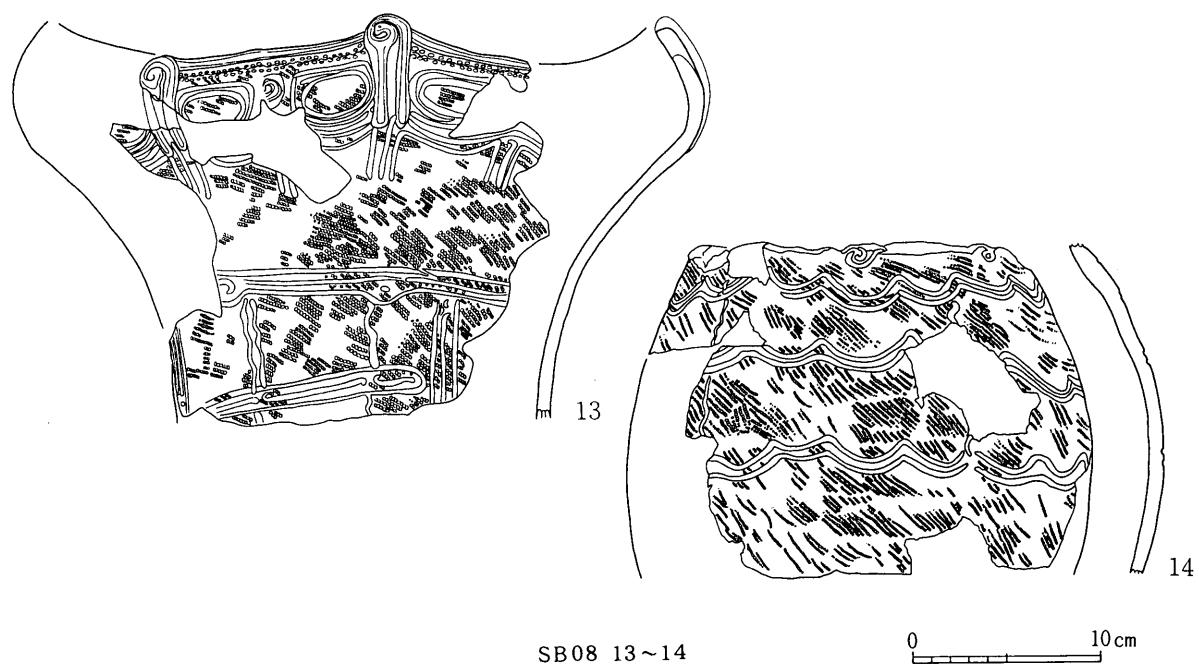
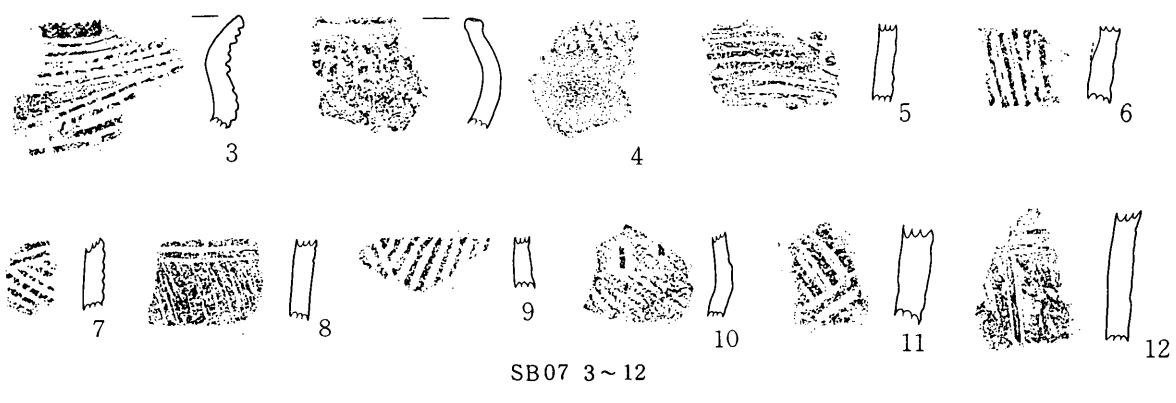
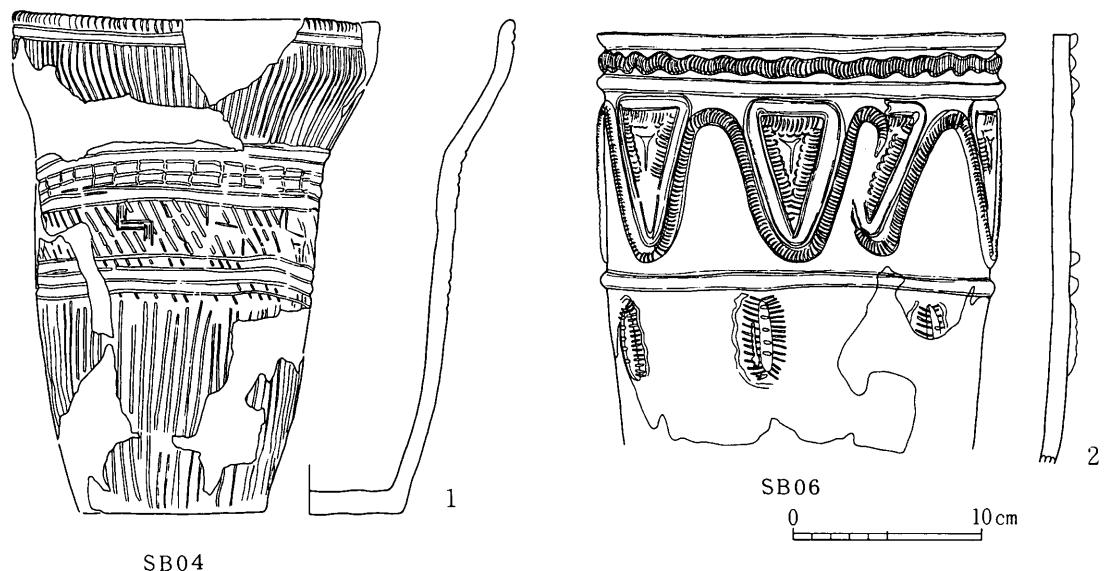
挿図 54 土坑平面図 (12)



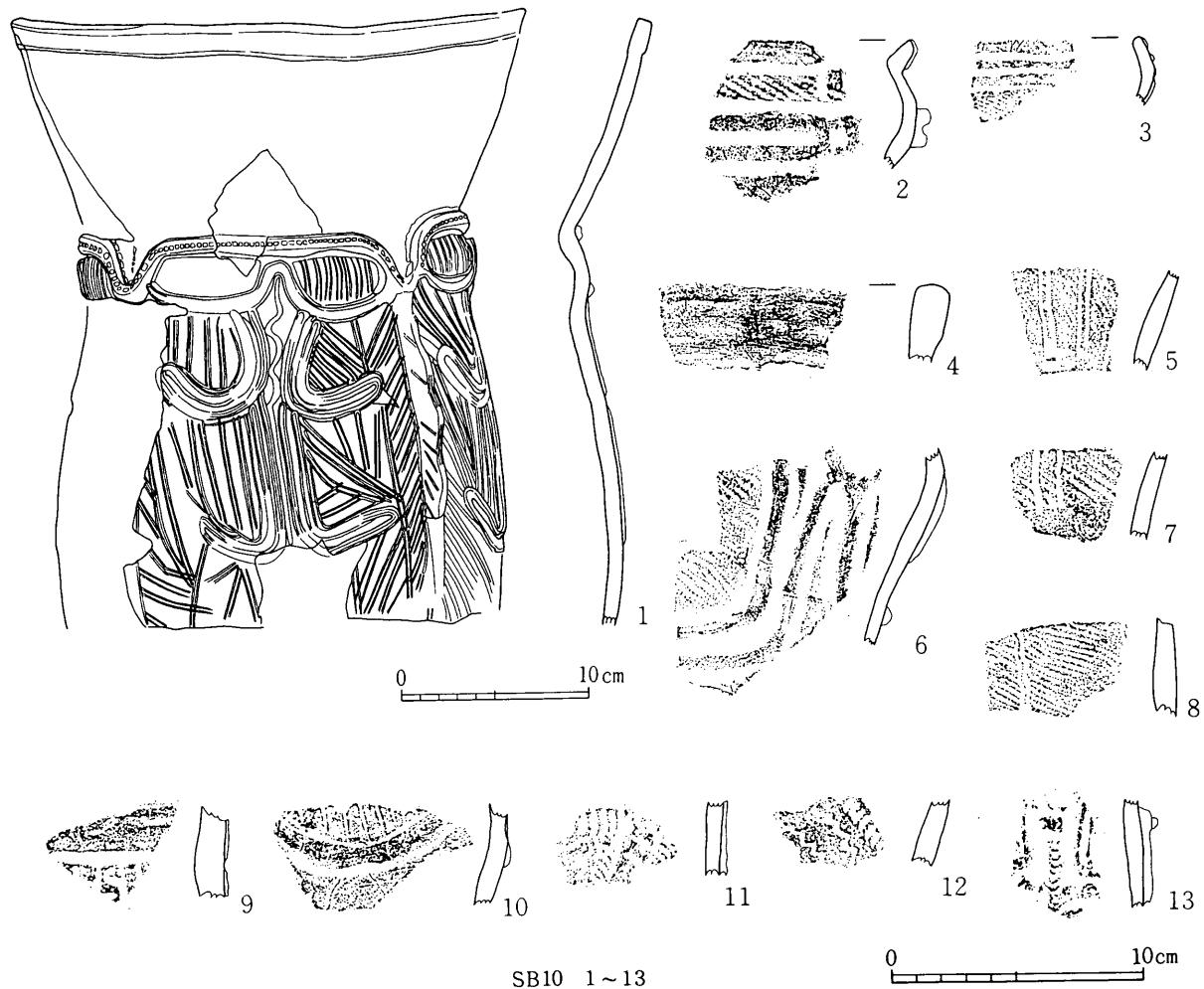
挿図55 土坑平面図 (13)



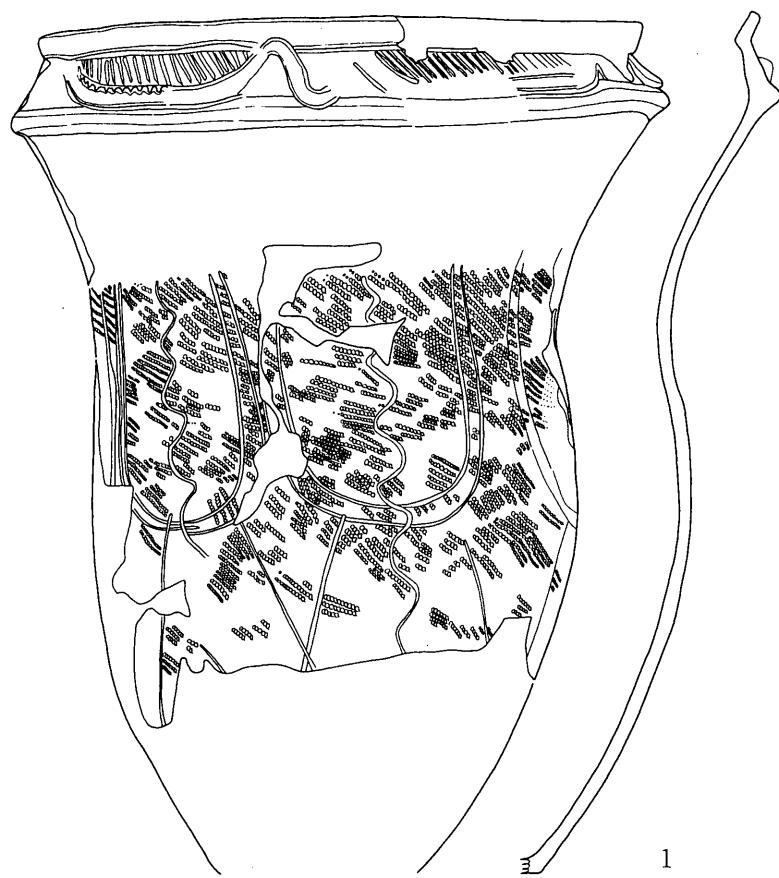
挿図56 土坑平面図 (14)



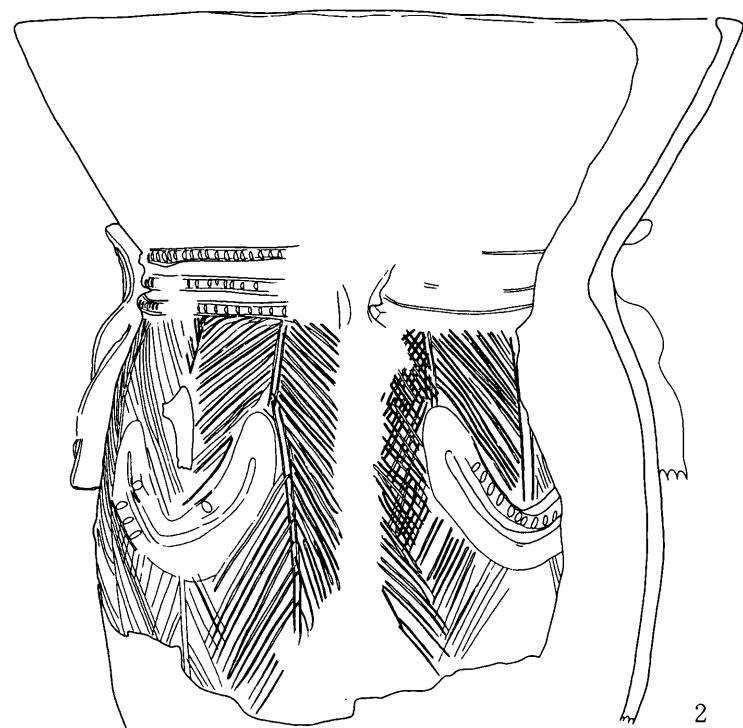
挿図 57 SB04・06・07・08出土土器



插図58 SB10 出土土器



1

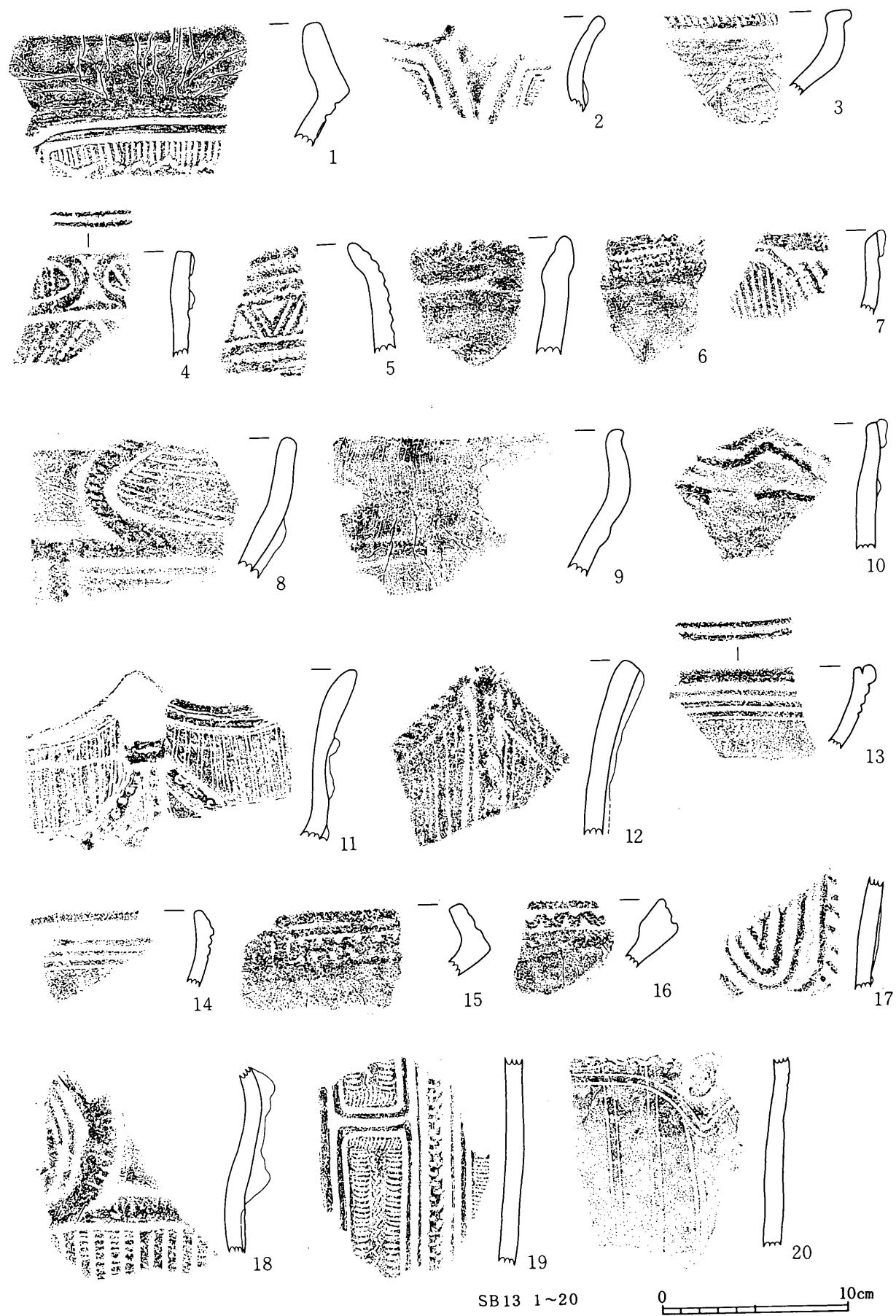


2

SB12 1~2

0 10 cm

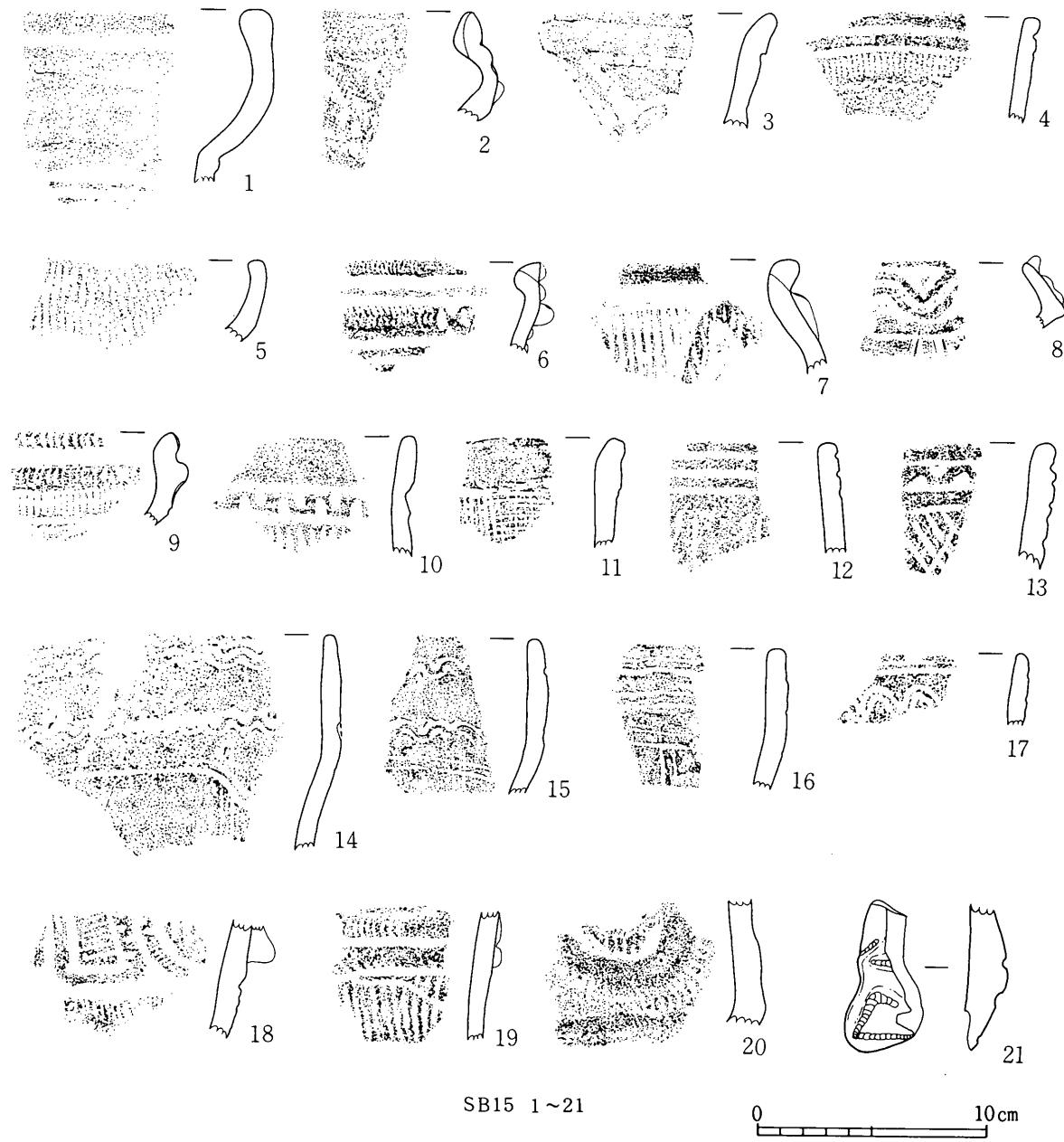
挿図59 SB1 2 出土土器



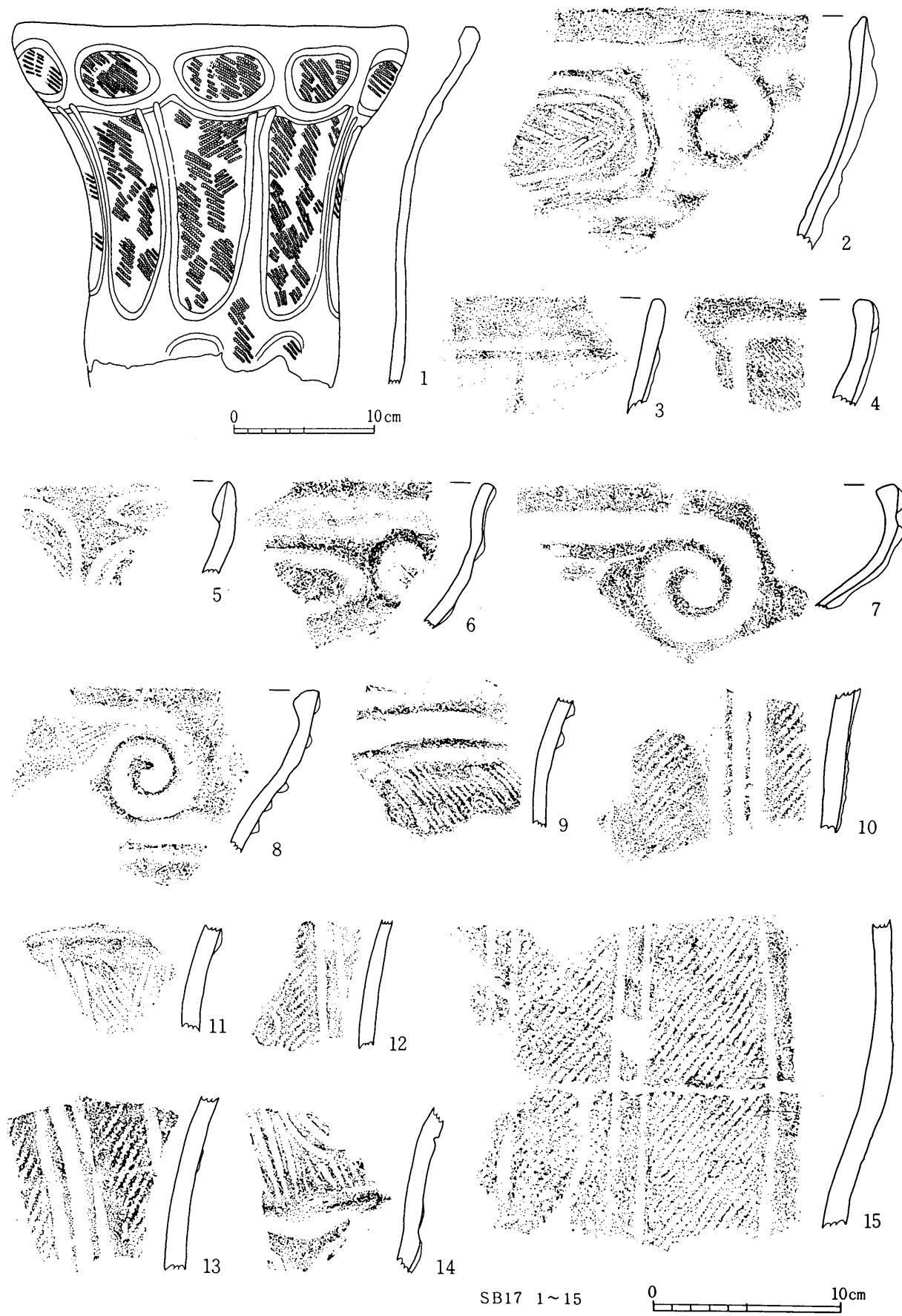
插図60 SB 13 出土土器



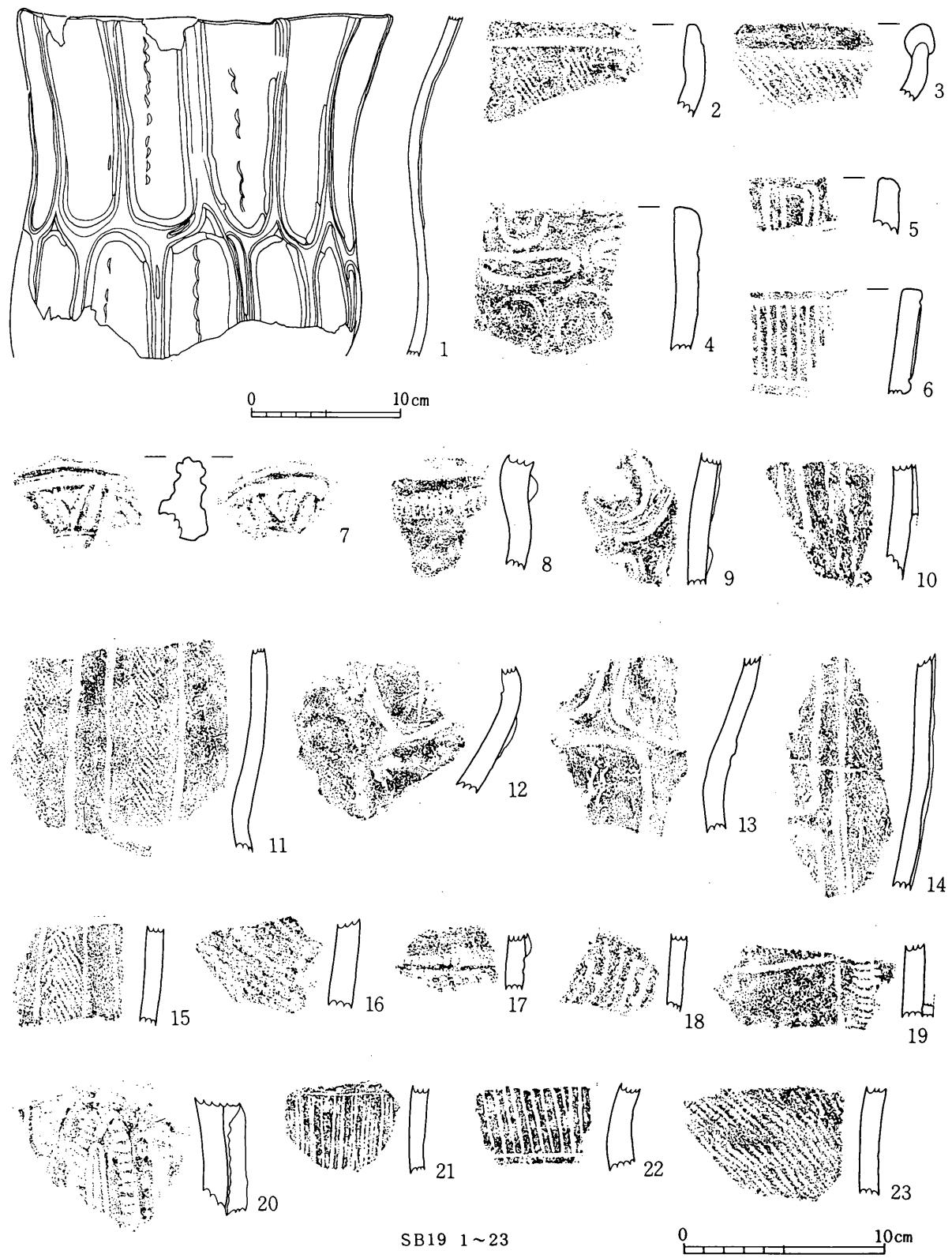
插図61 SB14出土土器



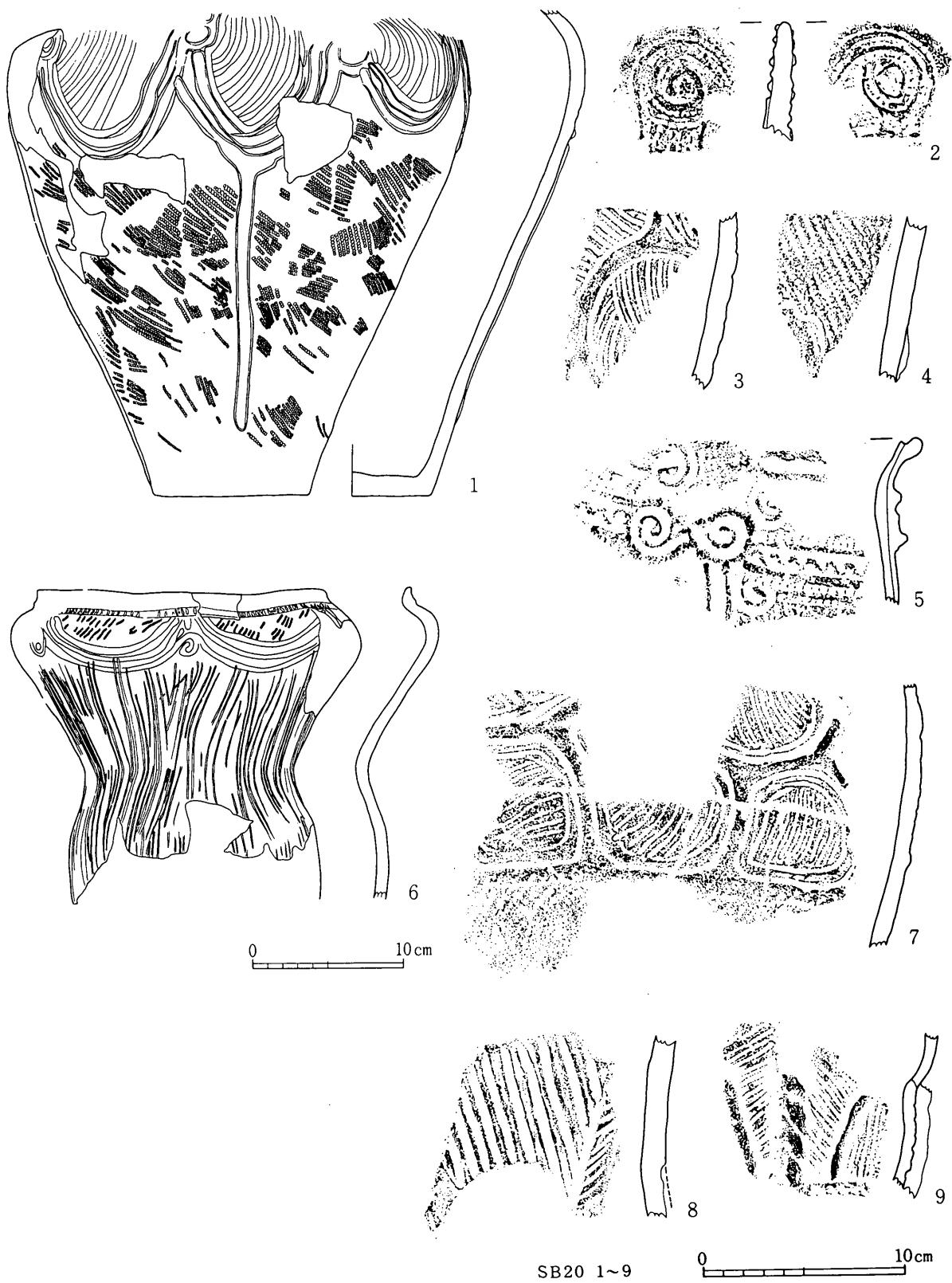
挿図62 SB15 出土土器



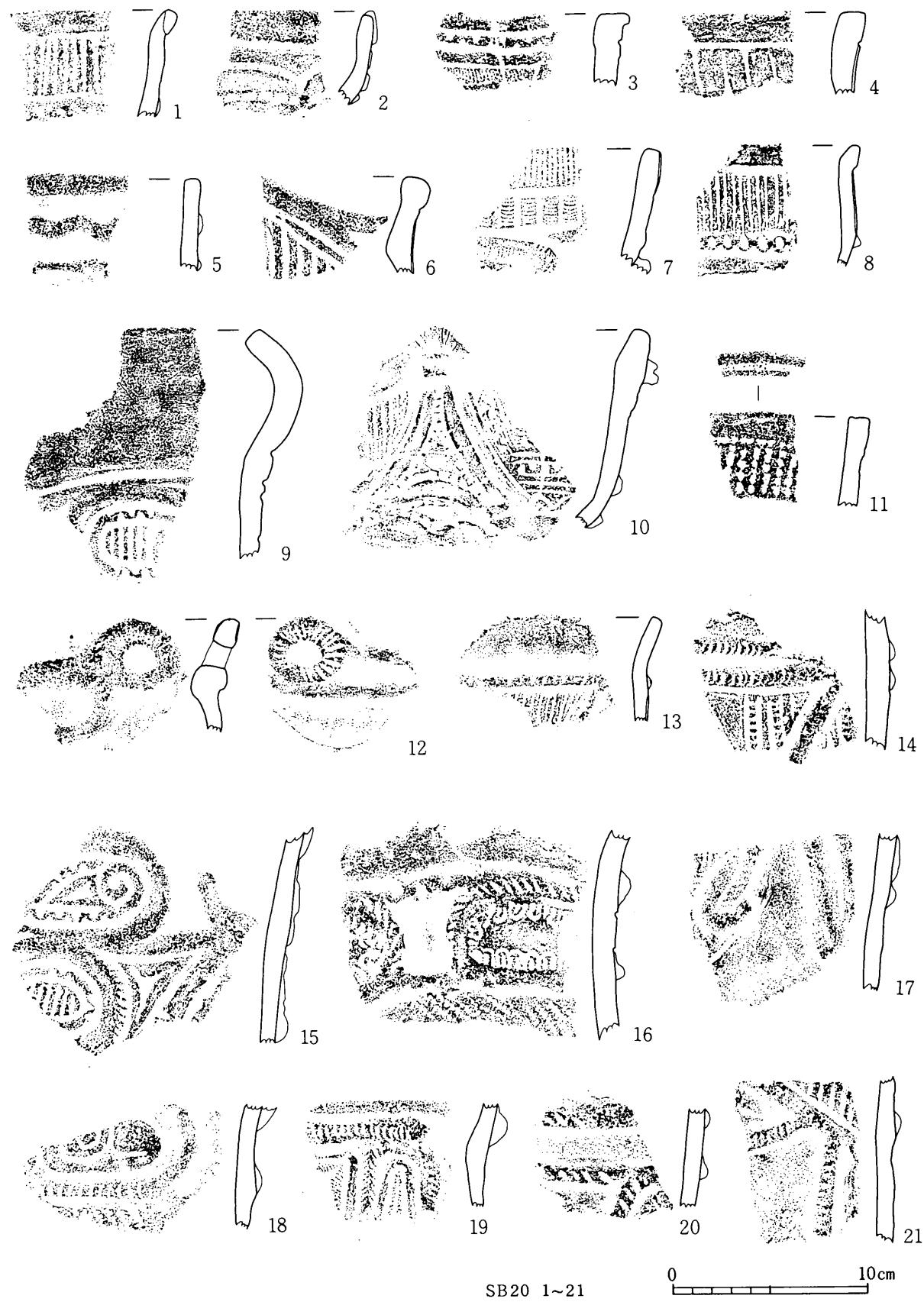
挿図63 SB17出土土器



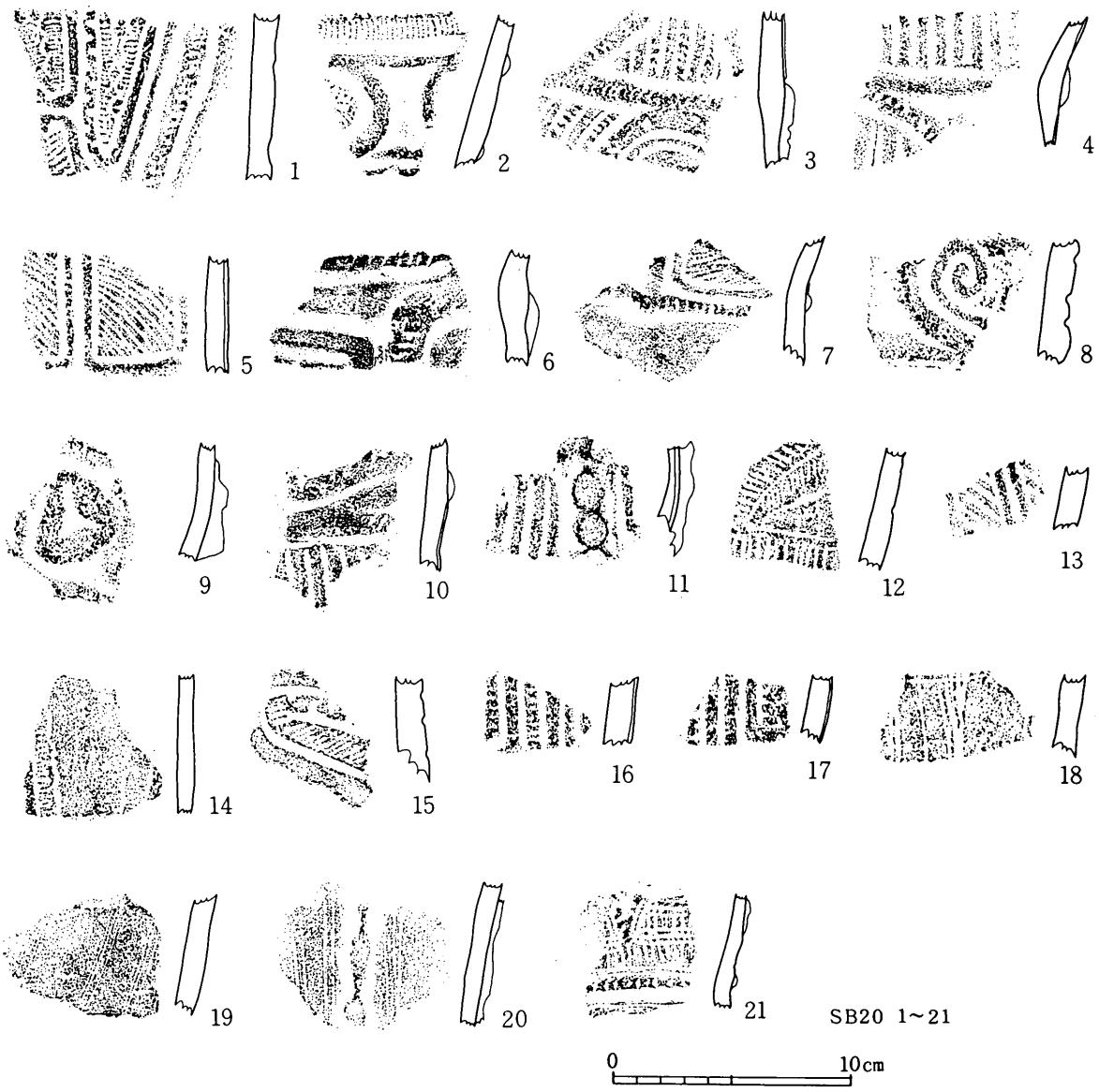
插図64 SB19出土土器



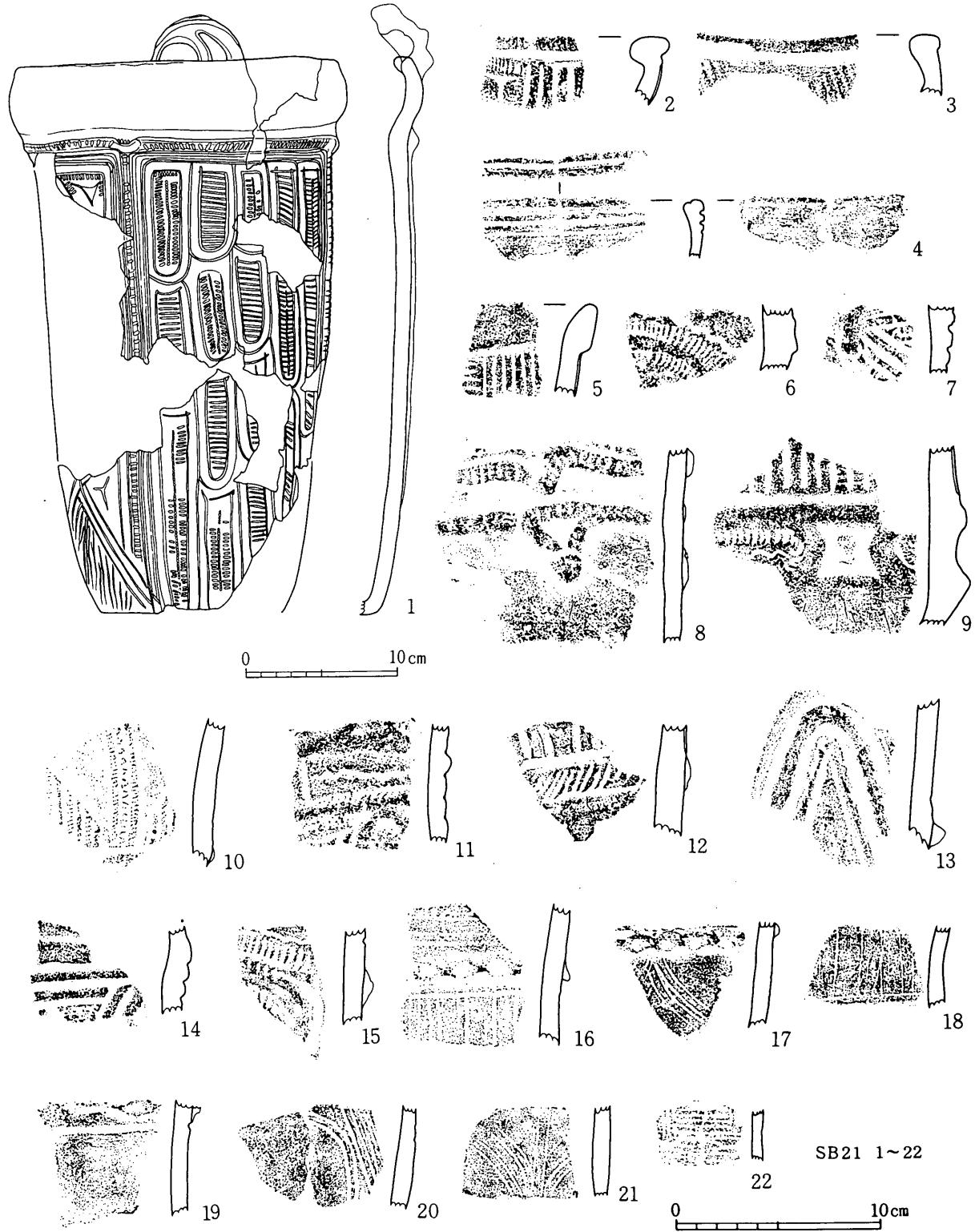
插図65 SB20出土土器（1）



挿図66 SB20出土土器(2)



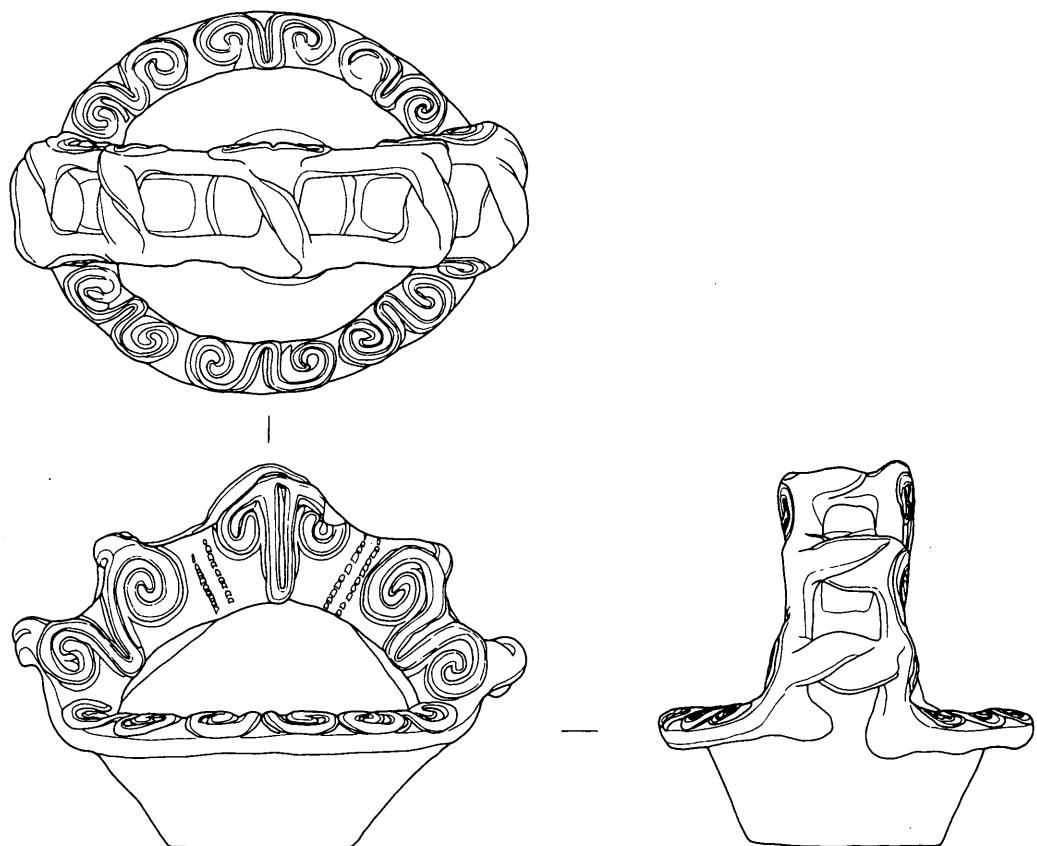
插図67 SB20出土土器(3)



插図68 SB21出土土器

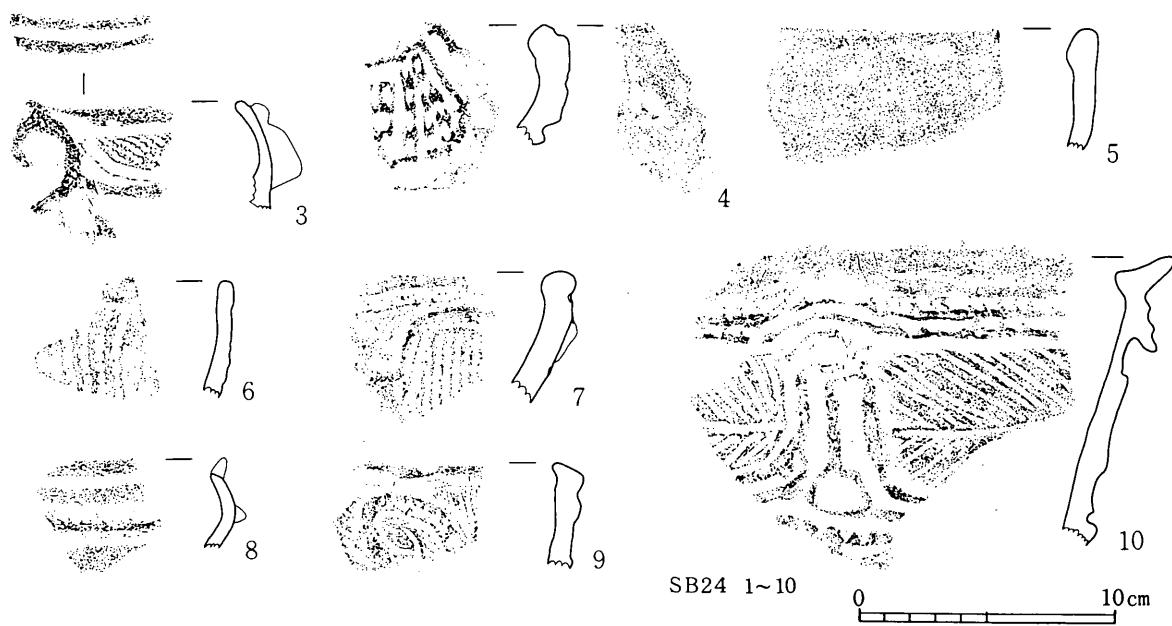


插図69 SB22・23出土土器



1

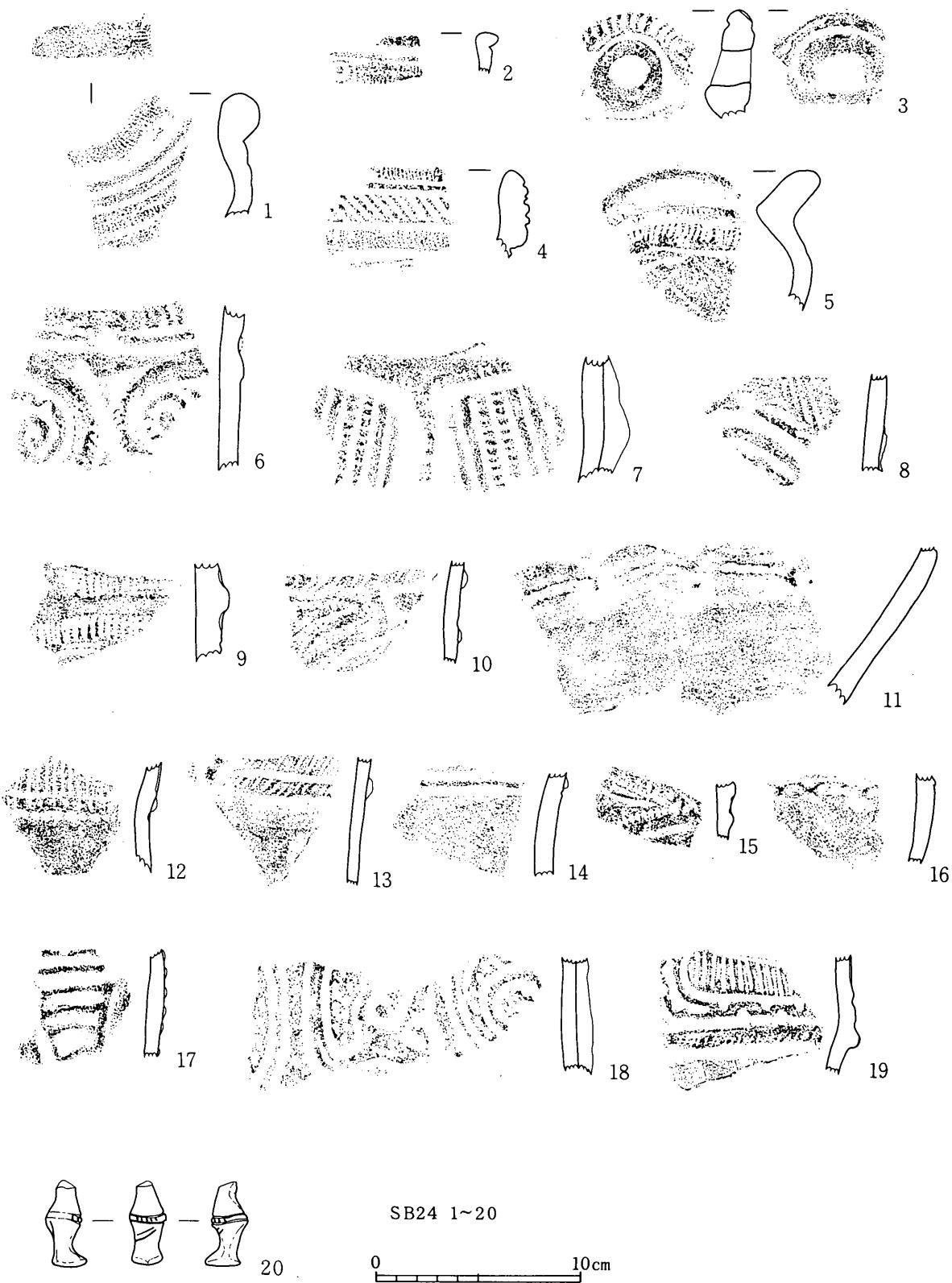
0 10 cm



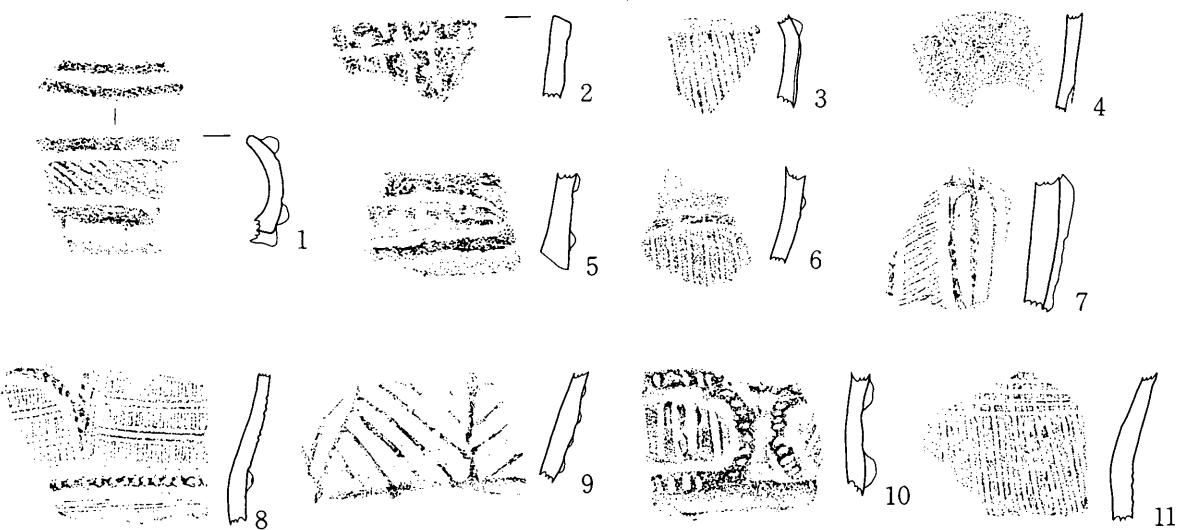
SB24 1~10

0 10 cm

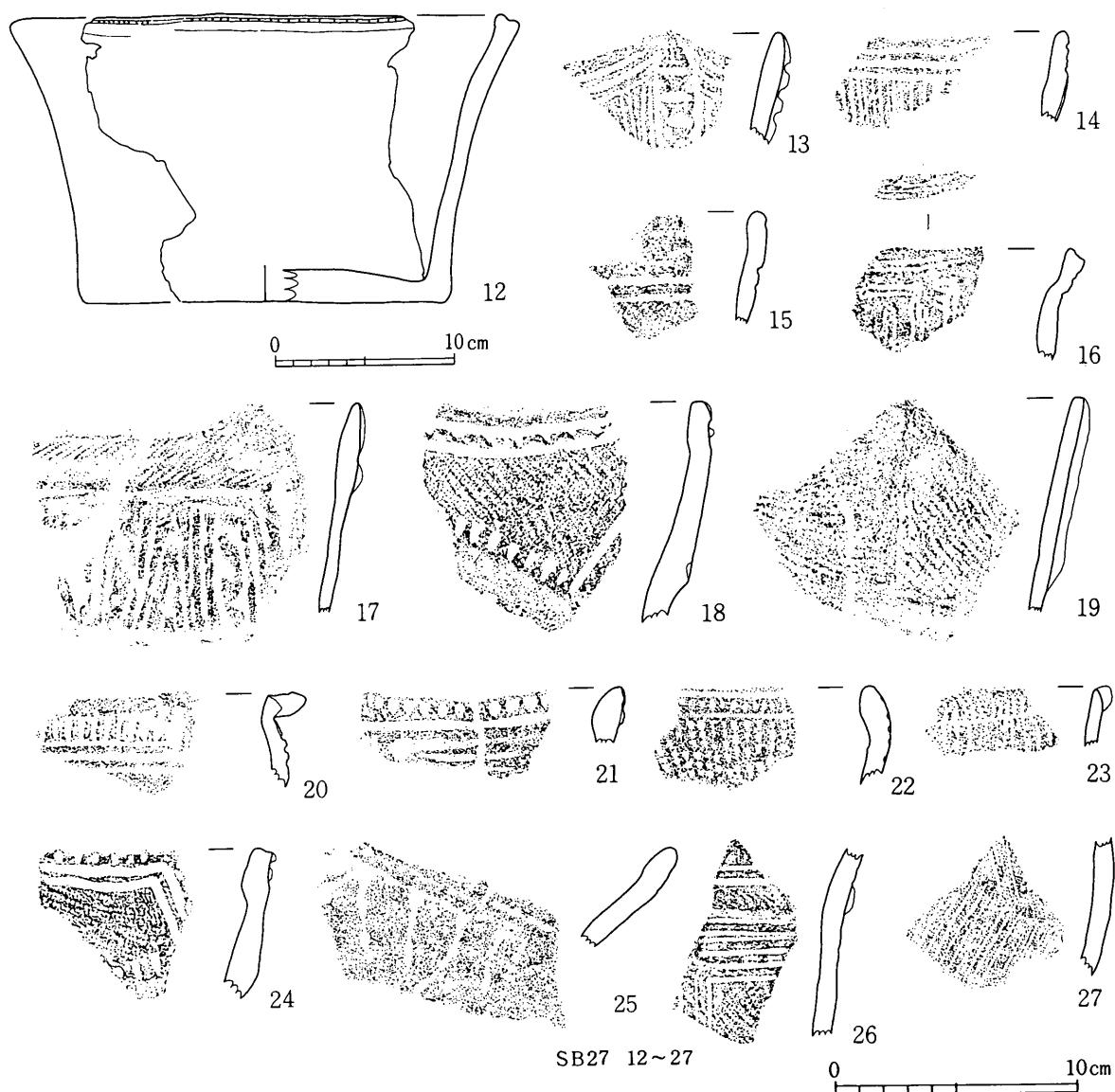
挿図70 SB24出土土器(1)



挿図71 SB24出土土器(2)

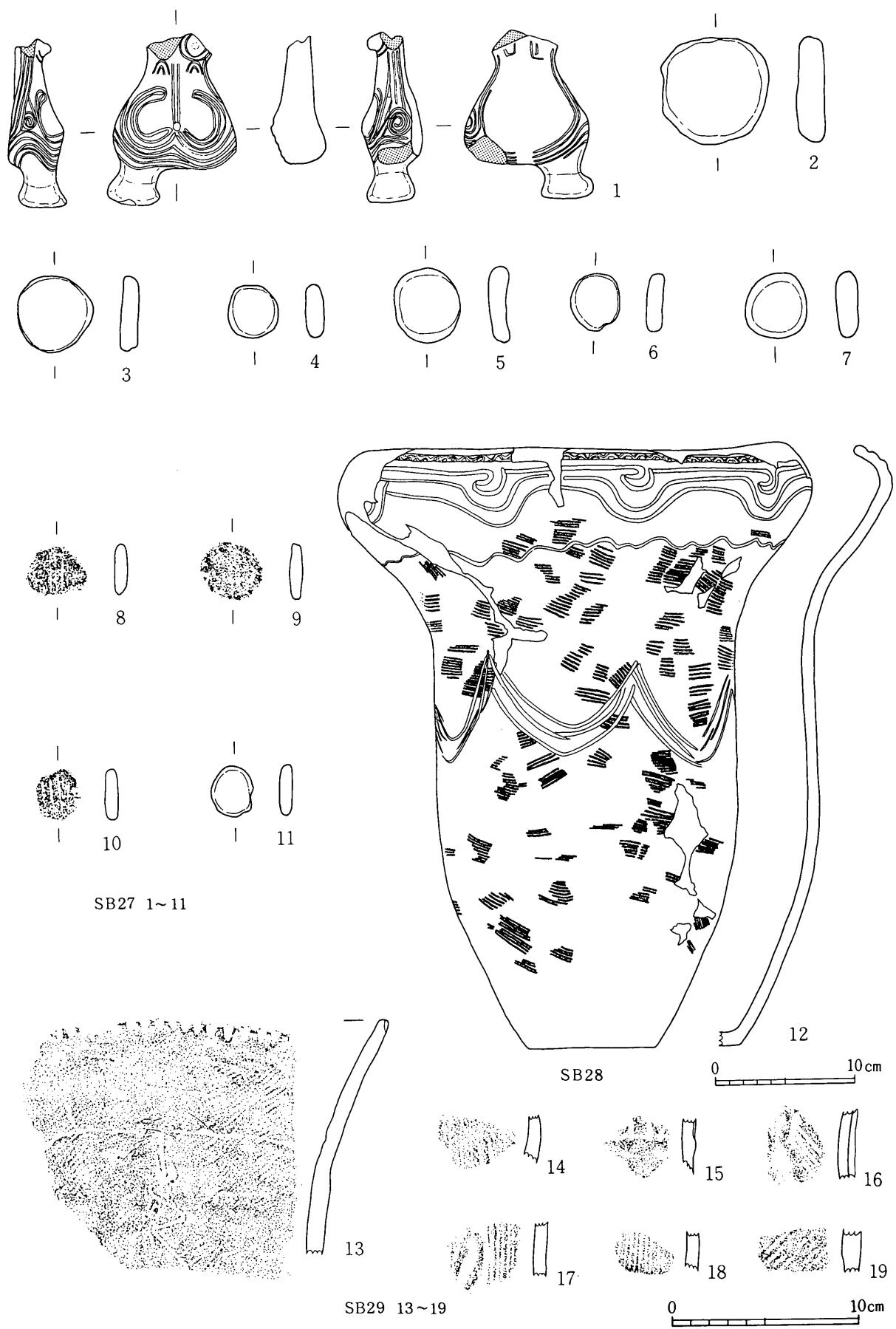


SB25 1~11

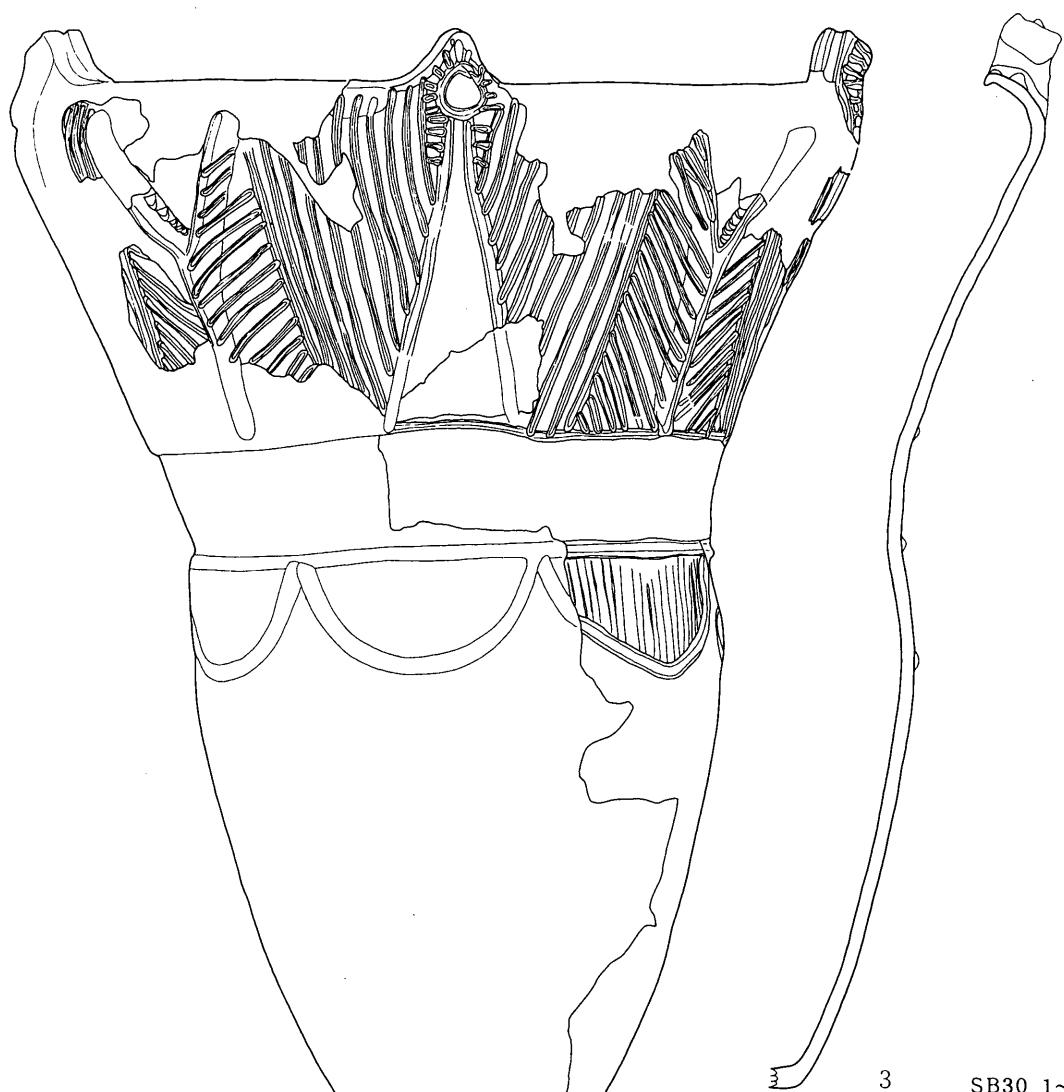
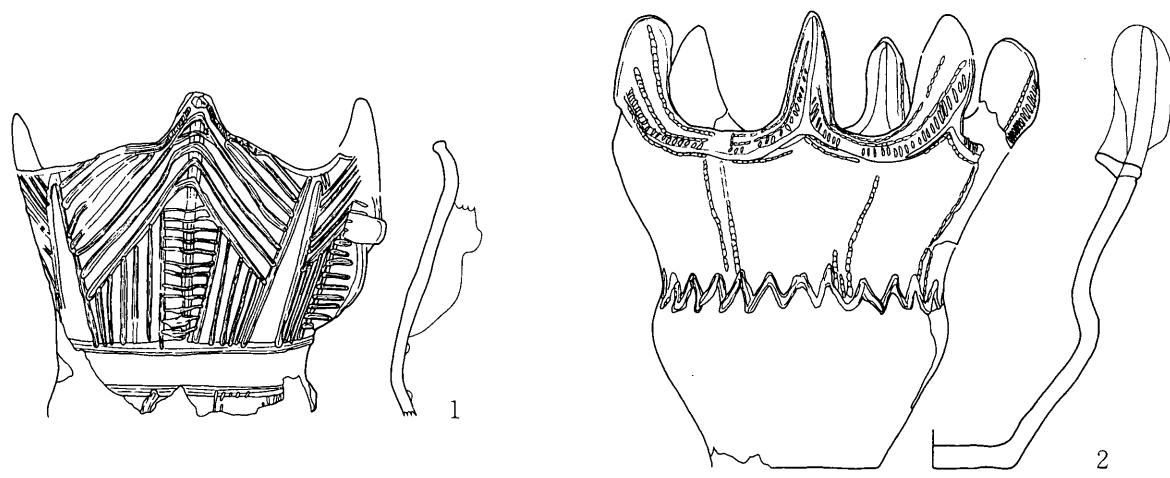


SB27 12~27

挿図72 SB25・27出土土器

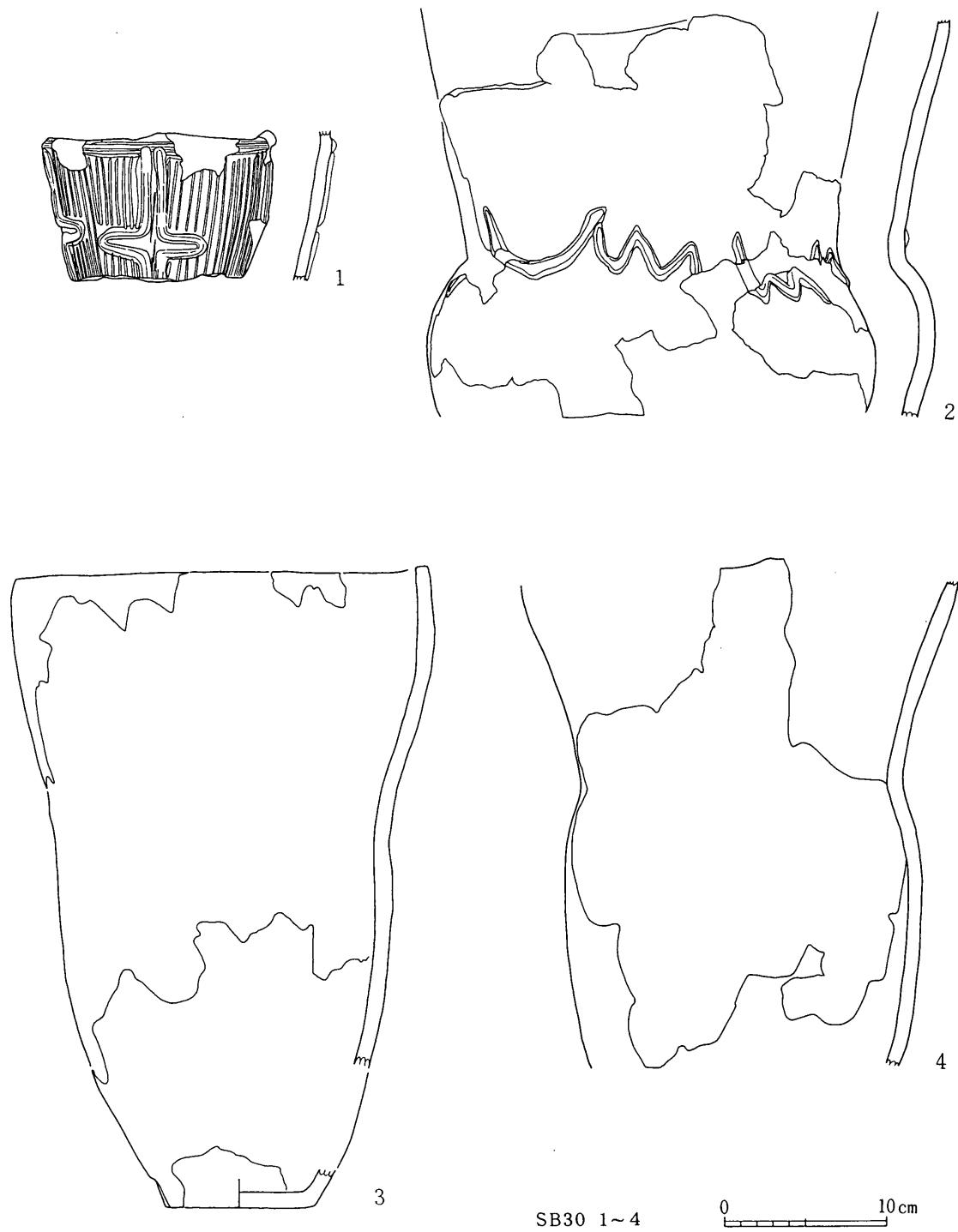


挿図73 SB27・28・29出土土器

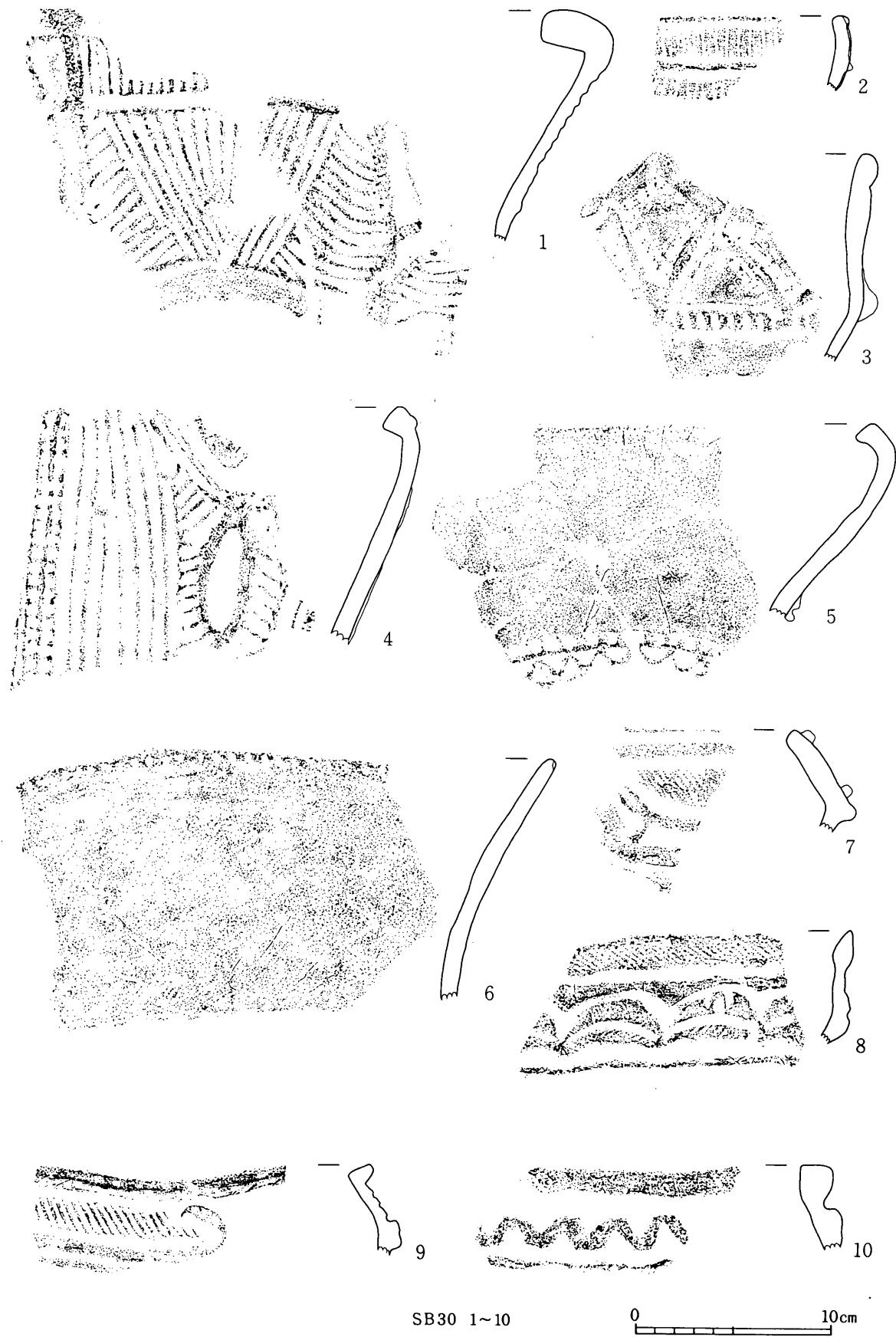


0 10 cm

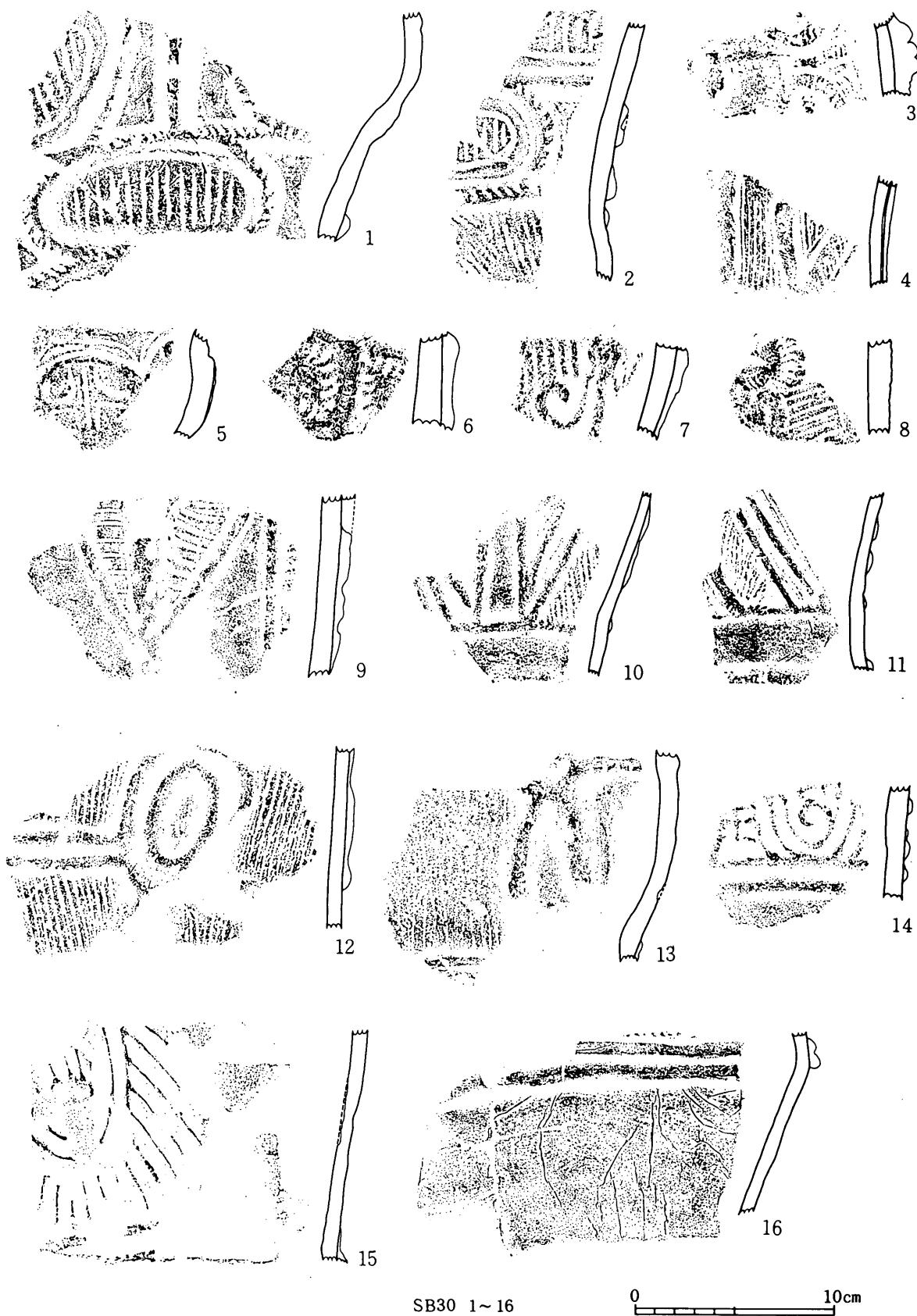
挿図74 SB30出土土器（1）



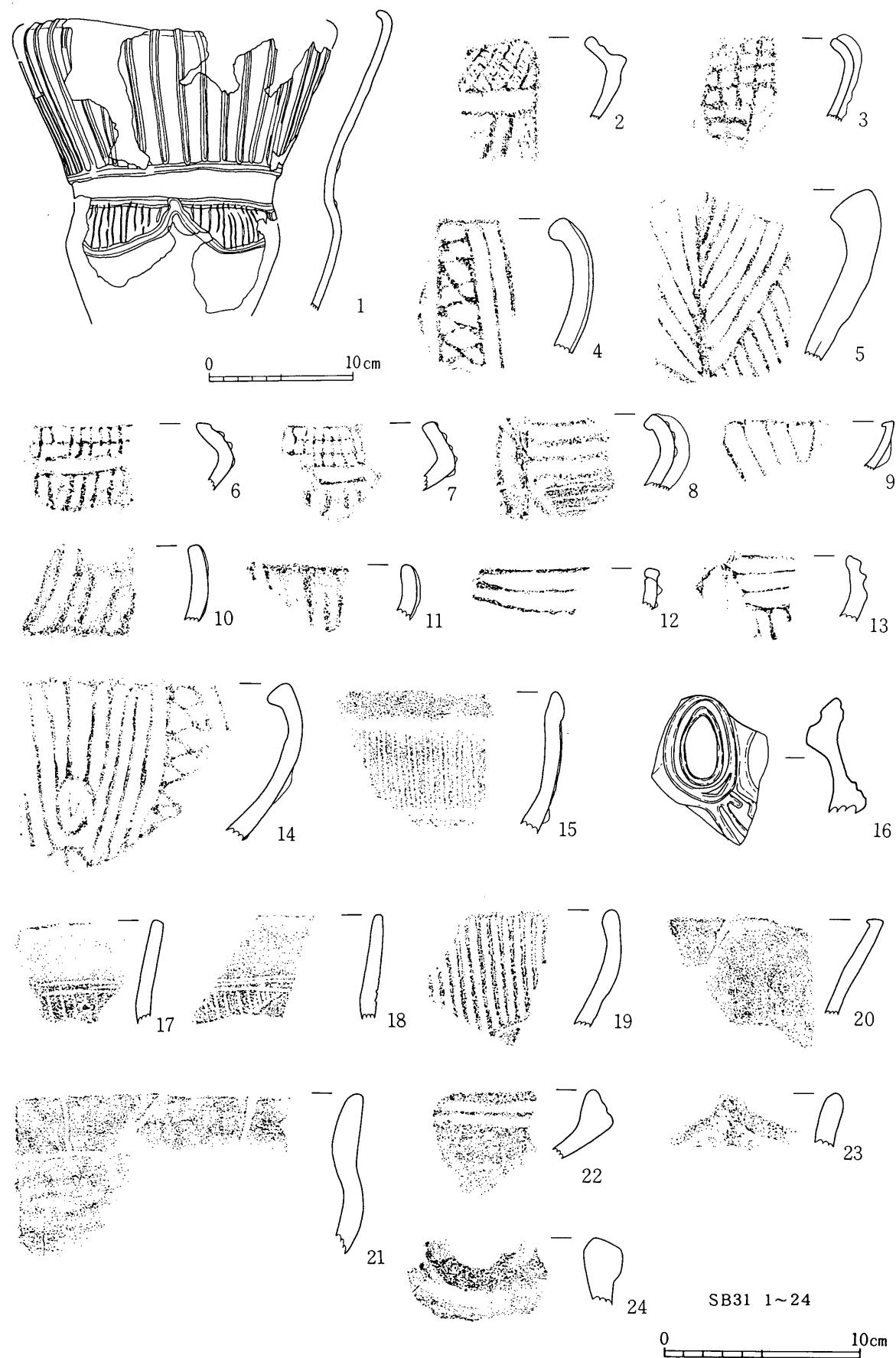
挿図75 SB30出土土器(2)



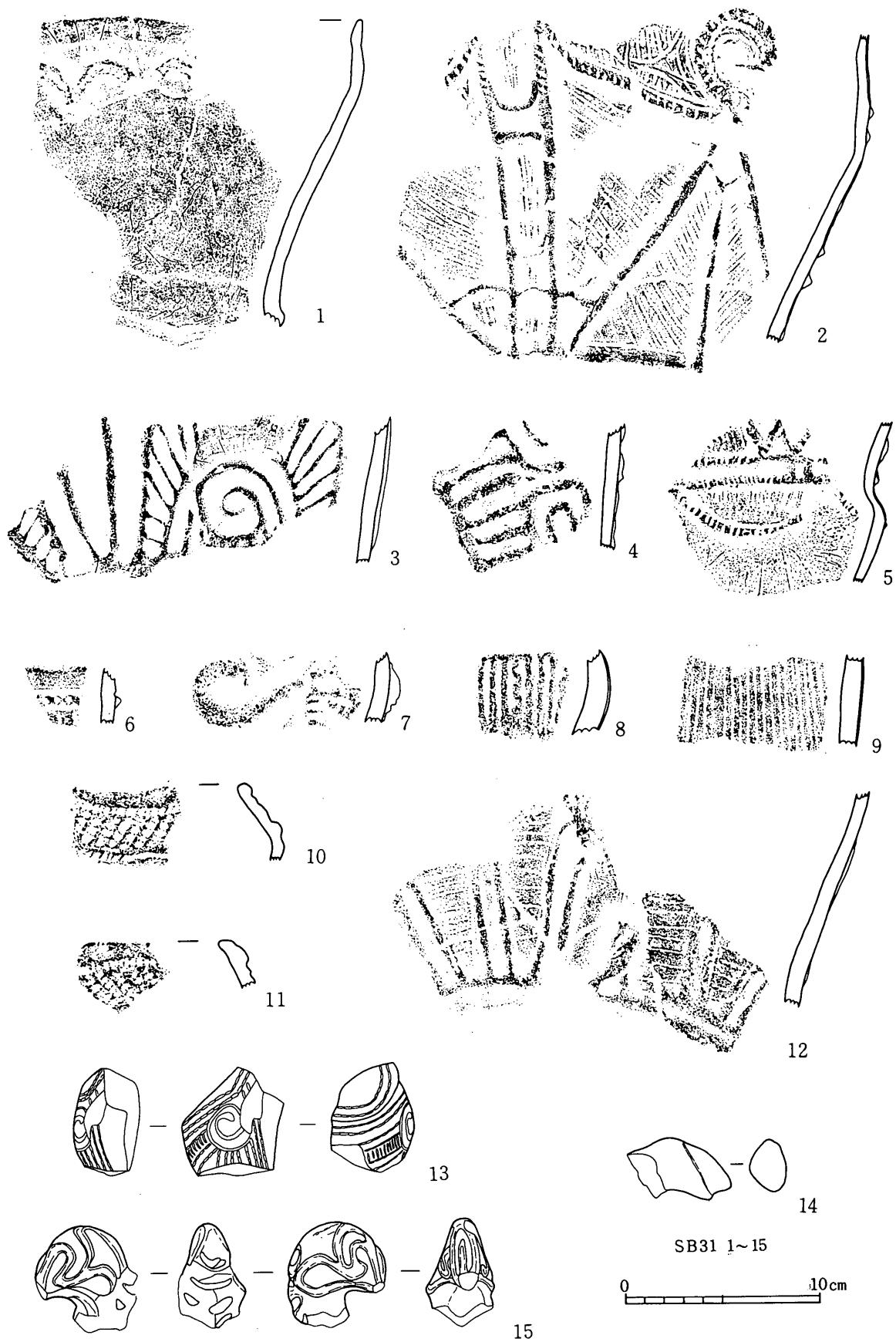
插図76 SB30出土土器（3）



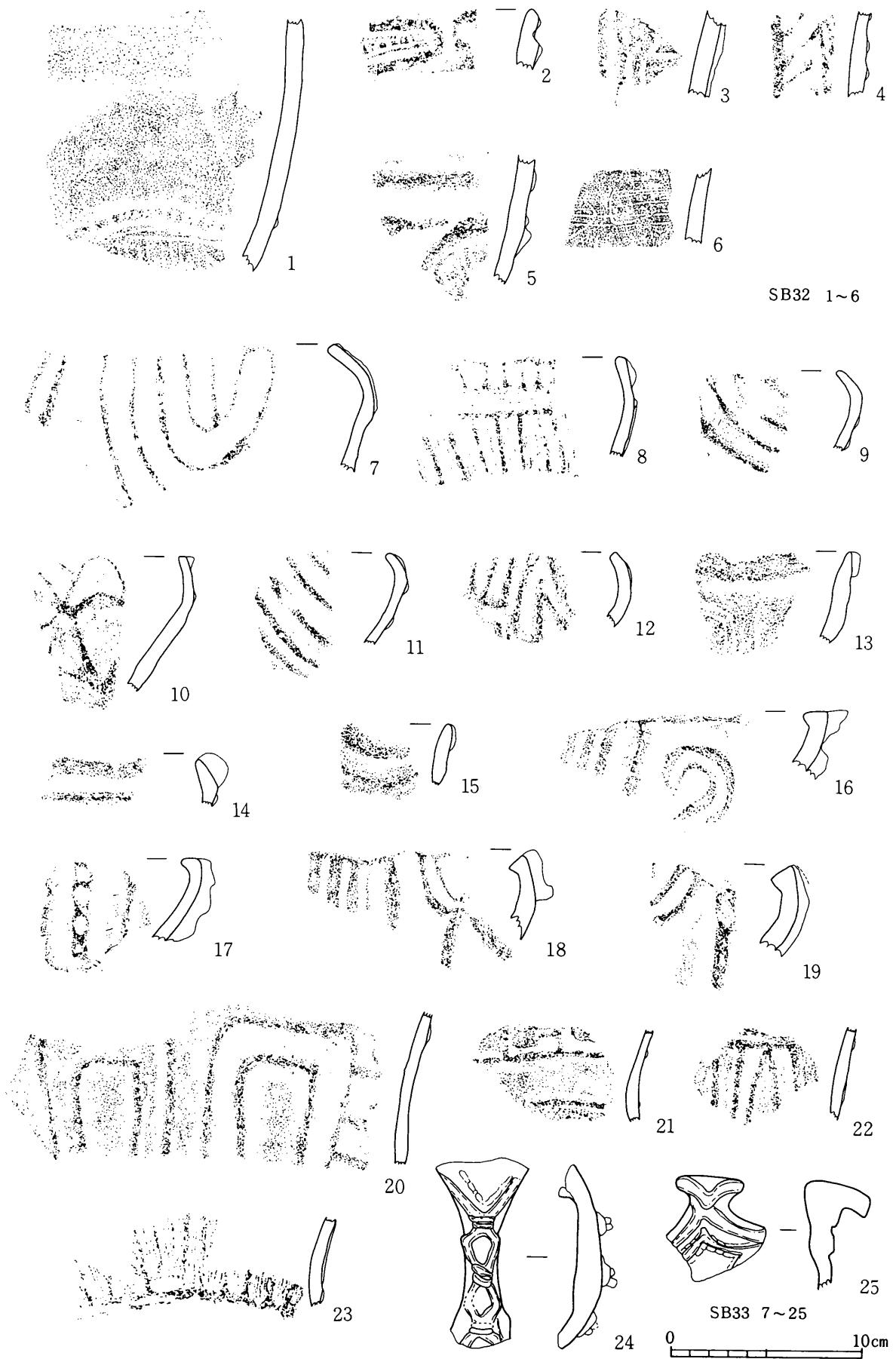
挿図77 SB30出土土器(4)



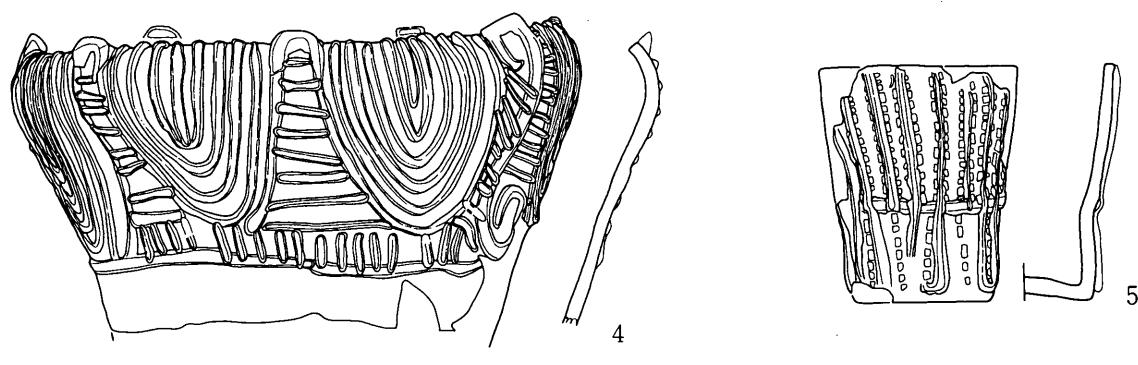
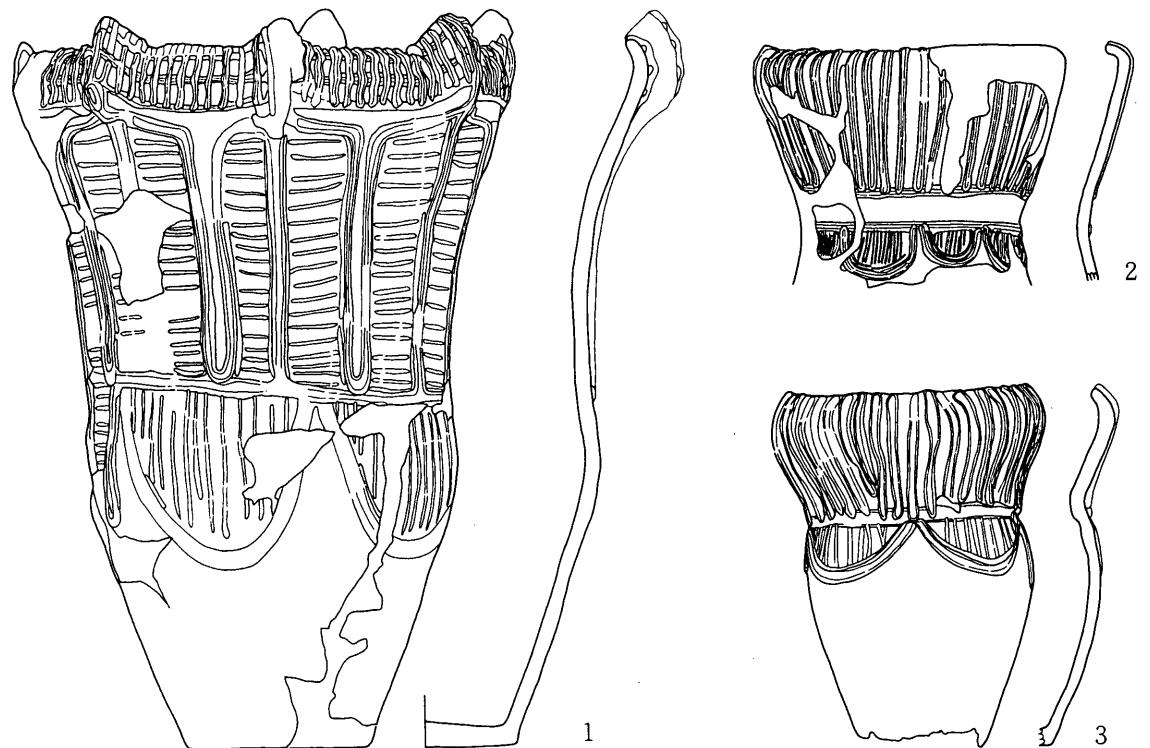
插図78 SB 3 1 出土土器 (1)



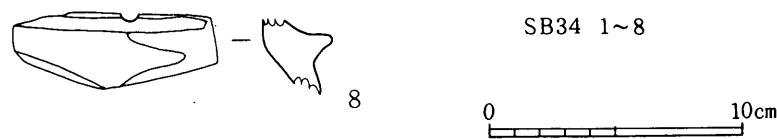
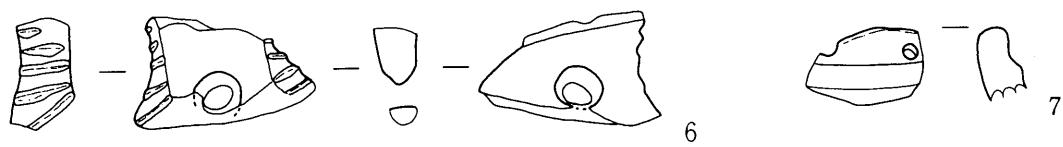
挿図79 SB31出土土器（2）



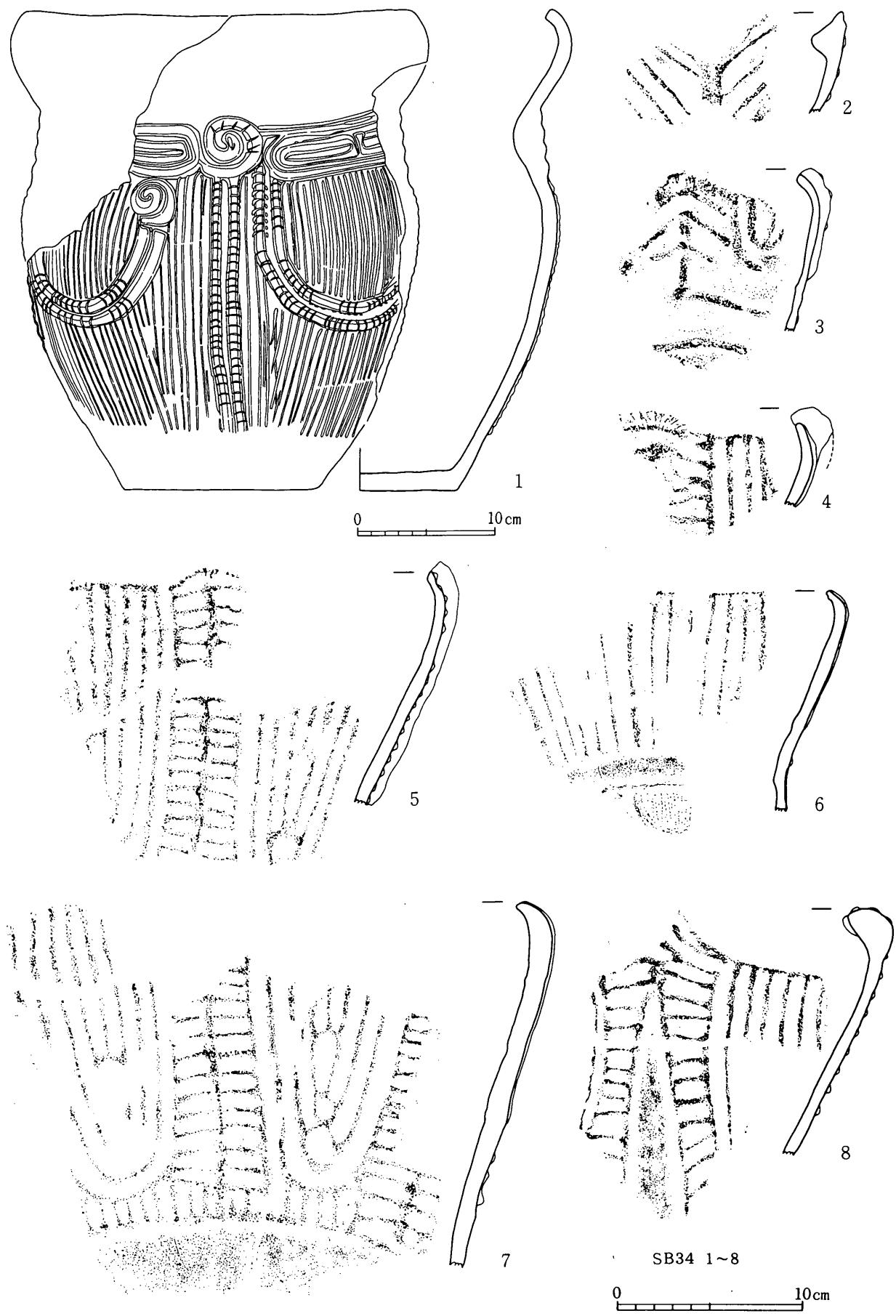
挿図80 SB32・33出土土器



0 10 cm



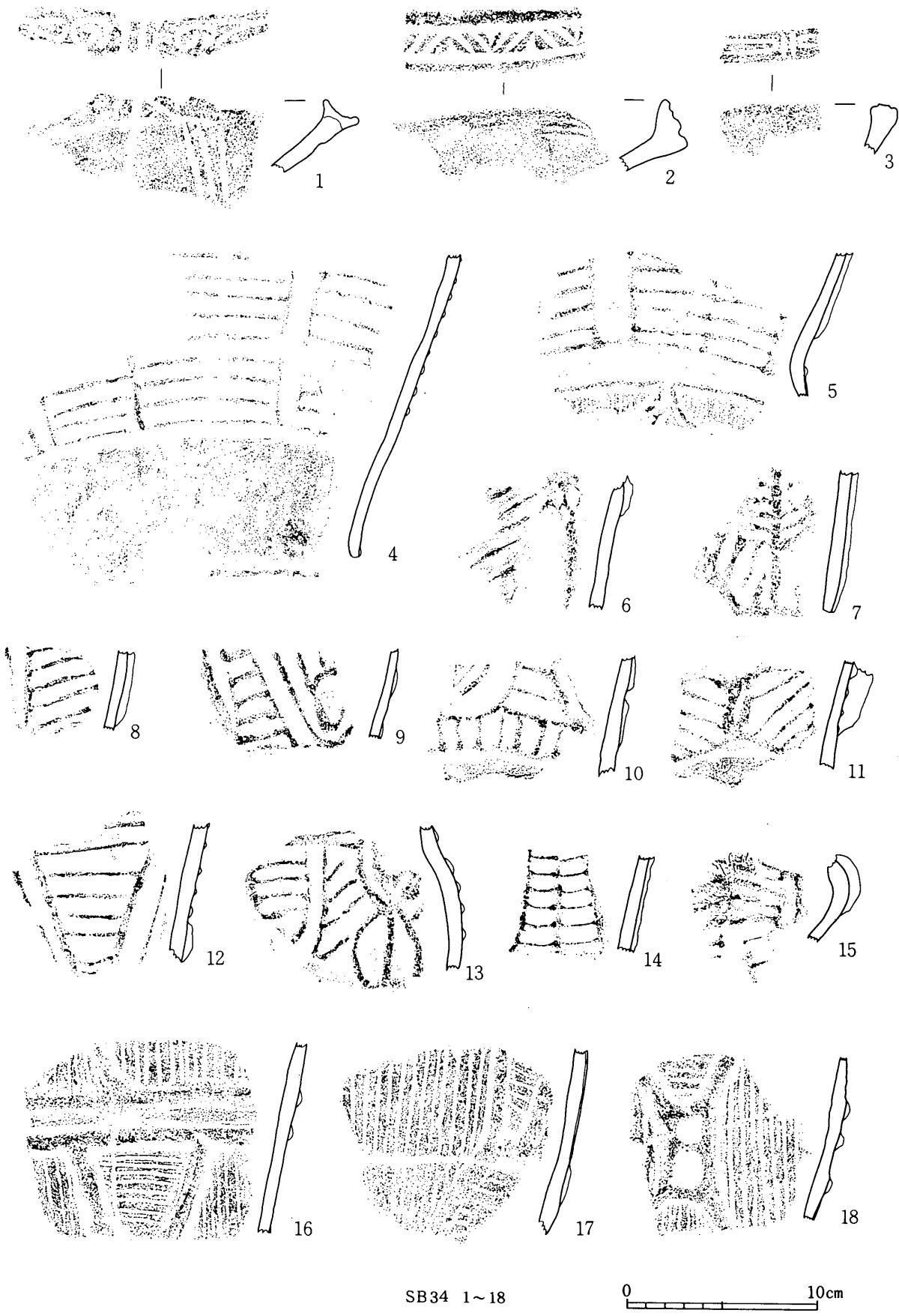
挿図81 S B 3 4 出土土器 (1)



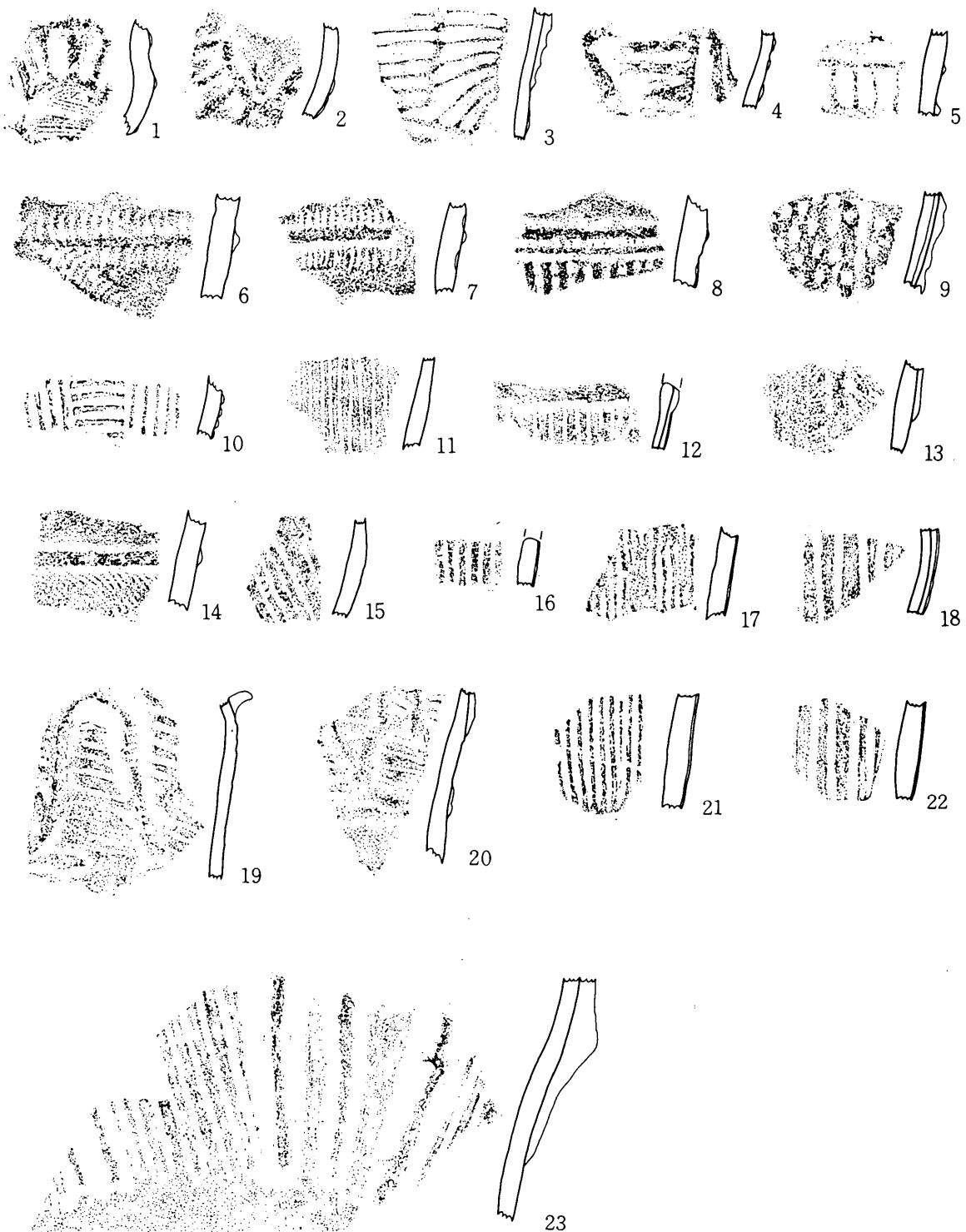
插図82 SB34出土土器(2)



挿図83 SB34 出土土器 (3)



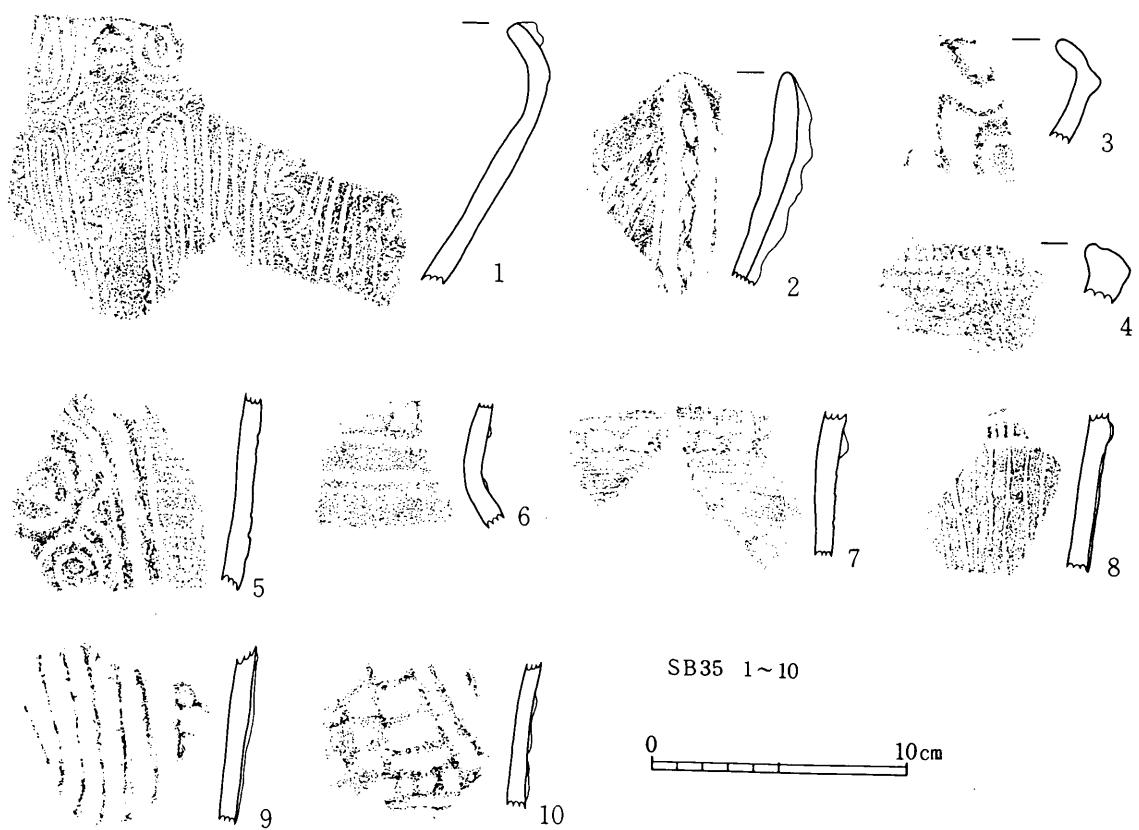
挿図84 SB 34出土土器 (4)



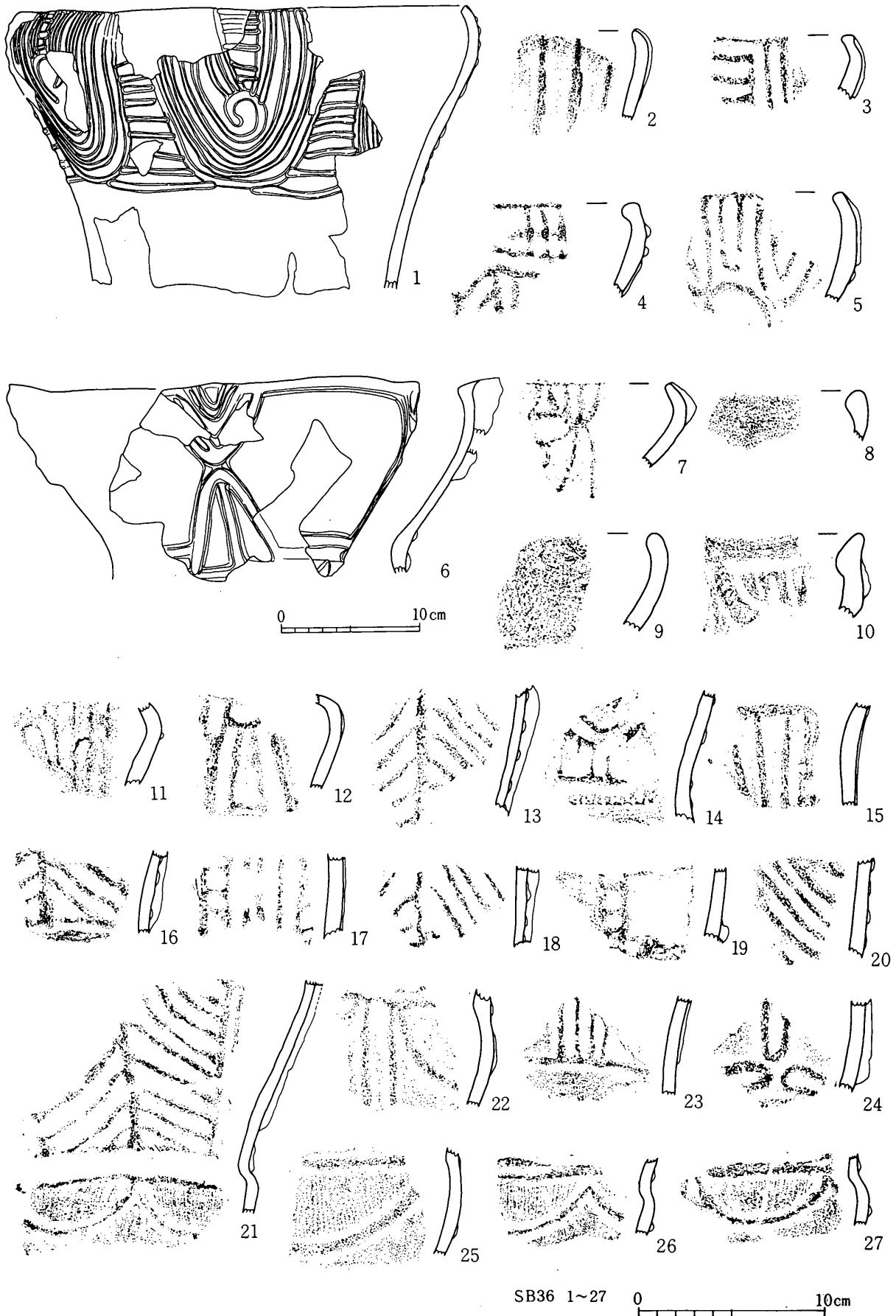
SB34 1~23

0 10 cm

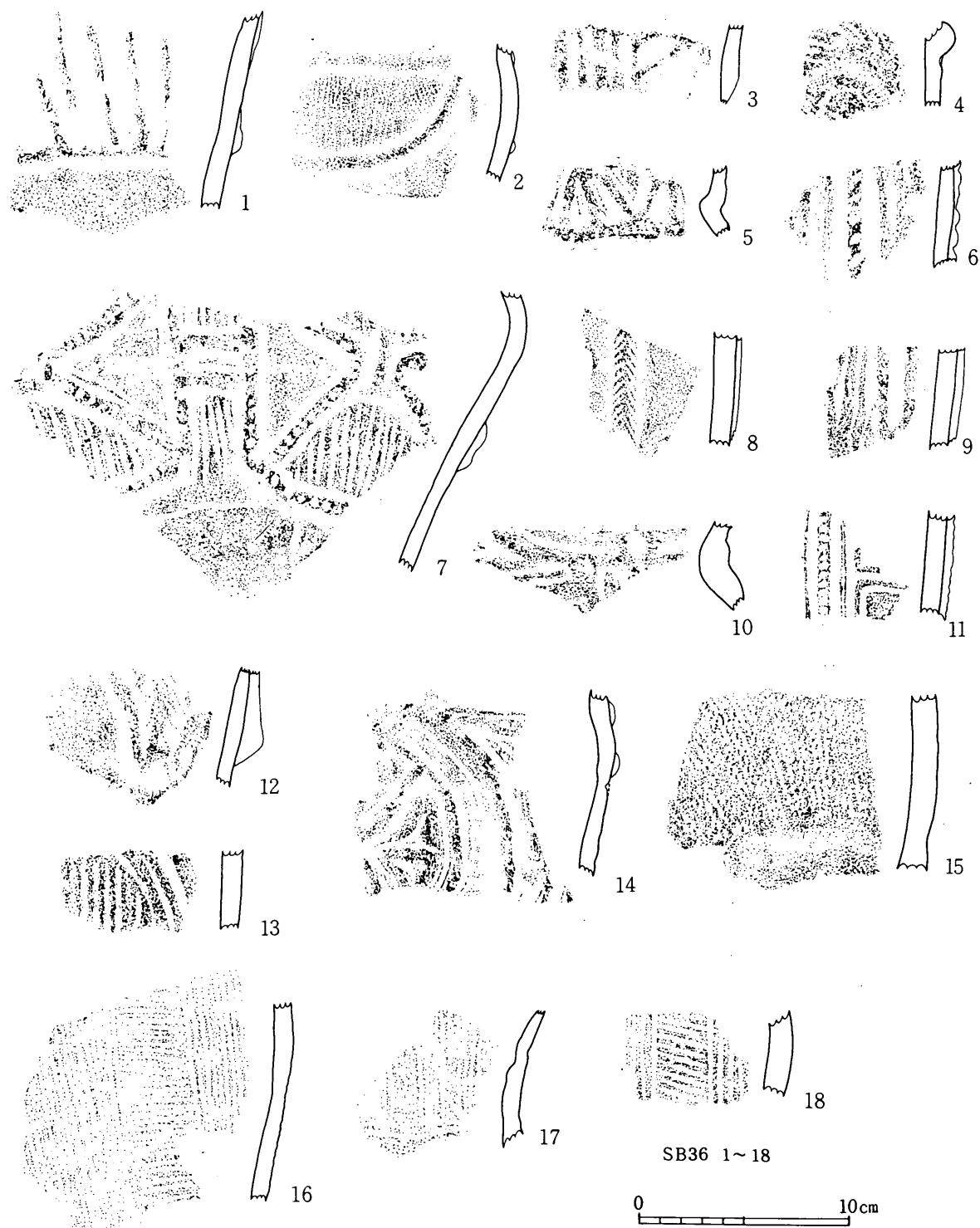
插図85 S B 3 4 出土土器 (5)



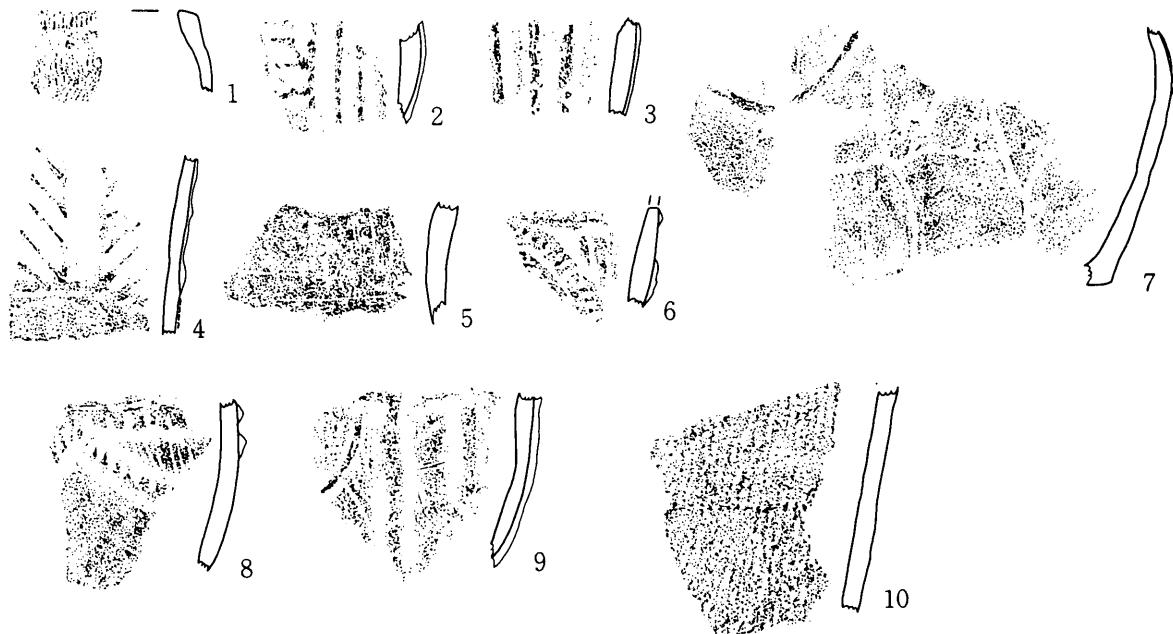
挿図86 SB35出土土器



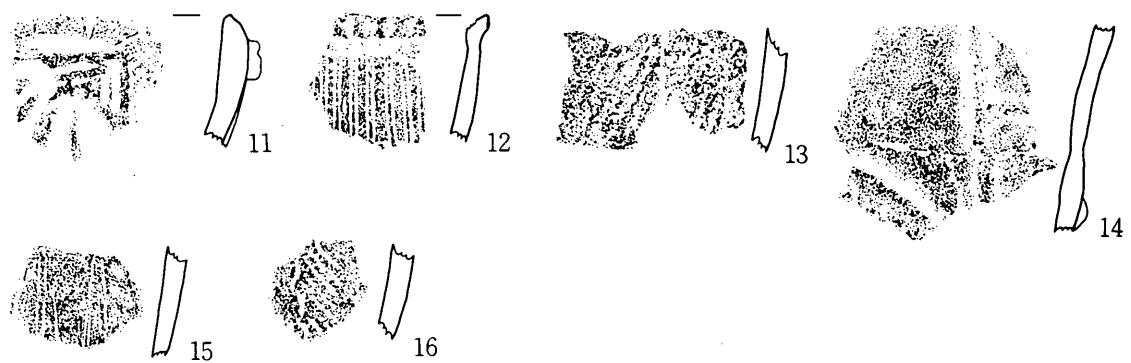
插図87 SB36 出土土器 (1)



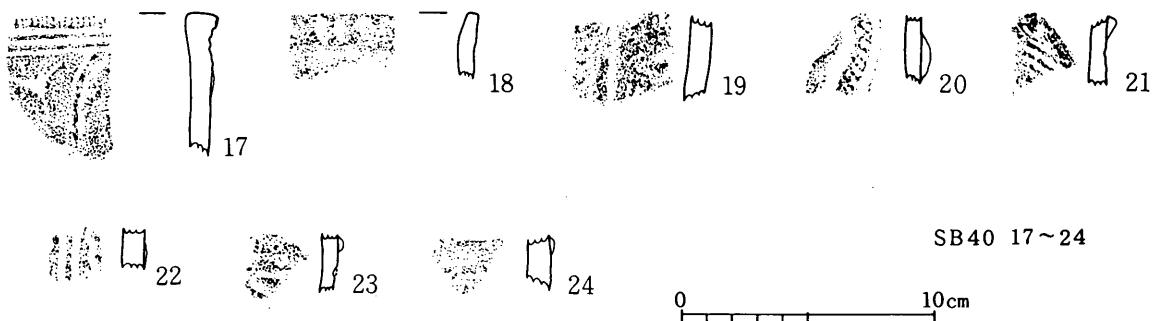
插図88 SB36出土土器(2)



SB37 1 ~ 10

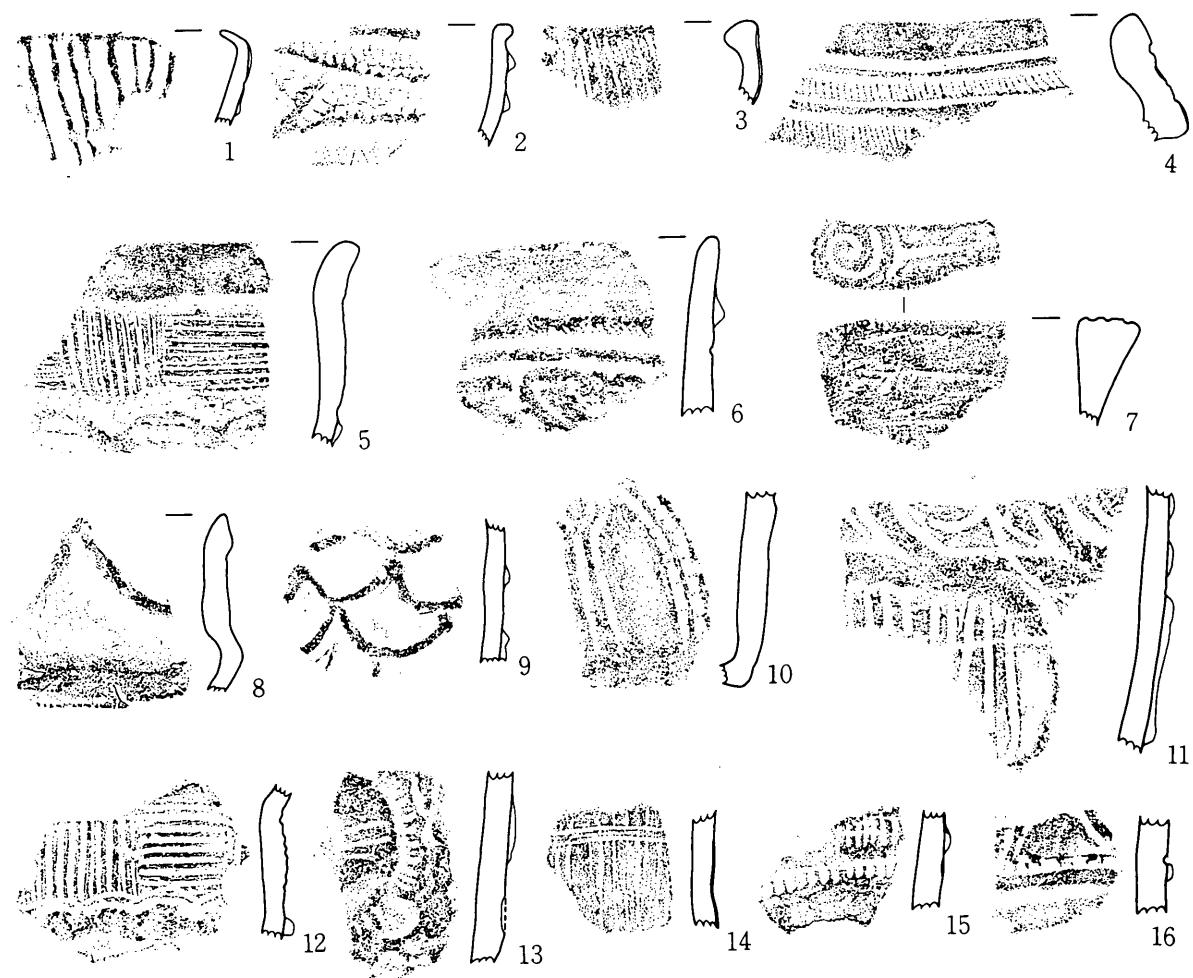


SB39 11 ~ 16

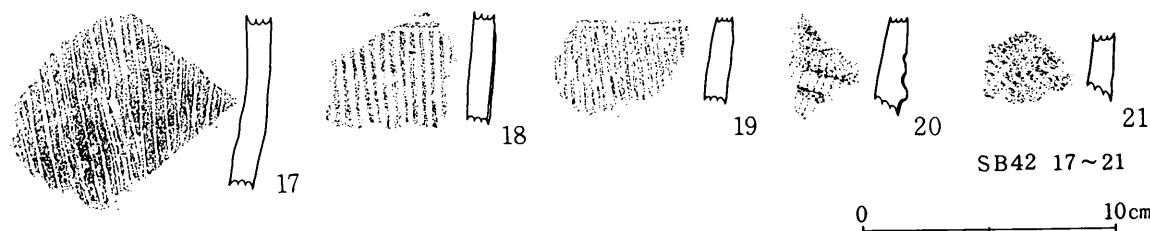


SB40 17 ~ 24

插図89 SB37・39・40出土土器



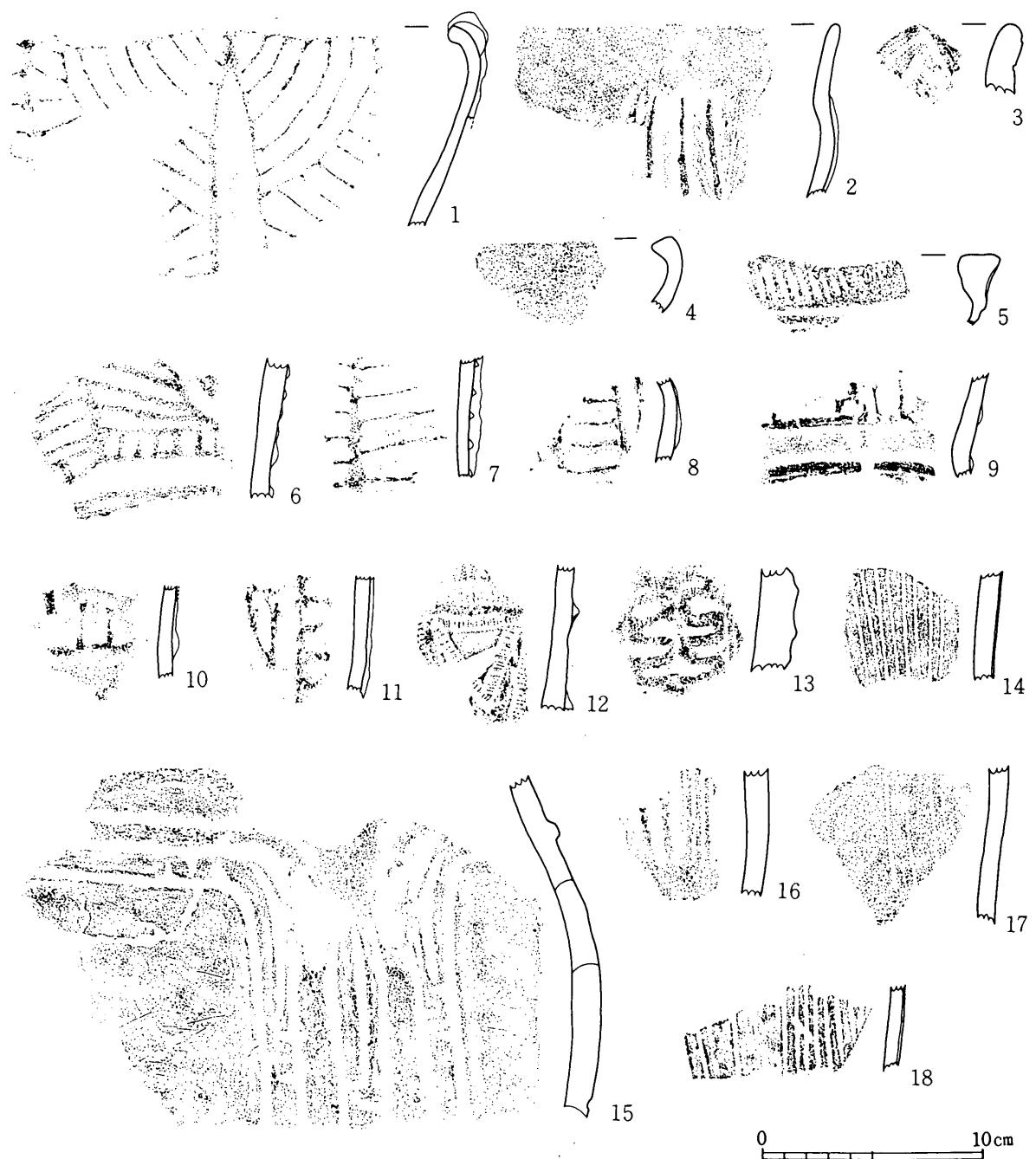
SB41 1~16



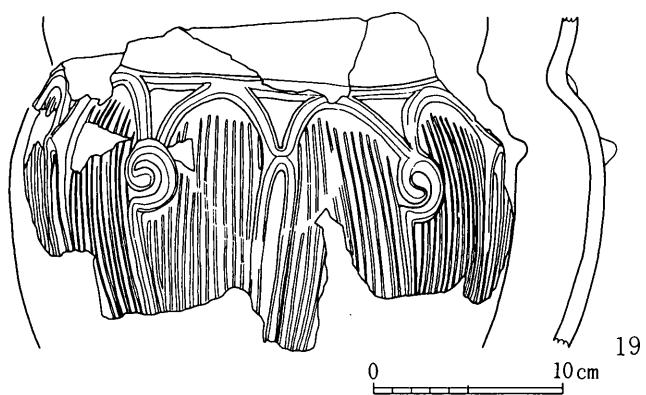
SB42 17~21

0 10 cm

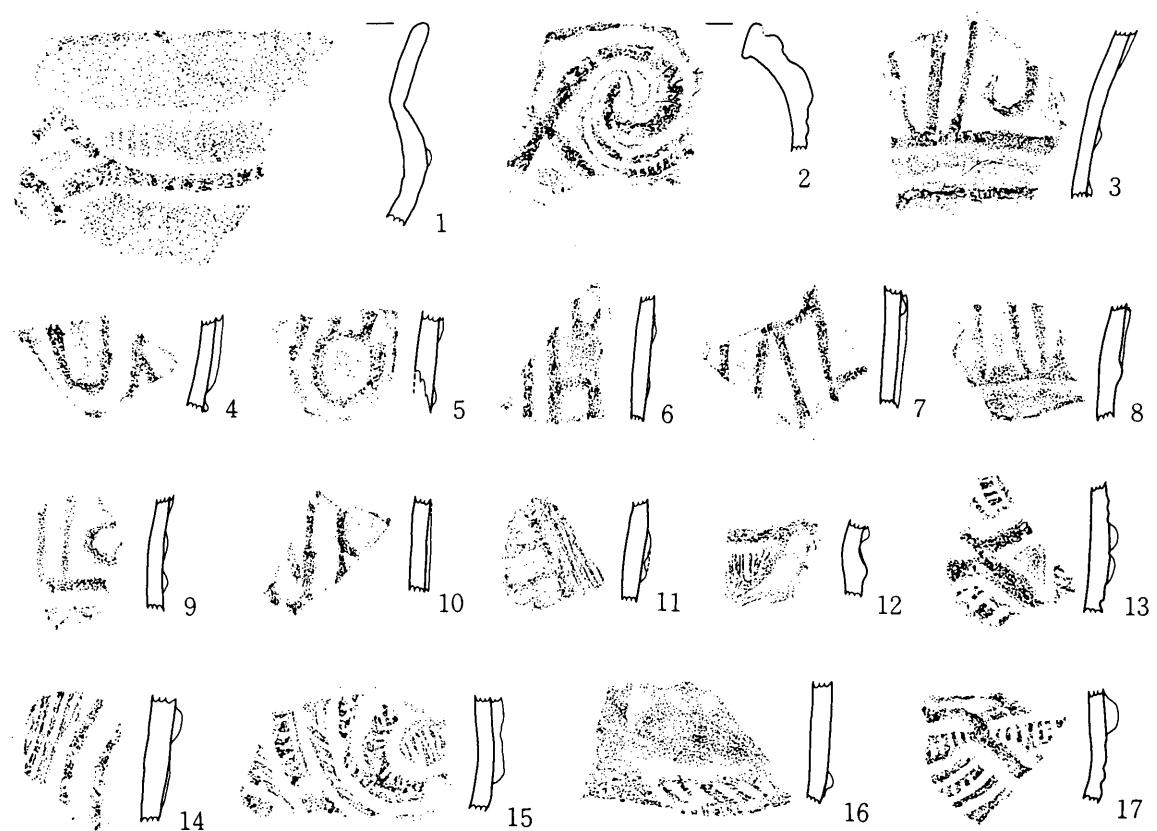
插図90 SB41・42出土土器



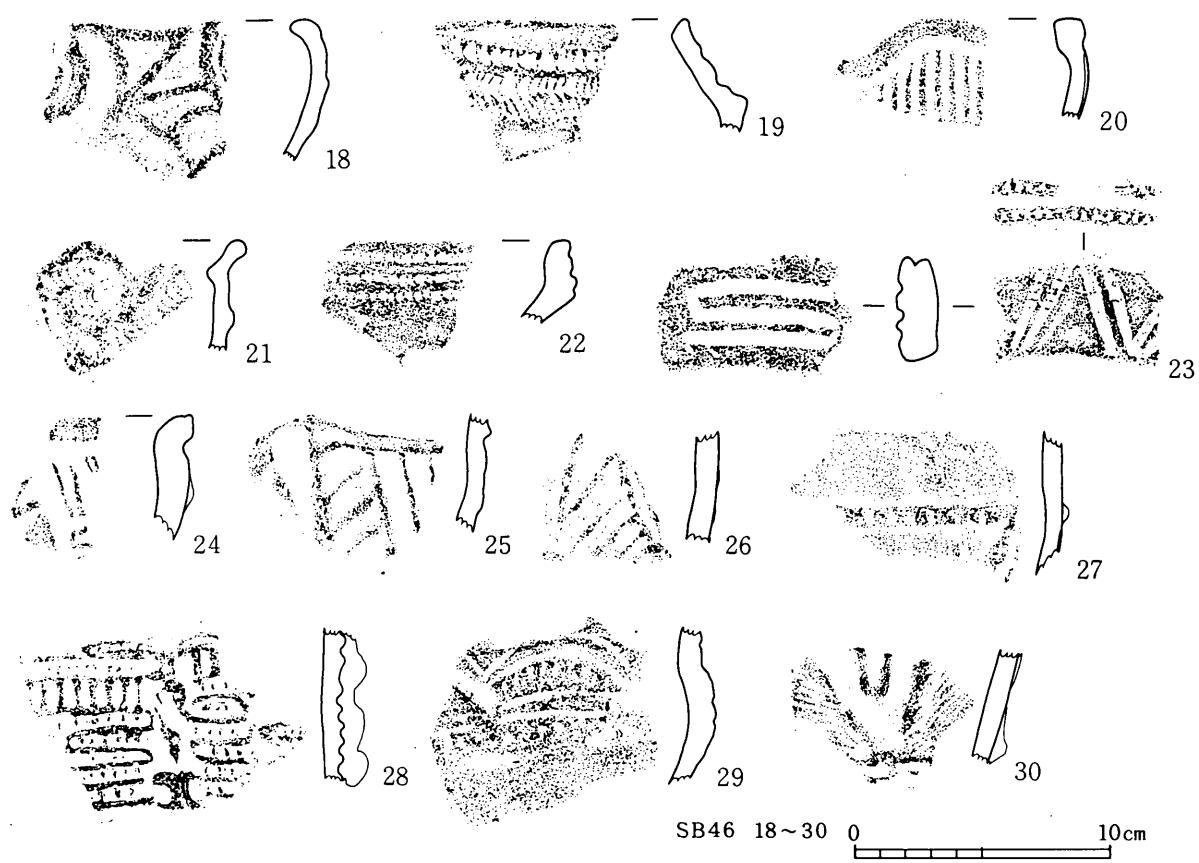
SB43 1~19



插図91 SB43出土土器

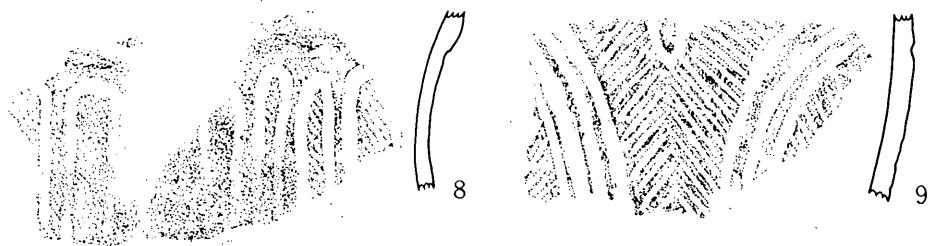
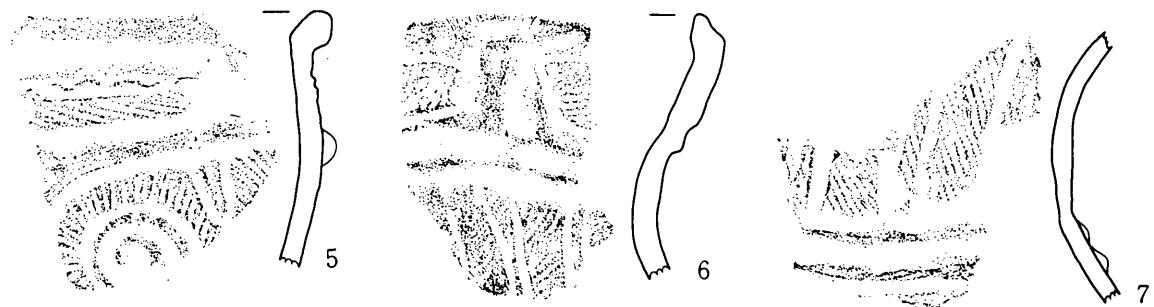
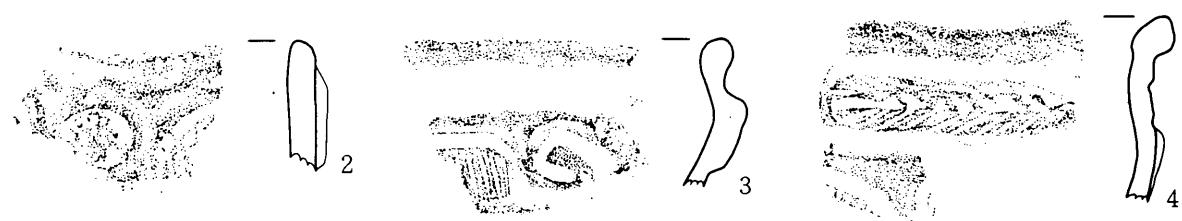
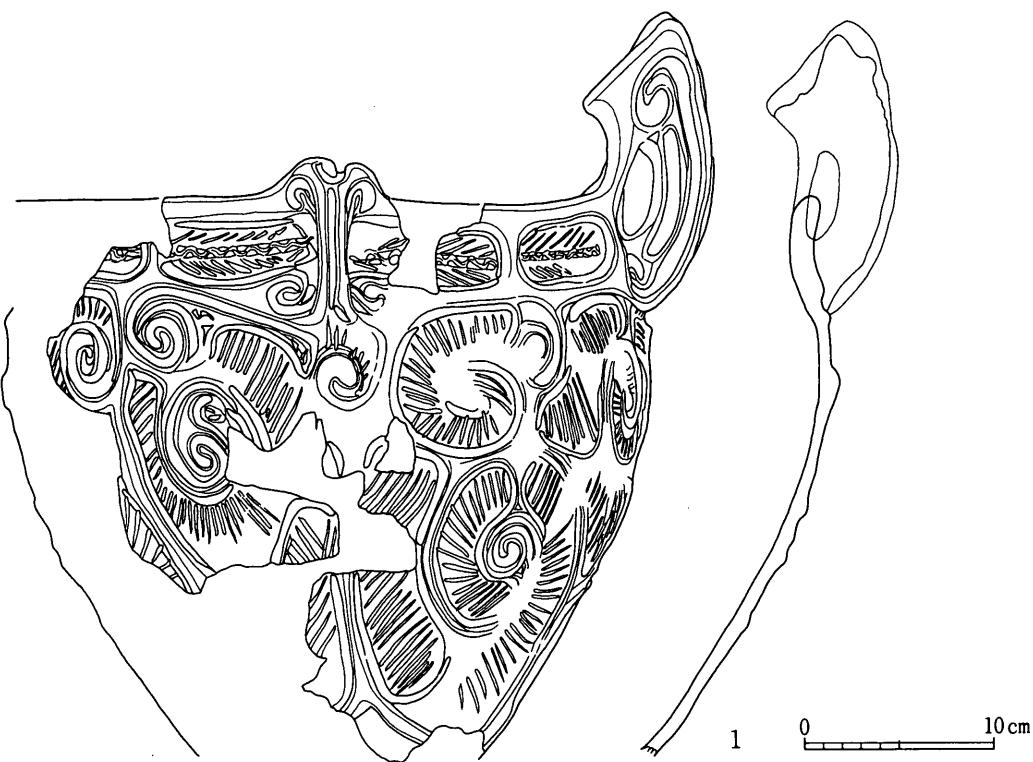


SB44 1~17



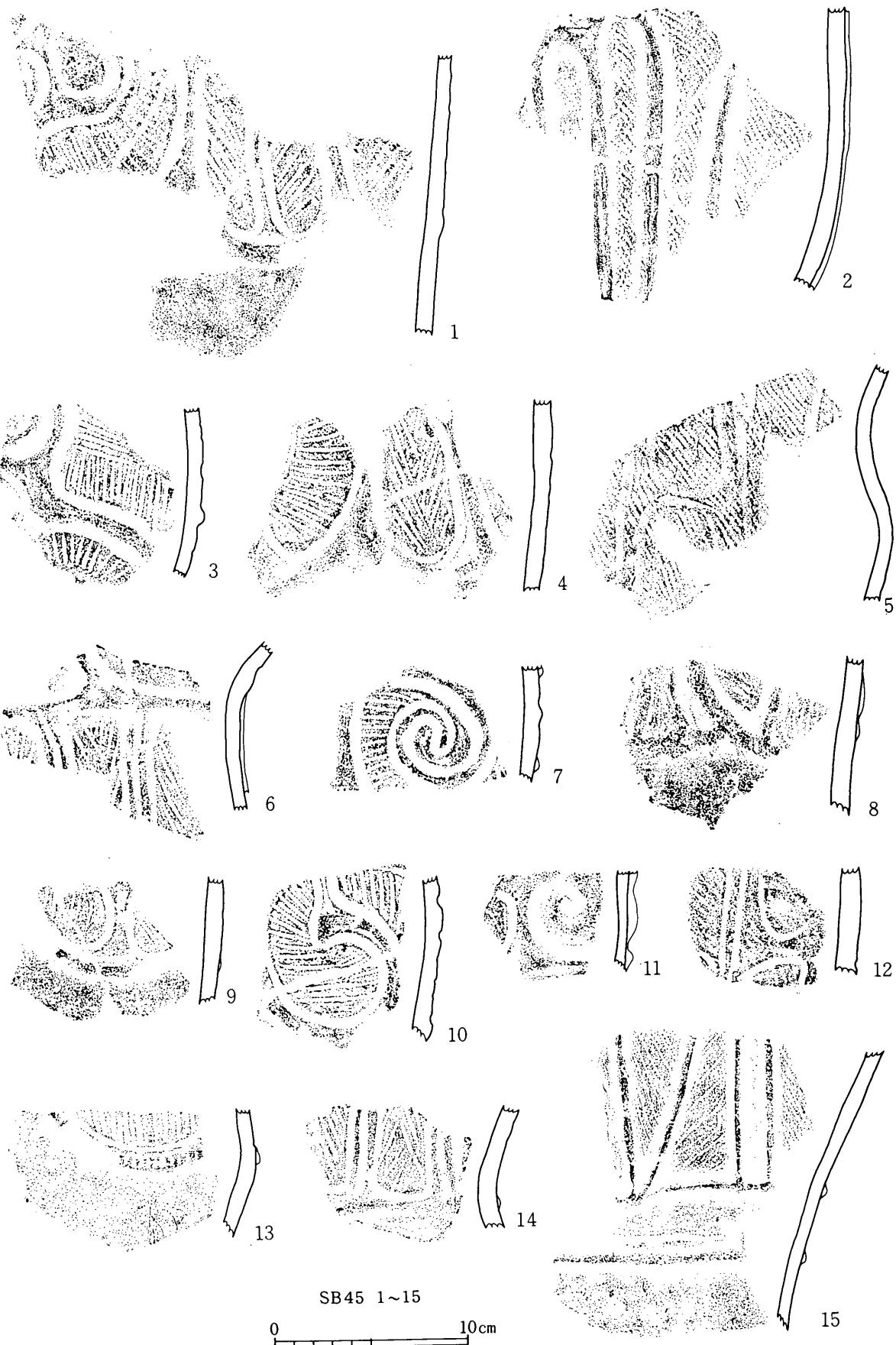
SB46 18~30 0 10cm

插図92 SB44・46出土土器

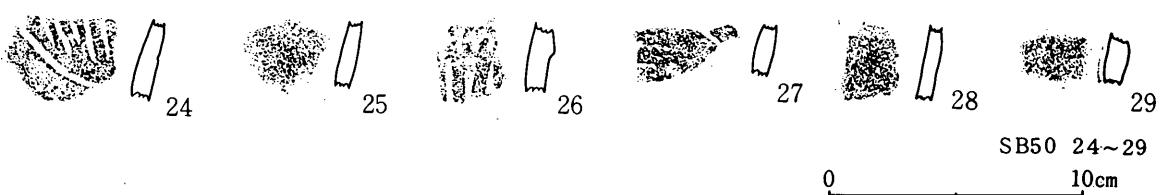
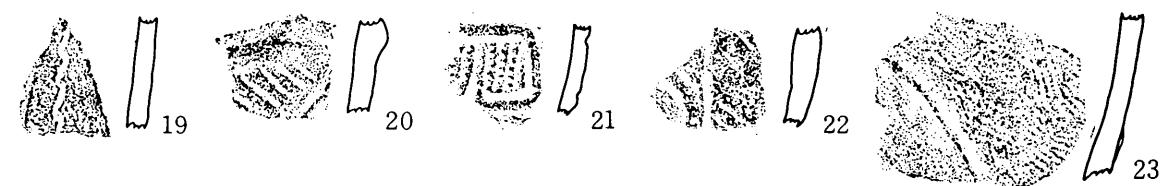
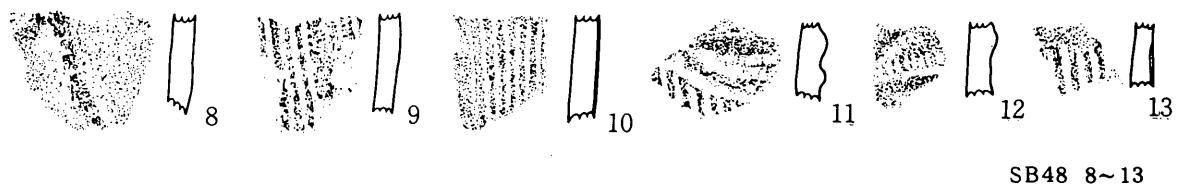
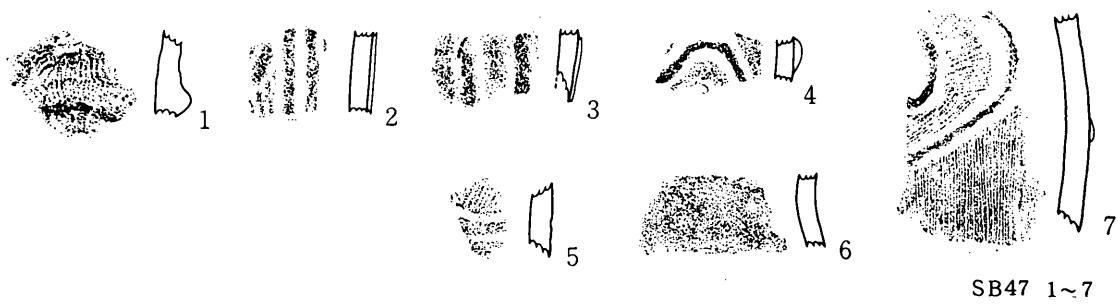


SB45 1~9 0 10cm

挿図93 SB45出土土器(1)



插図94 S B 4 5 出土土器 (2)

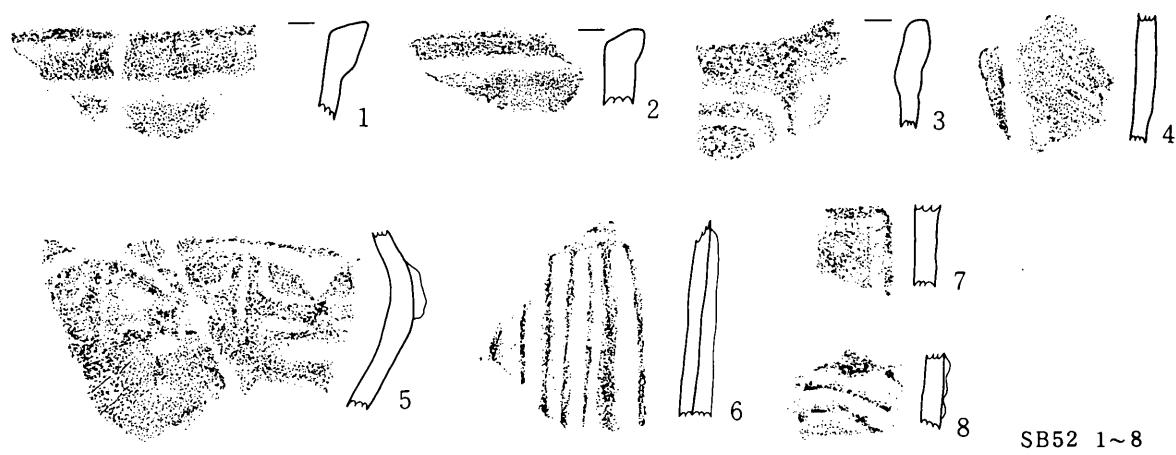


0 10cm

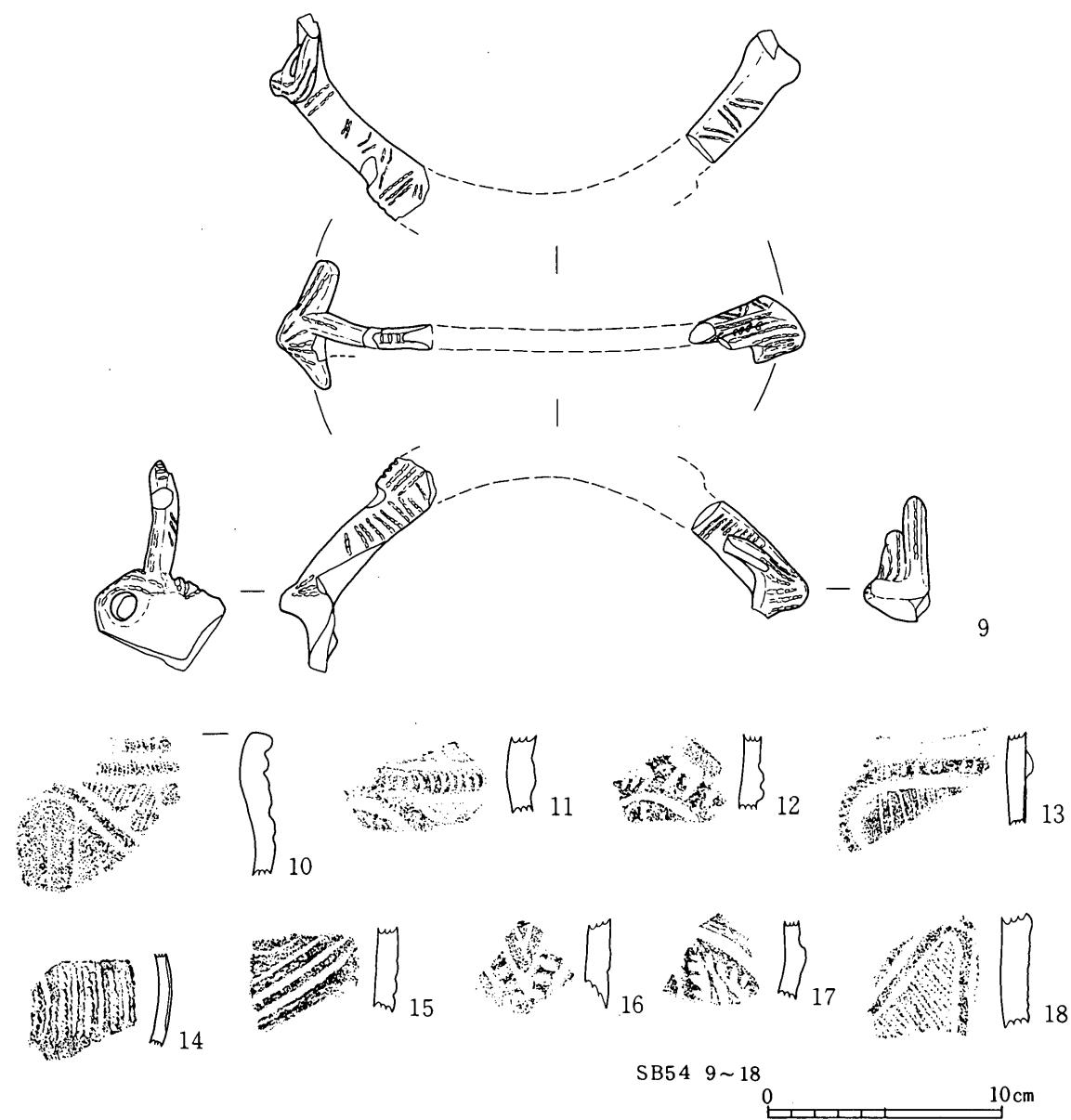
挿図95 SB47・48・49・50出土土器



挿図96 SB51出土土器



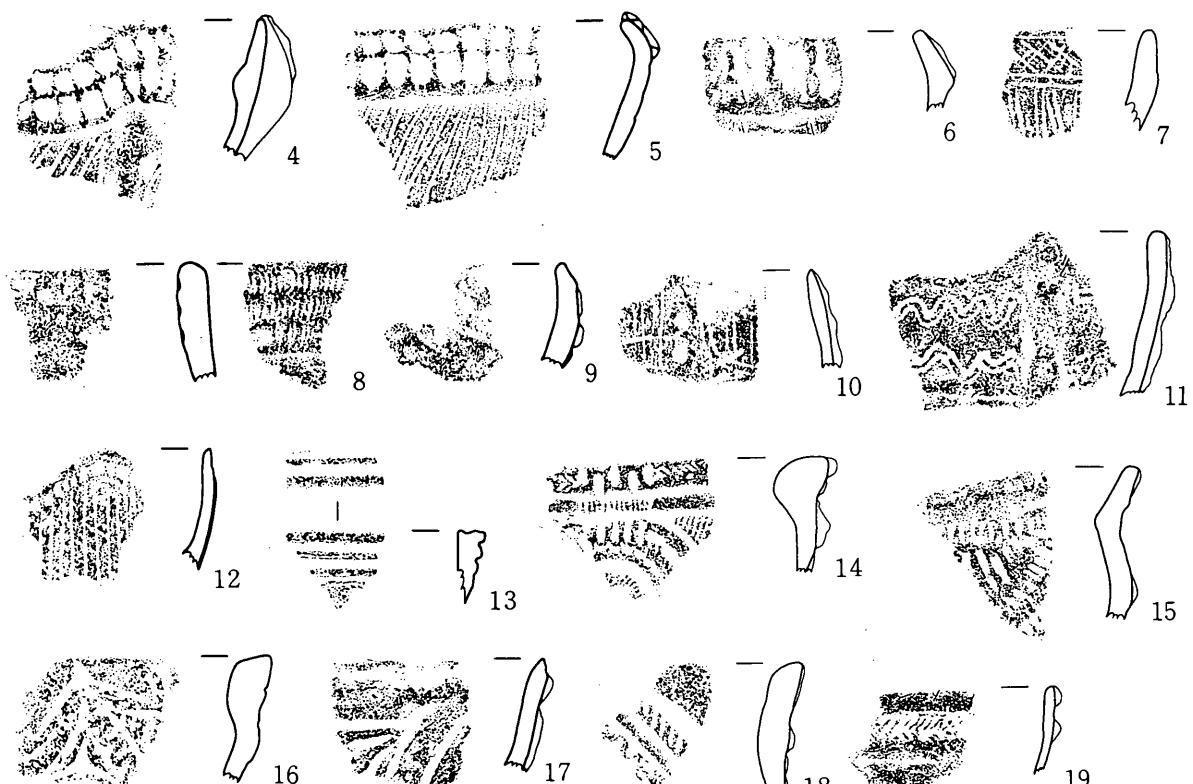
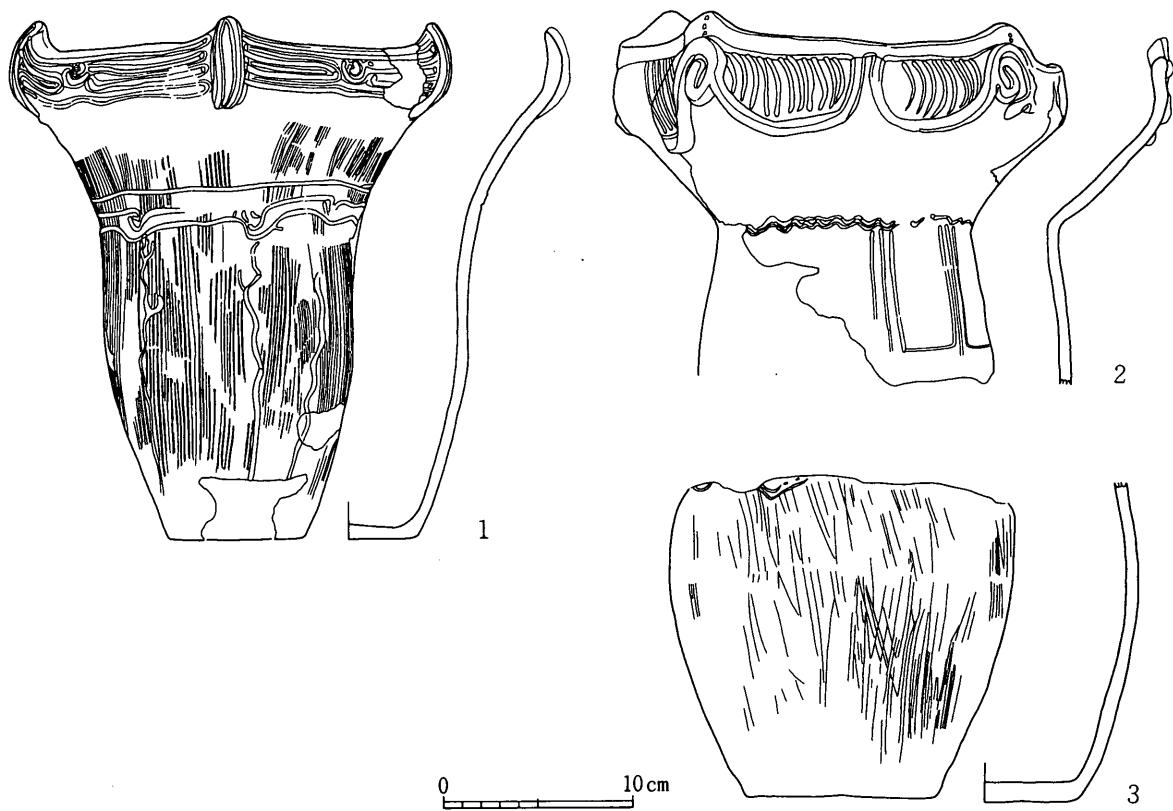
SB52 1~8



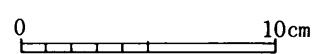
SB54 9~18

0 10 cm

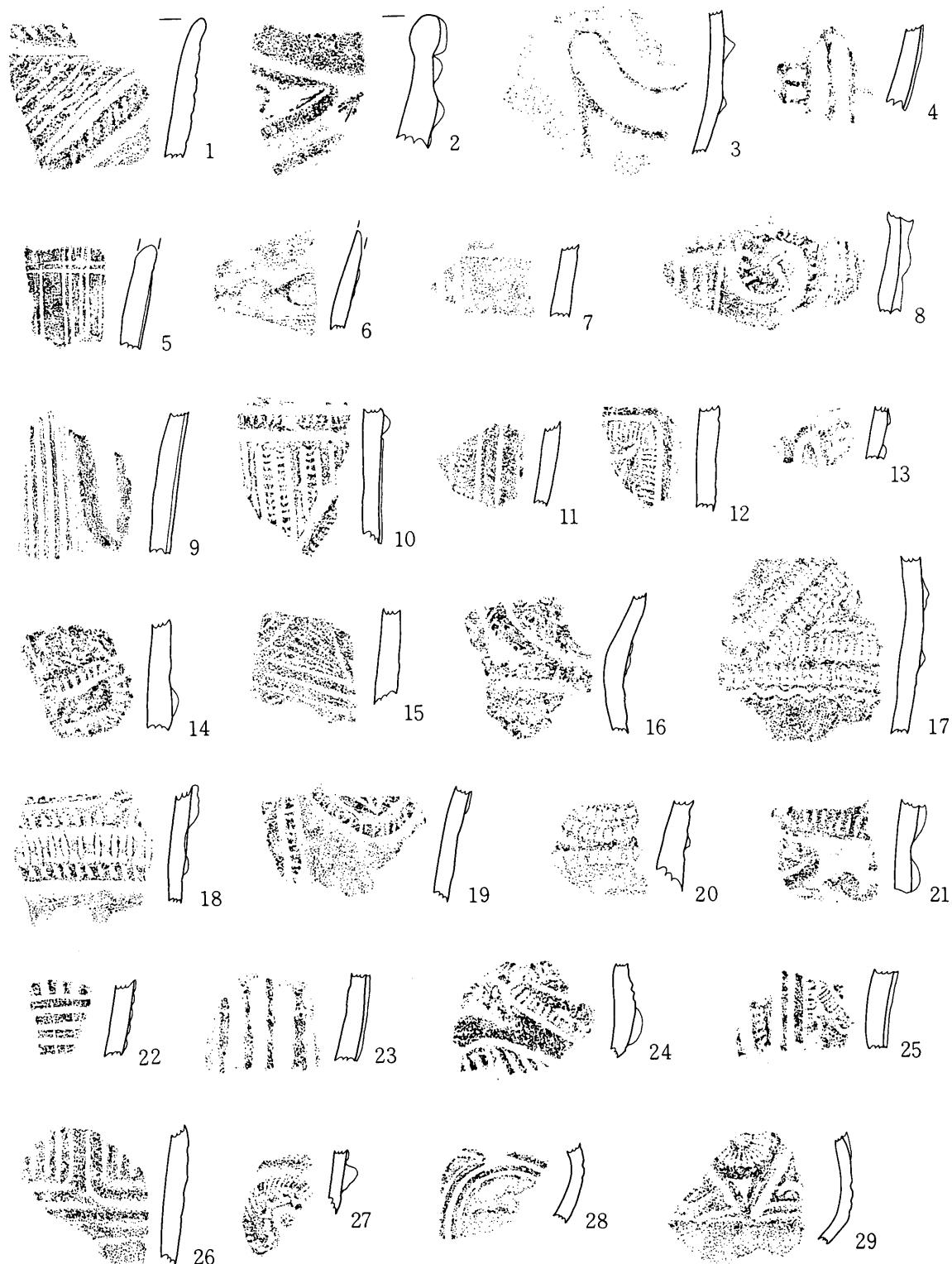
插図97 SB52・54出土土器



SB53 1~19



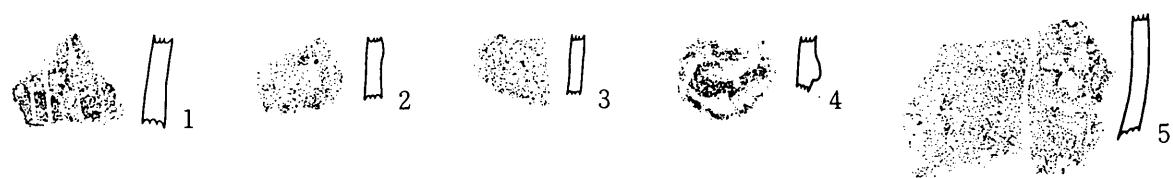
挿図98 SB53出土土器 (1)



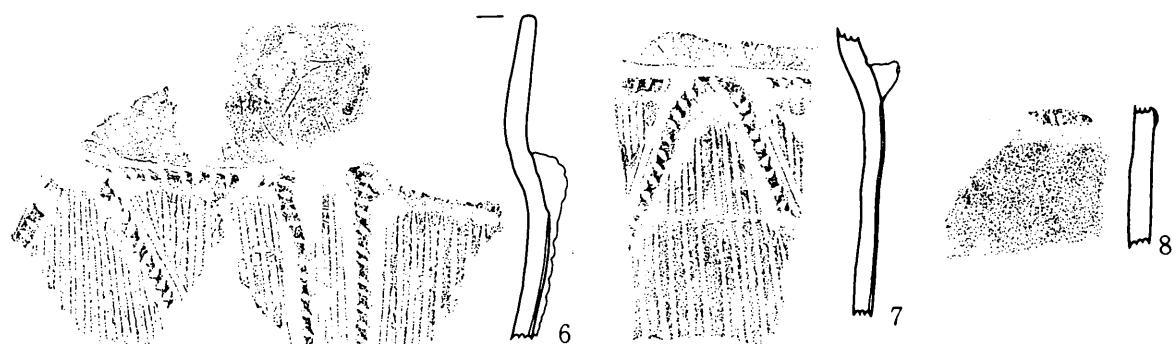
SB53 1~29

0 10cm

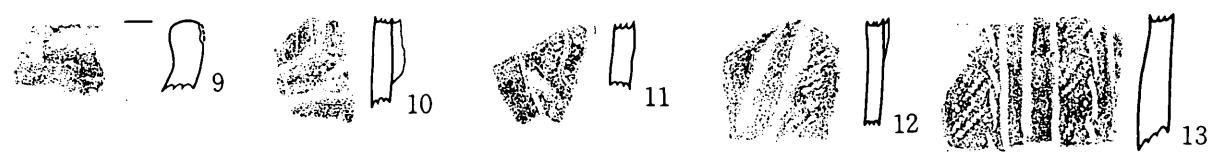
插図99 SB 5 3 出土土器 (2)



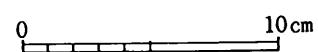
SB55 1~5



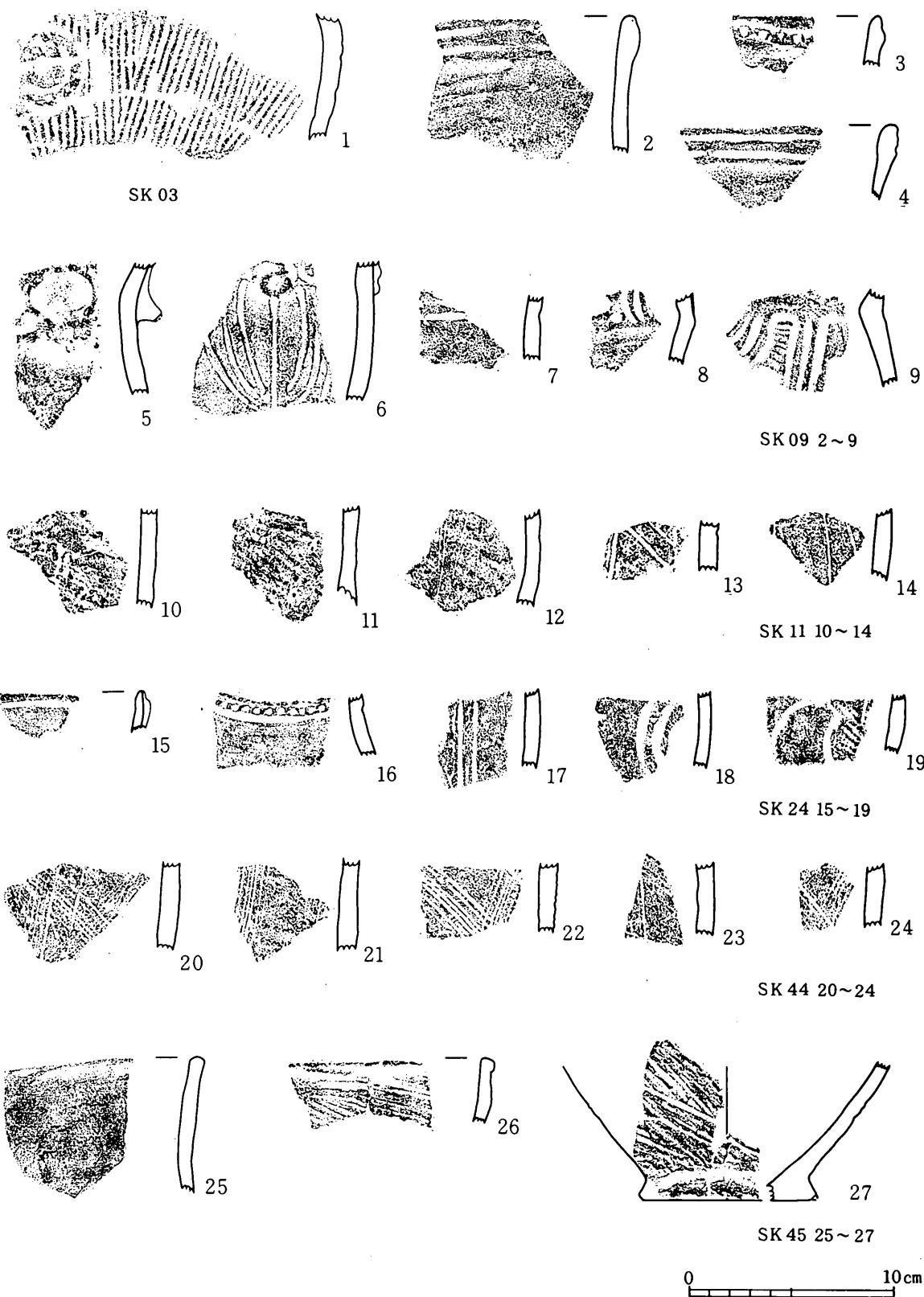
SB56 6~8



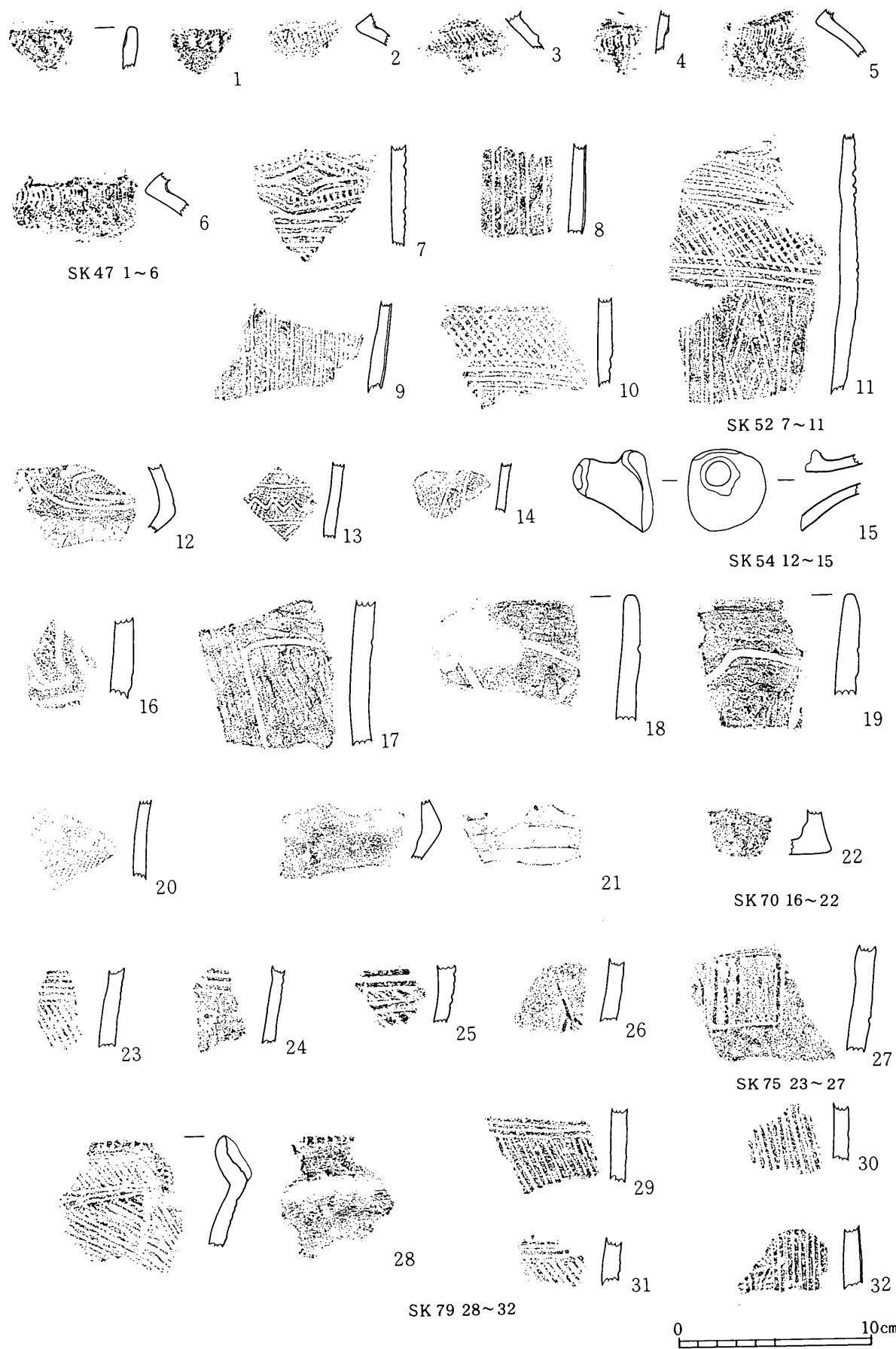
SB58 9~13



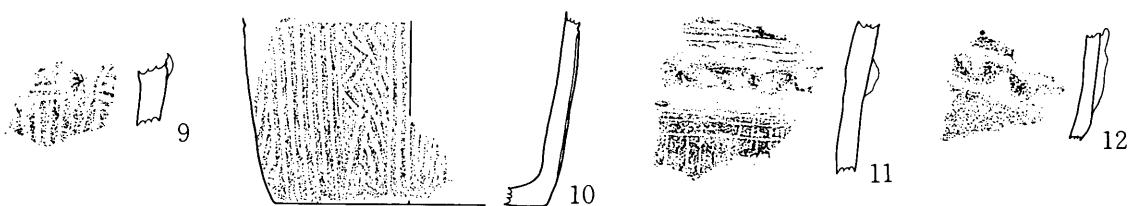
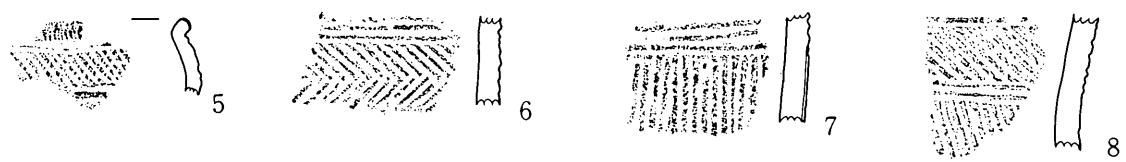
挿図100 SB55・56・58出土土器



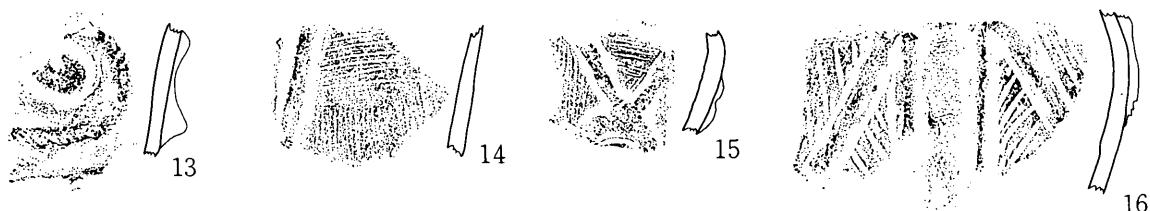
插図101 SB03・09・11・24・44・45出土土器



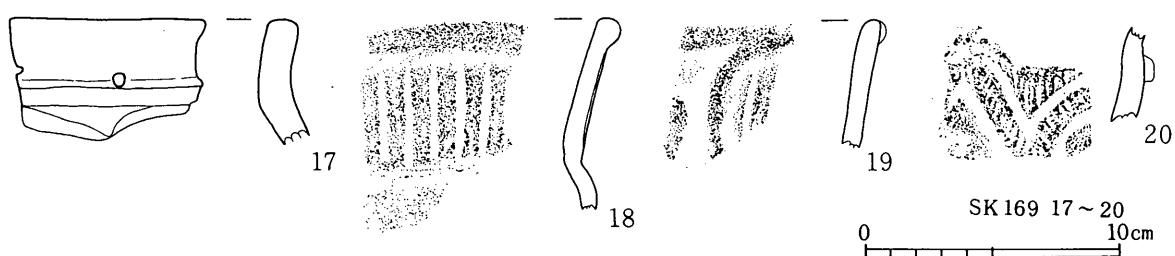
挿図102 SK 47・52・54・70・75・79出土土器



SK 81 1~10



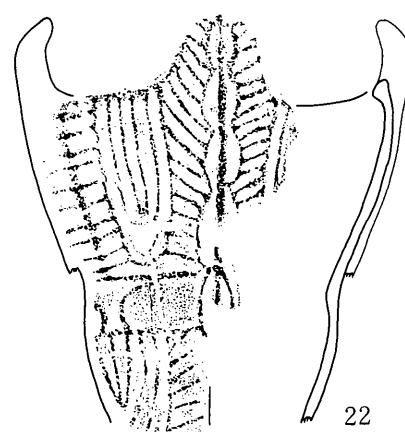
SK 141 11~16



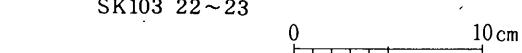
SK 169 17~20
10cm



SK 09

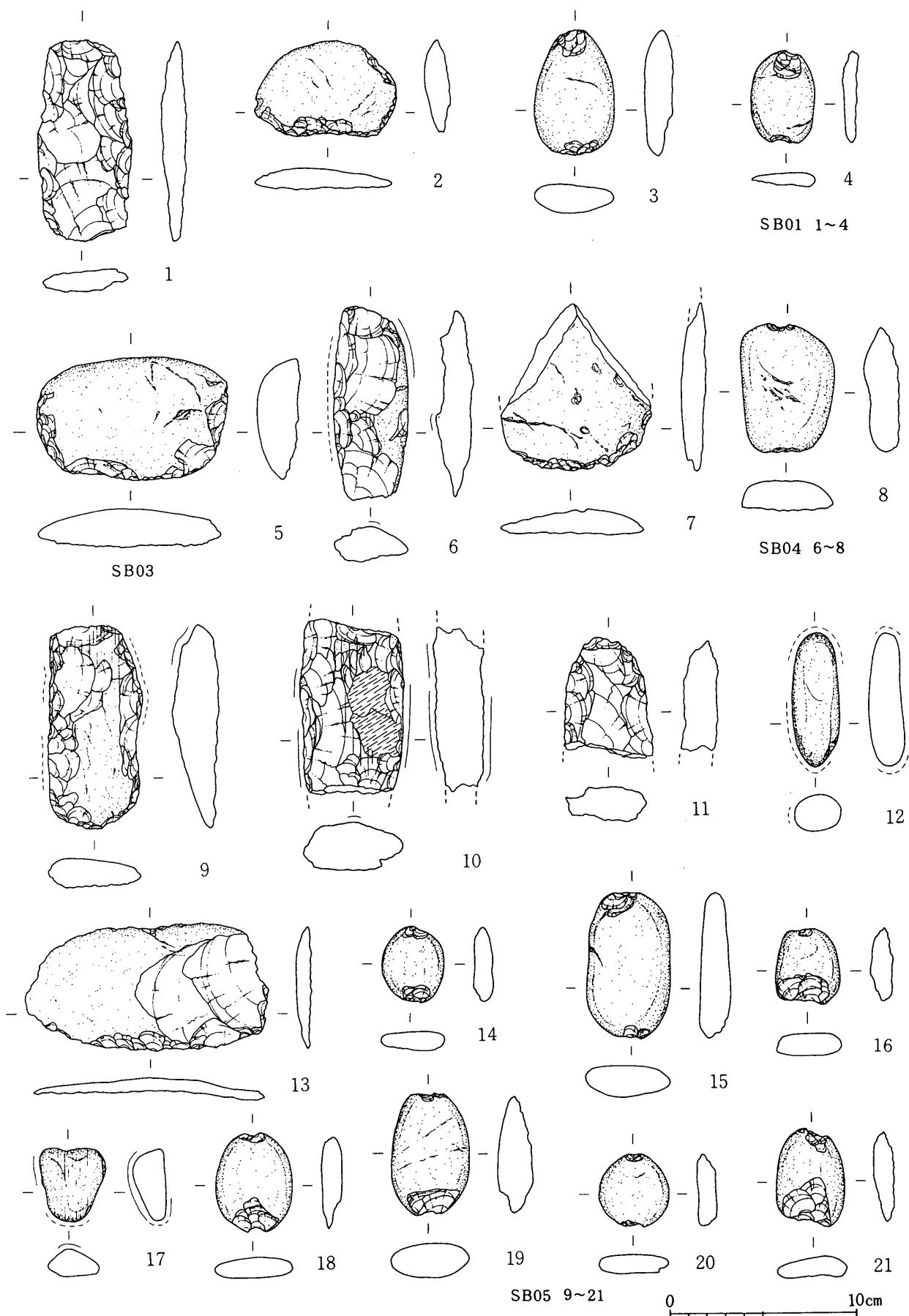


SK 103 22~23

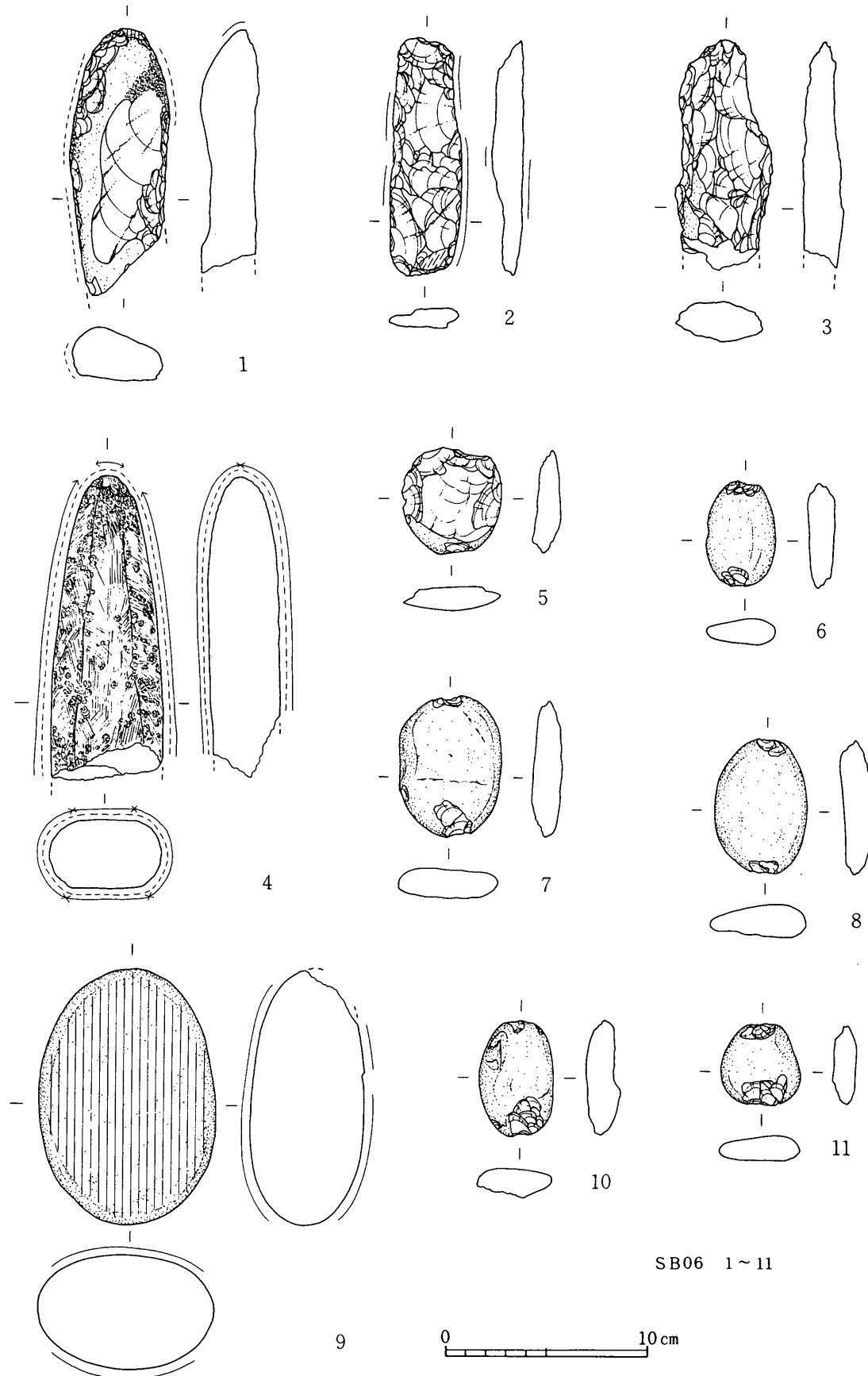


0 10 cm

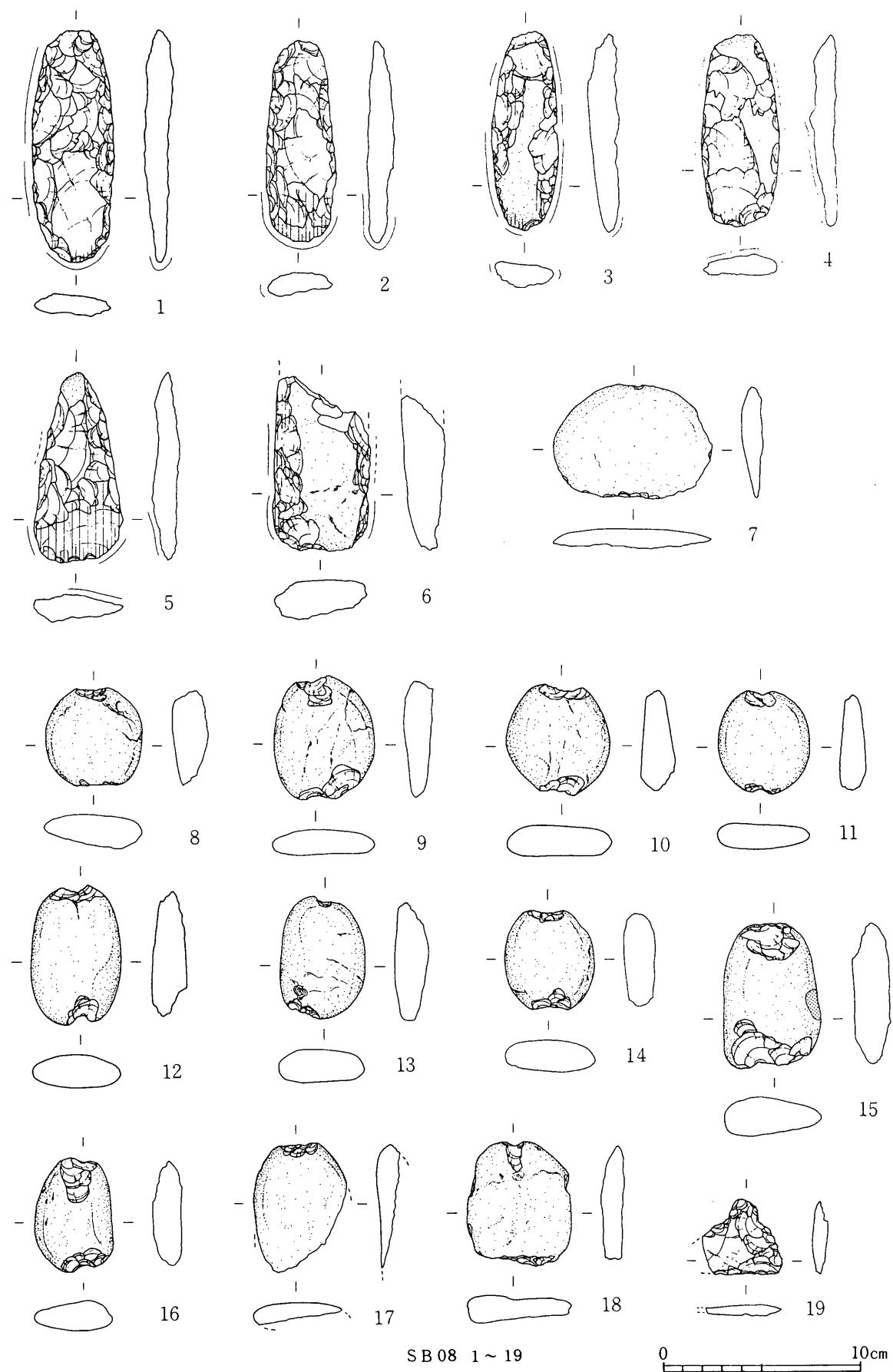
挿図103 SK 81・141・169・103・09出土土器



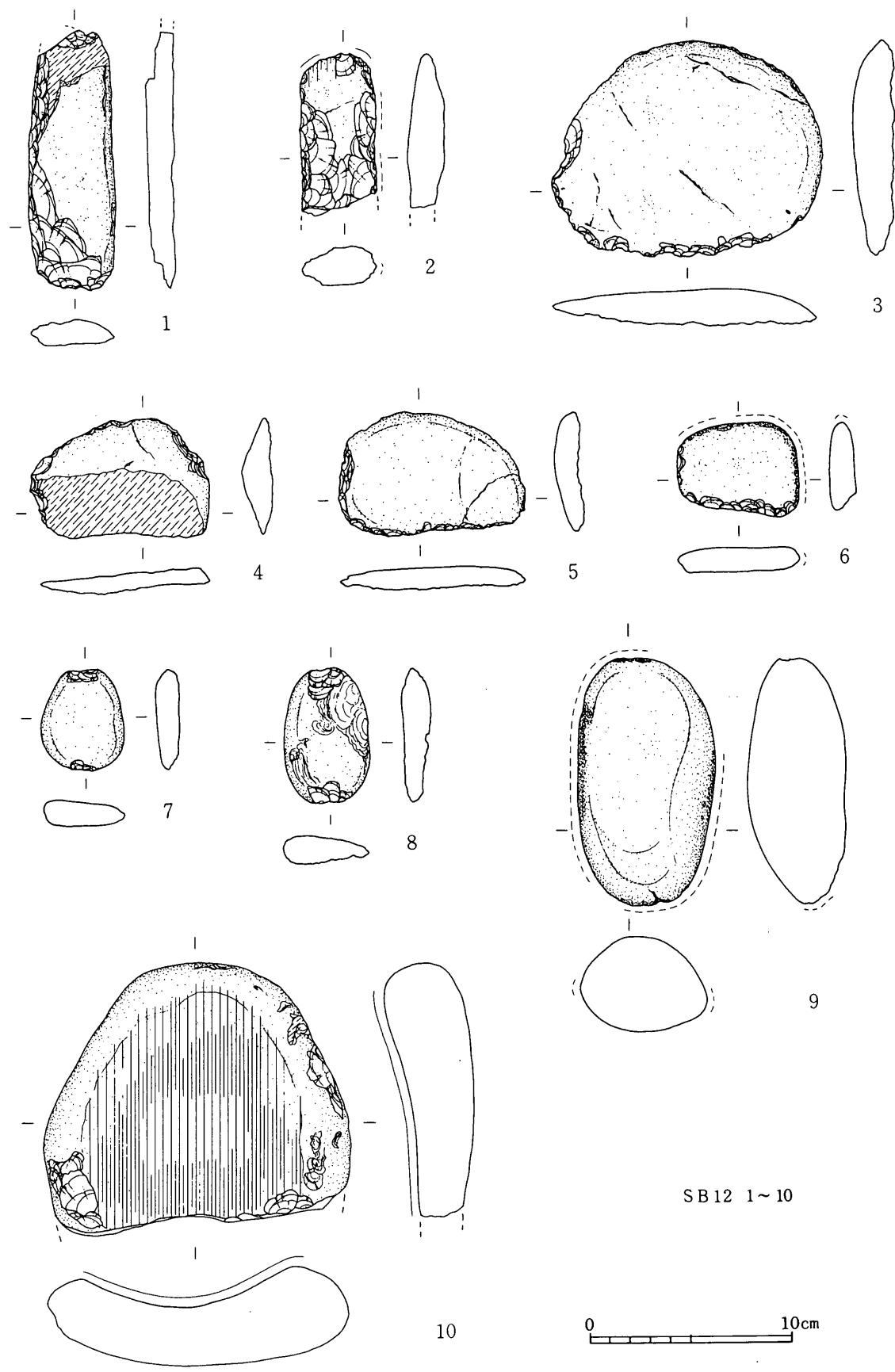
挿図104 SB01・03・04・05出土土器



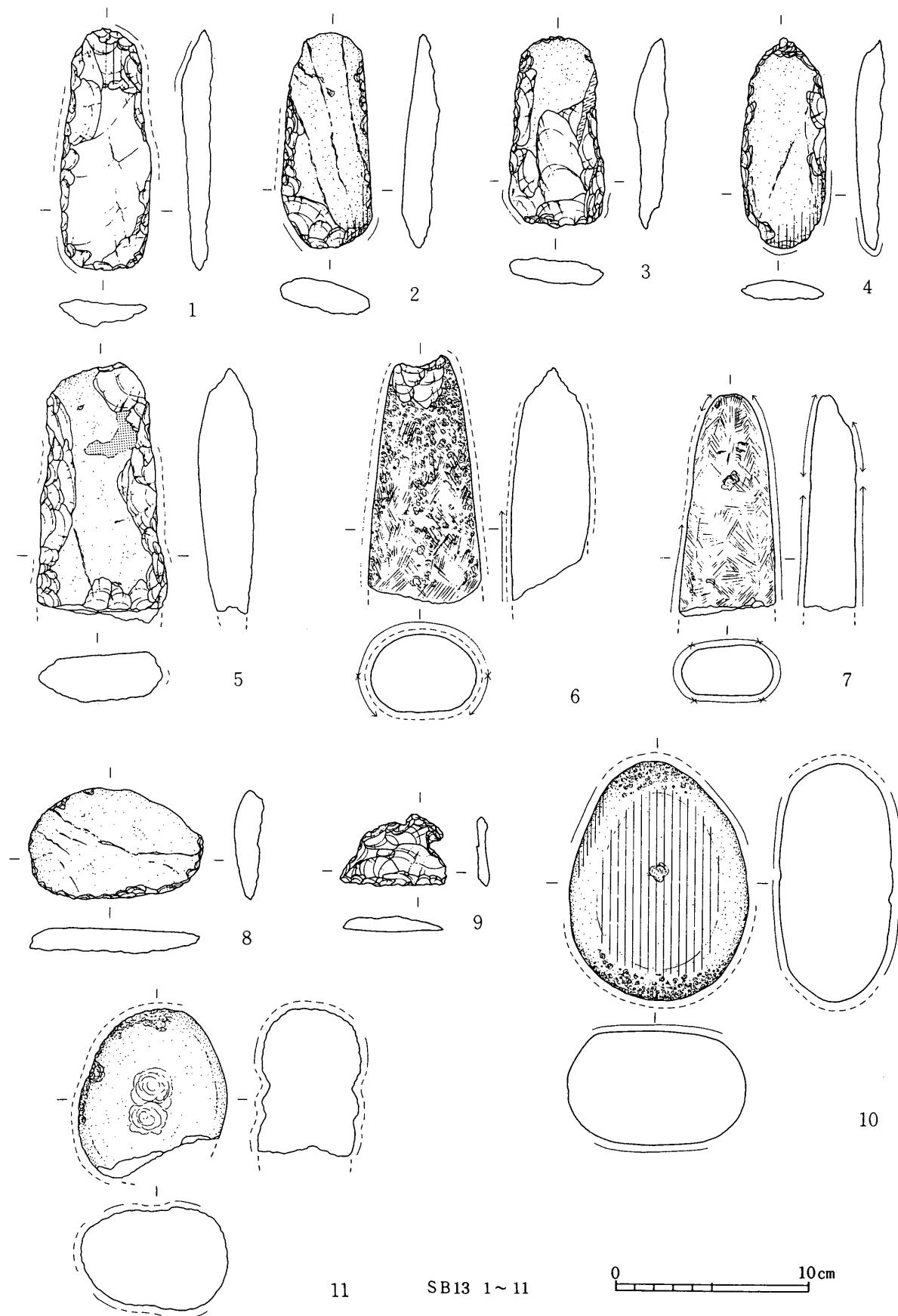
插図105 SB06 出土石器



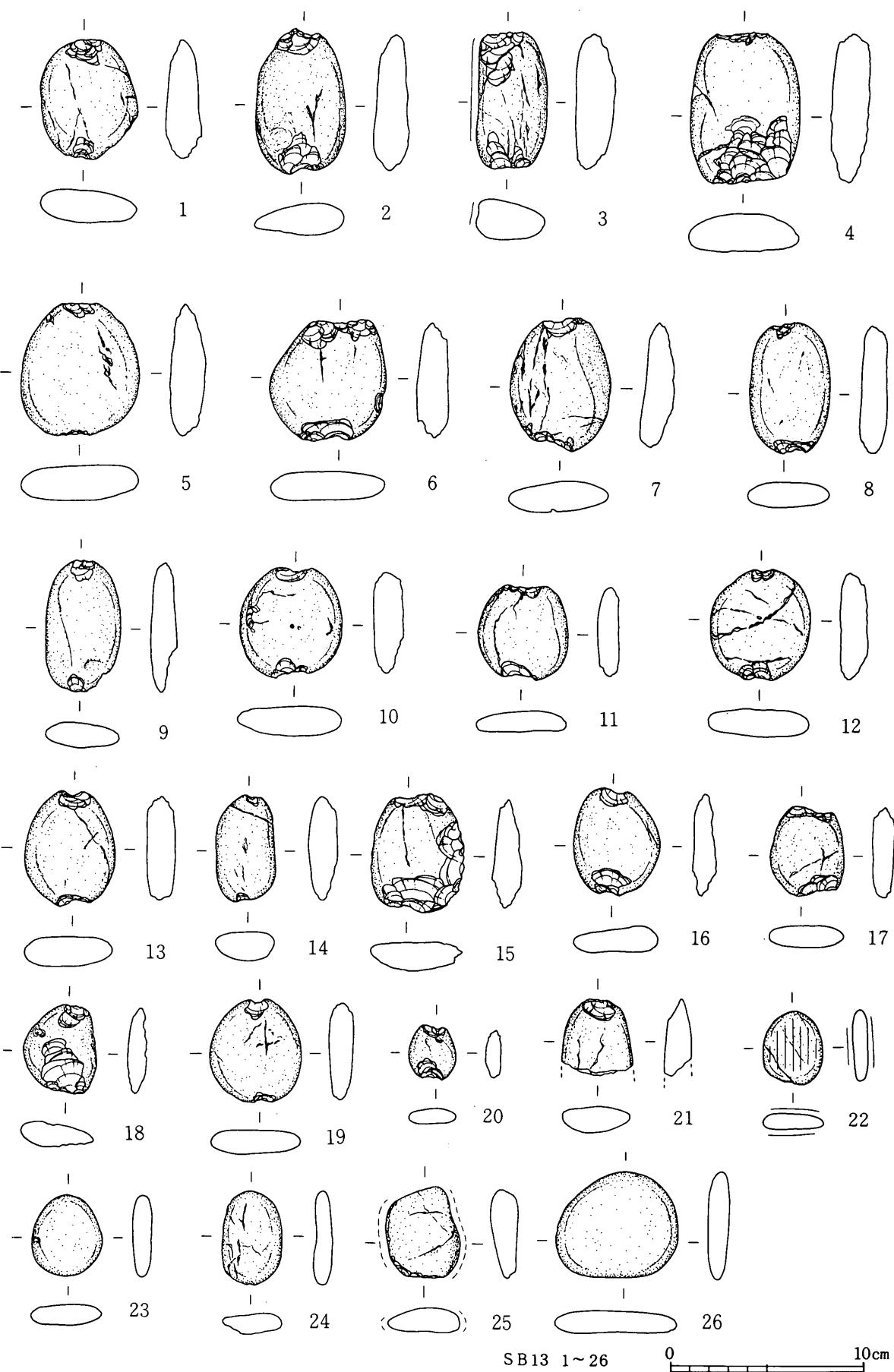
挿図106 SB 08 出土石器



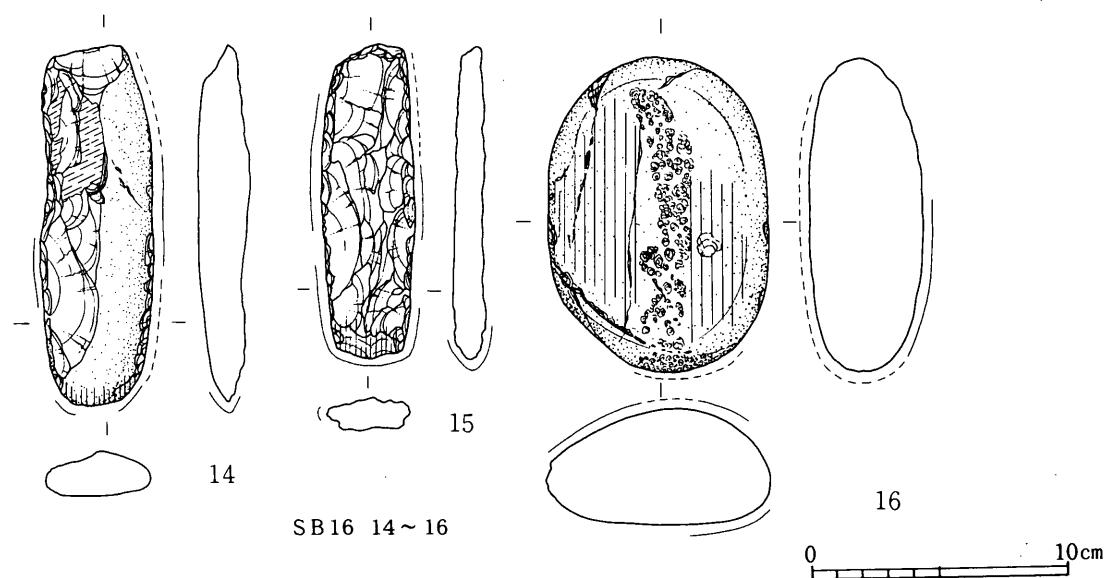
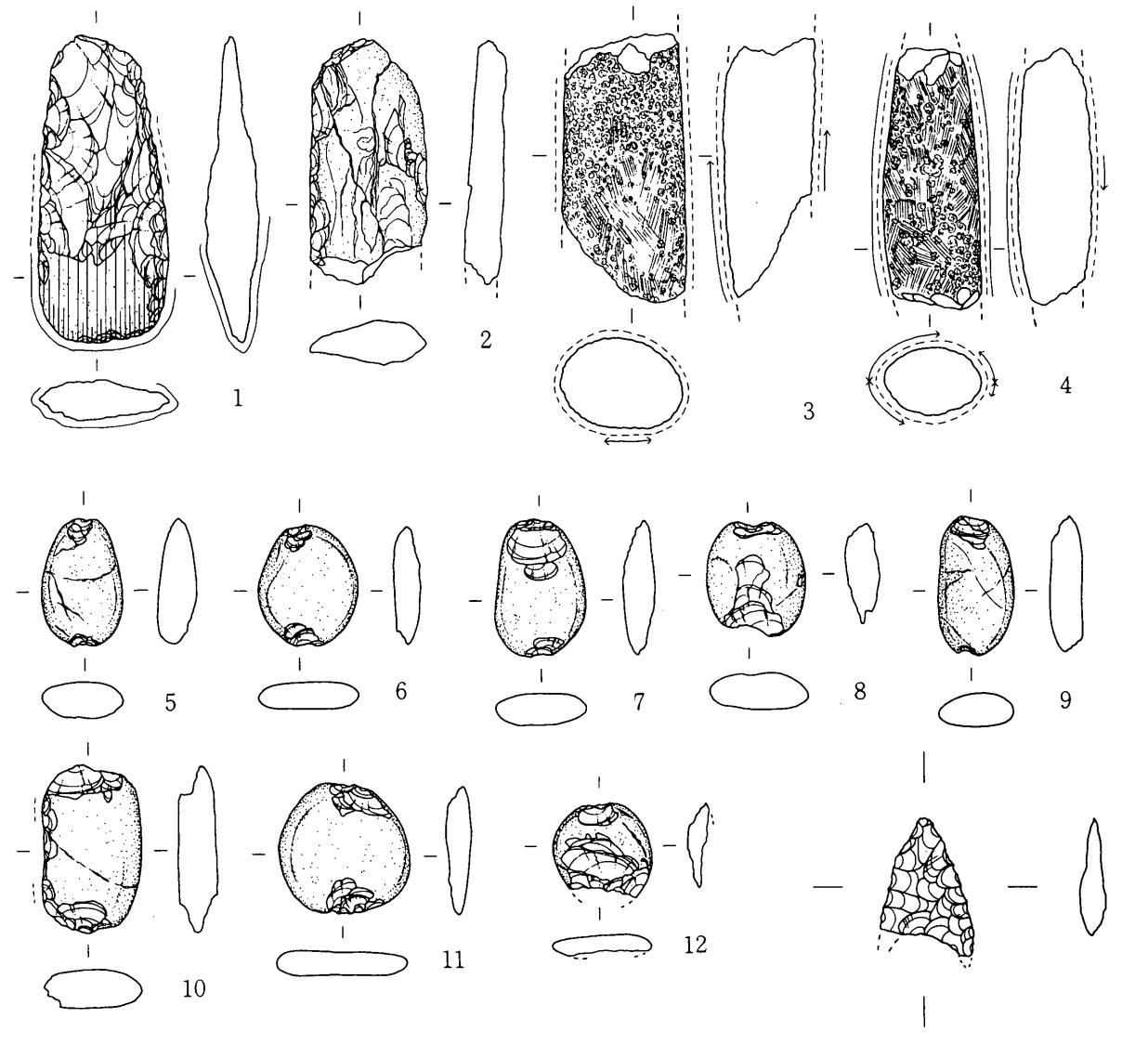
挿図107 SB 1 2 出土石器



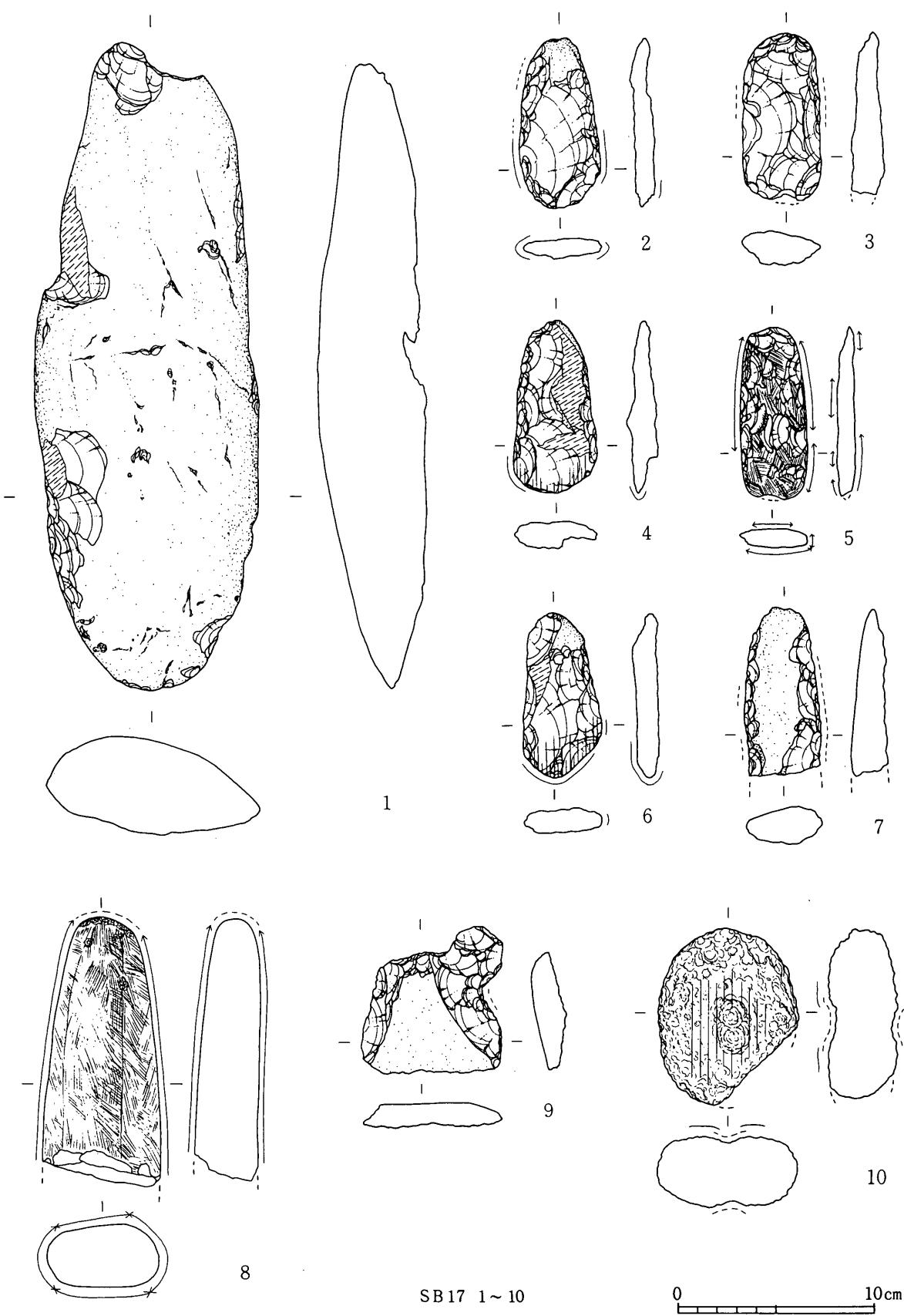
挿図108 SB 1 3 出土石器 (1)



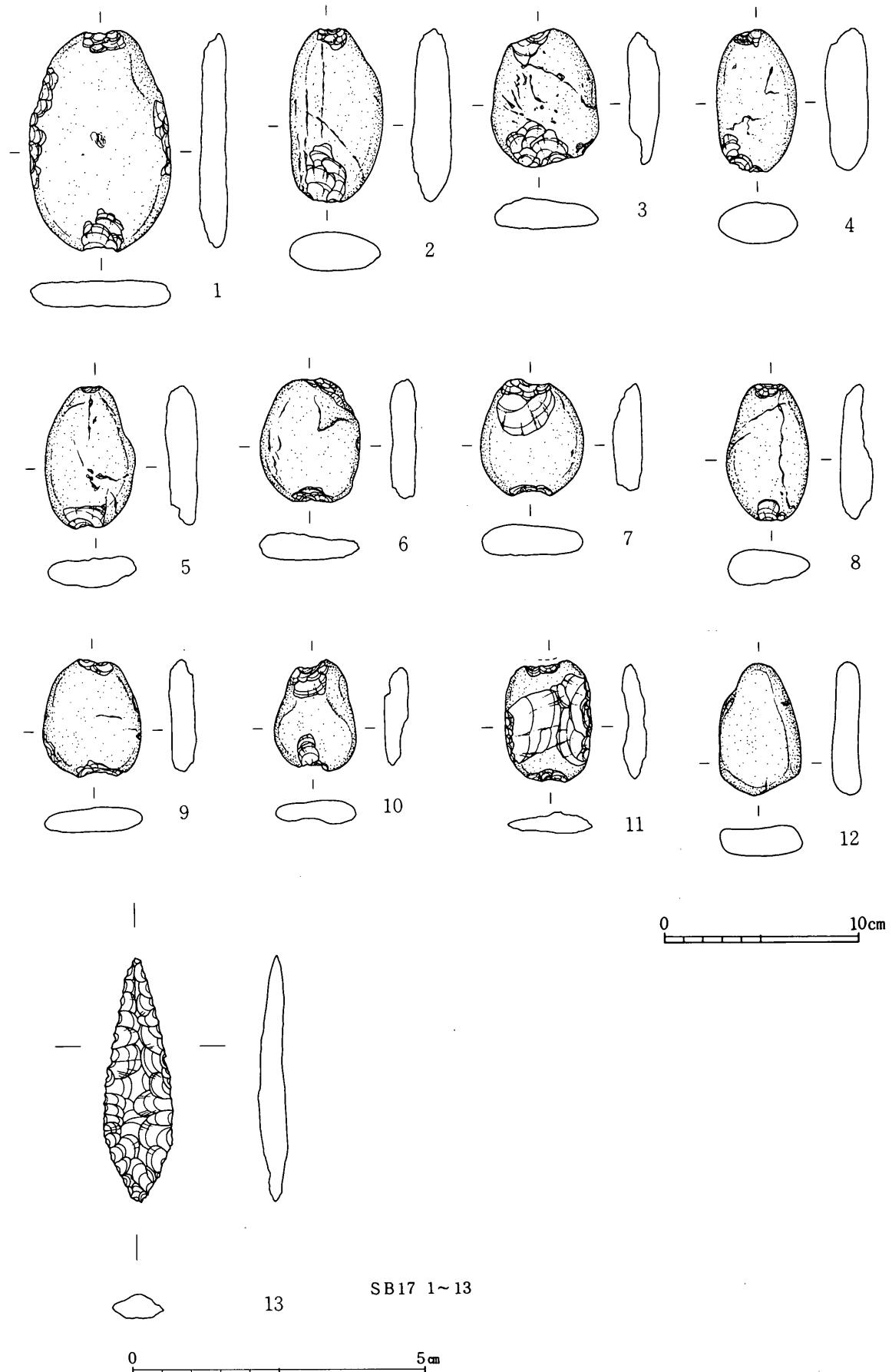
插図109 SB 1 3 出土石器 (2)



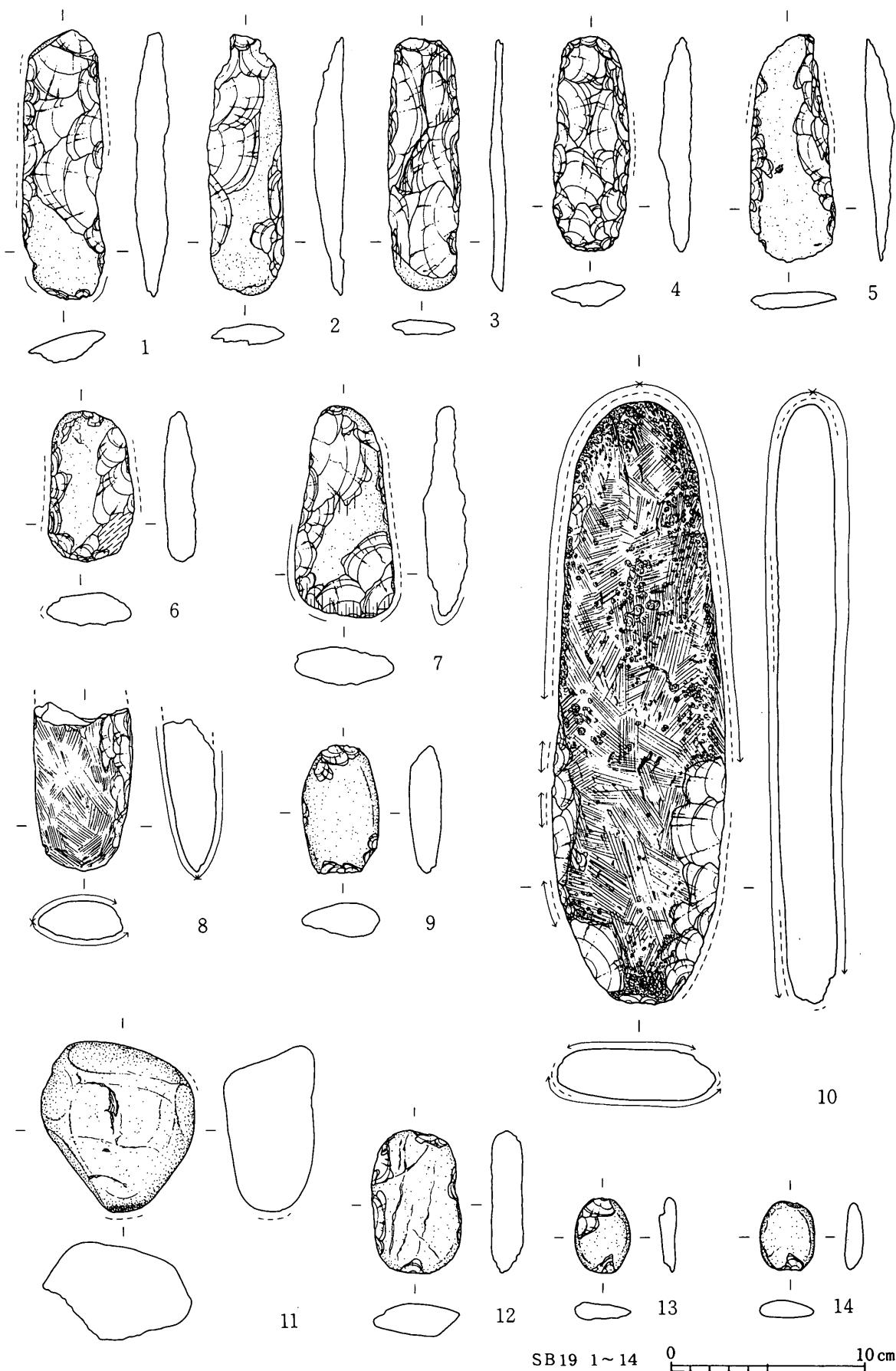
挿図110 SB 15・16出土石器



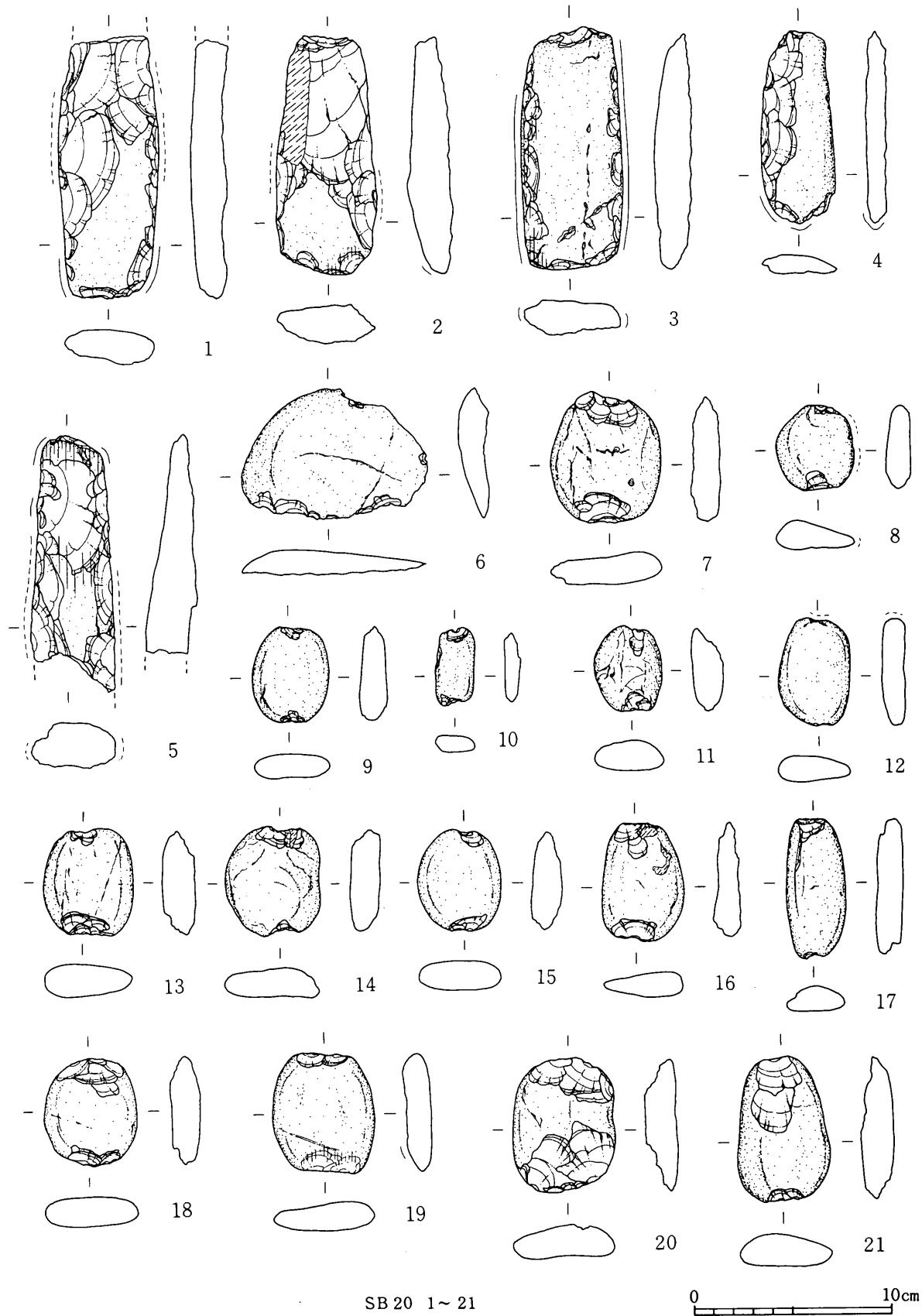
插図111 SB 17 出土石器（1）



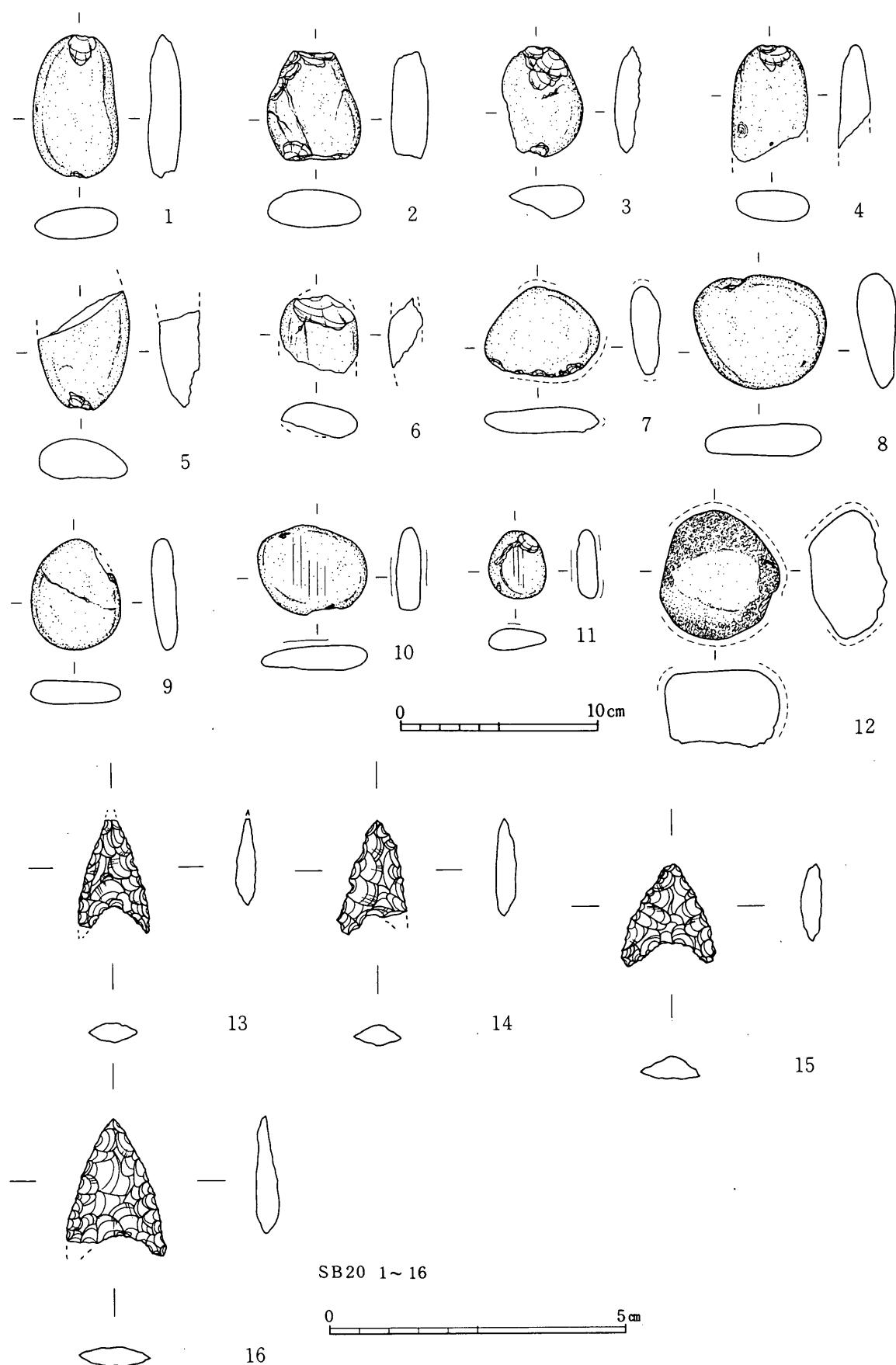
挿図112 SB 17 出土石器 (2)



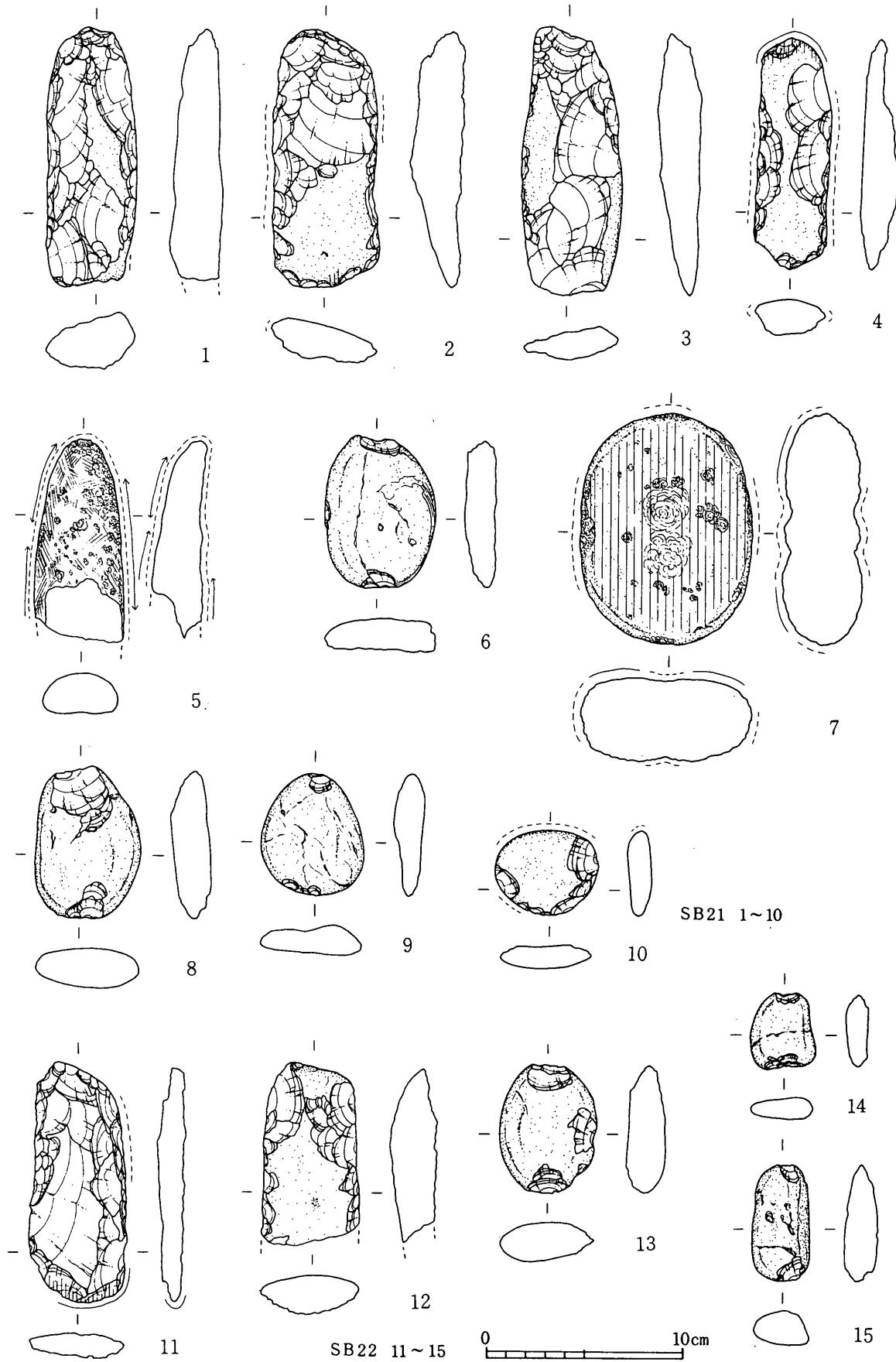
插図113 SB 19 出土石器



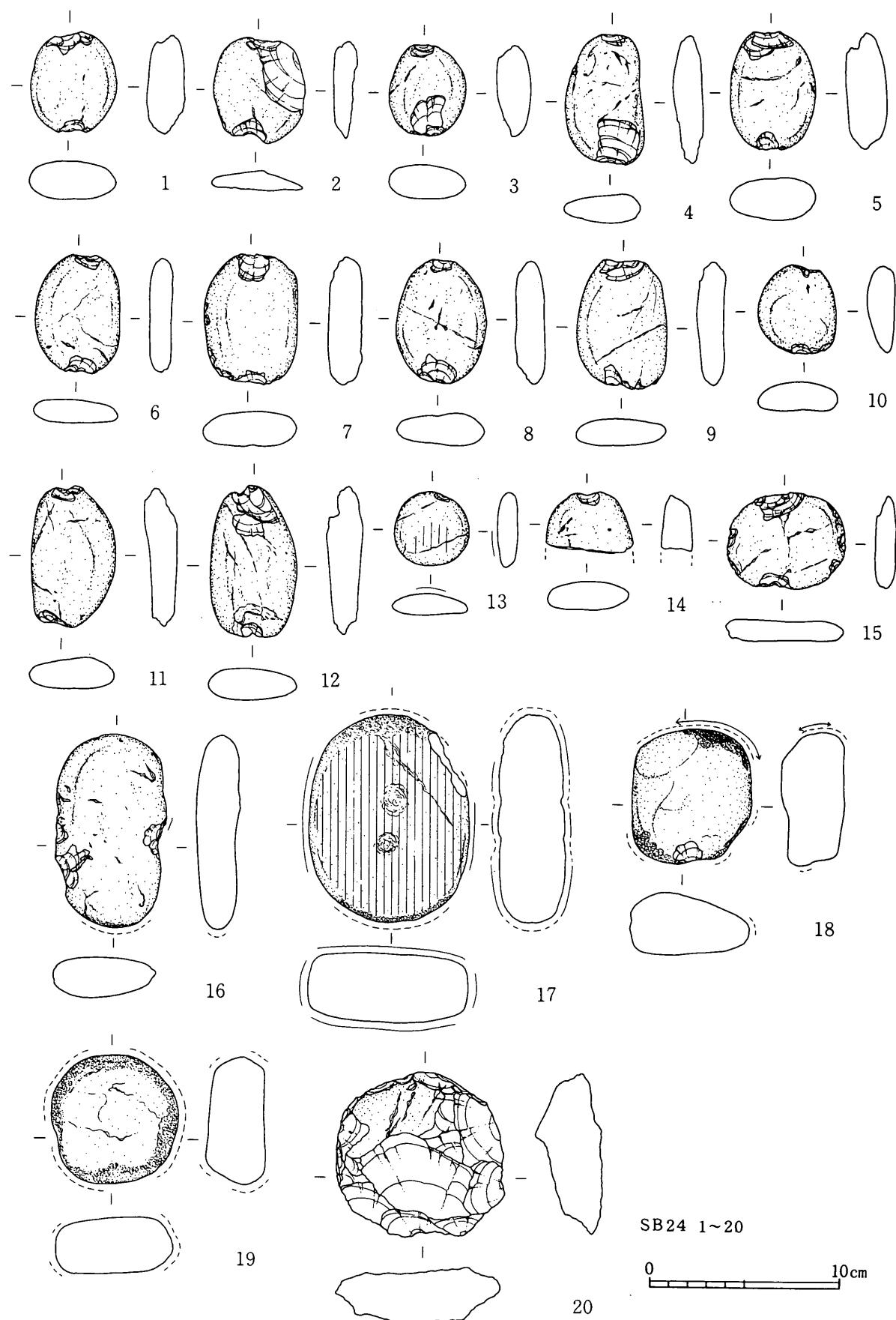
挿図114 SB 20 出土石器 (1)



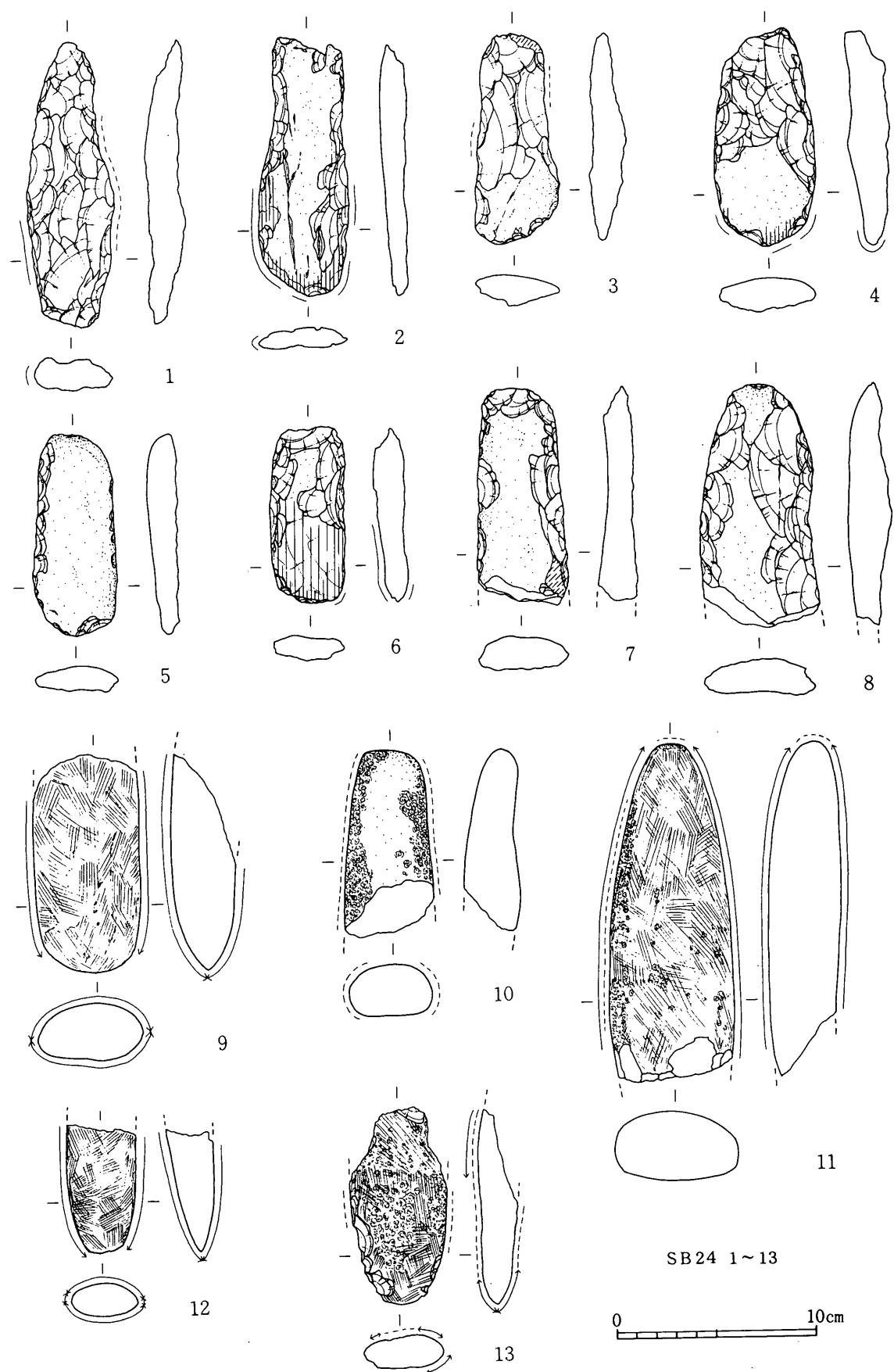
挿図115 SB 20出土石器（2）



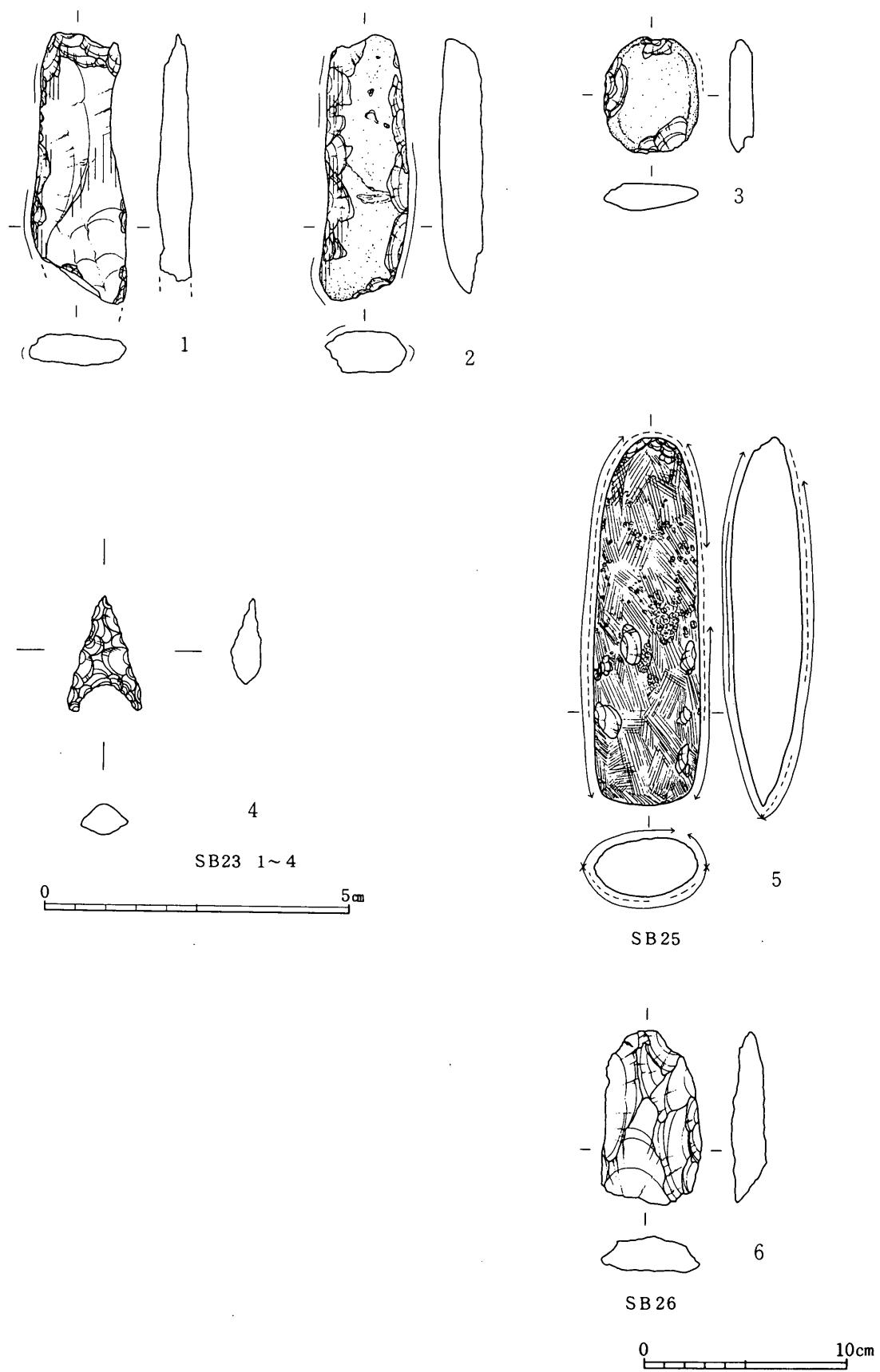
插図116 SB21・22出土石器



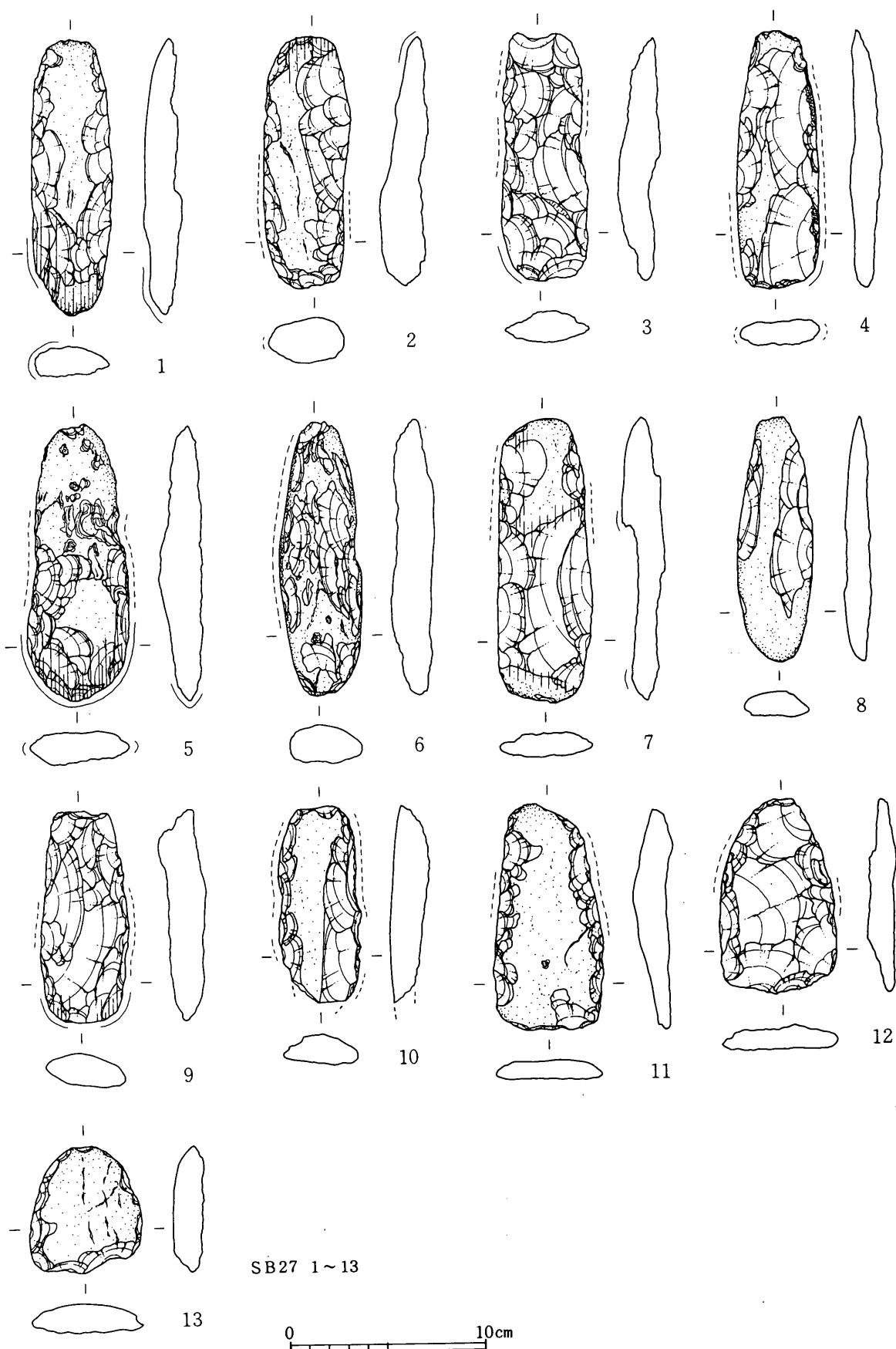
插図117 SB 24 出土石器 (1)



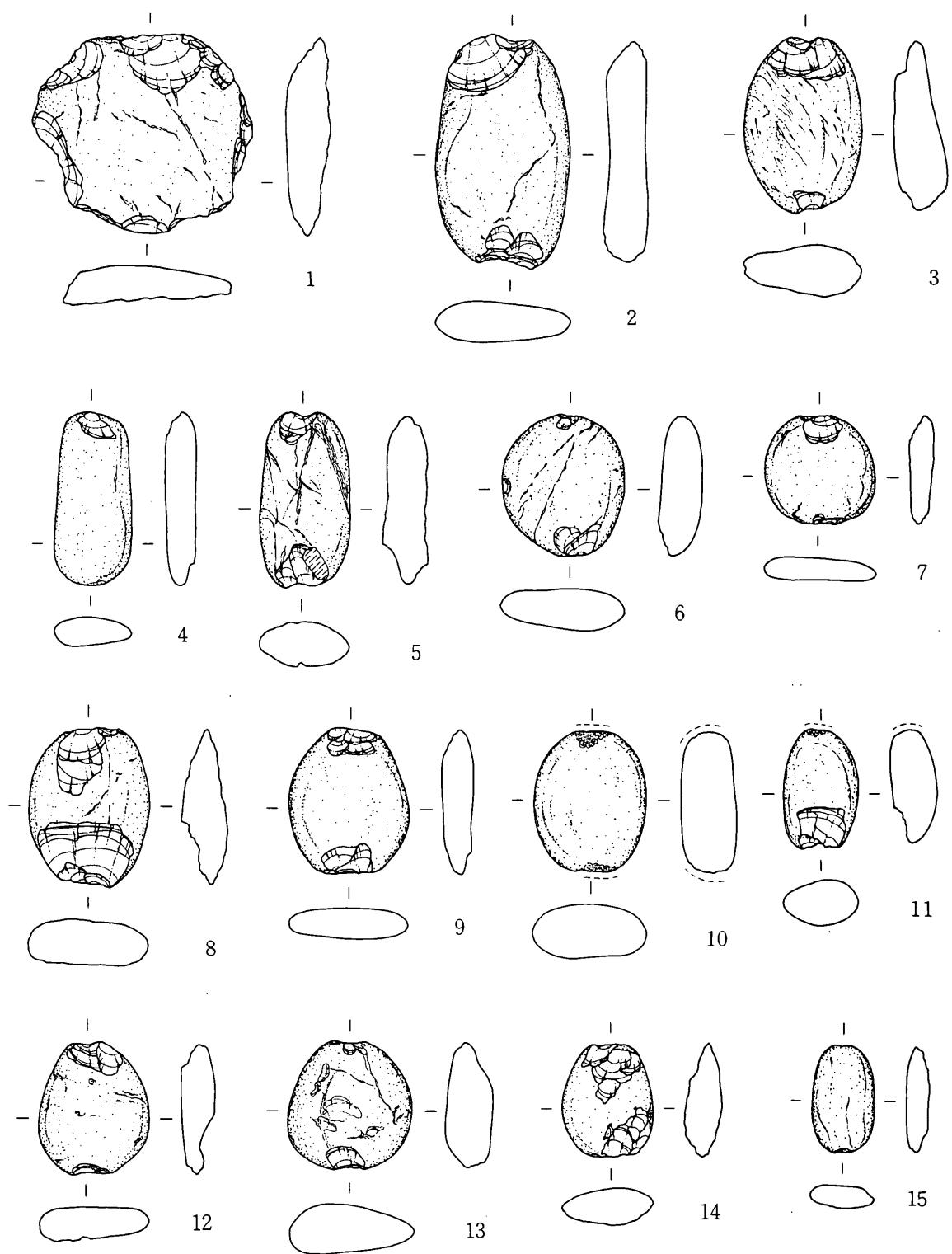
插図118 SB 2 4 出土石器 (2)



挿図119 SB25・26出土石器

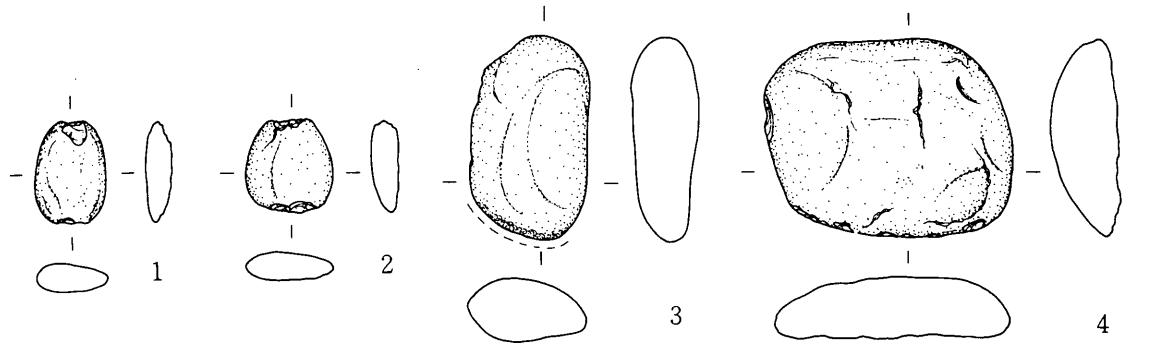


插図120 SB 27 出土石器 (1)

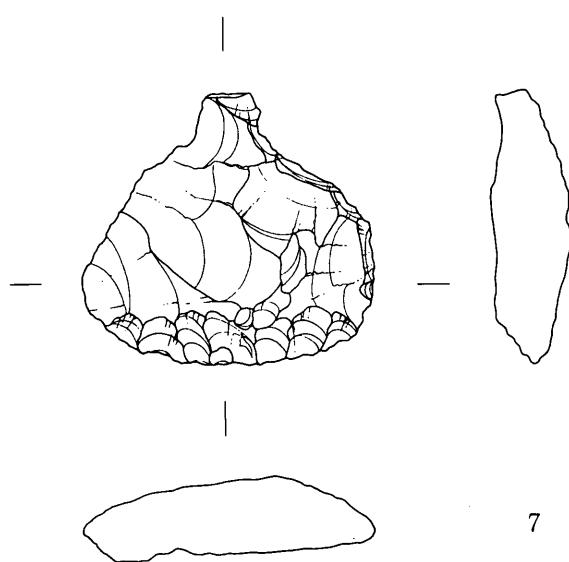
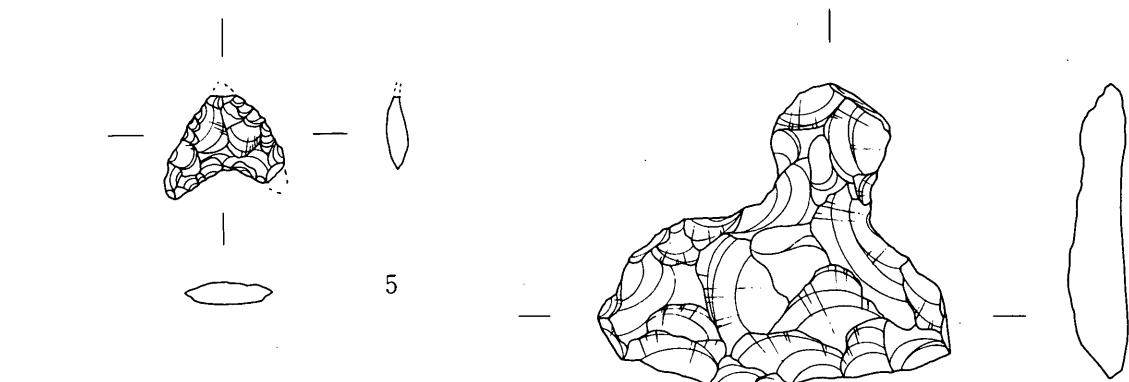


SB27 1~15 0 10cm

挿図121 SB27出土土器(2)



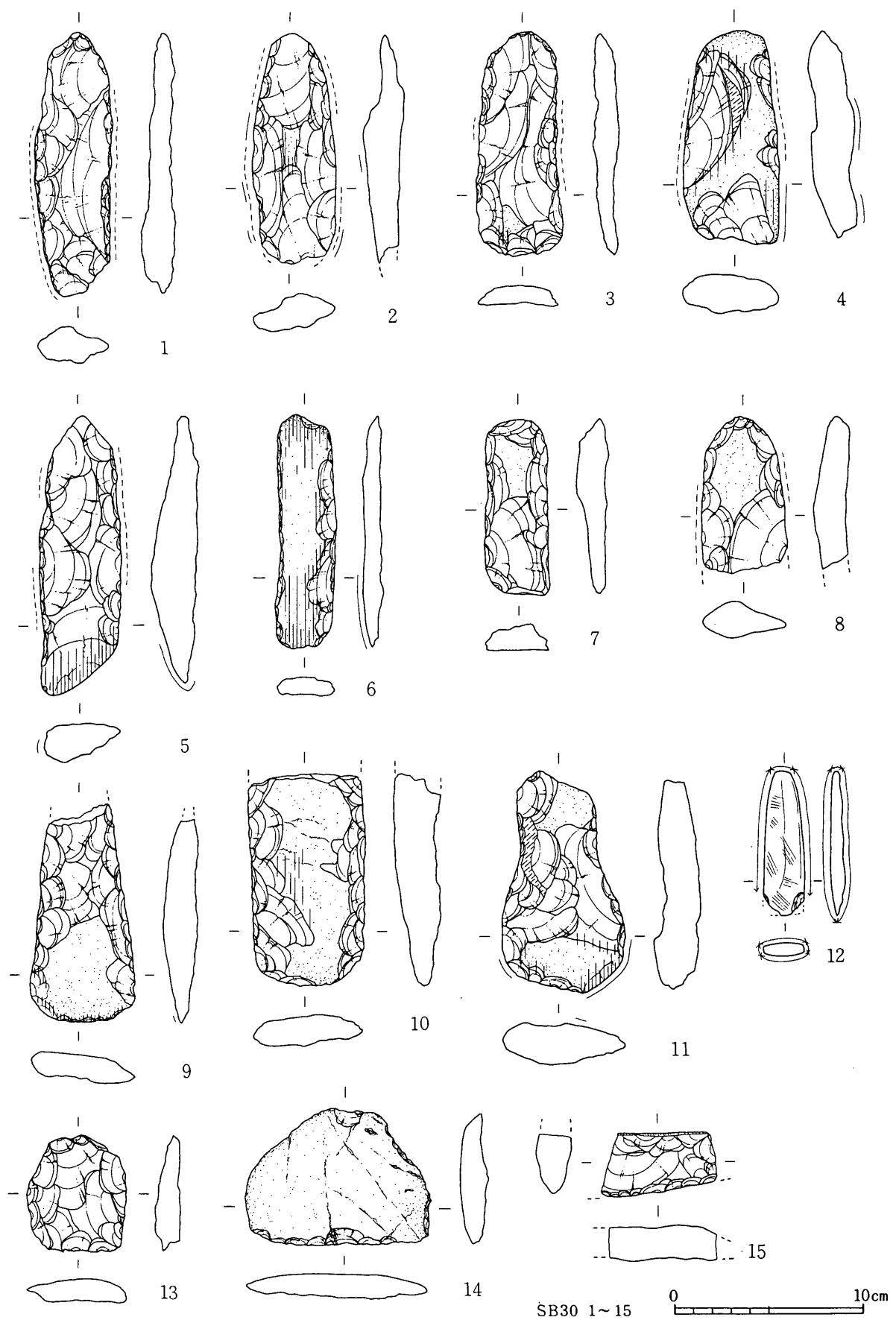
0 10 cm



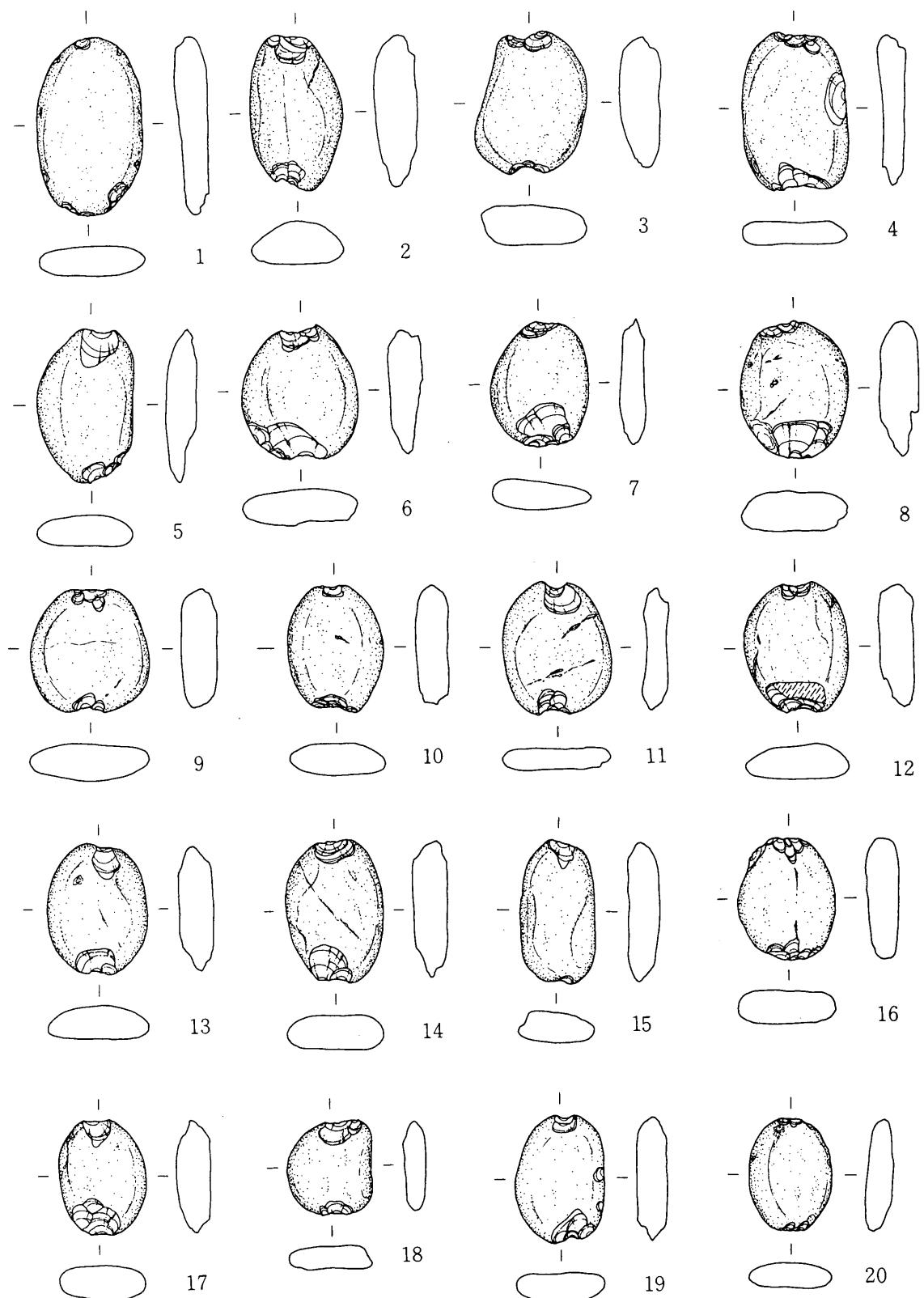
SB27 1~7

0 5 cm

挿図122 SB27出土石器(3)



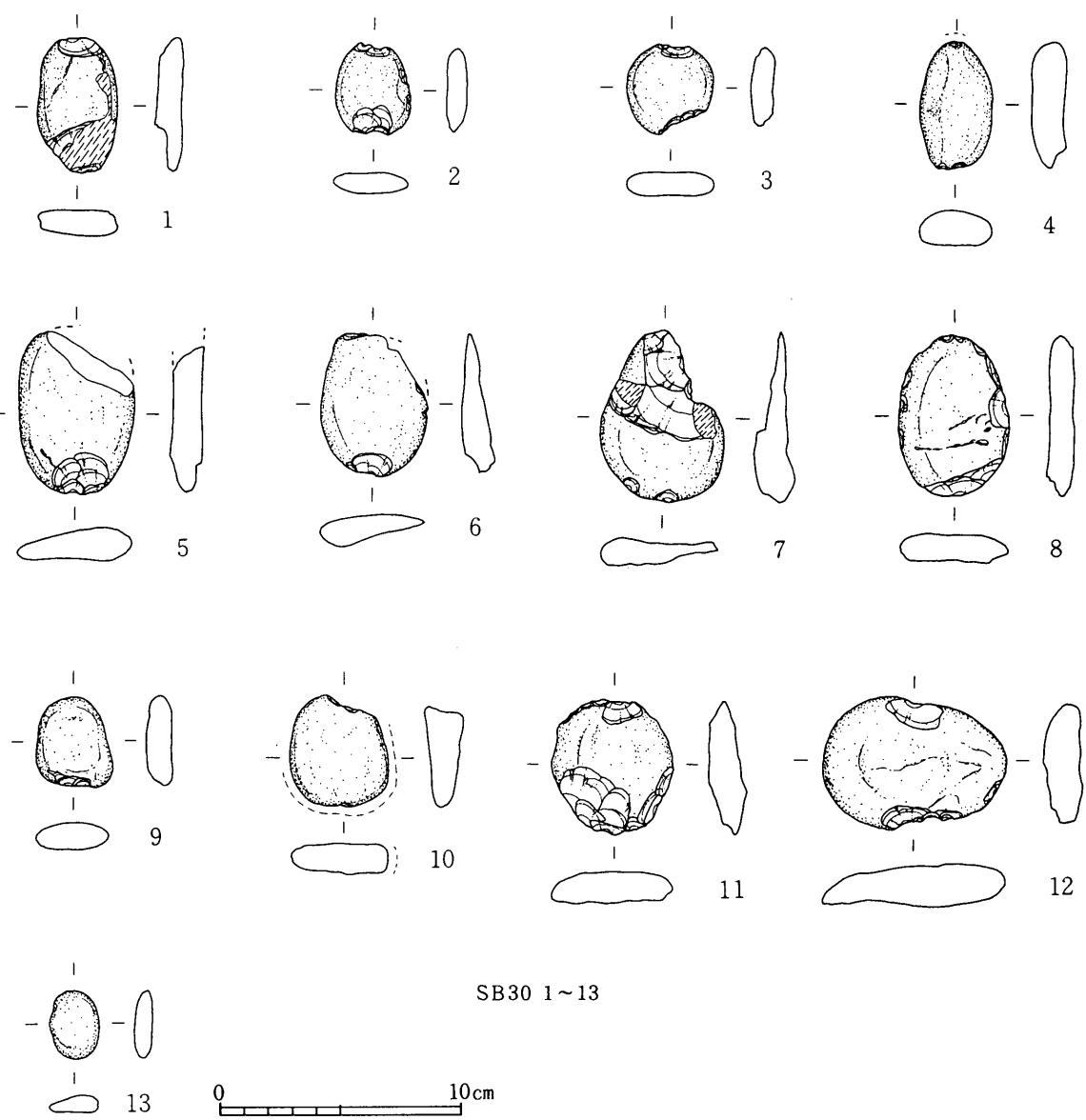
插図123 SB30出土土器(1)



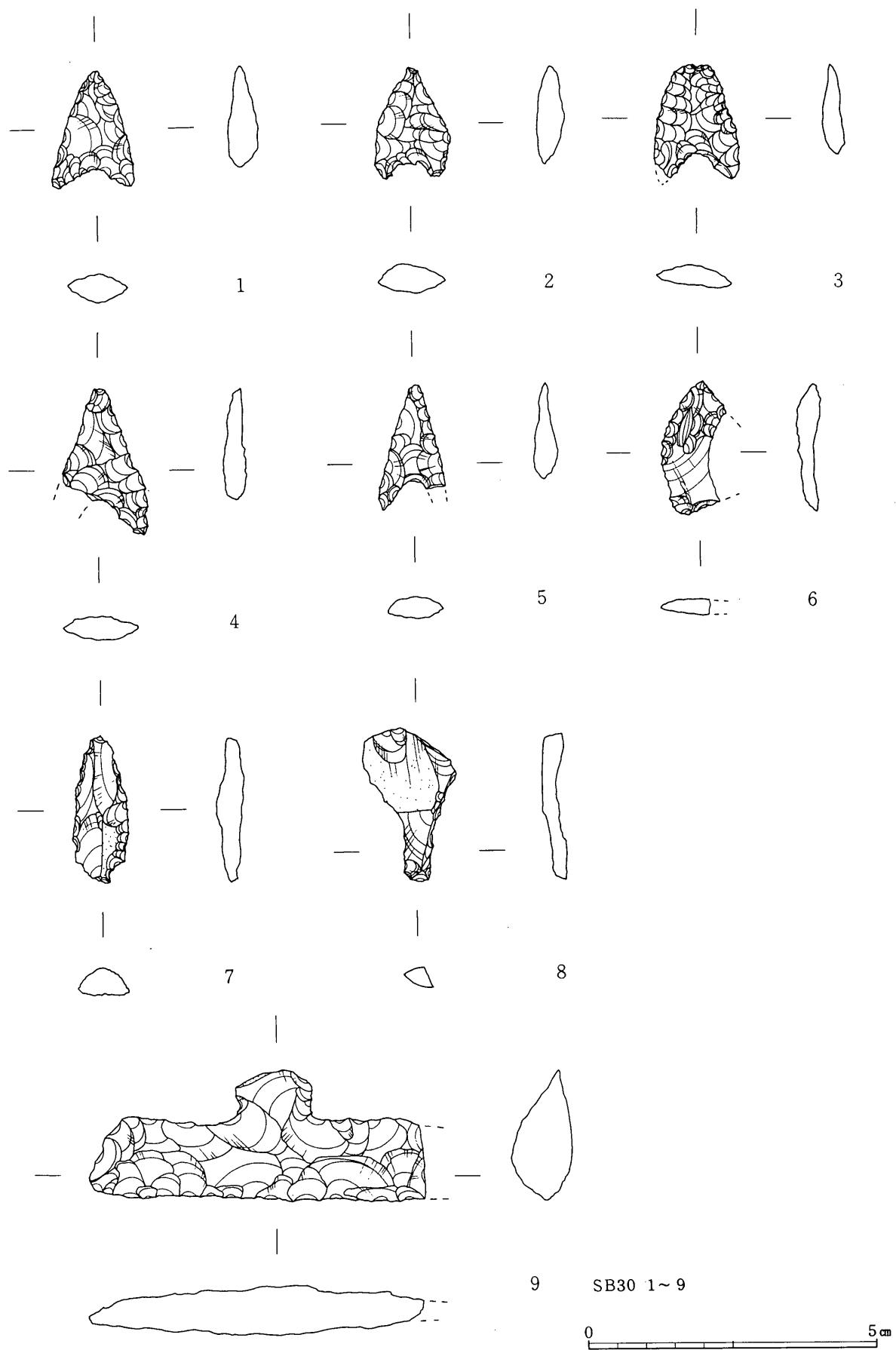
SB30 1~20

0 10cm

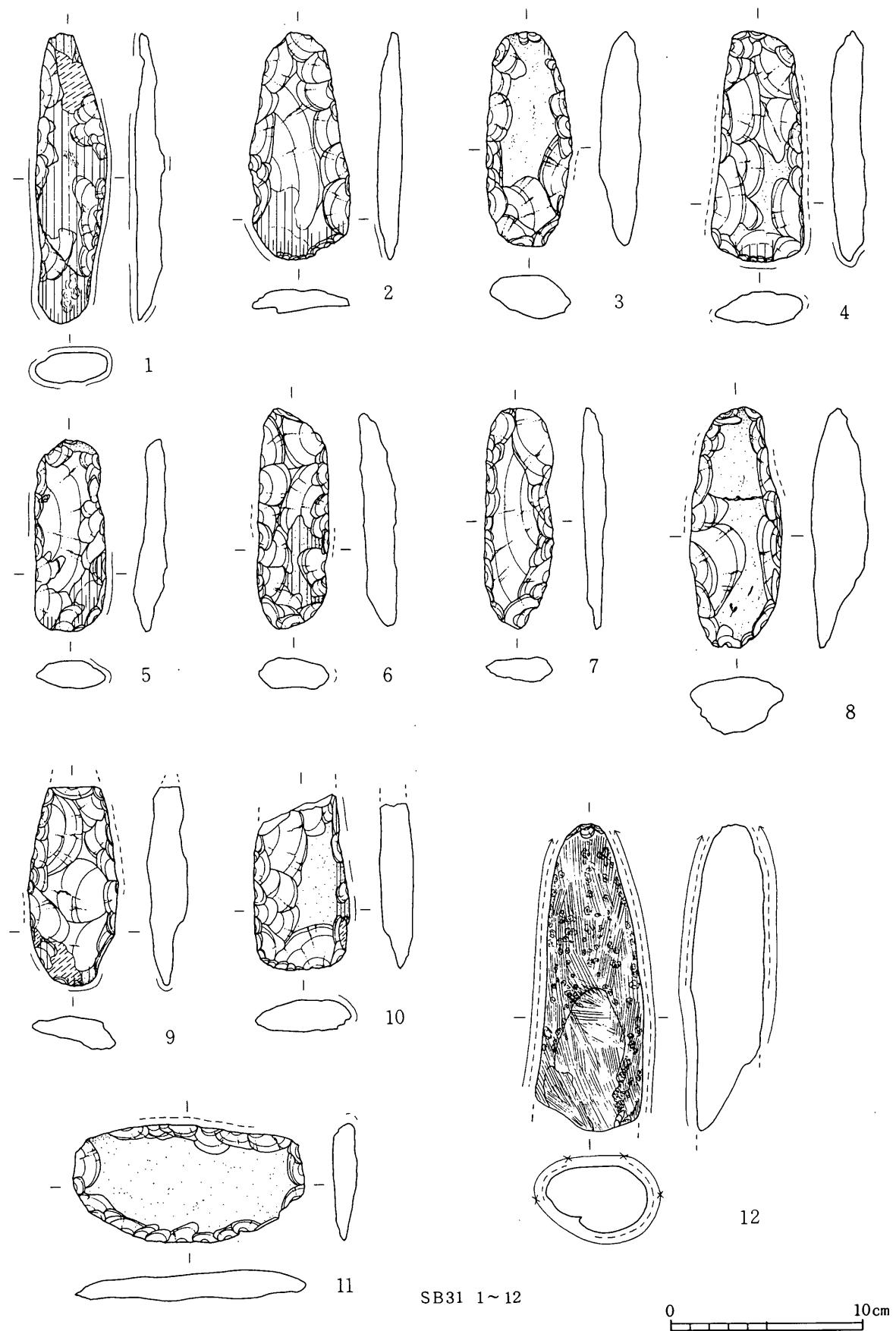
挿図124 SB30出土石器(2)



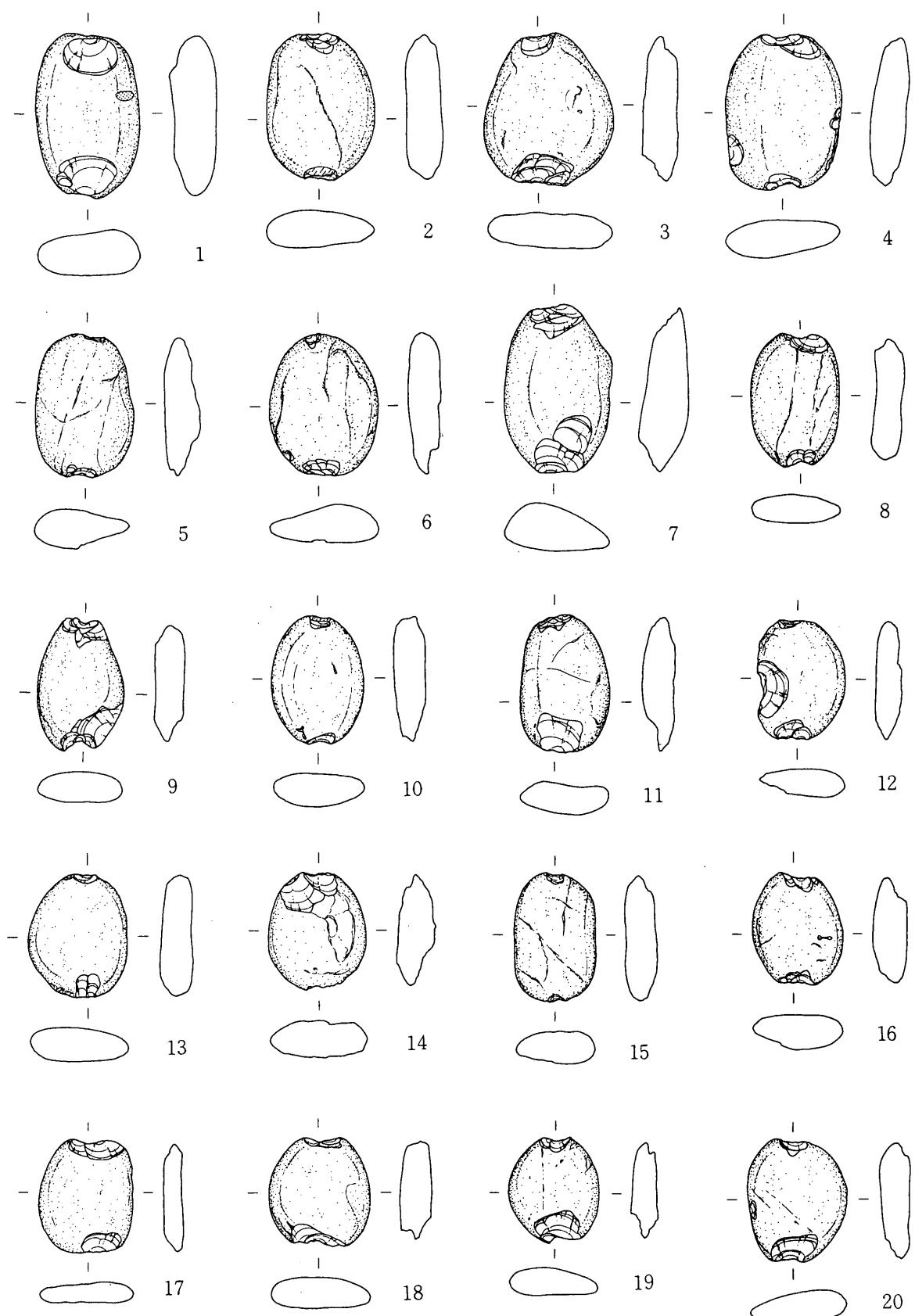
挿図125 SB30出土石器(3)



挿図126 SB30出土石器(4)



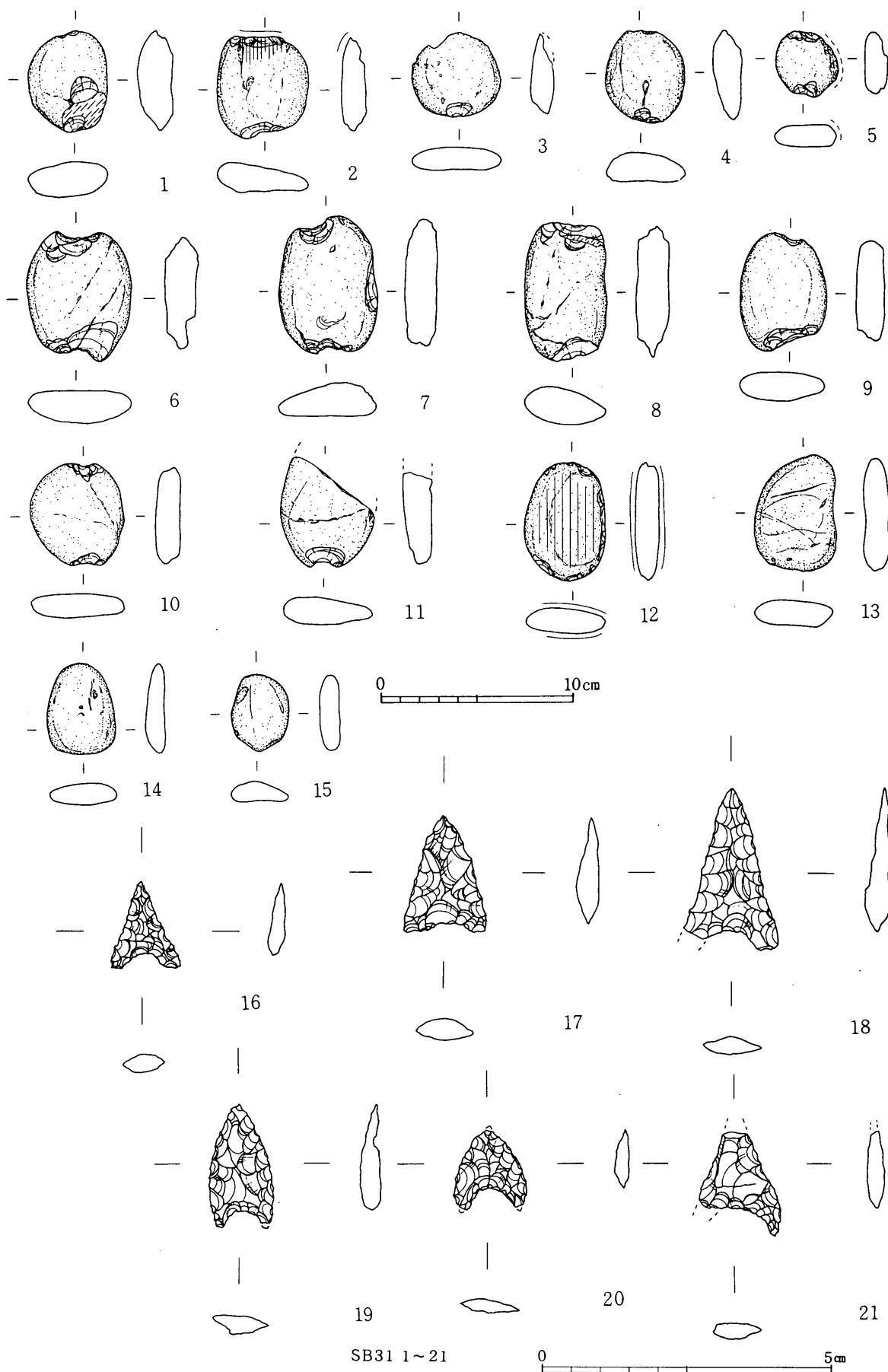
挿図127 SB31出土石器（1）



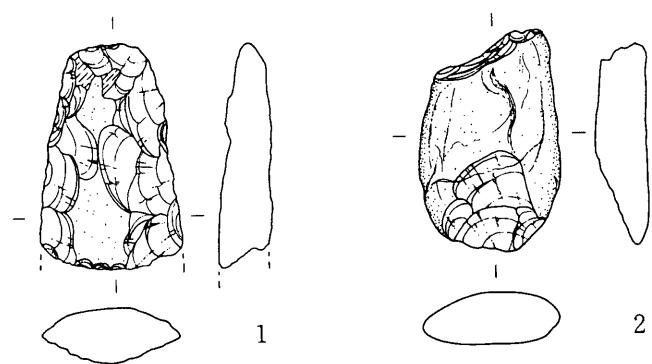
SB31 1~20

0 10cm

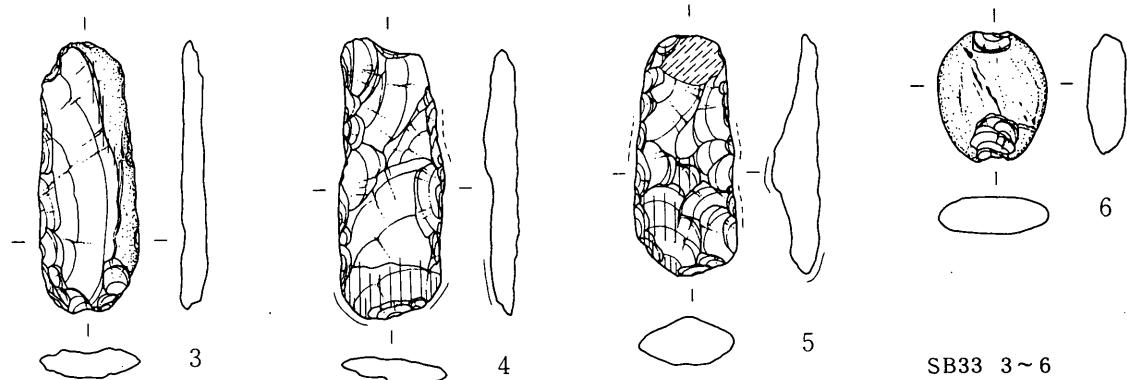
插図128 SB31出土石器(2)



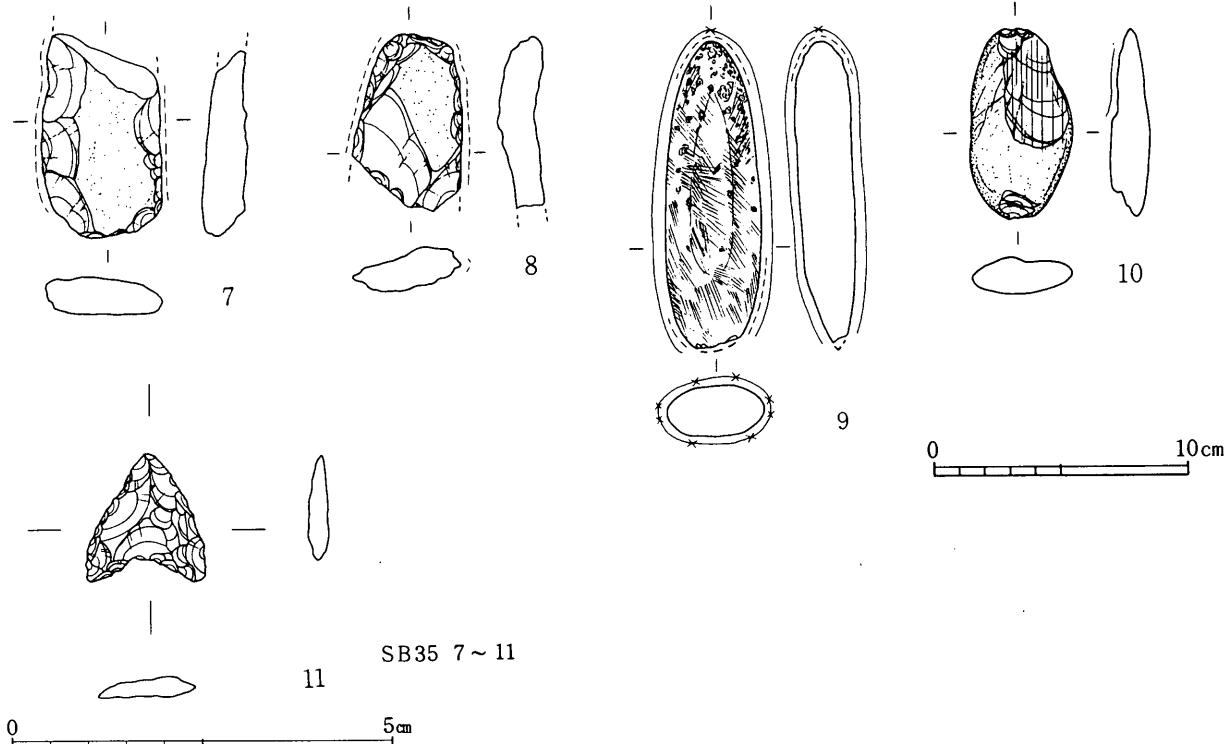
挿図129 SB31出土石器(3)



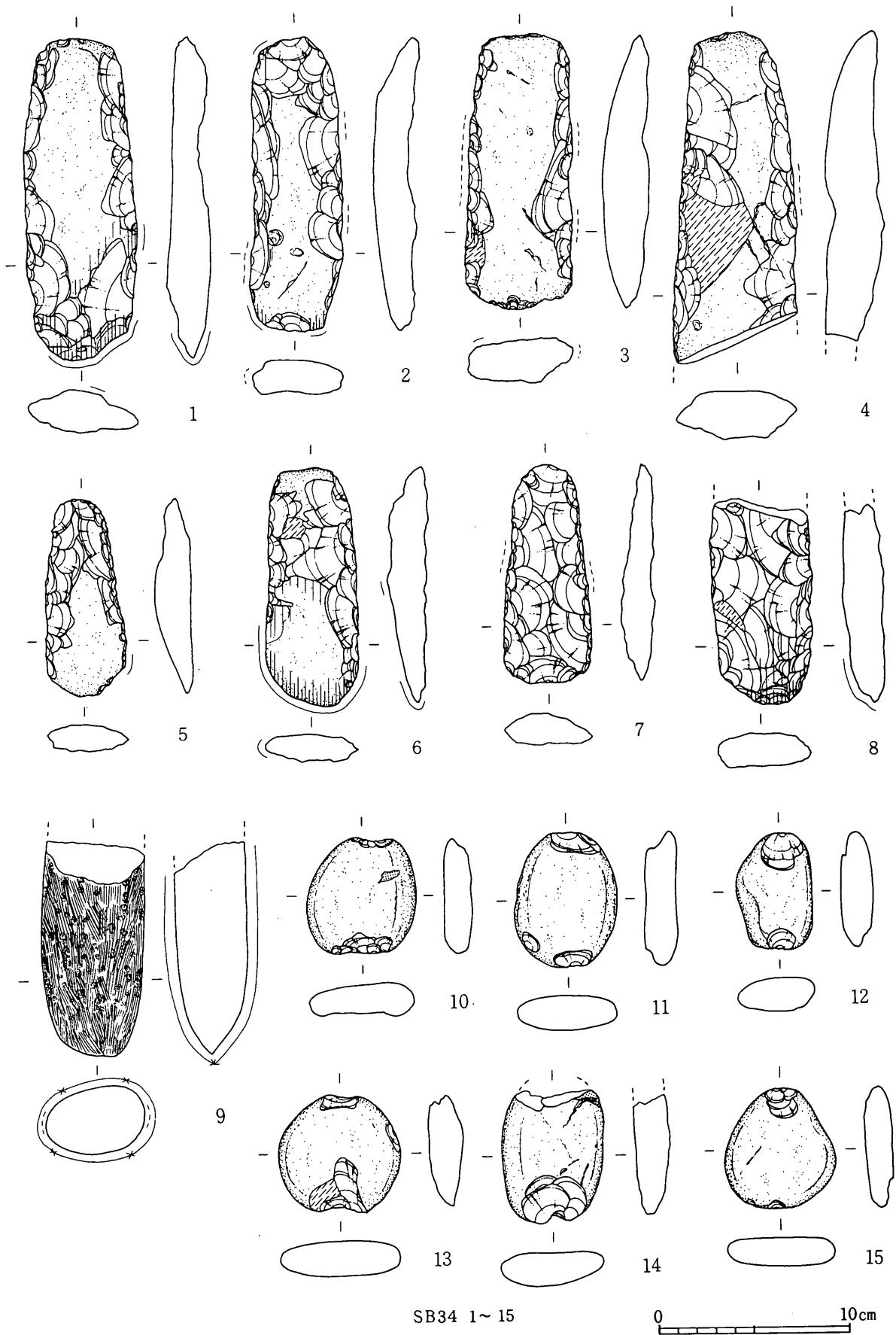
SB32 1~2



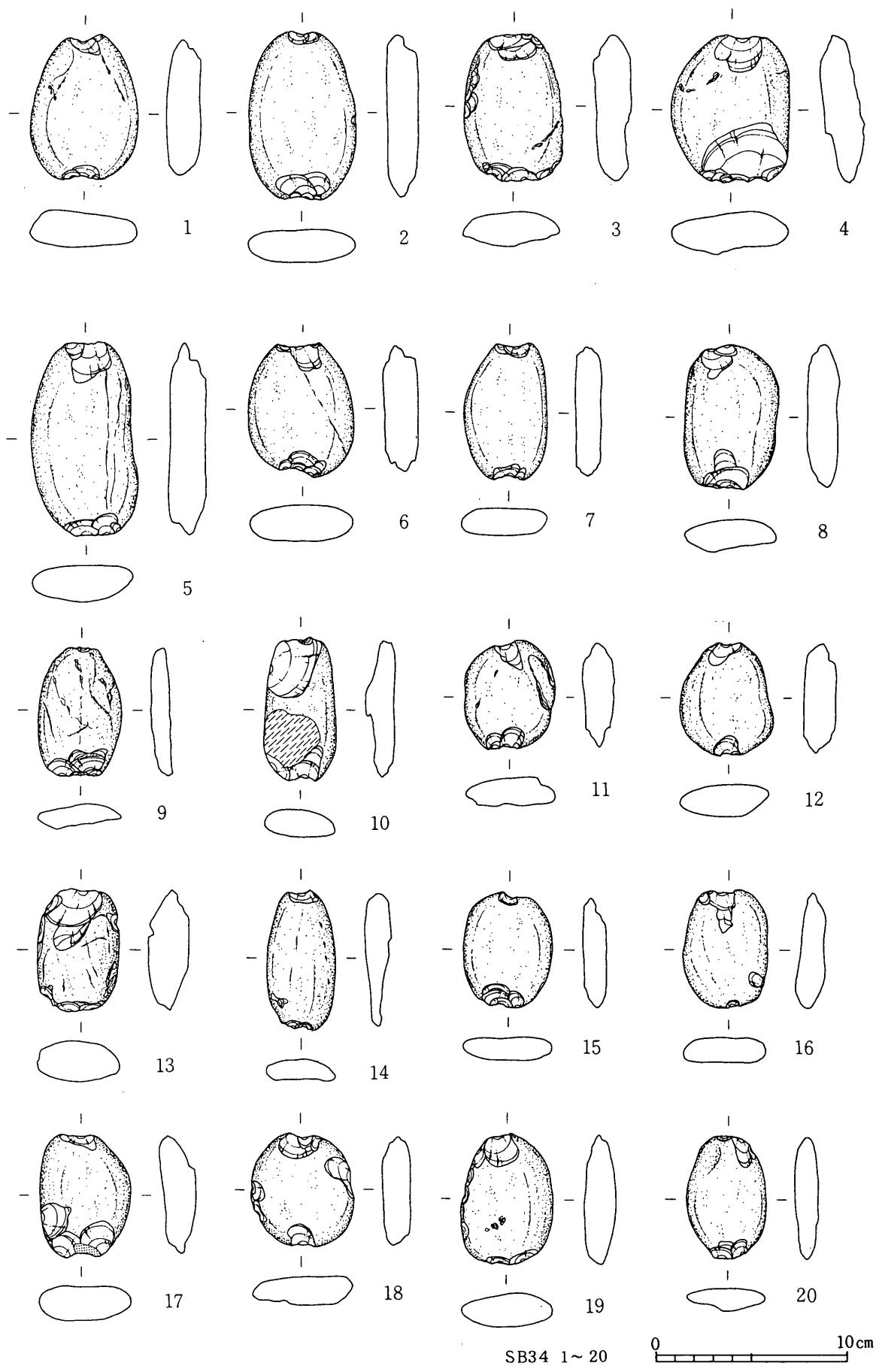
SB33 3~6



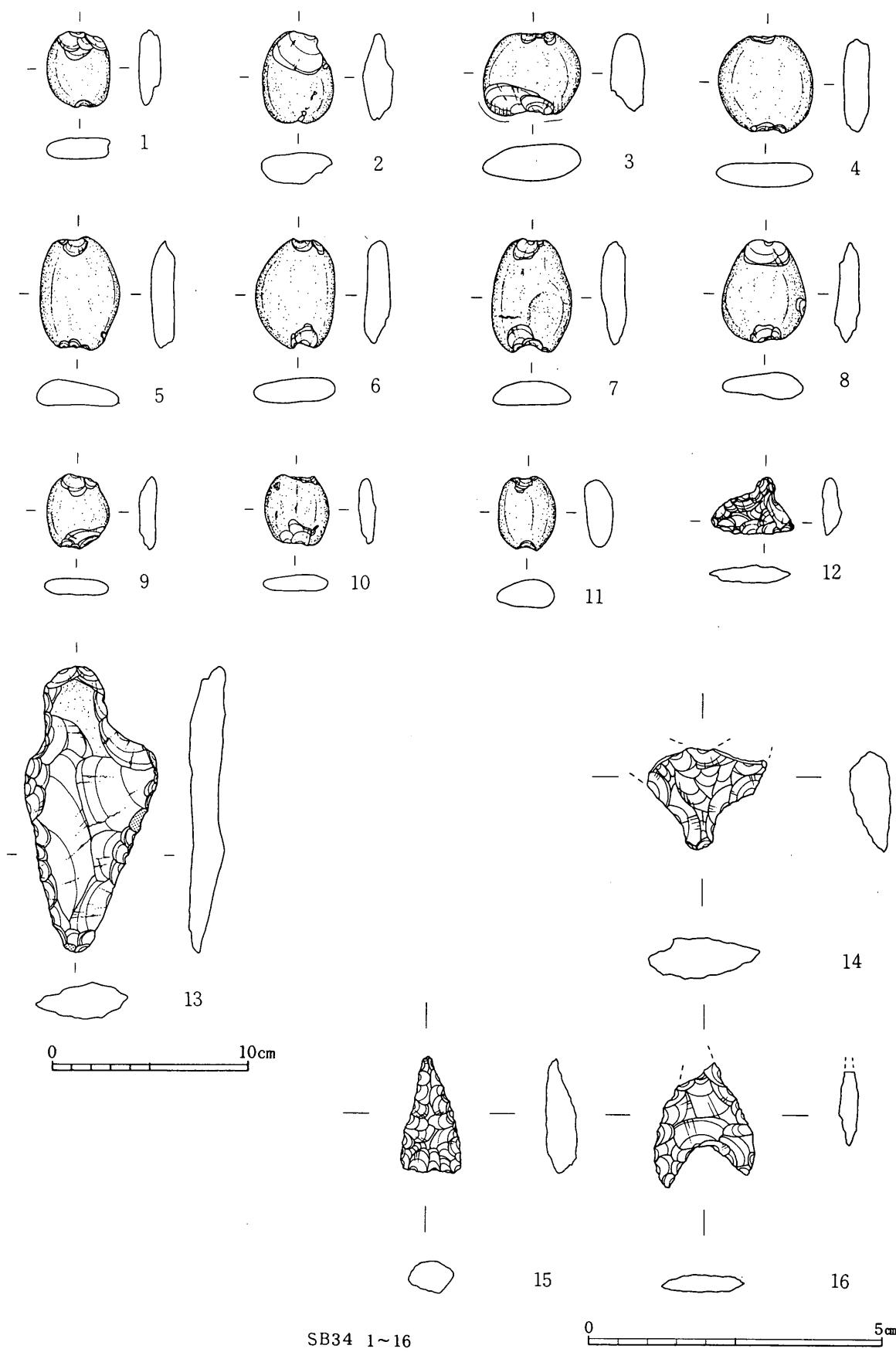
挿図130 SB32・33・35出土石器



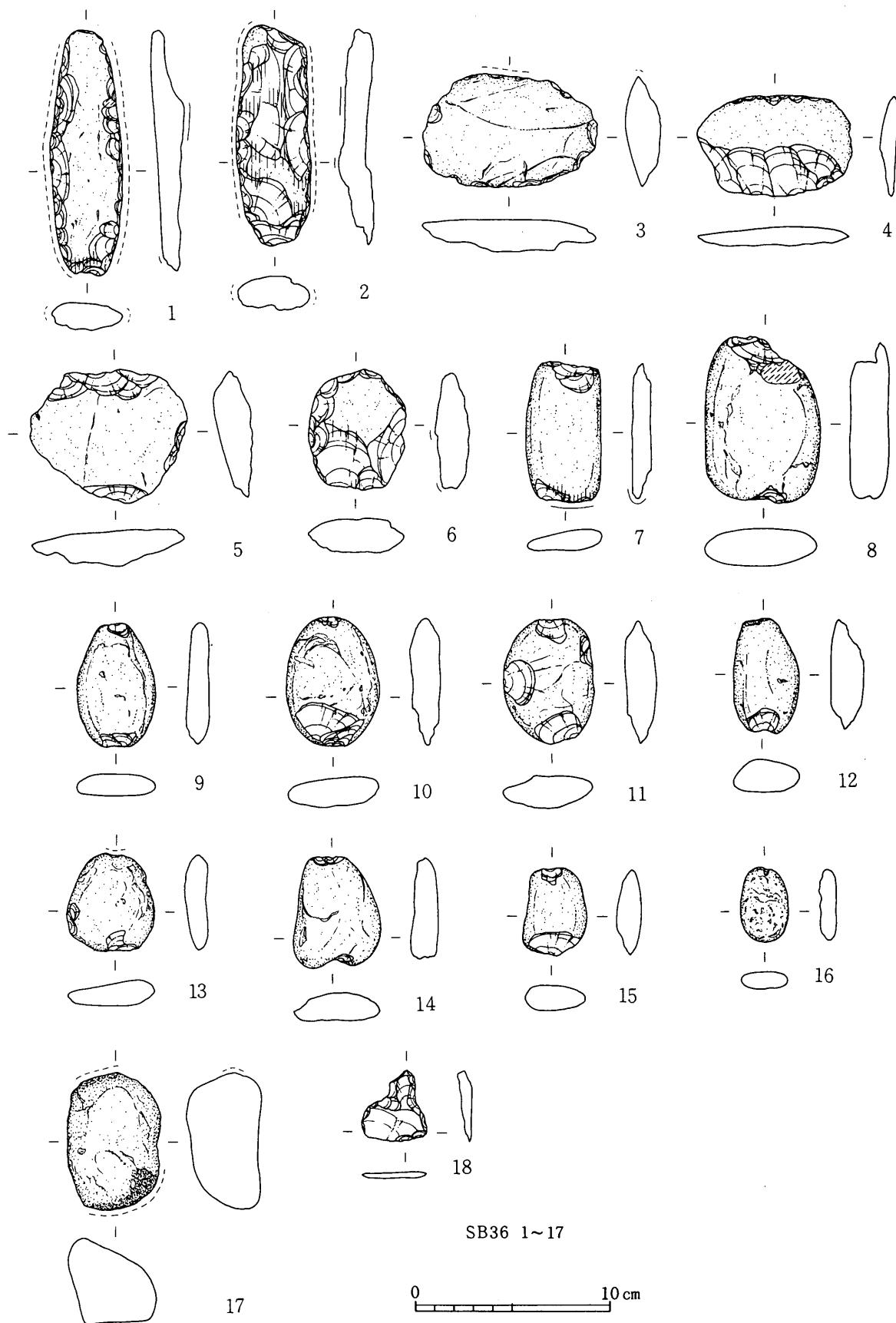
挿図131 SB34出土石器（1）



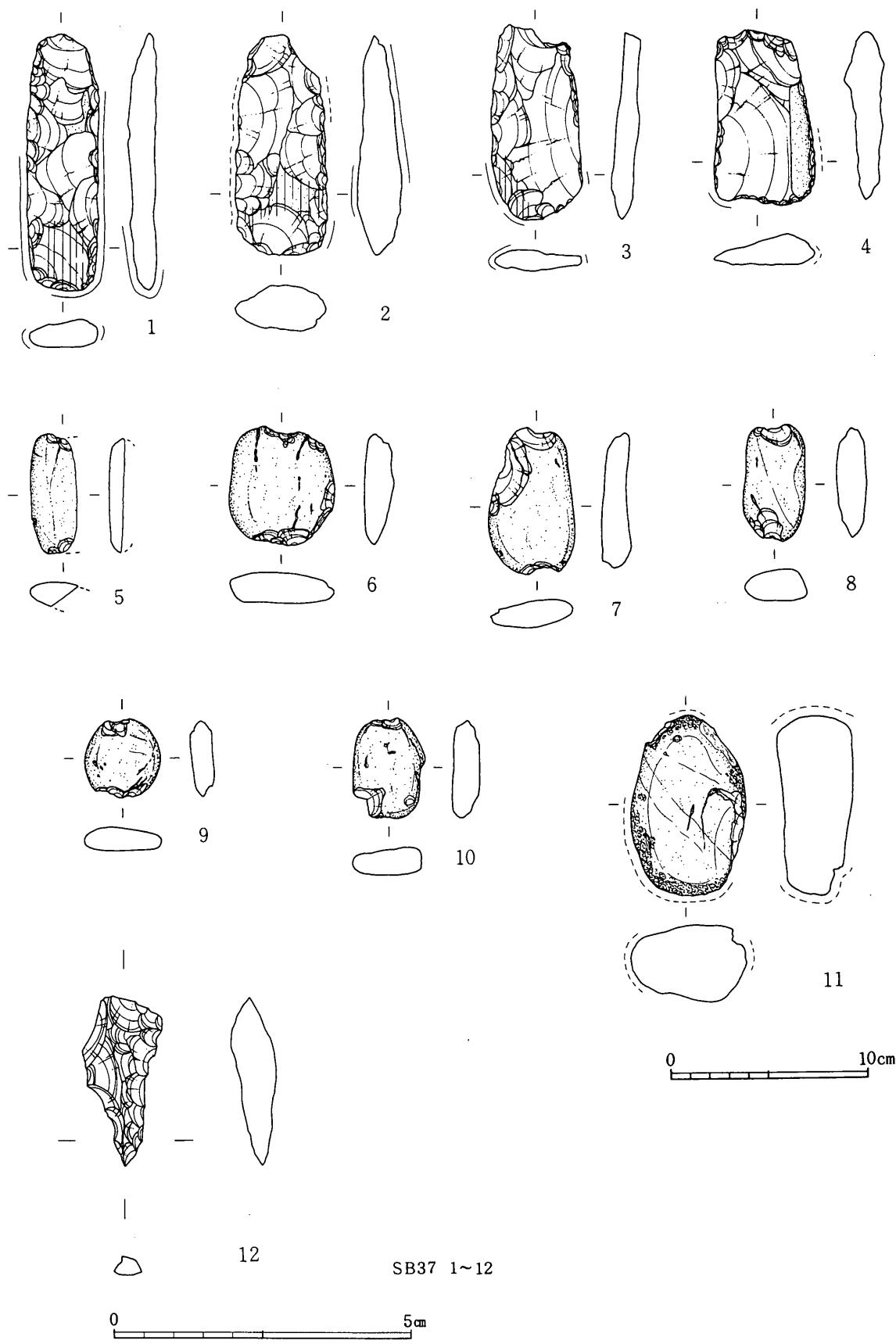
挿図132 SB34出土石器(2)



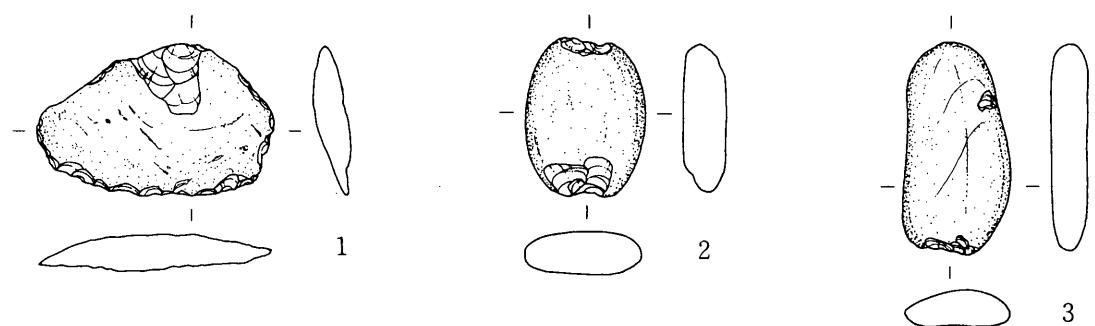
插図133 SB34出土石器(3)



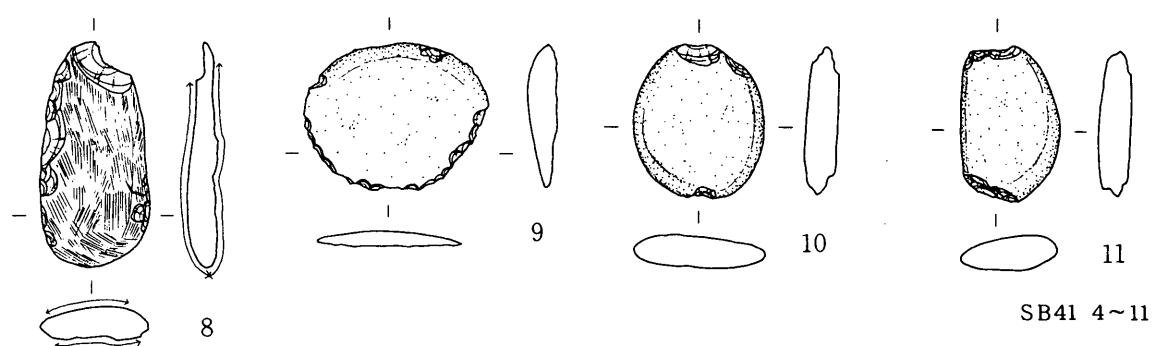
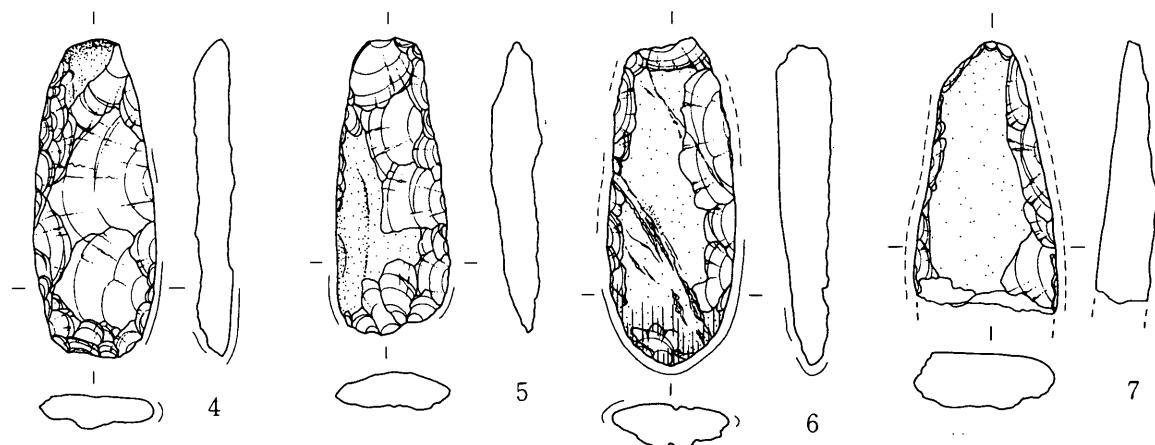
挿図134 SB36出土石器



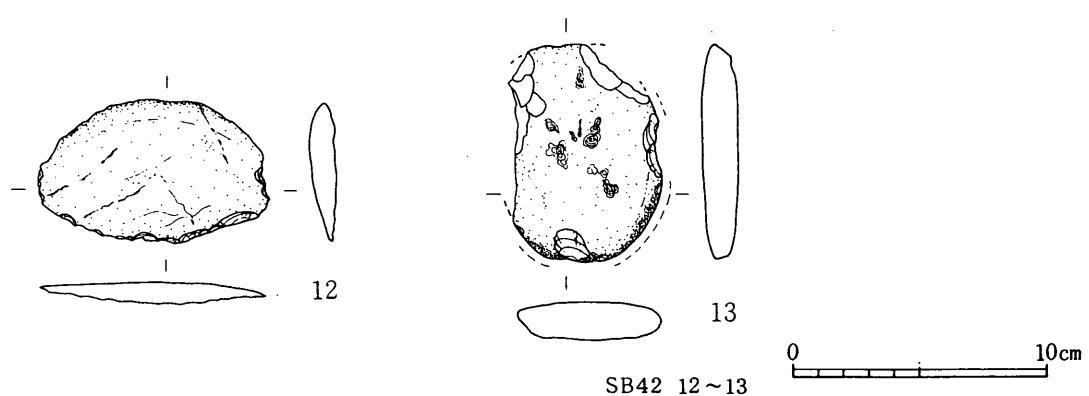
挿図135 SB 3 7 出土石器



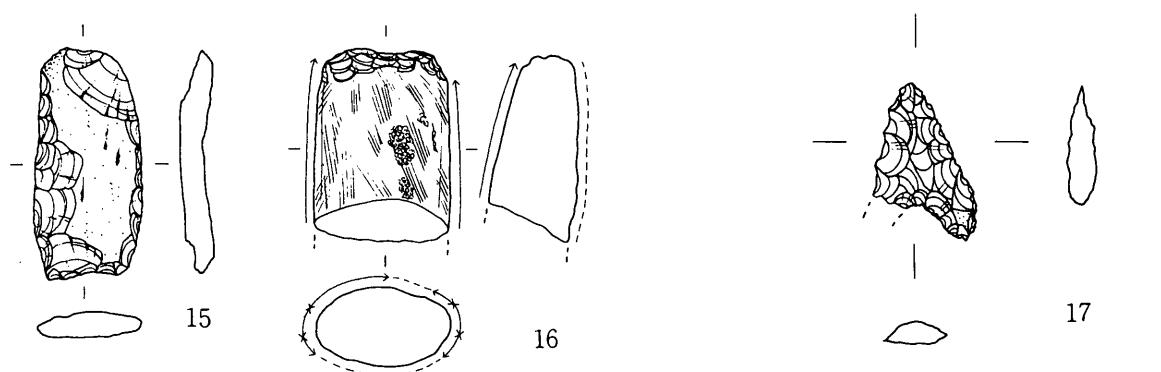
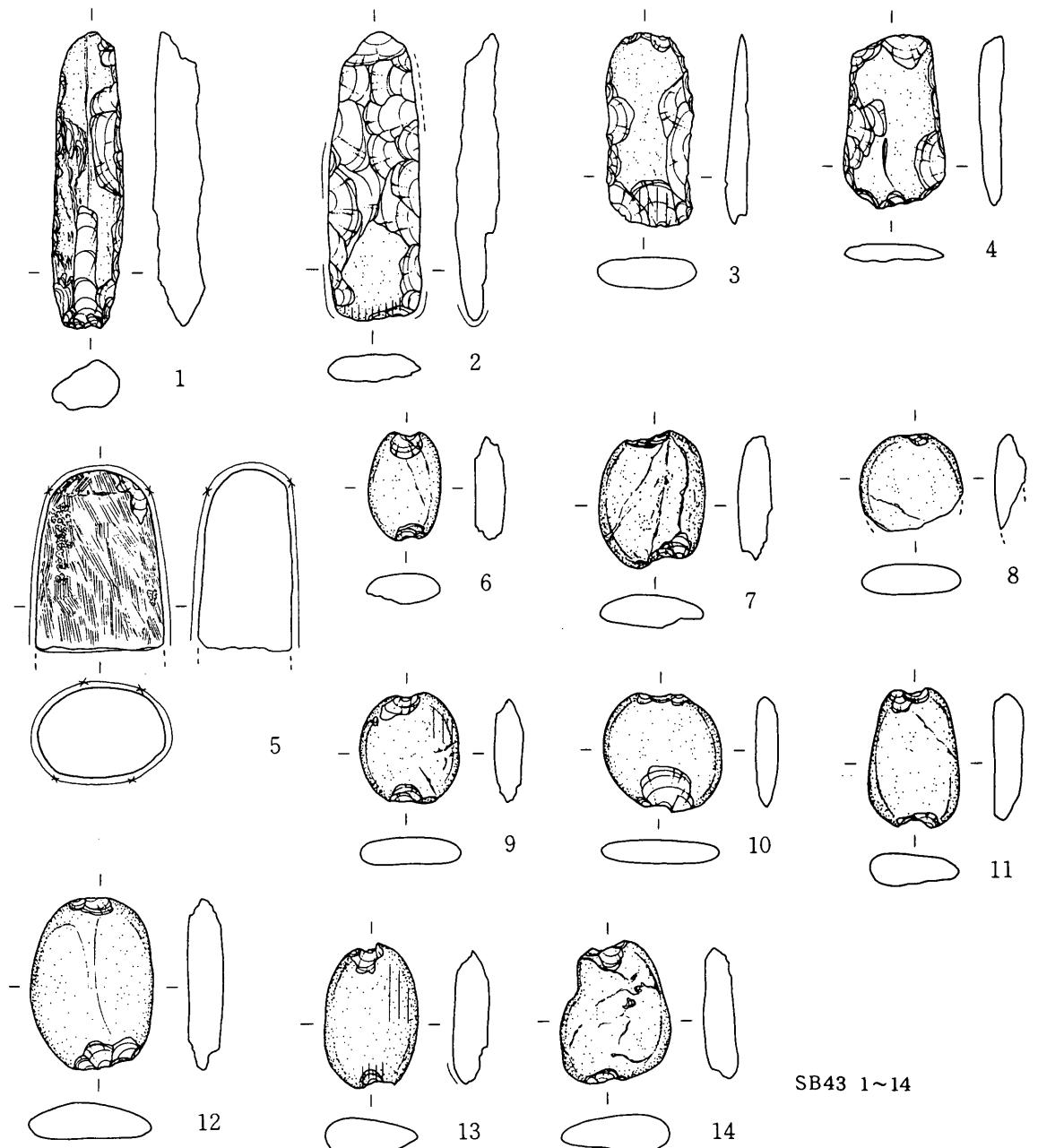
SB40 1~3



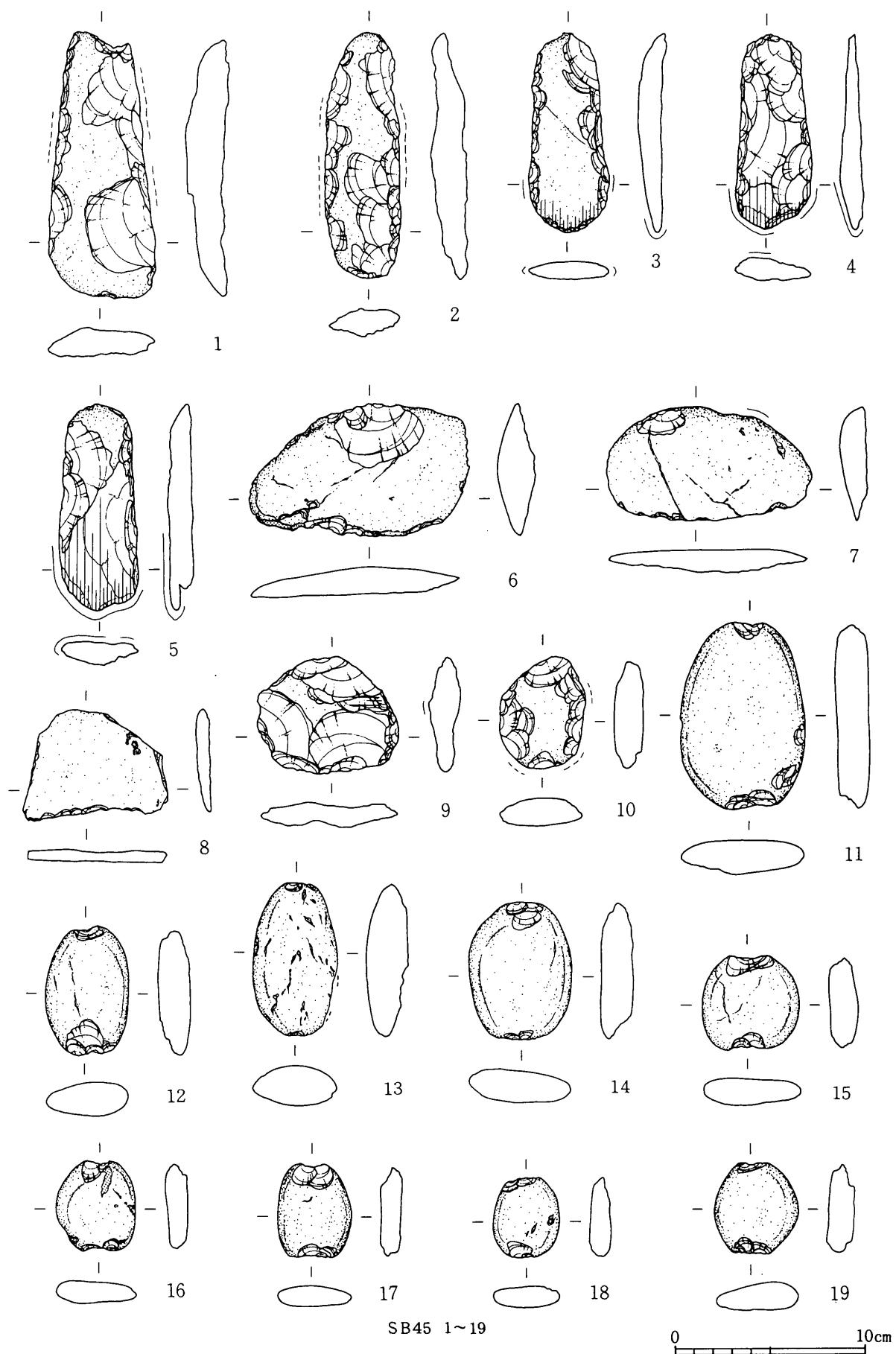
SB41 4~11



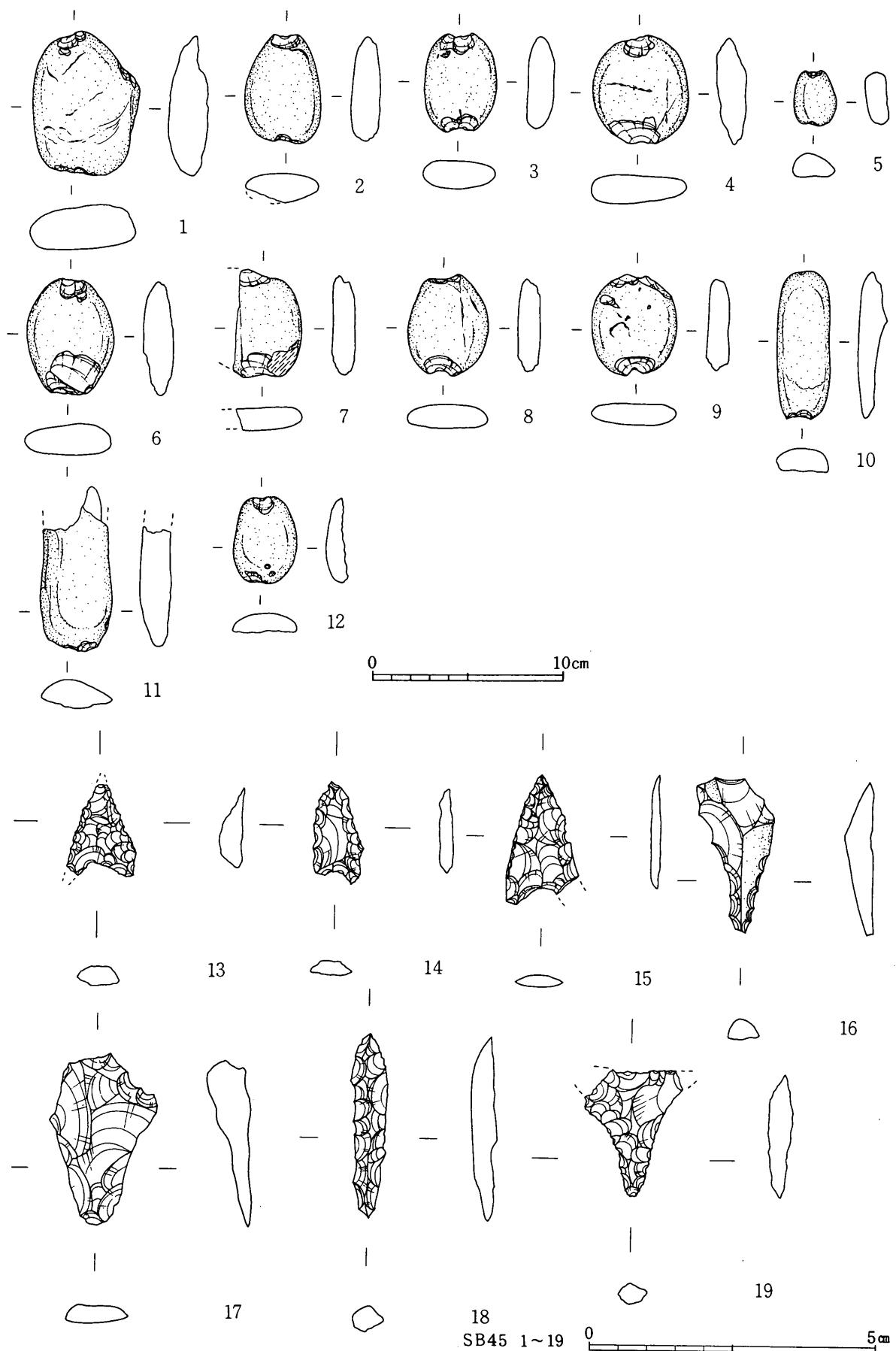
挿図136 SB40・41・42出土石器



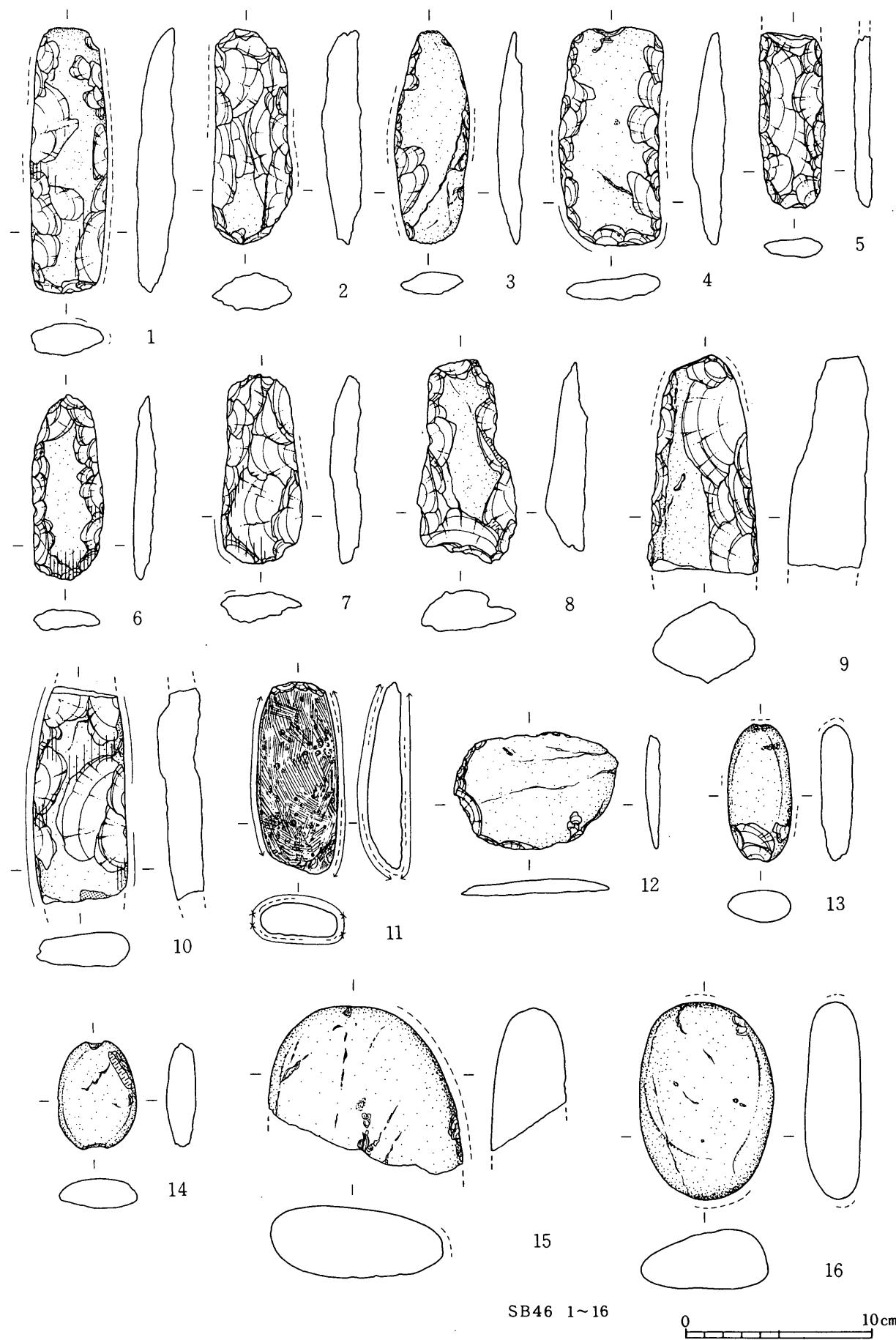
挿図137 SB43・44出土石器



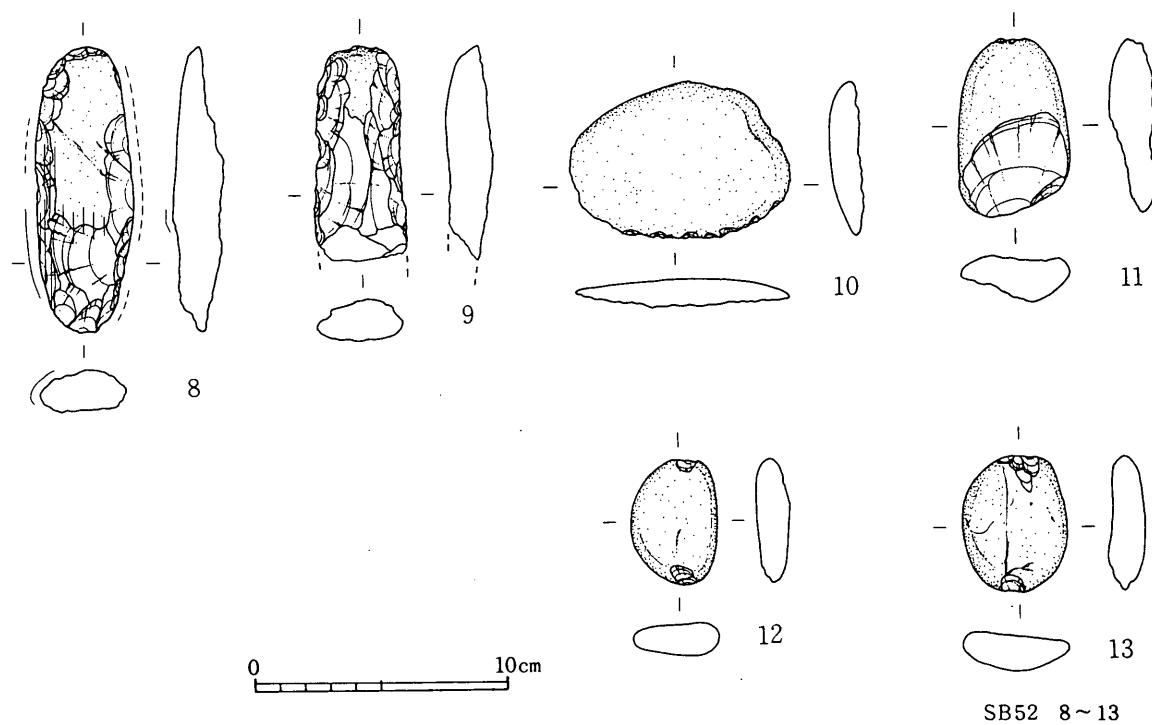
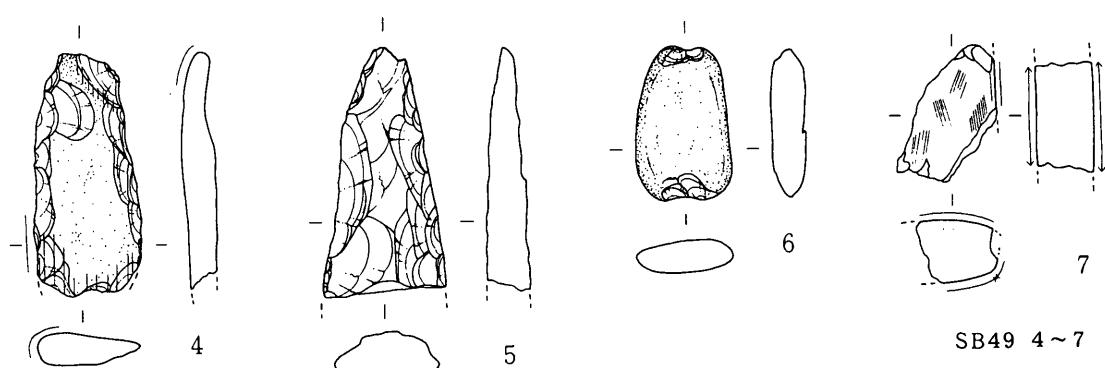
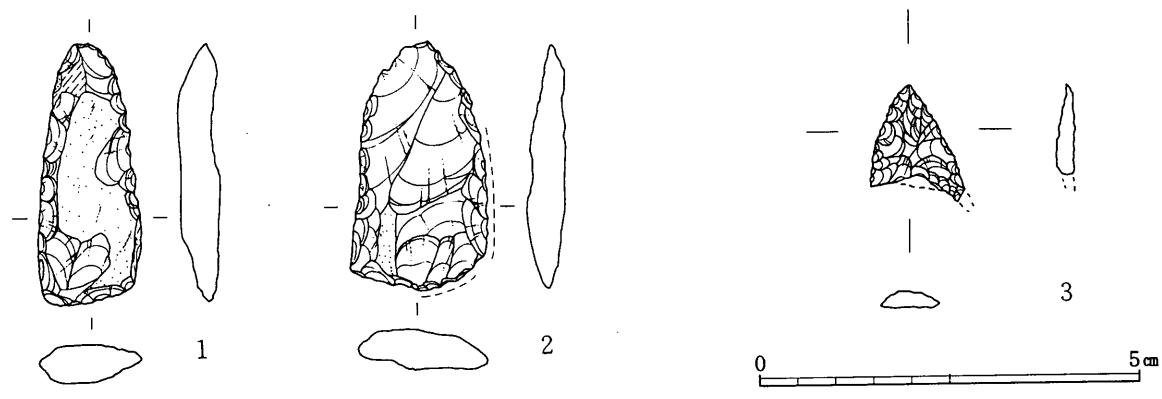
插図138 SB45出土石器(1)



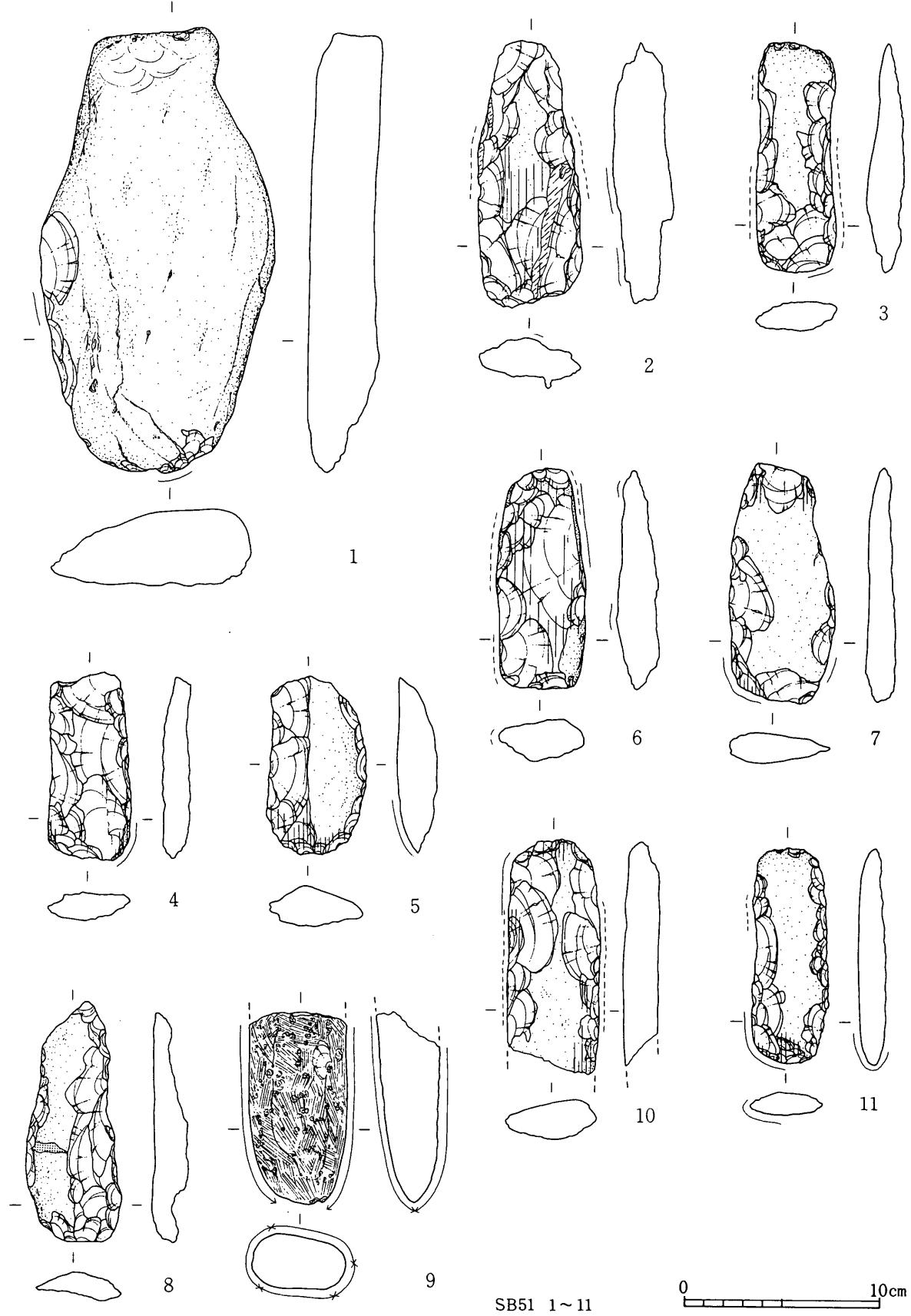
插図139 SB45出土石器(2)



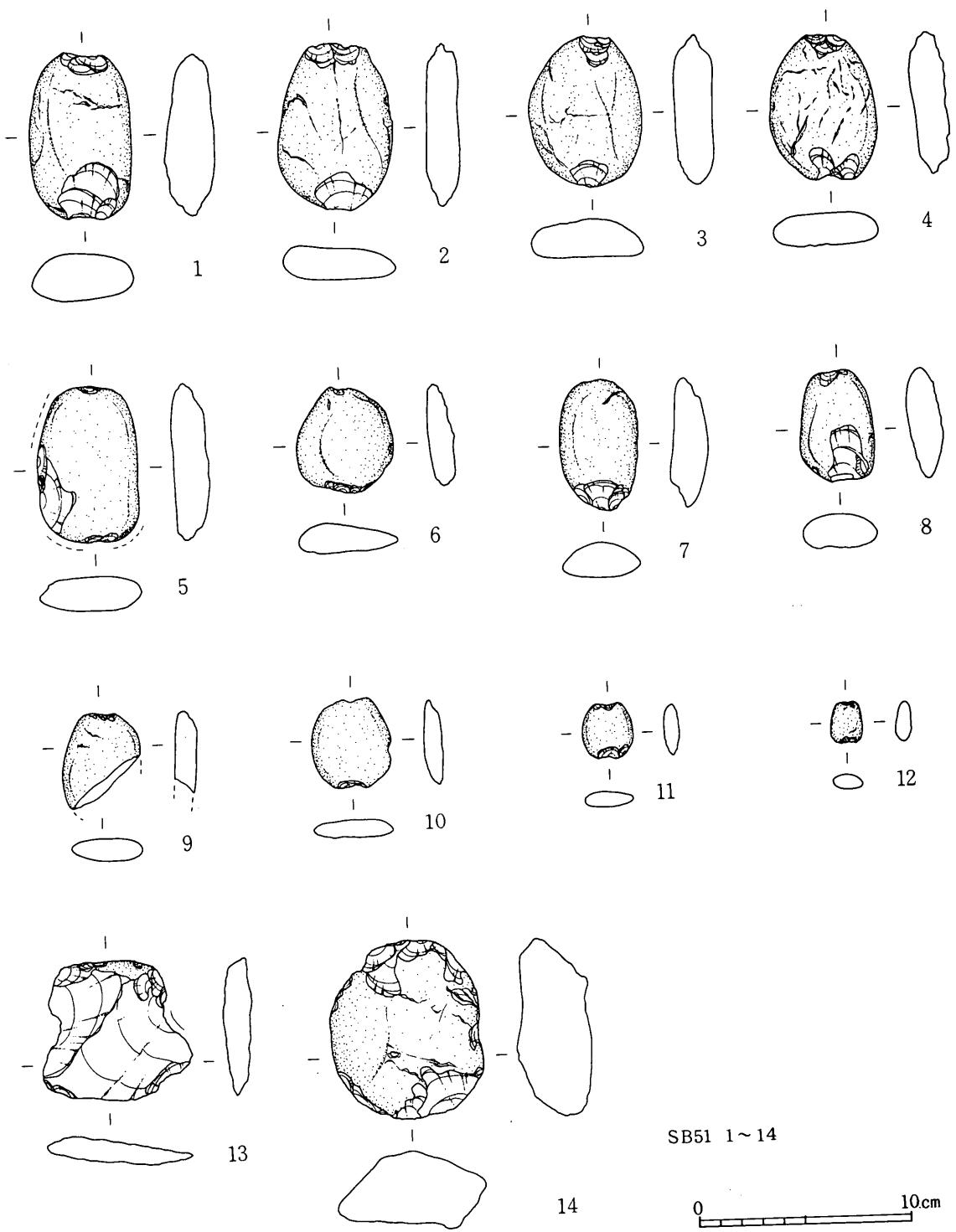
插図140 SB 4 6 出土石器



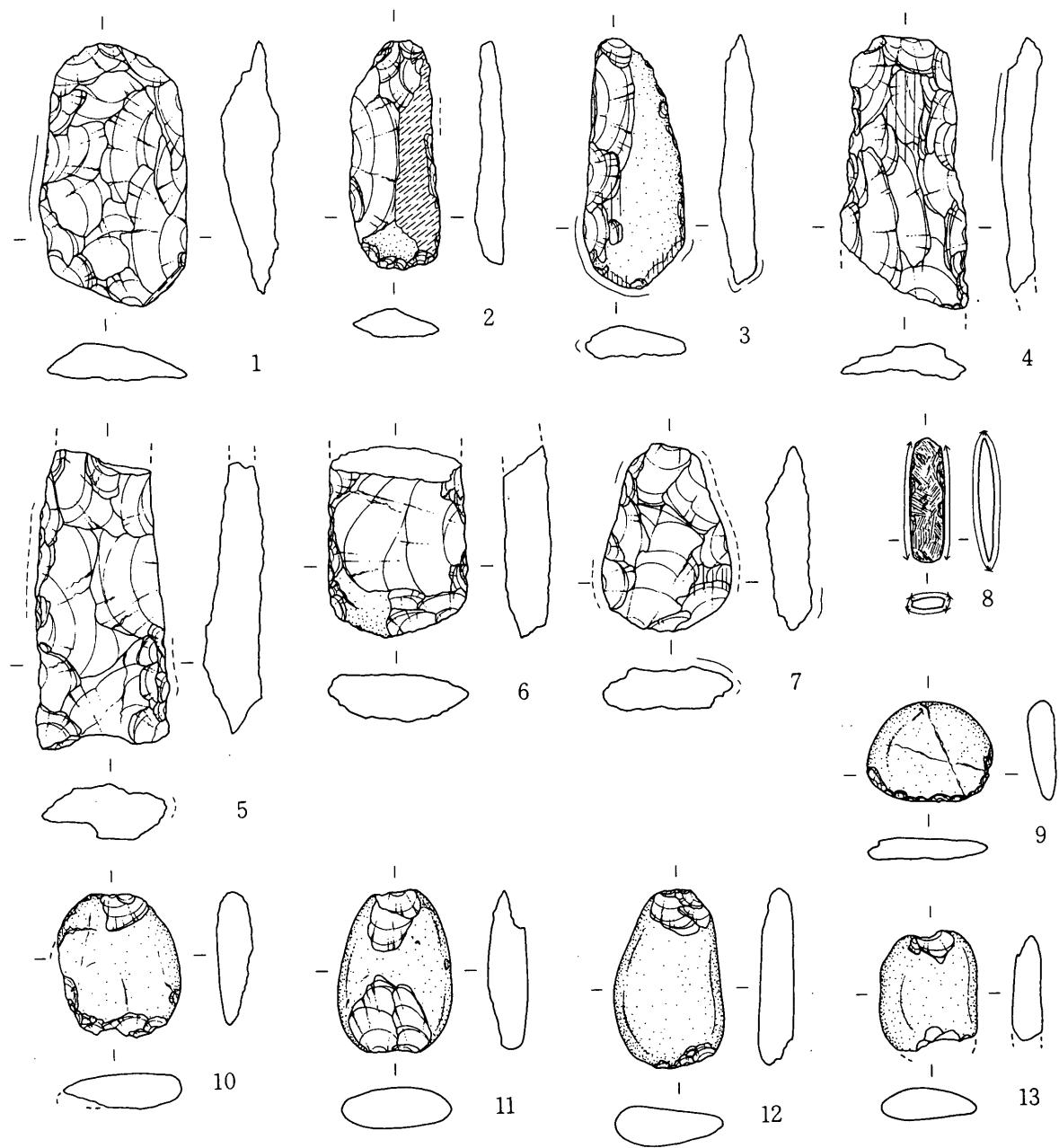
挿図141 SB48・49・52出土石器



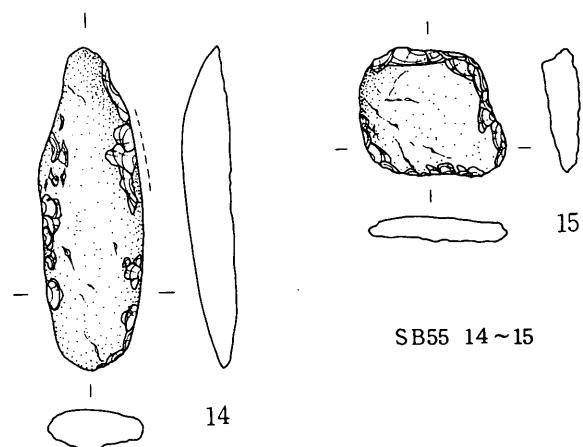
挿図142 SB51出土石器（1）



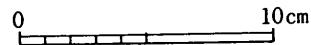
挿図143 SB51出土石器(2)



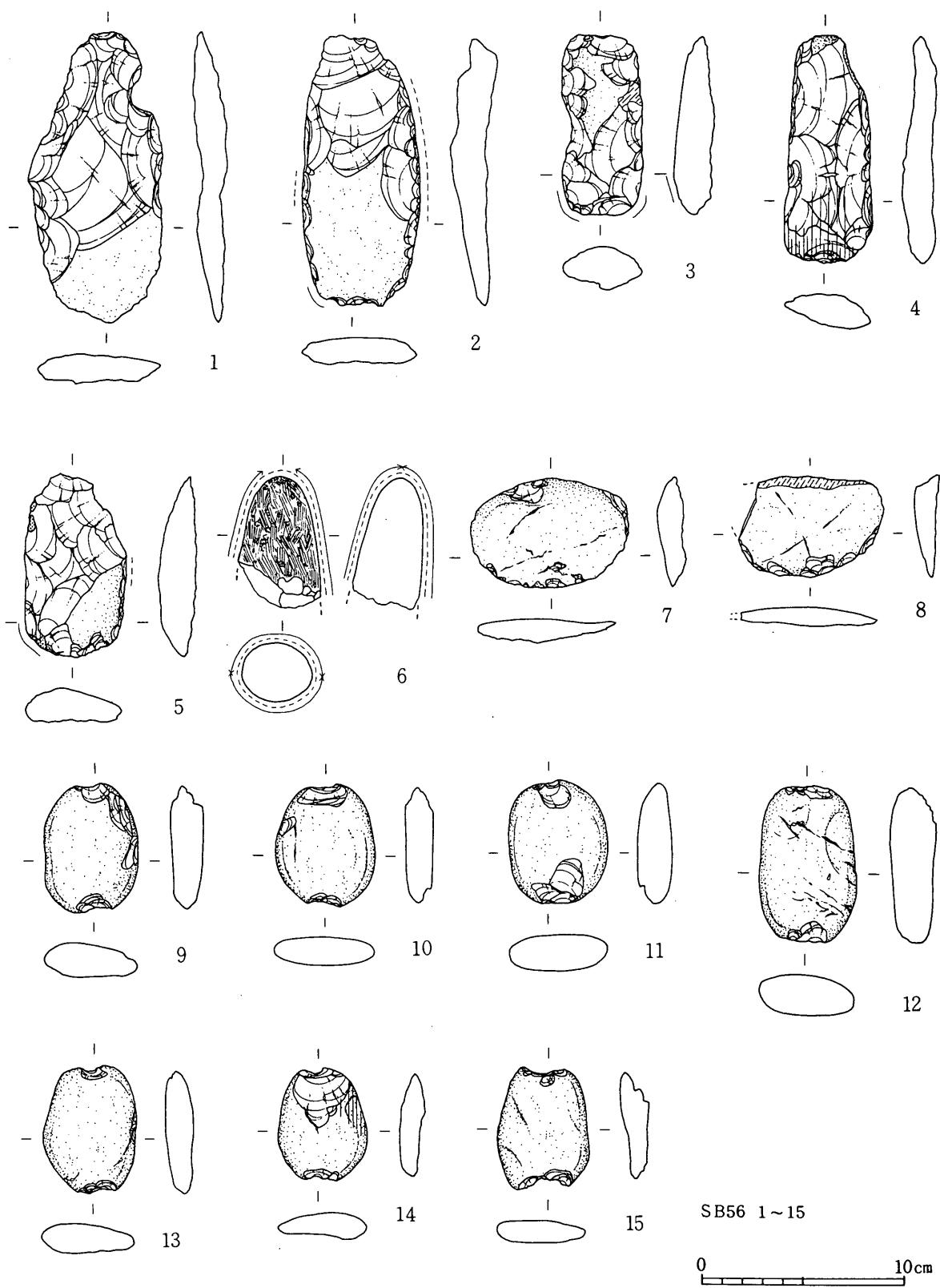
SB53 1~13



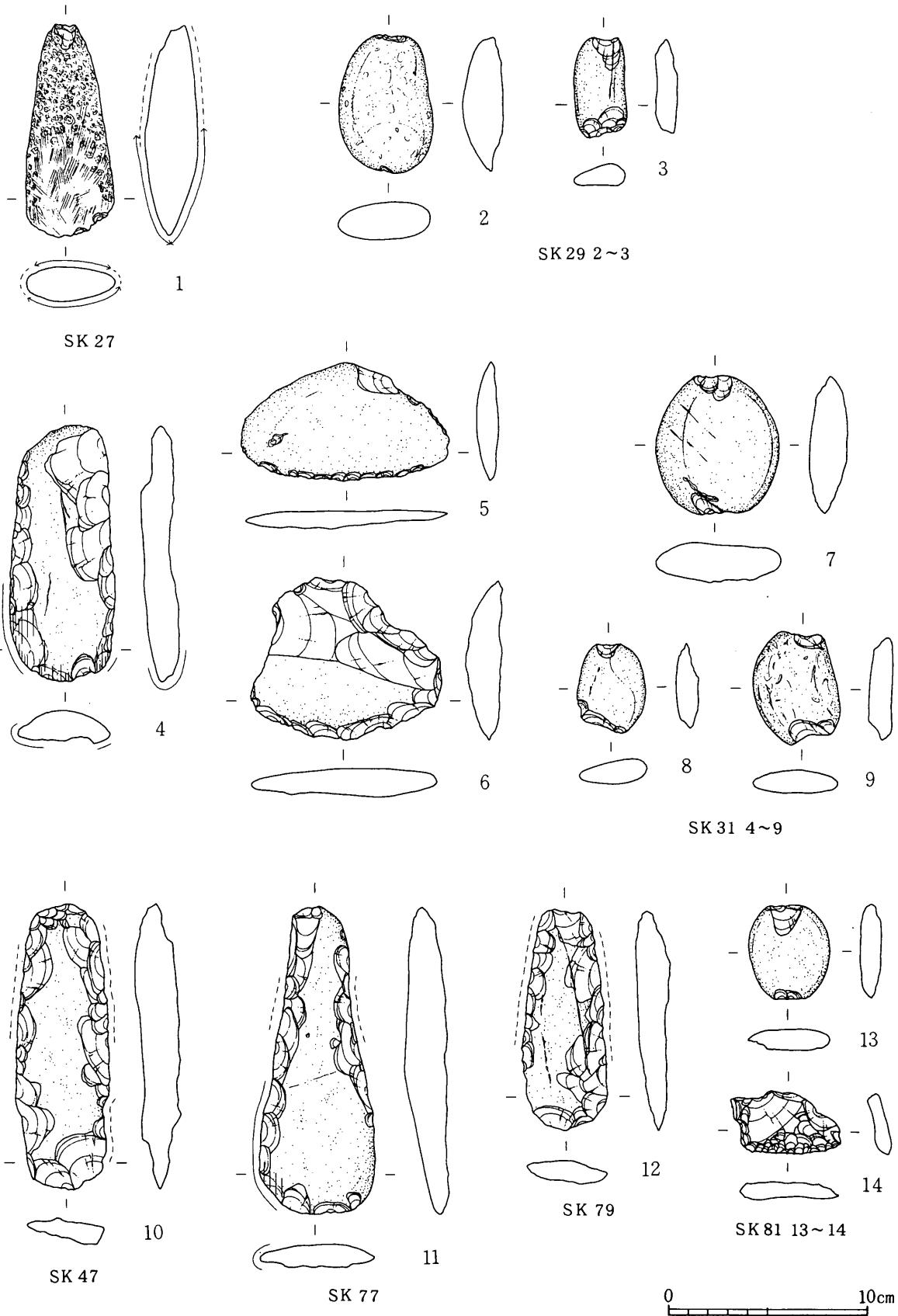
SB55 14~15



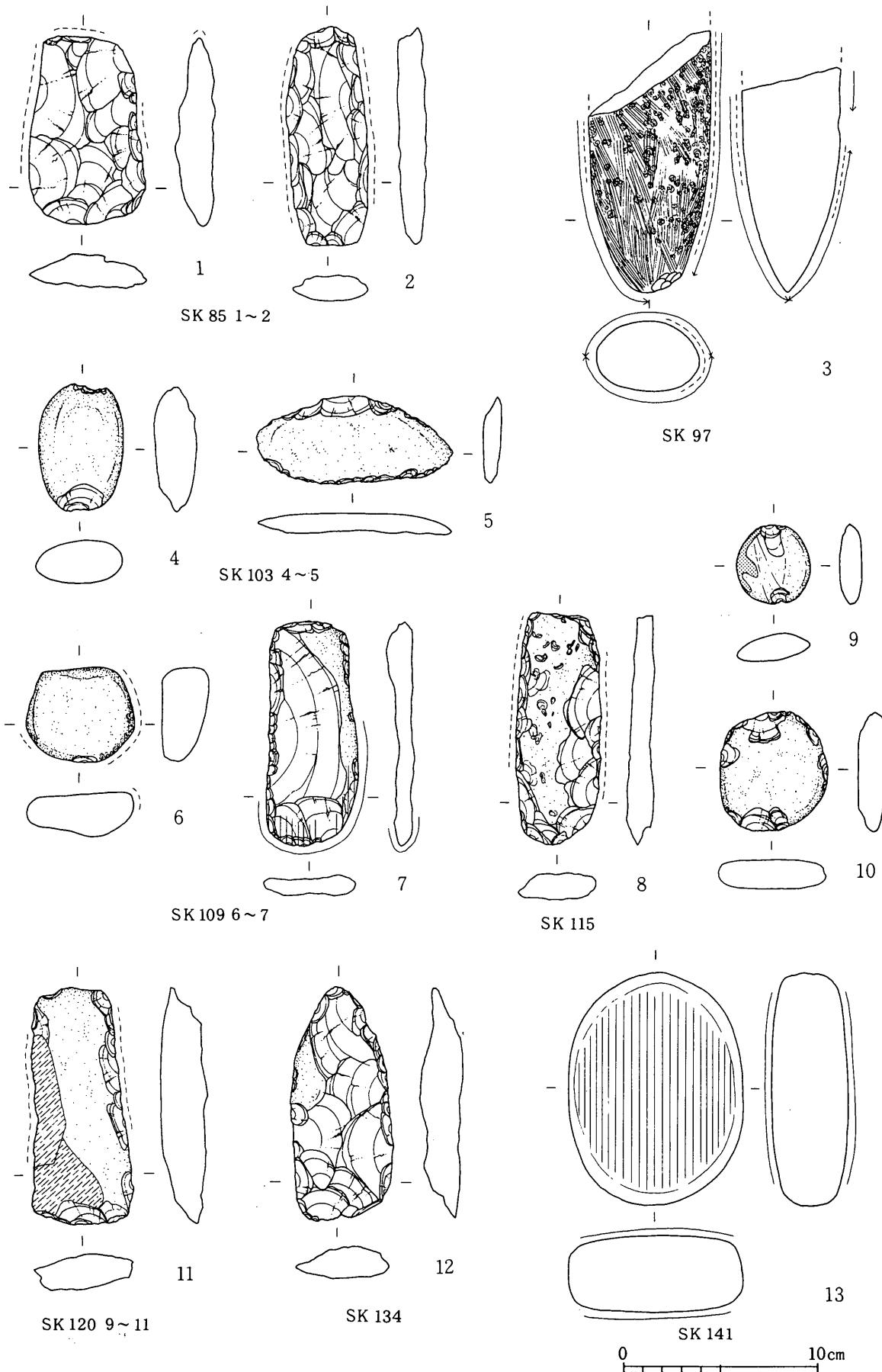
挿図144 SB53・55出土石器



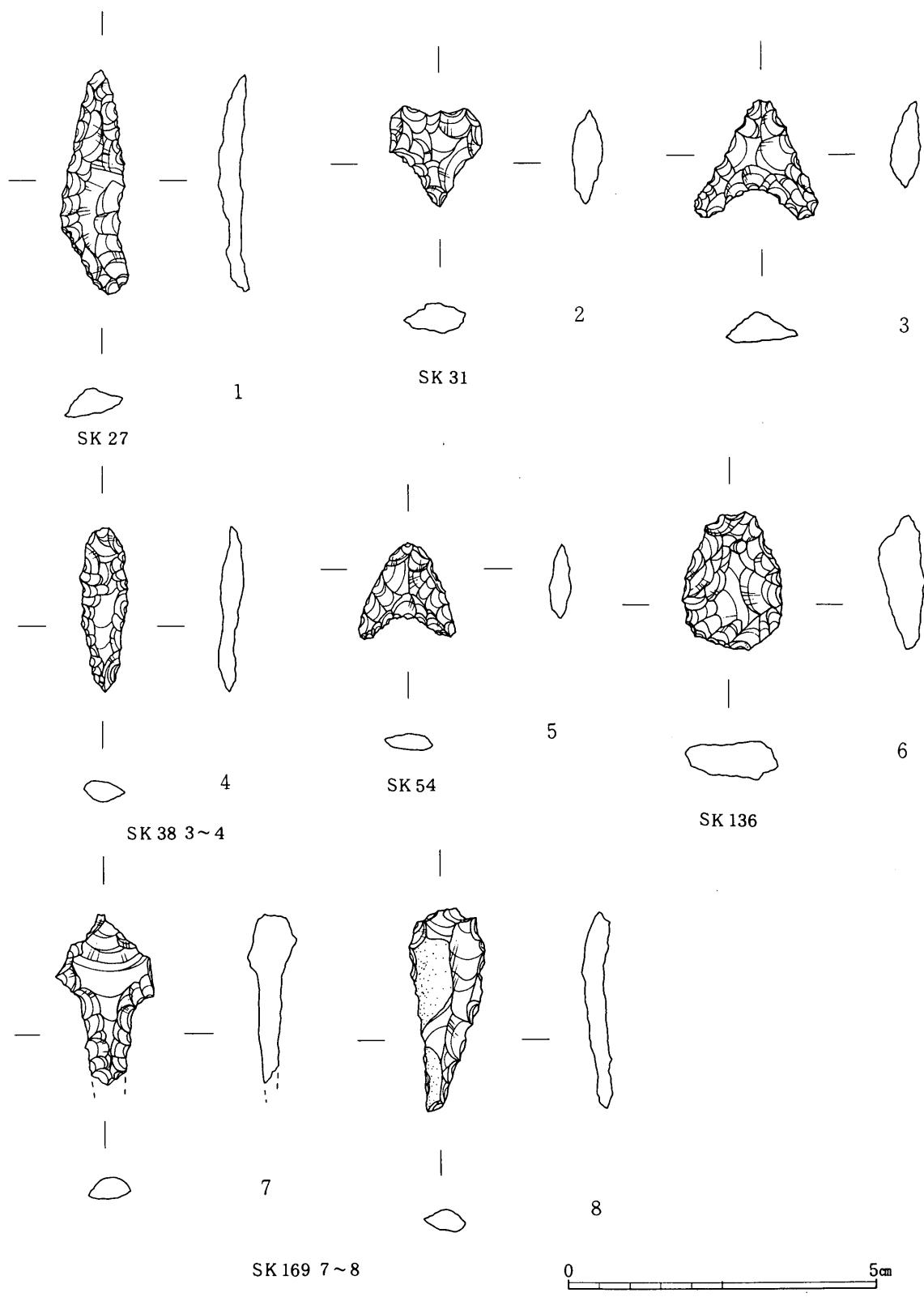
挿図145 SB5 6出土石器



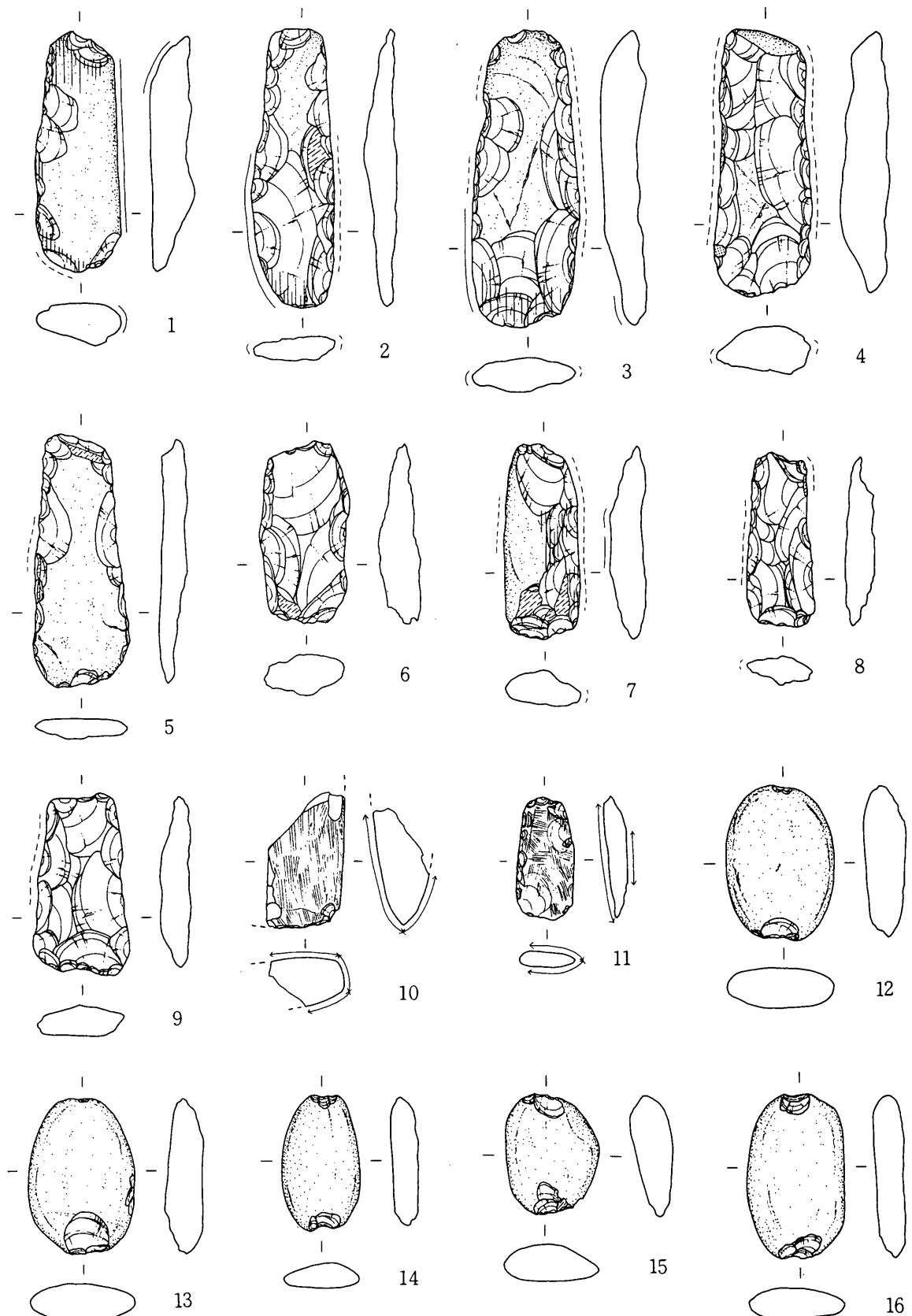
挿図146 SK出土石器（1）



挿図147 SK出土石器（2）



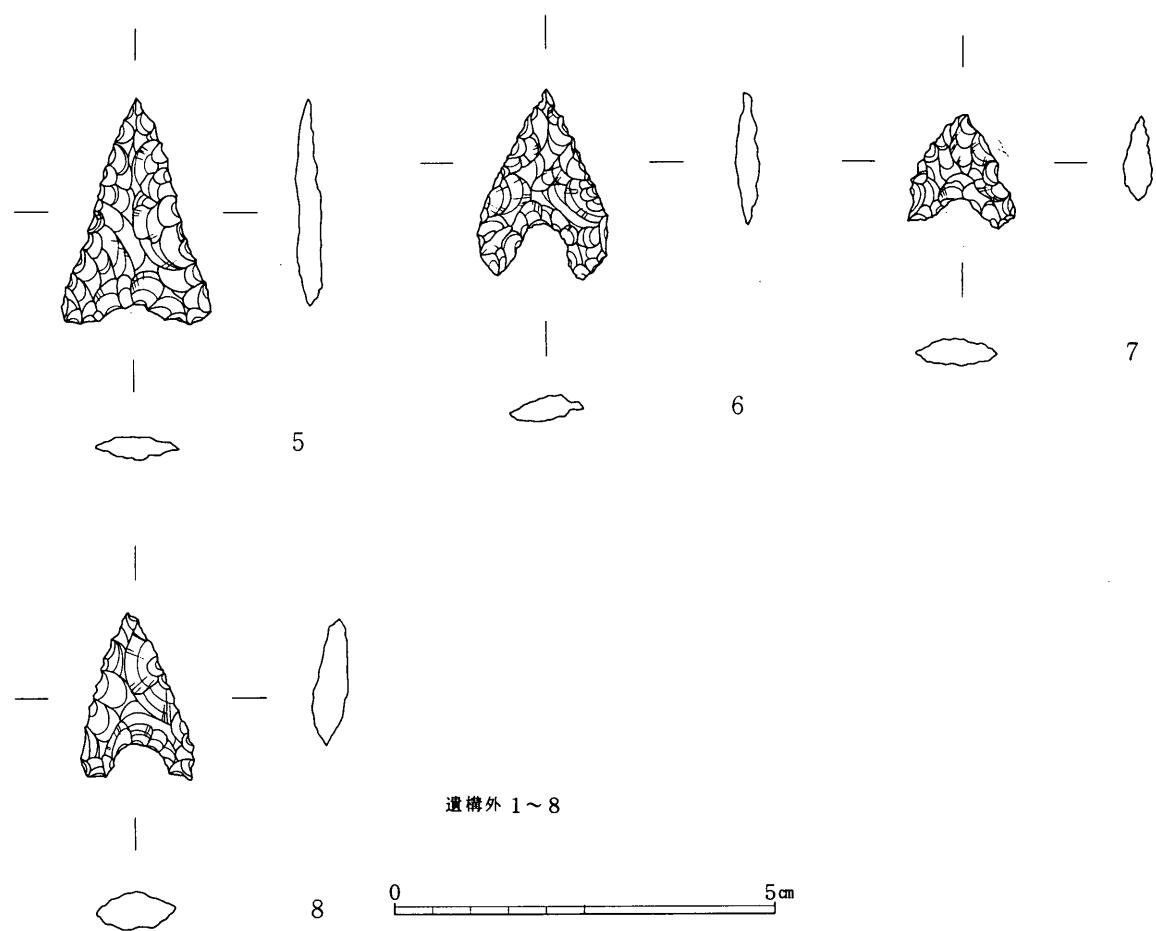
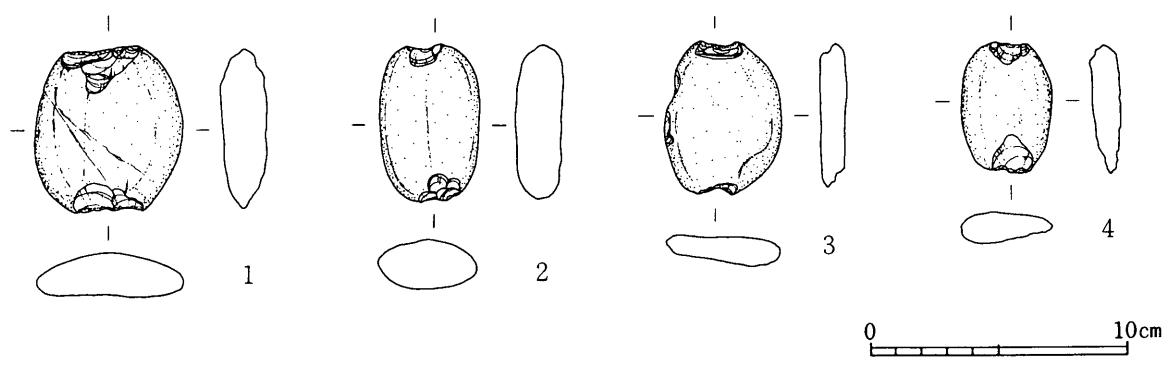
挿図148 SK出土石器（3）



遺構外 1 ~ 16

0 10cm

挿図149 遺構外出土石器 (1)



挿図150 遺構外出土石器（2）

第IV章 総括

大門原遺跡は大正10年、下伊那教育会から下伊那の考古学的調査を依嘱された鳥居龍蔵博士により踏査され、その成果は大正13年刊行の『下伊那の先史及び原始時代 図版』(鳥居龍蔵 1924)に示された。その文中には「大門原、鐘錠原天白堂に、喬木阿島第一小学校校庭の遺跡を加え、先史時代の本郡三代遺跡と称することができよう。」(下伊那の先史及び原始時代 図版 より引用)と注目された遺跡である。この『下伊那の先史及び原始時代』中では大門原遺跡出土の遺物として縄文中期後葉の土器・打製石斧・石錐・欠状耳飾等が掲載されている。また、今次調査地点東側では1970年、中央自動車道建設に先立ち発掘調査が行われている(長野県教育委員会 1970)。この地点は、扇状地の扇端部分に当たり、弥生時代後期の住居址4軒・近世の土坑墓などが確認されている。こうした調査の歴史を持つ大門原遺跡であるが、今回の調査は農道整備事業予定地という狭い範囲に限られたもので、遺跡全体からすると、ごく一部の調査を行ったにすぎない。しかし、その調査成果は「先史時代の本郡三大遺跡」と言わしめたにふさわしい規模の遺構・遺物が検出された。以下主体となる縄文時代中期中葉末から後葉の土器及び石器(石錐)について、調査成果の到達点と課題を中心に述べ、今次調査の総括としたい。

1 縄文土器の概要

大門原遺跡では58軒の住居址・多数の土坑から縄文時代中期初頭から晩期にわたる各期の遺構・遺物が出土している。中でも縄文時代中期中葉から後半にかけての土器群はその内容も豊富で、関東系・東海系・諏訪上伊那系・在地系などがみられ複雑な様相を呈している。これは飯田・下伊那地区の中期中葉から後葉にかけての様相を如実に示しており、当地方の土器様相を知る上で貴重な資料となろう。そこで本遺跡出土資料のうち、中期の土器について整理・分類し、問題点を抽出したい。

遺物の分類は従来の土器型式および型式学的特徴を基に行った。

(1) 遺物の分類

第I群土器 中期初頭の土器

a類 SB04・07・27・SK52・79・81から出土がみられる。本時期に比定される土器は少量で、器形が復元されたものはSB04(挿図57-1)の1個体のみである。集合沈線文が施文される土器を主体とし、縄文施文されるものも僅かにみられる。

b類 器面全面に縄文が施文され、口縁部・頸部に幅広の爪形文が施文される薄手の土器。関西系の船元式と考えられる。SK47からのみ1個体出土している

第II群土器 中期中葉の土器

SB06・13・15・20・21・22・53から主体的に出土し、その他の遺構からも混入して散見される。時期的には猪沢式から井戸尻式までで、量の多寡はあるが、おおよそすべての時期の土器が出土している。また平出第三類A土器・下伊那型櫛形文土器・北屋敷式・北陸系と考えられる土器などもみられる。

a類 角押文を用いる猪沢式土器を一括する。出土量はごく僅かでSB13・SB20などで散見されるにすぎない。

b類 先端が三角形の工具による刺突文および重三角文などの区画文がみられる新道式を一括する。出土量はごく僅かである。

c 類 藤内式を一括する。破片資料が多いため詳細は不明である。S B 06・13・20・21で主体的にみられ、その他の遺構からも散見される。挿図57-2は器形が筒状になり三角形区画のパネル文を配し、同下半部にムカデ状文を貼付した土器、挿図68-1は内湾する無文の口縁部に、1個の把手をつけ、縦位のパネル文を配した土器などがみられる。

d 類 井戸尻式を一括するが破片資料が多い。S B 30・34・36・43・56などで少量みられる。以下特徴的な遺物について述べる。挿図77-1・2は波状口縁を持つ土器と推定され、同一個体である。波頂部からは隆帯が3条貼付され三角形状の区画を作り、両脇は波状口縁に沿うように区画文が配される。また、頸部には楕円形の区画文が一周すると思われ、胴下半部は縄文施文される。挿図83-14は、口縁部が内湾し、波状口縁をもつキャリパー形の土器で、波頂部から隆帯が垂下され、渦巻き状に貼付される。挿図85-23は沈線を地文とし、幅1近い隆帯が3条貼付されるもの。隆帯は部分的に高く山形に貼付される。挿図87-6は口縁がやや内湾気味立ち上がる土器で、口唇部は隆帯の貼付により肥厚する。口縁部には隆帯の貼付による人体文様のモチーフがみられる。挿図87-7は口縁が内湾する土器で、隆帯により方形の区画が作られ、区画は短隆帯により連結される。区画内に隆帯による人体文が充填される。人体文の上下の空間及び方形区画間は沈線で充填されている。10・14は同一個体と推定され、隆帯による円形の区画内に三叉文などがみられる。挿図100-6～8は同一個体である。内湾気味に立ち上がり、口縁部は直線的に外反する。外反する口縁部は無文帶となり、内湾する箇所から文様が施文される。地文として細い沈線を充填し、隆帯により人体文が崩れたようなモチーフを作出している。

e 類 平出第三類A土器を一括する。この土器は鵜飼幸雄により中期初頭末～藤内・式までの4段階の変遷が提示されているが（鵜飼 1977）、ここでは一括して扱う。大門原遺跡ではS B 13・15・20・21などからc 類土器に少量伴って出土している。（挿図62-14～17・67-18～20・68-16～22）

f 類 口縁部を外側に折り返し無文帶とし、細かい平行沈線を縦位・横位に交互に施文する。頸部には隆帯を押捺して貼付する。薄手で焼成が堅緻であり、下伊那型櫛形文土器（神村 1986）に類似する。出土量は僅かでS B 41（挿図90-5・12）などで散見される。東海系の可能性もある。

g 類 北陸系と考えられる土器を一括した。出土量は少なく器種は浅鉢のみである。（挿図60-13・14）焼成は堅緻で、他の土器と異なる胎土をしている。

第III群土器 中期後葉の土器

S B 08・10・12・17・19・20・28・30・31・33・34・36・43・44・45・46・51・53、SK103などで主体的にみられ、その他の遺構からも混入して散見される。時期的には住居址の共伴状況から井戸尻式～曾利式にまたがる中期中葉末から後葉でも初頭の土器群と、中期後葉の在地の唐草文系および加曾利E式に類似する土器群である。

a 類 1種 口縁が内湾し、胴中位ほどで一旦くびれ、くびれ部から外に張ってから底部に窄む深鉢形土器で、口縁部は平縁・4単位の波状になるもの・角状の突起あるいは小突起がつくものなどがみられる。突起のつくものは7単位のものもみられる（挿図81-2）。波状口縁の鞍部に小突起あるいは小波状の部位がみられるものもある（挿図91-1）。また、1点のみだが波頂部からくびれ部にかけて把手が貼付されるものもみられる（挿図74-1）。この土器群は口縁部からくびれ部までは細い隆帯を密接貼付し、様々なモチーフを構成することを最大の特徴とする。また、くびれ部を境に大きく二分され、くびれ部に無文帶を持つものが多い。文様は、波状口縁もしくは突起・波状口縁の鞍部にみられる小突

起から、縦位に貼付される太めの隆帯、あるいは隆帯を組み合わせ梯子状などにした縦位の文様帯によって区画される空間部に、隆帯の密接貼付を行い構成されることが多い。また、平縁の土器にも他の隆帯と異なる太く高い隆帯が縦位に施されているものも見られる。モチーフの種類は隆帯を縦位に密接貼付するもの（挿図78-1、81-2・3）、波頂部および波状口縁の鞍部に貼付される縦位（Y字状・三角形状）の隆帯により区画された空間を、細い隆帯で異方向密接貼付し充填するもの（挿図74-1・3）、綾杉状に密接貼付するもの（挿図87-21）、楕円に近い半円弧を密接貼付するもの（挿図81-4、82-5・7）、横位に平行して貼付するもの（挿図84-4・5）、突起などによる区画を持たず、半円弧状に密接施文するもの（挿図87-1）など様々である。また、極少量であるが密接貼付された隆帯の間に細い条線を施文する例もみられる（挿図80-21、88-5）。いずれのモチーフでもくびれ部の無文帯を意識するかのように横位の隆帯が1条貼付されることが多い。一方、胴下半部はいずれも櫛形文が施されることも特徴である。こうした特徴からこのa類土器は、「細隆線文土器」（米田 1980）あるいは梨久保B式土器の組成の一つである櫛形文土器に近似している。

a類2種 口縁が「くの字」にやや内湾し、胴下部でややくびれ、くびれ部から外に張り底部に収束する深鉢形土器で角状に近い突起を持つものもみられる（挿図81-1）。口縁部は突起部分を含め細い隆帯が井桁状に密接貼付されるため、一見、肥厚口縁に近い形状を呈すことを特徴とする。挿図81-1は、くびれ部にかけては、太目の隆帯が人体文にちかい形状で貼付され、縦長の区画内は沈線で梯子状に充填し、くびれ部下には櫛形文が貼付される。挿図78-2・3・6・7なども本類に分類される

a類3種 破片のみのため詳細は不明であるが、a類1種に近い器形と推定される。文様はa種の区画帯となる縦位の隆帯文のみ隆帯の貼付で表現され、その他を沈線で表現するもの。挿図79-1は縦位の隆帯によって区画された両脇に、隆帯の貼付で人体文に近いモチーフを表現している。人体文の頭部は渦巻き状に丸く表現される。人体文及び縦位の隆帯の一部には刻みが施されている。また、すべての隆帯脇は沈線でなぞられ、隆帯間に生じた空間は沈線で充填されている。器壁は薄く胎土は長石粒を多量に含むものの堅緻である。挿図79-12は、2本1単位とした細い隆帯をV字状に貼付してV字間を細い横位の沈線で充填する。1単位となる隆帯間は無文である。また隆帯が剥落しているので詳細は不明だが太目の隆帯2本を交差させ何かのモチーフを構成する部分もみられる。挿図79-5は、くびれ部付近の破片であり櫛形文がみられる。この他にもa類3種の類例は挿図77-9～11などにみられる。

b類 梨久保B式（三上 1996）のなかの円筒形土器・4単位立体突起付土器に近似するものを一括する。大門原遺跡では出土量は少ない。挿図75-1は、円筒形の器形に十字文を貼付するもの。挿図88-16～18は同一個体で梯子状沈線をほどこすもの。胎土はa類土器と異なり異質である。挿図92-28は、隆帯を撲糸状に貼付し、両脇に蛇行する隆帯を貼付し、隆帯間は刺突が施されている。挿図103-23は、胴部にくびれ部を2段持つ円筒形の深鉢形土器である。口縁部には大きめな突起が2単位、その間に2個1単位の小突起が2単位つけられる。文様はa類に近似し、2段目のくびれ部下には櫛形文状の隆帯が貼付される。櫛形文の存在からむしろa類に近い可能性がある。

c類 東海系の北屋敷式を一括する。出土量は少なく客体的であり、胎土も一見してわかるほど薄く異質である。挿図74-2は、6あるいは7単位の角形突起を有し、器形は口縁部がくの字に折り曲げられ、頸部がくびれる深鉢形土器である。口縁部には細かい連続刺突が施され、くびれ部には細い隆帯を鋸歯状に貼付している。挿図75-2も同様な土器と考えられる。挿図79-10・11、92-19は、くの字

に折り曲げられた口縁部に矢羽状の連続刺突文が施されている。また、無文土器である挿図75-3・4も本類に含まれる可能性がある。

d類 曽利式土器および類似するものを一括した。挿図82-1は無文の口縁部がキャリパー形となり、頸部には渦巻文が貼付され、その部分より隆帯の貼付による2条の直線的な懸垂文が施される。胴部は条線文を地文とし、その上にU字文が貼付される。U字文の端部には渦巻文が付加する。また、U字文及び懸垂文には、刺突が施されている。この他にも挿図76-5、78-17~20、91-4など散見される。挿図59-2は、口縁部が無文になり、口唇部は内側に断面三角形状にふくらむ。頸部には3条の隆帯が貼付され、撫り糸状にした太目の隆帯による懸垂文で器面が分割される。胴部は地文として半載竹管による綾杉状文が施され、隆帯2条を折り返したU字文状の貼付文がみられる。挿図58-1は、口縁部が直立気味に開き、頸部で一段膨らみ筒状に底部に至る。口唇部は外側に折り返される。口縁部は無文帯となり、頸部の膨らみ部分には隆帯によるメガネ状の貼付文がみられる。貼付文の収束部分からは高めの隆帯をもちい懸垂文が施され、器面が分割される。胴部は十字文を縦に連結したようなモチーフが貼付され、空白部分を細い半載竹管の沈線で異方向に粗に充填している。また、本類に帰属することが適當か判断できないが、挿図91-19の土器もみられる。

e類 唐草文土器を一括する。SB17・20・45・51から出土する。挿図65-1は、口縁部が欠損するため詳細は不明だが、底部から大きく外反し口縁付近で内湾する樽形の土器である。文様は器上面に集中し、隆帯による半円状の貼付文内に、曲線的な沈線を充填する。円弧の下部からY字に懸垂文が貼付され、胴下半は縄文を地文とする。挿図93-1は実測図には表現しなかったが、おそらく2単位の把手がつけられていたと推定される。器形は樽形で、胴部は唐草文が施される。

f類 東海地方の中富式および類似する土器を一括する。挿図65-6は口縁がキャリパー型に内湾し口唇部が直立する。直立する口唇部は無文帯となり、その下から連続刺突文・渦巻き文が施文される。また、胴部には条線が施される。挿図57-13は、4単位の波状口縁を持つキャリパー形の土器で、縄文を地文とし、波頂部および鞍部から短い懸垂文を貼付する。またその間に沈線による橢円文を施文している。頸部以下には渦巻文・蛇行する懸垂文など組み合わされ施されている。挿図57-14は、口縁部を欠く胴部のみであるが、地文を縄文とし、頸部に入組文・胴部に連弧文を3条巡らす。挿図98-1は、4単位波状口縁の土器であり、波頂部に橢円形の隆帯を貼付する。条線文を地文とし、頸部に入組文、胴部に蛇行する懸垂文を沈線で施している。挿図73-1は、キャリパー形の器形で、口唇部直下に交互刺突文、その下に沈線による入組文を施している。胴部は縄文を地文とし、連弧文を一周させている。

g類 加曽利E式に類似する土器を一括した。加曽利E式と類似するが加曽利E式の影響を受けた下伊那的な土器といえる。挿図59-1は、無文の口唇部は直立気味に外反し、口縁部がくの字に屈曲する。口縁部から頸部にかけて内湾気味に窄まり、胴部はやや膨らむ。口縁部には隆帯により区画がなされ、沈線で充填している。頸部は無文帯となり、胴部は地文縄文で、沈線によりU字状のモチーフが一周し、蛇行する懸垂文と組み合わされている。挿図98-2は、口縁は波状で、頸部から外反し、口縁部が直立気味に内湾する。波頂部下には隆帯による渦巻文が施され、頸部には鋸歯文が一周する。胴部は直線的な懸垂文と横位の沈線による方形区画が作られるようである。挿図63-1は、口唇部が内面に折り返し気味に肥厚し、頸部から外反し、胴部は直線的になる。口縁部には沈線による橢円区画が作られ、縄文が充填される。胴部には縦長の橢円区画が胴下半と対弧状に作出され縄文が充填されている。

挿図64-1は、胴下半で対弧状に区画された楕円区画内に結節縄文が施されている。

2 第Ⅲ群a類土器について

分類を行ってきたとおり、大門原遺跡では中期初頭から後葉にかけて各種の土器群が出土している。中でも中期後葉でも初頭の土器群は、第Ⅲ群a類土器を主体とし、井戸尻式・曾利式・北屋敷式が共伴する様相を呈している。ところでこの第Ⅲ群a類土器は、岡谷市梨久保遺跡B地点出土の土器群について提唱された「梨久保B式」(宮坂 1972)をもとに、梨久保B式の型式組成を明確にした岡谷市花上寺遺跡の報告(三上 1996)の中で、「櫛形文土器」とされた土器群に近似している。しかし大門原遺跡では、梨久保B式の型式組成に入る他の型式は極少量であり、櫛形文土器が主体となる。こうした差違は諏訪地方との地域差か、あるいは時期差など他の理由なのか興味深い点である。この点を留意し、第Ⅲ群a類土器を中心に、飯田・下伊那地方の中期中葉末から後葉についてを概観する。

(1) 飯伊地区における中期中葉から後葉の研究史

ここでは第Ⅲ群a類土器を中心に、飯伊地区の中期中葉から後葉にかけての土器群がどのように扱われてきたか研究史を中心に概観したい。1976年、八木光則氏は伊那谷の縄文中期集落を分析する中で、その時間的推移の把握として中期後半を4段階に変遷させている。本遺跡の第Ⅲ群a類土器は、中期後半第1期に当たるとしている(八木 1976)。1978年には末木健氏が伊那谷中部の中期後半について論じ(末木 1978)、下伊那に曾利式が少なく、これを埋めるものとして、井戸尻式の退化型式の存在を予想している。1980年には米田明訓氏は南信地方の唐草文土器を中心に中期後半の土器編年を行い、下伊那の勝坂期最終末の様相として上伊那とほぼ同様に「櫛形文土器」の存在を予想し、それに続く唐草文土器第I段階の様相として、第Ⅲ群a類土器をあげ、一部に曾利式と思われる土器を伴出し、中期後半の初頭に位置づけられるだろうとしている。また、この土器群を唐草文土器の中でも特異な存在として「細隆線文土器」と仮称している(米田 1980)。1986年には神村透氏は、下伊那の勝坂期について論じ、その中で櫛形文土器の系統に注目し、櫛形文土器には「薄手づくり」・「厚手づくり」がみられ、薄手づくりの櫛形文土器は平出第Ⅲ類A土器の器形・文様・胎土・色調・焼成を受け継いだ土器であり、下伊那にて最も量的に多いことから「下伊那型櫛形文土器」と命名した(神村 1986)。同年、三上徹也氏は勝坂式土器と中部地方の新道式～井戸尻式との相違を述べる中で、櫛形文が施される「F器形」(本遺跡の第Ⅲ群a類土器の器形 筆者註)の発生を平出第Ⅲ類A土器にもとめ、曾利式まで作られ、西関東にはない中部地方のみの器形であることを明らかにした(三上 1986)。1998年には静岡県考古学会で縄文時代中期前半の東海系土器群のシンポジウムが開かれた。長野県は三上徹也氏が担当し、東海系の土器群と時期的に深い関係にある井戸尻式あるいは櫛形文土器と北屋敷式など東海系の土器について論じている。この中で、平出第Ⅲ類A土器の特徴である胎土の堅緻さ・薄さは北裏C式の影響を受けたもので、平出第Ⅲ類A土器は、薄手の下伊那型櫛形文土器と厚手の井戸尻型櫛形文土器(仮称)へ分かれて展開するとし、逆に平出第Ⅲ類A土器は口縁部や波状沈線文の要素を東海系土器に影響を与えたという予測をしている。

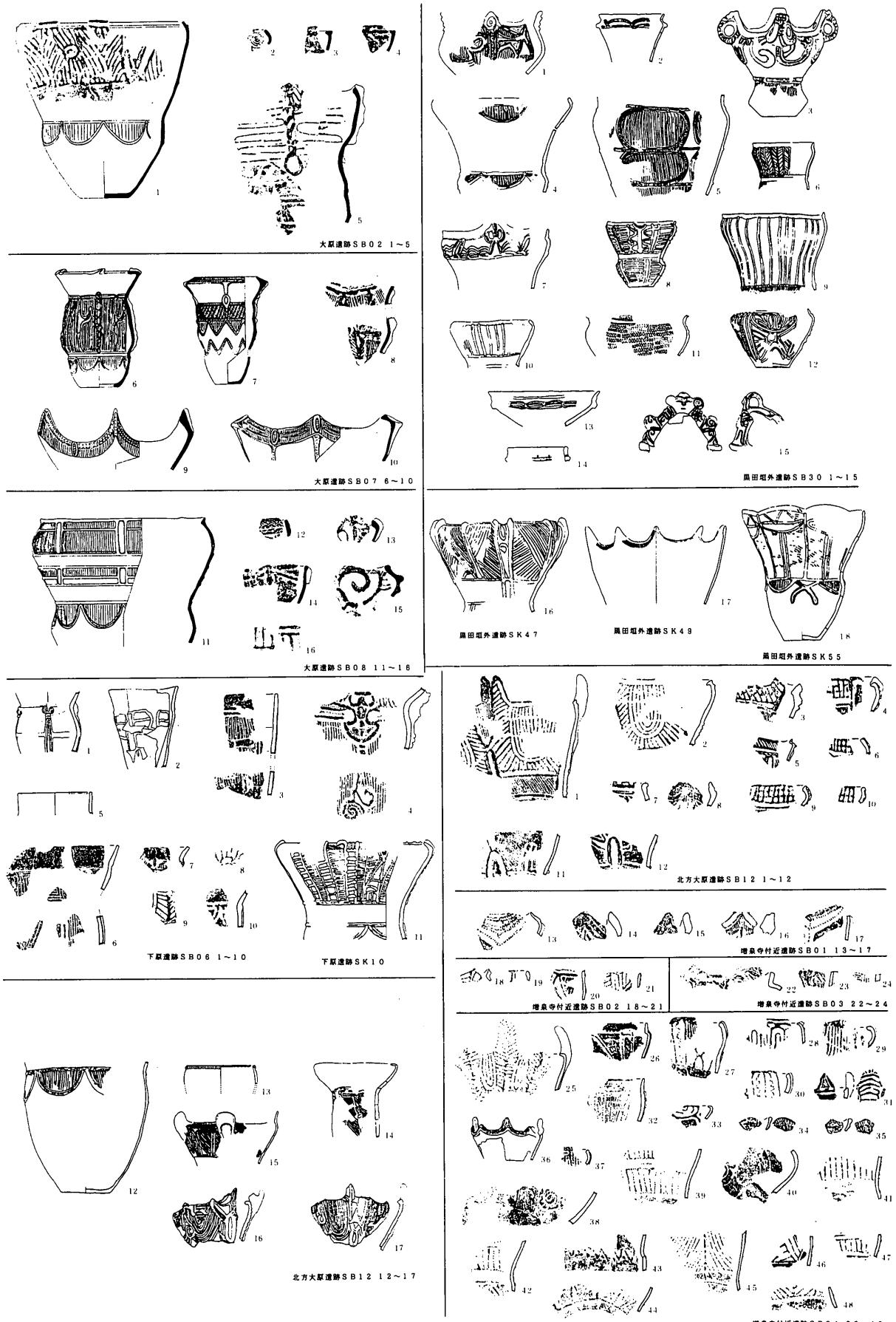
以上のように研究史を概観すると、第Ⅲ群a類土器は、器形が三上の言う「F器形」で、胴下半部に櫛形文をもつといった特徴から、櫛形文土器(下伊那型・井戸尻型)と強くつながることが明白である。また時期的にも井戸尻式～曾利式で、下伊那の唐草文系土器の前段階に位置づけられるが、ほぼ同時期の諏訪地方の梨久保B式と器種組成の面で異なる点も予想される。こうした点をふまえ飯伊地区の様相

をみていきたい。

(2) 飯伊地区における事例（挿図151・152）

飯伊地区の当該期の遺跡を集成し、主なものについて概観したい。

1. 飯田市大原遺跡 S B 07 (飯田市教委 1979) 口縁部から胴部上半が曾利式に類似し、胴下半に櫛形文を持つ土器(6)などと北屋敷式(9・10)が共伴する。第Ⅲ群a類土器はみられない。
2. 飯田市下原遺跡 S B 06 (飯田市教委 1989) 井戸尻式の後半期と考えられる土器(1・2)、筒型の器形で主に沈線で文様構成する土器(3・6)、曾利式あるいは梨久保B式に類似する土器(4)が出土する。第Ⅲ群a類土器は少量見られる。
3. 飯田市北方大原遺跡 S B 12 (飯田市教委 1995) 唐草文系土器後半期の住居との重複が指摘される住居址である。曾利式に類似する土器(14)と第Ⅲ群a類土器(16・17)、胴部に櫛形文がみられる土器(12)、4単位の逆U字状突起を持つ第Ⅲ群a類土器に類似する土器(15)が出土している。
4. 飯田市黒田垣外遺跡 S B 30 (上郷町教委 1989) 口唇部が無文で直立気味に立ち上がる第Ⅲ群a類土器(6・8・9・10)に、いわゆる多喜窪タイプの勝坂式土器(3)・沈線を充填させた楕円区画を巡らす土器(5)・櫛形文土器(4)など井戸尻式の土器群と、北屋敷式に類似する土器(2・7)などが共伴している。
5. 飯田市増泉寺付近遺跡 S B 04 (飯田市教委 1996) 第Ⅲ群a類土器が主体となり、角状突起を持つ土器もみられる(25)。共伴として井戸尻式(38・40)、北屋敷式(36・43)、関西系の土器(34・35)などが出土している。
6. 飯田市増泉寺付近遺跡 S B 05 (飯田市教委 1996) 第Ⅲ群a類土器(2・6~8)・隆帯による区画内に人体文を貼付する土器(1)・北屋敷式(3・5)がみられる。
7. 飯田市増泉寺付近遺跡 S B 07 (飯田市教委 1996) 沈線と隆帯を組み合わせたもの(9)・縦位の隆帯を貼付するもの(11・15)など第Ⅲ群a類土器と、a類2種に逆U字状突起のつく土器(12)がみられ、曾利系の土器(10・13)などが伴う。
8. 喬木村伊久間原遺跡23号住 (喬木村教委 1975) 第Ⅲ群a類土器を主体とし、北屋敷式(1)、胴下半に櫛形文を持ち、隆帯による長方形区画内に縦位沈線を充填する土器(4)などがみられる。
9. 喬木村伊久間原遺跡28号住 (喬木村教委 1975) 第Ⅲ群a類土器(17・18・19・23)およびキャラパー形で胴下半部が膨らみ、隆帯で人体文風のモチーフなどを貼付する土器(15)、口縁部に櫛形文を巡らす土器(24)、逆U字状の突起を持つ土器(14)、沈線と刺突を組み合わせ第Ⅲ群a類土器に似たモチーフを持つ土器(20)、無文土器(21)、北屋敷式に類似する土器(22)などがみられる。
10. 飯田市黒田大明神原遺跡 S B 36 (飯田市教委 1999) 角状の突起を持つ第Ⅲ群a類土器(28)、隆帯と沈線を組み合わせたa類2種に類似する土器(25・29)逆U字状の突起を持つ土器(23・24)、櫛形文を持つ胴下半部(27)などがみられる。
11. 飯田市黒田大明神原遺跡 S B 38 (飯田市教委 1999) 角状突起をもつもの(30)など第Ⅲ群a類土器を主体とする。このうち33は隆帯間に細かい条線が施されている。
12. 飯田市黒田大明神原遺跡 S B 51 (飯田市教委 1999) 直立気味の口縁部が無文帯となり、内弯部を縦位隆帯で区画し、区画内に隆帯による人体文が貼付されるモチーフを1単位とする井戸尻式(20・21・22)のみ見られる。縦位隆帯と人体文によって区画された4つの空間のうち、人体文脚部の



挿図151 飯伊地区の様相（1）

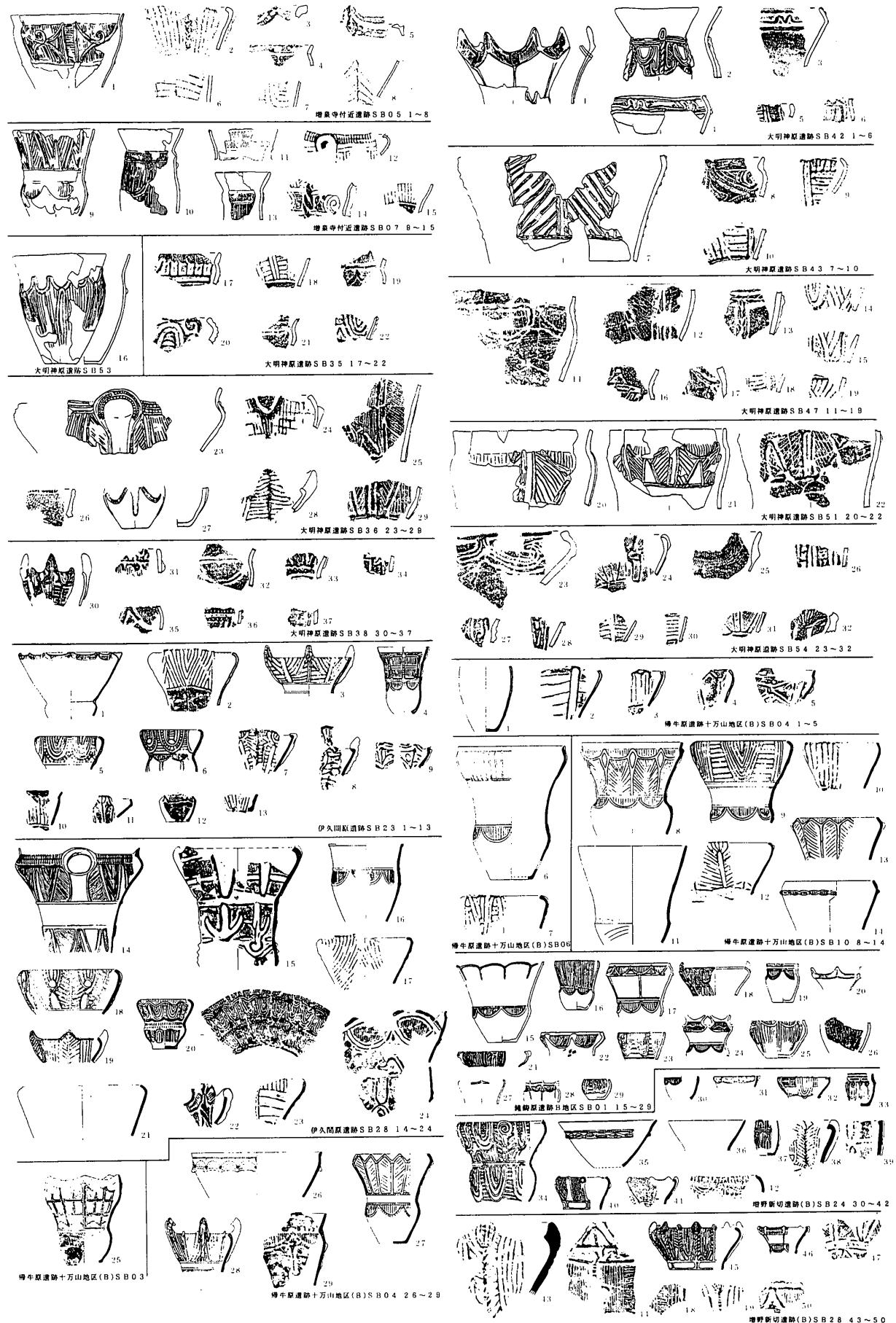
三角形区画のみ無文となり、他の部分には沈線が充填される。また文様単位間の細長い区画も無文帯となる。

13. 飯田市黒田大明神原遺跡 S B 42 (飯田市教委 1999) 梨久保B式に類似する土器(2)、北屋敷式(1)、加曾利E系の土器(3・4)に少数の第Ⅲ群a類土器(5)がみられる。
14. 高森町増野新切遺跡24号住(長野県教委 1973) 第Ⅲ群a類土器に類似するもの(34・38・41)、梨久保B式と考えられる土器(33・37・39)、北屋敷式に類似する土器(31)などが見られる。
15. 高森町増野新切遺跡28号住(長野県教委 1973) 第Ⅲ群a類土器に類似するもの(43・47)、第群a類土器あるいは梨久保B式に類似するもの(45)、梯子状沈線を持つ梨久保B式に類似する土器(44・48)などがみられる。

(3) 第Ⅲ群a類土器の成立と展開について

以上のように各遺跡の事例を概観すると、飯伊地区の縄文時代中期中葉末から後葉にかけては第Ⅲ群a類土器に類似する土器が中心となり、これに他地域の土器が組成に加わることがある程度理解される。一方、編年的位置づけは、黒田垣外遺跡30号住では、井戸尻式・勝坂式のいわゆる多喜窪タイプなどが共伴し、大門原遺跡S B 34では曾利式・井戸尻式・梨久保B式が混在する。また増泉寺付近遺跡S B 04では北屋敷式・井戸尻式が共伴する。これらから井戸尻式期に出現し、曾利式期のある段階まで残ることが予想される。ところで、飯伊地区における中期中葉の様相は、神村が指摘(神村 1986)するように、下伊那には厚手の勝坂式は少数で、薄手の「下伊那型櫛形文土器」が組成の主体となる傾向があり、「下伊那型櫛形文土器」は、飯田市宮城遺跡・飯田市大門町遺跡などの事例から籠内式～井戸尻I・II式期に存在する土器であると考えられ、前身となる平出第三類A土器とともに、中期中葉における飯伊地区の器種組成で中心的な位置を占めていたと推定される。一方、諏訪地方の中期中葉は、神村の言葉を借りるなら「厚手づくりの土器」(勝坂式)が主体を占め、少数の薄手づくりの櫛形文土器(下伊那型)が器種組成の一部となる傾向がある。こうした中期中葉の器種組成の差違が、中期中葉末から後葉にかけても歴然とした地域差として残存する可能性がある。

第Ⅲ群a類土器は、口縁が内弯し、胴中位ほどでいったんくびれ、くびれ部から外に張ってから底部にかけて窄む深鉢形土器で、口縁部からくびれ部まで細い隆帯の密接貼付により様々な文様を構成し、胴下半には櫛形文を持つことを特徴としている。大門原の例では器壁が5～7mm程度で胎土に多量の白色粒子を多量に含んでいる。櫛形文の存在から井戸尻式の櫛形文土器あるいは下伊那型櫛形文土器からの系譜を予想できるが、文様構成は先に述べたとおり、波状口縁の波頂部あるいは突起部から縦位に垂下貼付される太く高めの隆帯(仮に区画隆帯1とする)と、その間に貼付される太く高めの隆帯(仮に区画隆帯2とする)及びくびれ部付近の横位隆帯によって細分された区画内に、細く低い隆線(仮に装飾隆線とする)を密接貼付することを基本としており、区画隆帯1・2の形状によって区画の形状も制約されるため、一見すると様々な文様構成があるよう見られる。また、突起などを持たず直線的に隆帯を貼付する土器も、詳細に観察すると太目の区画隆帯が数条貼付される場合がある。これら区画隆帯のみの形状は、大門原遺跡S B 30(挿図74-3)のように、区画隆帯1は逆V字状で、区画隆帯2がY字状の例、同S B 30(挿図74-1)のように区画隆帯1が太目の隆帯1本で、この上に装飾隆線で梯子状のモチーフとし、区画隆帯2を逆V字状にする例などがある。こうした例は黒田大明神原遺跡S B 51(挿図152-20～22)の井戸尻式(三上 1986の井戸尻I・II式に類似)に見られる人体文と人体文間を



插図152 飯伊地区の様相（2）

区画する縦位の隆帯の形状に酷似しており、第Ⅲ群 a 類土器の区画隆帯は、井戸尻式に見られる櫛形文土器の人体文からの系譜を推定することができる。直線的に隆帯を貼付する土器についても、大門原遺跡 S B 34にみられる厚手で太い隆帯を縦位に 3 条 1 単位で貼付し、単位間に縦位の沈線を施文する土器（挿図85-23）などと関係があろう。また、仮に装飾隆線とした細い隆線は、井戸尻式の人体文の上下左右に施される沈線を隆線に置換した可能性が指摘される。このように第Ⅲ群 a 類土器は、各種のモチーフを井戸尻式の人体文および人体文周囲の沈線文を隆帯・隆線の密接施文に置換し、胴部下半に櫛形文を残した櫛形文土器として理解される。しかし井戸尻式にみられる隆帯の貼付による人体文と沈線文の関係は第Ⅲ群 a 類 3 種土器に認められ、他の事例でも増泉寺付近遺跡 S B 07・黒田大明神原遺跡 S B 36などで出土している。また第Ⅲ群 a 類土器の祖形と推定される人体文を持つ土器も増泉寺付近遺跡 S B 05・大門原遺跡 S B 36等で第Ⅲ群 a 類土器と併存している。この人体文を持つ土器は、大門原遺跡では器壁が厚く、がさつな感じのする土器で、人体文を構成する隆帯もかなり太い傾向にあり、器壁が薄い傾向のある第Ⅲ群 a 類土器とは異なっている。第Ⅲ群 a 類 3 種土器および厚手で人体文等を貼付する土器の存在は、厚手の井戸尻型櫛形文土器の系譜を引く土器が依然として組成に取り込まれた時期があることを示すと推定される。

ところで、第Ⅲ群 a 類土器には、内弯気味の口縁に 4 単位の突起を持つもの（挿図74-3）・内弯気味の平縁のもの（挿図78-1）・直立気味の無文帶部もつ平縁のもの（挿図151 黒田垣外遺跡 S B 30-9）・角状の高い突起を持ち、突起間に小突起が見られるもの（挿図151-増泉寺付近遺跡 S B 04-25）など器形、特に口縁部形態が異なる土器が存在する。また、くびれ部付近の無文帶部の有無にも差違が認められる。こうした差違はおそらく時期差から生ずると推定されるものの、現段階では新旧関係は不明である。また、第Ⅲ群 a 類 2 種に逆 U 字状突起がつく土器（挿図152 黒田大明神原遺跡 S B 36-23など）の存在も注目すべきであろう。

藤内式から連綿と続く櫛形文土器は、三上の指摘（三上 1998）のとおり、東海系土器群および平出第三類 A 土器の影響関係から、下伊那型櫛形文土器と井戸尻型櫛形文土器に独自な生成発展した 1 器種と理解される。この土器は諏訪地方等では井戸尻式から櫛形文土器を含む組成の梨久保 B 式へと受け継がれ、飯田下伊那地方では第Ⅲ群 a 類の櫛形文土器を中心とする組成に受け継がれたと理解される。しかし第Ⅲ群 a 類土器が下伊那型櫛形文土器の直接の系譜を引く土器群と判断するのは早計であり、土器の変遷・東海地方の土器群からの影響等も含め、今後注目すべき土器群といえる。

引用参考文献

- 岡谷市教育委員会 1972 『梨久保遺跡』 第三次・四次発掘調査報告
八木光則 1976 「縄文中期集落の素描（1）」「同（2）」『長野県考古学会誌』25・26
米田明訓 1980 「南信天竜川沿岸における縄文時代中期後半の土器編年」『甲斐考古』40号
三上徹也 1986 「中部・西関東地方における縄文時代中期中葉土器の変遷と後葉土器への移行」
『長野県考古学会誌』51
神村 透 1986 「下伊那型櫛形文土器」『長野県考古学会誌』51
岡谷市教育委員会 1996 『花上寺遺跡』
三上徹也 1998 「長野県における中期前半東海系土器」「縄文時代中期後半の東海系土器群」予稿集
静岡県考古学会シンポジウム97 第5回東海考古学フォーラム

	在地系（第III群a類土器）	梨久保 B系	井戸尻系	曾利系	北屋敷系	加曾利 E系
中葉末			15 16 17 18 19			
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33			22 23 24 25 26		
			1 ~ 3 • 17 ~ 19 黒田垣外遺跡30号住 30 '' 49号土坑 4 • 5 • 13 • 27 • 28 大門原遺跡 S B 30 6 • 21 '' S B 36 7 ~ 9 • 22 '' S B 34 10 • 14 '' S K 103 25 '' S B 10 26 • 31 '' S B 12 11 • 23 • 24 増泉寺付近遺跡 7号住 29 '' 4号住 12 黒田大明神原遺跡 S B 36 15 • 16 '' S B 51 32 平畠遺跡 1号住 33 伊久間原遺跡 28号住			
後葉						

挿図153 飯伊地区の中期中葉末～後葉の土器群

2. 石錘について

今回の調査で出土した石錘は総点数353点（内訳 完形品306・欠損品22・未製品22）と多く、大門原遺跡の生業を考察する上で注目すべき資料といえる（挿図154-1）。これらのすべては扁平な円形もしくは楕円形の礫を加工した礫石錘であり、石材は天竜川左岸にみられる硬砂岩が主体的に用いられている（挿図154-2）。

各々の大きさや重量は観察表に示してあるが、完形品の平均は、長径60mm・重量60gである（挿図154-3・4）。ちなみに飯伊地区において石錘が多量に出土している遺跡として、飯田市宮城遺跡（22個平均 長径50mm・重量40g）（飯田市教委 1975）、飯田市前の原遺跡（28個平均 長径59mm・重量計測なし）（飯田市教委 1975）、下伊那郡喬木村伊久間原遺跡（59個平均 長径59・重量70g）（喬木村教委 1978）があげられるものの総点数は遙かに少ない。しかしながら大門原遺跡では長径18mm・重量3gと極小のものや、長径102mm・重量216gの大型の石錘や住居址内から欠損品・未製品（楕円形の扁平な硬砂岩礫）も多数出土しており、遺跡での石器組成の重要な位置を占める石器といえる。

以上の点を考慮し、若干の考察を加える。

（1） 各住居址の状況

各住居址の出土状況をみると、大門原遺跡で10個以上の石錘を出土している例は12軒に及ぶ。これらの住居址の時期は共伴している土器から縄文時代中期中葉末から中期後葉の初頭が主体となる。石錘を10個以上出土した住居址のデータは以下のとおりである。

住居址	個 数	時 期	住居址	個 数	時 期
S B08	18	中期後葉初	S B13	26	中期後葉初
S B17	12	中期後葉初	S B20	26	中期後葉初
S B24	16	中期後葉初	S B27	16	中期中葉末
S B30	33	中期中葉末	S B31	35	中期中葉末
S B34	37	中期中葉末	S B36	10	中期中葉末
S B45	21	中期後葉初	S B51	12	中期中葉末

飯伊地区の縄文時代中期中葉末から後葉にかけての集落で、住居址から10個以上の石錘を出土している事例は、飯田市宮城遺跡1号住居址（10個・中葉）、同2号住居址（11個・中葉末）、飯田市前の原遺跡1号住居址（26個・後葉初）、下伊那郡喬木村伊久間原遺跡26号住居址（19個・後葉初）、同27号住居址（11個・後葉）、同28号住居址（10個・中葉末）の6例のみときわめて少ない傾向にある。

また、時期的な傾向も認められない。

いずれにしても調査面積の多寡も考慮しなければならないが、飯伊地区では縄文時代中期から後期にかけての集落が多数調査される中、大門原遺跡の石錘出土量は破格ともいえるものであり、この遺跡を特徴づける遺物といえよう。

（2） 大門原遺跡での石錘の用途

長野県内において石錘（切目石錘・礫石錘含む）が多量に出土した遺跡としては岡谷市梨久保遺跡（岡谷市教委 1986）、岡谷市花上寺遺跡（岡谷市教委 1996）などがあげられる。梨久保遺跡では切目

石錘が主体となり、時期的には中期後葉に多い傾向が指摘されている。このうち31号住居址からは37点の石錘が住居の東側一箇所に固まって出土している点から住居内の壁際にかけられていた投網の存在を推定している。また、岡谷市花上寺遺跡では礫石錘25点・切目石錘53点・有溝礫石錘5点・土錘490点が出土しており時期的には中期初頭から後期にかけて継続的に見られるようである。その用途としては諏訪湖に隣接する立地条件から漁労を推定している。

大門原遺跡で出土した石錘の多くは、素材として「硬砂岩」の橢円形の扁平礫を多用することを特徴としている。この硬砂岩は赤石山地を原産地とする砂岩であり、基本的に天竜川から東側にかけてのみ分布する石材である。このため、大門原遺跡付近での入手は困難であり天竜川からの持ち込みが推定される。

石錘の用途として一般的に推定されるものに、漁網用の錘あるいは籠・筵・編布を編むときの錘があげられる。飯伊地区において石錘を多量に出土する遺跡は、下伊那地方の段丘面名称である桐林面（標高420～450m）・伊久間面（標高480～510m）や大門原遺跡の所在する扇状地（標高650m）と天竜川を望む中位段丘面より高所に位置し、遺跡の脇には天竜川の支流となる小河川が見られることが共通する。こうした立地条件から遺跡付近の小河川での使用を推定することができる。

一方、大門原遺跡では、石錘は住居址内の床面上から出土する傾向が認められ、住居内で石錘を使用する行為があった可能性も示唆している。また、欠損品・未製品の存在も集落内での石錘の製造及び使用を窺わせ、古墳時代の住居址に見られる「編物石」と同様な機能を推定することも可能であろう。

いずれにしても大門原遺跡の出土量は特異であり、同時期の住居址でも石錘の多寡がある点を含め、住居址間の石器組成を明確にする必要があろう。

引用参考文献

- 飯田市教育委員会 1975 『前の原・塚原』
飯田市教育委員会 1975 『小池・宮城・神送塚』
下伊那郡喬木村教育委員会 1978 『伊久間原』
岡谷市教育委員会 1986 『梨久保遺跡』梨久保遺跡第5次～第11次発掘調査報告書
岡谷市教育委員会 1996 『花上寺遺跡』

図 1

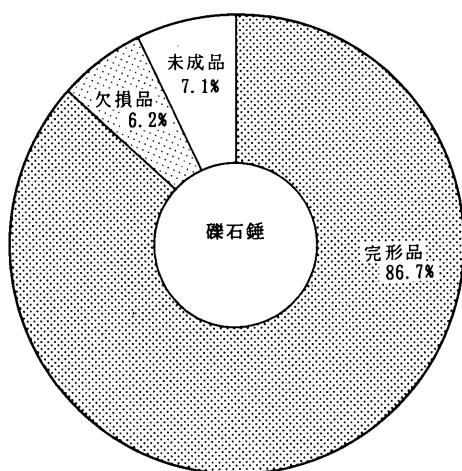


図 2

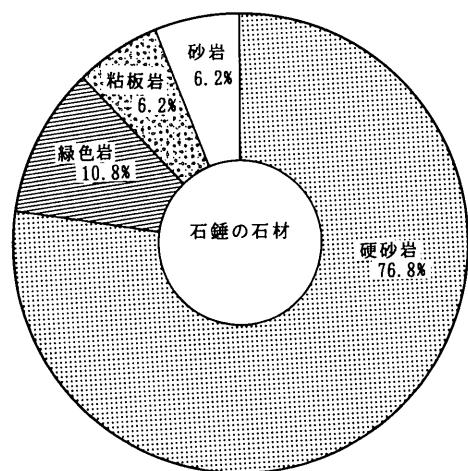
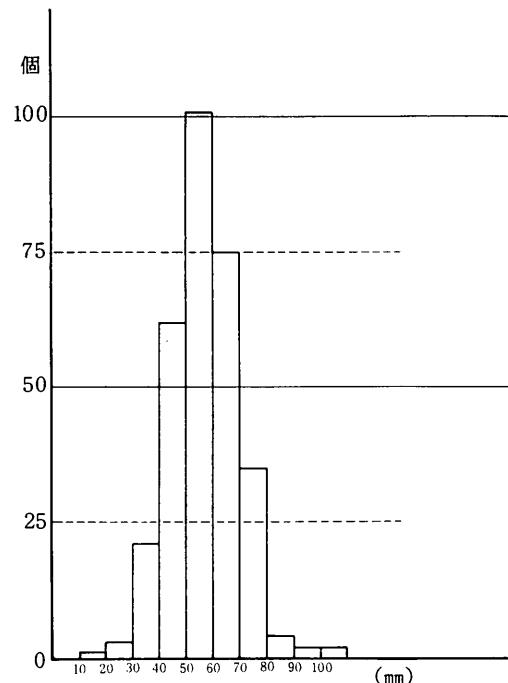
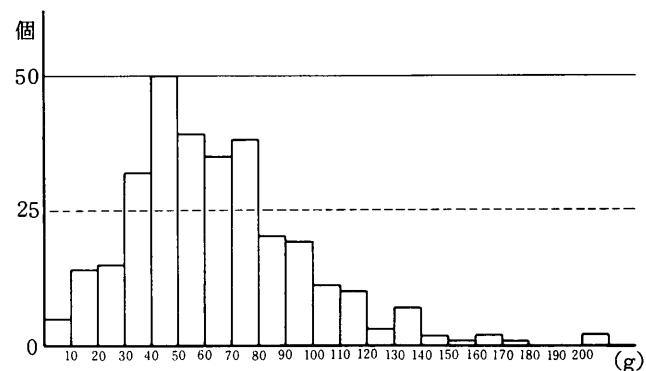


図 3



石鎚の長さ
(完形)

図 4



石鎚の重さ
(完形)

挿図154 石鎚に関するグラフ

石錐観察表 (1)

番号	遺構	石材	長／幅／厚mm	重g	備考	番号	遺構	石材	長／幅／厚mm	重g	備考
104-3	SB01	硬砂	66 / 43 / 15	63		109-4	SB13	硬砂	75 / 56 / 19	136	
4		硬砂	46.5 / 34 / 7	20		5		硬砂	67 / 61.5 / 18.5	114	
8	SB04	緑色	66 / 48 / 5 / 15.5	99		6		硬砂	58 / 58.5 / 14.5	92	3方向
14	SB05	粘板	37.5 / 33.5 / 9	20		7		硬砂	60.5 / 51 / 15	75	
15		硬砂	78 / 45 / 17	96		8		硬砂	64.5 / 41.5 / 13	63	
16		粘板	37.5 / 35 / 12	26		9		硬砂	66.5 / 38 / 12	46	
17		緑色	37 / 30 / 14.5	30	未成品	10		硬砂	51 / 53.5 / 15.5	68	
18		硬砂	49 / 41 / 10 / 5	36		11		硬砂	45 / 46.5 / 11	40	
19		硬砂	62.5 / 41.5 / 18.5	74		12		硬砂	53.5 / 52 / 13	62	
20		砂	38 / 37.5 / 9.5	22		13		硬砂	53 / 44 / 16	62	
21		硬砂	47 / 37 / 10.5	34		14		硬砂	53 / 30.5 / 15	38	
105-5	SB06	粘板	49 / 50 / 12	49	4方向	15		硬砂	54.5 / 47.5 / 14	56	4方向
6		硬砂	50 / 34 / 12.5	31		16		硬砂	51 / 44 / 12	45	
7		硬砂	66.5 / 50 / 15	83		17		硬砂	39.5 / 37 / 12	32	
8		硬砂	65.5 / 46 / 16.5	71		18		硬砂	44 / 37 / 11	26	
10		硬砂	55 / 37 / 18	47		19		硬砂	48.5 / 46.5 / 12	48	
11		硬砂	39 / 39 / 12	29		20		砂	24.5 / 24.5 / 8	9	
106-8	SB08	硬砂	48 / 50.5 / 19	64		21		硬砂	(39 / 5) / 34 / 13.5 (26)		欠損
9		硬砂	58 / 50 / 12	63		22		粘板	37 / 31 / 7.5	14	未成品
10		硬砂	51 / 52 / 14.5	66		23		硬砂	41.5 / 36 / 10.5	25	未成品
11		硬砂	48 / 47 / 12	47		24		硬砂	48 / 31 / 10	23	未成品
12		硬砂	62.5 / 45.5 / 17.5	82		25		緑色	44.5 / 36.5 / 13	41	未成品
13		硬砂	56.5 / 43 / 17	64		26		硬砂	54 / 63.5 / 11.5	68	未成品
14		硬砂	48 / 46 / 16.5	58		110-5	SB15	硬砂	52.5 / 33.5 / 15	40	
15		硬砂	70 / 49 / 19	95		6		硬砂	48.5 / 42 / 11	35	
16		硬砂	53 / 39 / 14.5	49		7		緑色	56 / 38 / 13.5	6	
17		硬砂	(63) / 46 / 9 (37)	欠損		8		粘板	41 / 41 / 15	41	
18		砂	59 / 52.5 / 10.5	64		9		硬砂	55.5 / 31 / 13.5	39	
107-7	SB12	硬砂	49 / 41.5 / 11	39		10		硬砂	68 / 41.5 / 16	75	3方向
8		砂	65 / 41 / 13.5	56		11		緑色	53 / 56 / 9	54	
109-12	SB13	硬砂	60 / 49 / 16.5	79		12		硬砂	(34) / 41.5 / 7	20	欠損
2		硬砂	68 / 47 / 16	82		112-1	SB17	緑色	107 / 71 / 14	210	4方向
3		硬砂	67 / 34.5 / 20	80		2		硬砂	86.5 / 46 / 19.5	118	

石錐觀察表(2)

番号	遺構	石材	長／幅／厚mm	重g	備考	番号	遺構	石材	長／幅／厚mm	重g	備考
112-3	SB17	硬砂	66 / 52.5 / 15	79		115-5	SB20	硬砂	(45) / 45 / 19	(60)	欠損
4		綠色	69.5 / 39.5 / 21	90		6		硬砂	(37) / 40 / 17	(26)	欠損
5		硬砂	70 / 45.5 / 15	72		7		砂	56 / 62 / 16	44	未成品
6		砂	60 / 50 / 12	63		8		硬砂	57.5 / 60 / 16	106	未成品
7		硬砂	53 / 52 / 16	73		9		硬砂	56 / 44.5 / 12	48	未成品
8		硬砂	68 / 41 / 16	60		10		硬砂	43 / 53.5 / 13	47	未成品
9		綠色	54 / 48.5 / 12.5	58		11		硬砂	35 / 28.5 / 10	15	未成品
10		硬砂	48 / 41 / 11.5	37		116-6	SB21	硬砂	73 / 54.5 / 15	100	3方向
11		硬砂	59 / 43.5 / 13	48		8		硬砂	74 / 51.5 / 20	114	
12		綠色	67 / 42 / 13.5	71	未成品	9		硬砂	61 / 50 / 14	67	
113-9	SB19	砂	65 / 39 / 15.5	60		10		硬砂	42 / 46 / 11	37	
12		砂	71.5 / 44.5 / 16.5	82	4方向	13	SB22	硬砂	64.5 / 47 / 19	91	3方向
13		硬砂	37 / 28.5 / 7.5	13		14		硬砂	35 / 31 / 10	20	
14		硬砂	34 / 27.5 / 8	13		15		硬砂	58 / 28.5 / 16.5	43	
114-7	SB20	粘板	61 / 53.5 / 13.5	85		119-3	SB23	硬砂	54 / 44.5 / 12	49	3方向
8		硬砂	42 / 38 / 12	33		117-1	SB24	硬砂	50 / 45 / 20.5	71	
9		硬砂	46.5 / 38 / 12.5	39		2		硬砂	49 / 47.5 / 10	39	
10		粘板	34 / 20 / 8	10		3		硬砂	45.5 / 40 / 18.5	51	
11		硬砂	41 / 33.5 / 16	32		4		硬砂	65.5 / 38.5 / 15	58	
12		砂	52 / 36 / 10.5	32		5		硬砂	60 / 44 / 21.5	91	
13		硬砂	51 / 44 / 15.5	60		6		硬砂	60 / 44 / 12	57	
14		硬砂	48 / 47 / 15.5	66		7		綠色	65 / 49 / 18	110	
15		硬砂	49 / 42 / 14.5	49		8		硬砂	63 / 45.5 / 15	73	
16		硬砂	57.5 / 40 / 10	43		9		硬砂	64 / 46.5 / 14	71	
17		粘板	68.5 / 29 / 13	46		10		硬砂	44 / 41 / 14	43	
18		硬砂	54.5 / 46 / 14.5	59		11		硬砂	70.5 / 44 / 15	80	
19		砂	60 / 51 / 13	75		12		硬砂	73 / 45 / 17	92	
20		砂	67 / 50 / 15	78		13		硬砂	38 / 39 / 11	25	未成品
21		硬砂	72 / 45 / 16	77		14		硬砂	(39.5) / 42 / 15.5	31	欠損
115-1		粘板	70 / 42 / 15.5	75		15		粘板	47.5 / 61 / 10.5	61	4方向
2		硬砂	51.5 / 44 / 18	70		16		硬砂	100.5 / 53 / 20	188	
3		硬砂	53 / 37 / 15	39		121-2	SB27	硬砂	102 / 64 / 18	216	
4		硬砂	(52) / 37 / 14	(38)	欠損	3		硬砂	79.5 / 56 / 22	156	

石錐観察表(3)

番号	遺構	石材	長／幅／厚mm	重g	備考	番号	遺構	石材	長／幅／厚mm	重g	備考
121-4	SB27	硬砂	81 / 37.5 / 13.5	76	未成品	124-20	SB30	硬砂	53.5 / 40.5 / 12	42	
5		硬砂	79 / 41 / 20	102		125-1		硬砂	54.5 / 33.5 / 9.5	27	
6		硬砂	65.5 / 58.5 / 20.5	116	3方向	2		緑色	34 / 30 / 7.5	15	
7		硬砂	50 / 53 / 11	51		3		硬砂	(32.5) / 36 / 9 (18)		欠損
8		硬砂	74 / 55 / 20.5	114		4		緑色	51.5 / 29.5 / 14	38	
9		硬砂	68.5 / 56.5 / 15	91		5		硬砂	(63) / 47.5 / 11 (59)		欠損
10		硬砂	67 / 53.5 / 26.5	148		6		緑色	(57) / 43.5 / 10 (39)		欠損
11		緑色	54 / 35.5 / 22	69		7		硬砂	69.5 / 49.5 / (8) (53)		欠損
12		粘板	61.5 / 51.5 / 14.5	70		8		硬砂	65.5 / 45 / 10	50	3方向
13		硬砂	60 / 56.5 / 22	116		9		硬砂	37 / 29.5 / 10	19	未成品
14		硬砂	53 / 42.5 / 18	55		10		緑色	41 / 37.5 / 12.5	41	未成品
15		緑色	50.5 / 30 / 11	28		11		粘板	53.5 / 49.5 / 12.5	51	
122-1		硬砂	39 / 27.5 / 10	18		12		緑色	48.5 / 75.5 / 15	89	
2		粘板	34 / 33.5 / 10.5	18		13		硬砂	28 / 20.5 / 6.5	6	未成品
124-1	SB30	緑色	85.5 / 51 / 15	118		128-1	SB31	砂	78 / 50 / 22	150	
2		硬砂	69 / 44 / 20	95		2		硬砂	70 / 52.5 / 18	112	
3		硬砂	62 / 50.5 / 18.5	104		3		硬砂	70 / 61 / 15.5	110	
4		硬砂	72 / 50 / 10.5	83	3方向	4		緑色	72 / 56 / 17	132	4方向
5		硬砂	69.5 / 46 / 15	73		5		硬砂	69 / 47 / 19	86	
6		硬砂	60 / 55 / 15	84		6		緑色	70 / 55 / 16.5	104	
7		硬砂	59.5 / 48 / 12	59		7		砂	82 / 53 / 22.5	136	
8		硬砂	64 / 51 / 18	91		8		硬砂	60 / 45 / 15	75	
9		硬砂	56 / 59 / 17	92		9		硬砂	59 / 43 / 15	66	
10		緑色	57 / 45.5 / 15	70		10		硬砂	61.5 / 44.5 / 16.5	71	
11		硬砂	57.5 / 52 / 9	63		11		硬砂	67 / 45.5 / 16	76	
12		硬砂	58.5 / 50.5 / 16.5	80		12		硬砂	57.5 / 41 / 12	46	3方向
13		硬砂	60 / 48.5 / 16.5	75		13		硬砂	60 / 50.5 / 16	75	
14		硬砂	65 / 46 / 16.5	88		14		硬砂	53.5 / 48.5 / 18	67	
15		粘板	66 / 36.5 / 15.5	62		15		硬砂	60.5 / 39.5 / 13.5	59	
16		硬砂	58.5 / 47.5 / 15	61		16		硬砂	51 / 44.5 / 17	57	
17		硬砂	54.5 / 42.5 / 16	60		17		硬砂	53.5 / 47 / 9	46	
18		硬砂	44 / 41 / 10	34		18		硬砂	48.5 / 49.5 / 15	64	
19		硬砂	53 / 42 / 14.5	59		19		硬砂	48 / 45.5 / 13	46	

石錐観察表(4)

番号	遺構	石材	長／幅／厚mm	重g	備考	番号	遺構	石材	長／幅／厚mm	重g	備考
128-20	SB31	硬砂	57.5／50／14.5	68		132-9	SB34	硬砂	66.5／42／10	44	
129-1		硬砂	49／41／16.5	51		10		硬砂	71／36.5／14	56	
2		硬砂	49／47.5／12.5	50		11		硬砂	52.5／46／14	57	
3		緑色	(42)／46／12	34	欠損	12		硬砂	56.5／46／17	71	
4		硬砂	46／41／13.5	37		13		硬砂	62／43／21	76	
5		砂	31／32.5／11.5	18		14		硬砂	69／34／12.5	42	
6		硬砂	55／52.5／16	78		15		硬砂	55／47／13	58	
7		硬砂	60／49／16.5	88	3方向	16		砂	58／41.5／11.5	57	
8		硬砂	66.5／42／18.5	86		17		硬砂	61／47／17	75	
9		硬砂	51.5／44／15	61		18		硬砂	54.5／52／15.5	77	4方向
10		硬砂	49／49／12	52		19		粘板	66／47／18.5	82	
11		硬砂	(47)／47／15	50	欠損	20		緑色	63／41／12	47	
12		粘板	58.5／40.5／11.5	47	3方向	133-1		硬砂	37／31.5／10	20	
13		硬砂	59／41／13	55	未成品	2		硬砂	44／36／15	33	
14		硬砂	46.5／34.5／10	27	未成品	3		硬砂	40／49.5／17	51	
15		硬砂	40／30／10.5	18	未成品	4		硬砂	46.5／48／12	48	
130-2	SB32	硬砂	(75)／54／20.5(136)		欠損	5		硬砂	54／41／13	42	
6	SB33	硬砂	47／43／16	51		6		緑色	51.5／40.5／11.5	43	
10	SB35	硬砂	73／40／15.5	58		7		硬砂	51.5／40／12	40	
131-10	SB34	硬砂	58.5／54／14	83		8		硬砂	50／40.5／12	41	
11		砂	69.5／51.5／17	97		9		粘板	31.5／32／8	14	
12		硬砂	59／41／16.5	61		10		粘板	33／33／8.5	13	
13		硬砂	56.5／62／17	92	3方向	11		硬	34.5／29.5／14	23	
14		硬砂	(58)／53／16.5	95	欠損	134-7	SB36	硬砂	69.5／38／10	49	
15		硬砂	61.5／54.5／14	79		8		硬砂	80／57.5／20	164	
132-1		硬砂	68／54.5／16	114		9		硬砂	61／40／10.5	44	
2		硬砂	83／54／17	132		10		硬砂	64／48／15	72	
3		硬砂	75／49.5／18	108		11		硬砂	62.5／45.5／16.5	68	
4		硬砂	73.5／61／17.5	136		12		硬砂	56.5／33／17	45	
5		硬砂	98／52.5／19	170		13		硬砂	48.5／45／11	39	
6		緑色	63.5／54／18	108		14		硬砂	52／44.5／14	51	
7		硬砂	67／44／13.5	74		15		硬砂	43／31／12.5	25	
8		硬砂	74／48／15	93		16		砂	36.5／25／9	15	未成品

石錐觀察表(5)

番号	遺構	石材	長／幅／厚mm	重g	備考	番号	遺構	石材	長／幅／厚mm	重g	備考
135-5	SB37	硬砂	57.5／(24)／11	21	欠損	139-5	SB45	砂	26.5／21.5／11／5	10	
6		硬砂	54／53／15	64		6		硬砂	59／44／15	60	
7		緑色	67.5／41.5／13	63		7		硬砂	57／(34)／11.5	(36)	欠損
8		硬砂	54.5／31／15.5	44		8		粘板	47.5／42／12	40	
9		硬砂	36.5／38.5／11	27		9		硬砂	46.5／43／11	41	
10		緑色	49.5／35.5／12	38		10		硬砂	75／27／11	43	
136-2	SB40	緑色	57.5／47／17.5	92		11		硬砂	(62.5)／37／15	(62)	欠損
3		砂	79.5／41.5／15	83	未成品	12		硬砂	43／33／9	20	
10	SB41	硬砂	58／51.5／13	64		140-13	SB46	硬砂	71／34／17	64	
11		硬砂	57.5／38.5／14	54		14		粘板	54.5／41.5／16.5	57	
13	SB42	緑色	83.5／(55.5)／13.5	134	欠損	141-6	SB49	硬砂	57.5／37.5／11.5	46	
137-6	SB43	硬砂	44／31／13.5	29		11	SB52	硬砂	(68)／41.5／18	(71)	欠損
7		硬砂	53.5／45.5／14.5	54		12		硬砂	48／34／11	30	
8		硬砂	(40.5)／44.5／13.5	31	欠損	13		硬砂	51.5／41／13	48	
9		硬砂	44／43／12	41		143-1	SB51	硬砂	74.5／48／22	128	
10		硬砂	47.5／51／10	44		2		硬砂	75.5／51.5／15.5	102	
11		硬砂	55／37／12.5	51		3		緑色	68／51.5／17	108	
12		硬砂	73／53／16	100		4		硬砂	64.5／48／14.5	78	
13		硬砂	56／40.4／16.5	62		5		硬砂	71.5／47／15.5	89	
14		硬砂	58／44.5／14	62		6		硬砂	48／43／12	40	
137-11	SB45	硬砂	95／65／17	176		7		硬砂	60.5／36.5／16.5	52	
12		硬砂	64.5／43／18	79		8		硬砂	50.5／34／15	42	
13		硬砂	78.5／44／23	104		9		砂	(44)／32.5／11	(22)	欠損
14		硬砂	71／53.5／18	108		10		砂	38.5／34／8.5	19	3方向
15		硬砂	41.5／51／14.5	59		11		緑色	23.5／23／7	6	
16		硬砂	43／42／11	35		12		硬砂	18／14.5／7	3	
17		硬砂	45.5／38／11.5	34		144-10	SB53	硬砂	57／50.5／15	66	
18		硬砂	42／36／11	28		11		硬砂	67.5／49／19	87	
19		硬砂	45.5／42／13.5	42		12		硬砂	75／47／14	83	
139-1		砂	72／52.5／23	134		13		粘板	(44)／41.5／13	(45)	欠損
2		硬砂	53／39／14	43		145-9	SB56	硬砂	58／44／15	71	4方向
3		硬砂	47.5／38.5／14.5	44		10		硬砂	54.5／49／13	59	
4		硬砂	53.5／49.5／12	58		11		硬砂	59／48／16／5	85	

石錐観察表(6)

番号	遺構	石材	長／幅／厚mm	重g	備考	番号	遺構	石材	長／幅／厚mm	重g	備考
145-12	SB56	硬砂	76 / 48.5 / 19.5	120		149-12	外	硬砂	73.5 / 52.5 / 20	126	
13		硬砂	57 / 45 / 13.5	55		13		硬砂	75.5 / 52.5 / 17.5	110	
14		硬砂	50 / 44 / 11	40		14		硬砂	62.5 / 37 / 13	49	
15		粘板	51.5 / 43.5 / 10.5	48		15		緑色	58.5 / 45.5 / 20	86	
146-2	SK29	緑色	67 / 47 / 21	112		16		硬砂	78.5 / 48 / 14.5	100	
3		硬砂	47 / 26.5 / 11.5	23		150-1		硬砂	61.5 / 57.5 / 18	100	
7	SK31	硬砂	67.5 / 63 / 20	124		2		緑色	58.5 / 38.5 / 18.5	80	
8		硬砂	42 / 35 / 12	25		3		硬砂	53.5 / 45.5 / 9.5	45	
9		砂	50 / 42 / 11	42		4		緑色	47.5 / 35 / 12	35	
13	SK81	緑色	42 / 40.5 / 10.5	35		147-4	SK103	硬砂	63.5 / 43.5 / 21	87	
6	SK109	緑色	48.5 / 56.5 / 20	122	未成品	9	SK120	硬砂	40 / 38 / 14	23	
10		硬砂	66 / 55 / 13	78	4方向						

石材 硬砂は細粒砂岩

緑色は緑泥石片岩・緑簾石片岩を総称

粘板は黒色粘板岩・灰色粘板岩・泥板岩・泥岩を総称

砂 は砂岩

長さ 糸を掛けるために打ち欠いた箇所。3か所以上ある時はその最長部分。

幅 実測図中の断面を計測した箇所。

厚さ 縦・横の断面が交差する箇所

() は残存している部分の値

備考 形状を表す。3方向・4方向は打ち欠かれた箇所の数

欠損は使用中・製作中もしくは廃棄の時点で壊れたと見られる石。

未成品は製作目的に集められたが加工されなかった石。

空欄は上下2方向に打ち欠いた箇所のある石。

3. 縄文時代の集落について

大門原遺跡では、総数58軒の住居址と168基の土坑が検出されている。これらの遺構は、出土遺物から縄文時代中期初頭・中葉・後葉、後期の各期にわたると考えられる。以下、各期の遺構の分布等について述べる。

縄文時代中期初頭 S B 04・07・27・40が当該期の住居址である。土坑などの分布から調査区北側の・区に集落の中心が認められる傾向にある。大門原遺跡北側に隣接する大久保遺跡では集合沈線文系土器を主体とする住居址・土坑などが確認されており（飯田市教委 1997）、段丘縁辺部に集落が構成されたと推定される。いずれの住居址も楕円形の浅い掘り込みで、地床炉をもつ傾向にある。

縄文時代中期中葉 S B 02・05・06・13・15・21・22・32・35・36・39・41・52・56が当該期の住居址である。中期初頭の集落と異なり、区南側から区全域にわたり広く分布する。住居址の形態は楕円形・円形が多く小振りな傾向にある。炉址の形態は、拳大の礫を径40程度の円形に囲んだ小型の石囲炉とするものが多いのもこの時期の特徴である。

縄文時代中期中葉末 中期中葉末から後葉にかけての住居址で、S B 01・23・30・31・33・34・37・38・43・44・46が当該期の住居址である。住居址の分布は区の南側に中心が移り、一部中期中葉の集落と重複する。住居址の形態は楕円に近い円形が多く、炉址は、長径30cm程度の礫を、円形に囲んだ石囲炉で、中葉の炉址と比較しても、構成礫・規模ともに大型化する傾向にある。

縄文時代中期後葉 S B 08・10・12・14・17・19・20・24・45・50・51・58・53が当該期の住居址である。このうち S B 10・12は、曾利式期でその他は唐草文系土器が主体を占める時期である。集落の分布は区北側に中心が見られ、中葉・中葉末の集落と一部重複する。住居の形態は曾利式期のものではほぼ円形を成し、唐草文系土器の時期には方形に近い形態となる傾向がある。炉址は、曾利式期では、人頭大の長い礫を長方形に組み合わせた長辺 1 m ほどの石囲炉がみられるが、唐草文期になると、長辺 1 m ほどの大型礫を組み合わせ、掘り込みも深い所謂「掘炬燵状」の石囲炉になる。

縄文時代後期 S B 29が相当する。このうち SK 24・70は住居址の可能性を指摘できる。飯伊地区の後期の住居址は極めてまれであり、この原因として黒土中に住居址が構築されるため、検出が困難であることがあげられる。本遺跡でも同様で、S B 29は、黒土中から炉址のみ検出された。炉址は40cm程度の板状の礫を4枚長方形に組み合わせた掘炬燵状の石囲炉であり、中期後葉の炉址と比較して小型化している。

今時調査の結果は以上のとおりで、遺跡のごく一部を調査したのみに関わらず、縄文時代中期中葉から後葉にかけて幾つかの新知見を加えることができた。特に、中期中葉末から後葉にかけての飯伊地区では、井戸尻式からの器種組成を受け継ぐ諏訪地方の梨久保B式と異なり、第Ⅲ群 a 類土器とした櫛形文土器が主体となり、東海系土器などが組成に加わるといった地域差を確認することができた。こうした新知見を加えることのできた大門原遺跡であるが、今時調査の要因となった、ふるさと農道整備事業を皮切りに、周辺の開発が急激に進むことが予想され遺跡の破壊は必至と思われる。このため、今まで以上の地道な文化財保護の本旨に沿ったたゆまない努力が肝要である。なお発掘調査にあたり、地元の方々には多大な御支援を頂いた。また、報告書作成には、今福利恵・綿田弘実・廣瀬昭弘・賛田明の各氏に御指導を賜った。文末であるが記して謝意を表する次第である。

写 真 図 版



調査区近景（1）



調査区近景（2）



調査区近景（3）



調査区近景（4）



調査区近景（5）



調査区近景（6）



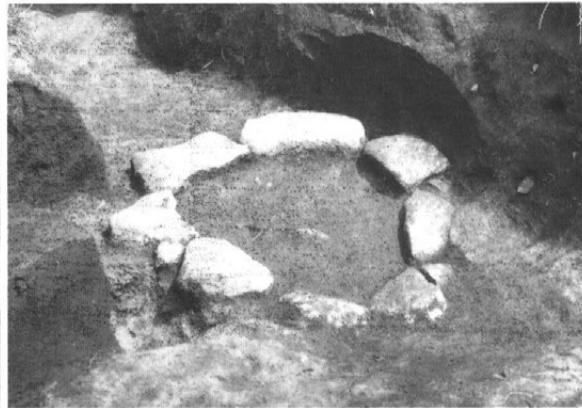
調査区近景（7）



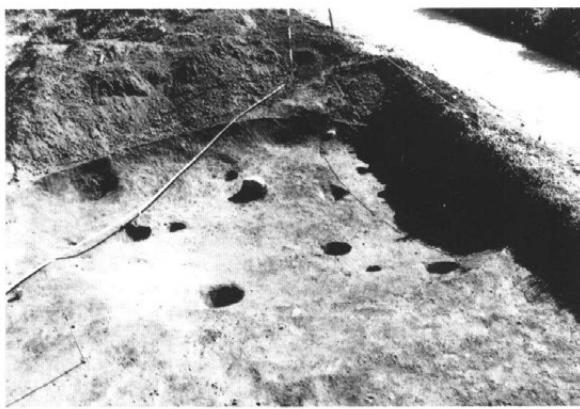
調査区近景（8）



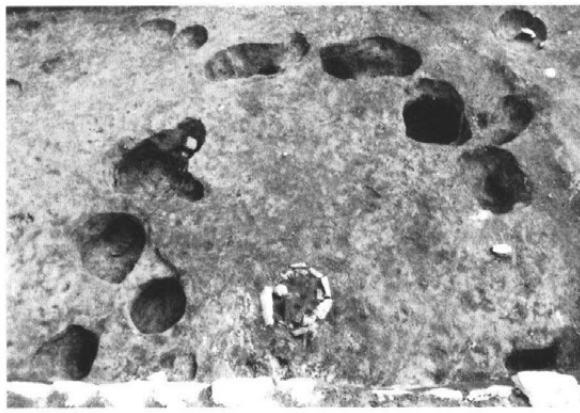
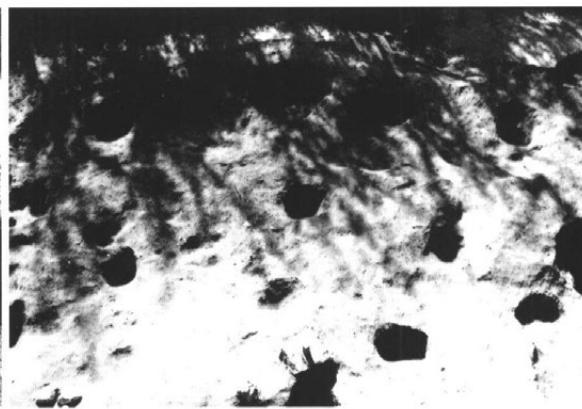
左: SB01
右: 同炉址



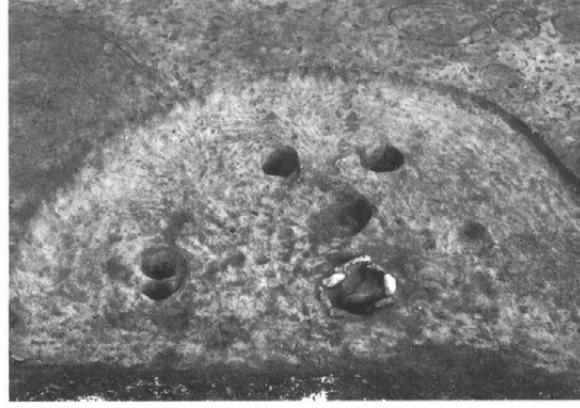
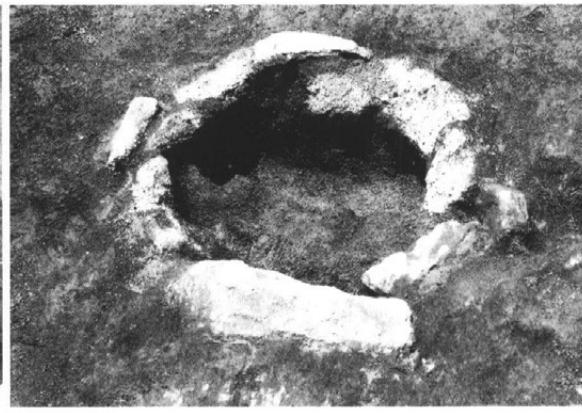
左: SB02
右: SB03



左: SB04
右: SB07



左: SB05
右: 同炉址

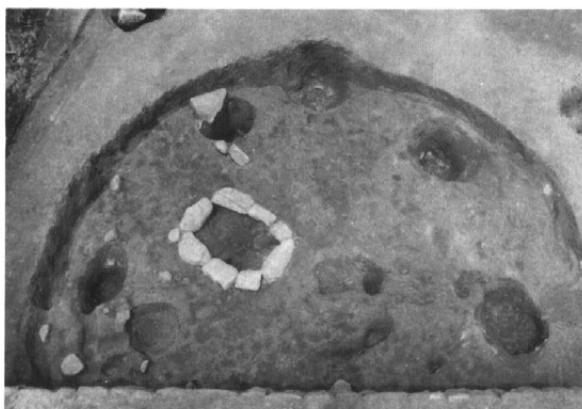


左: SB06
右: 同炉址

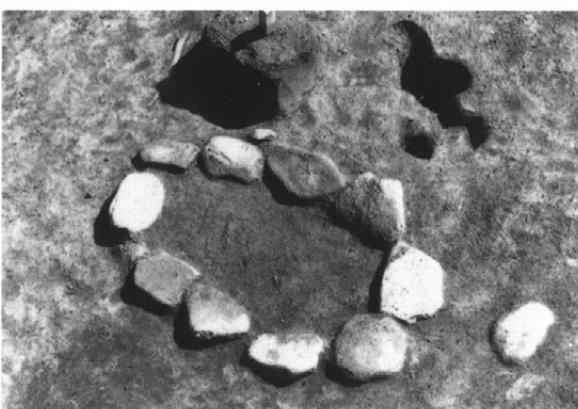
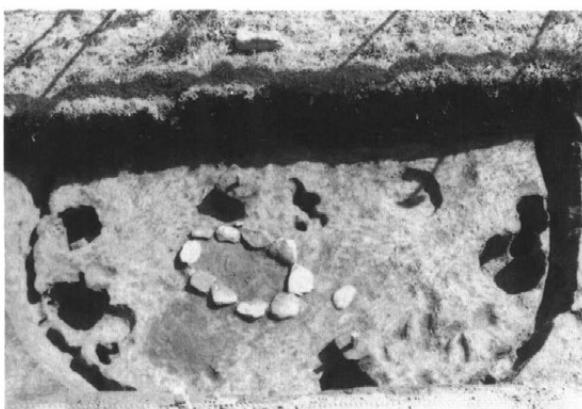




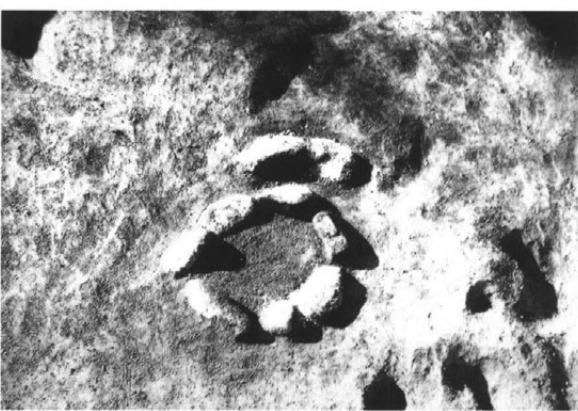
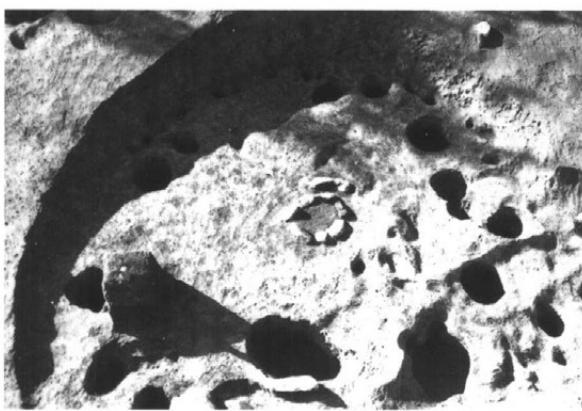
左：SB 08
右：SB 09



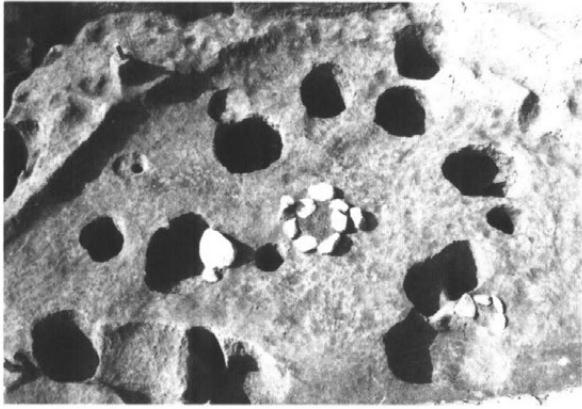
左：SB 10
右：SB 11



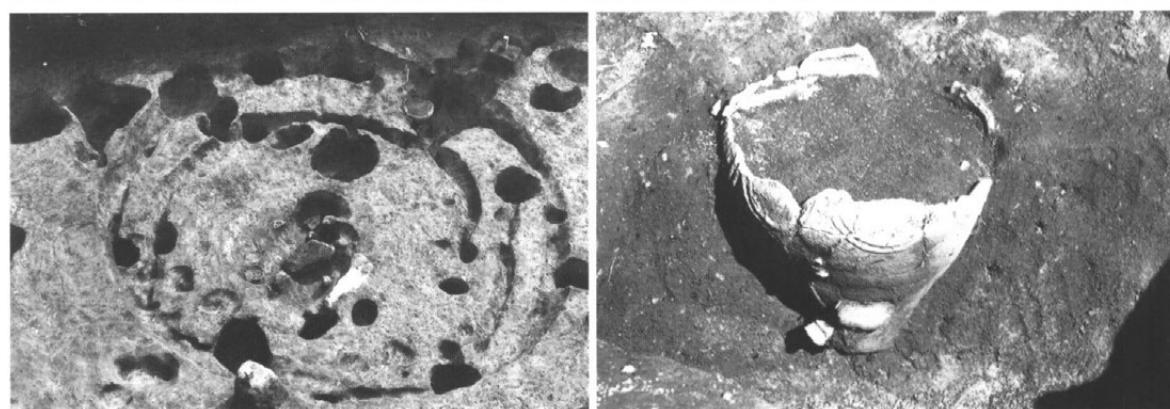
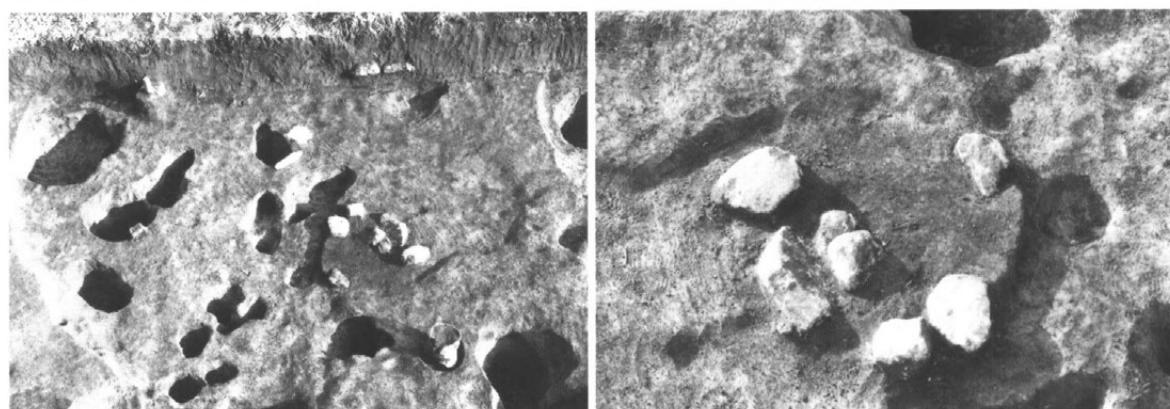
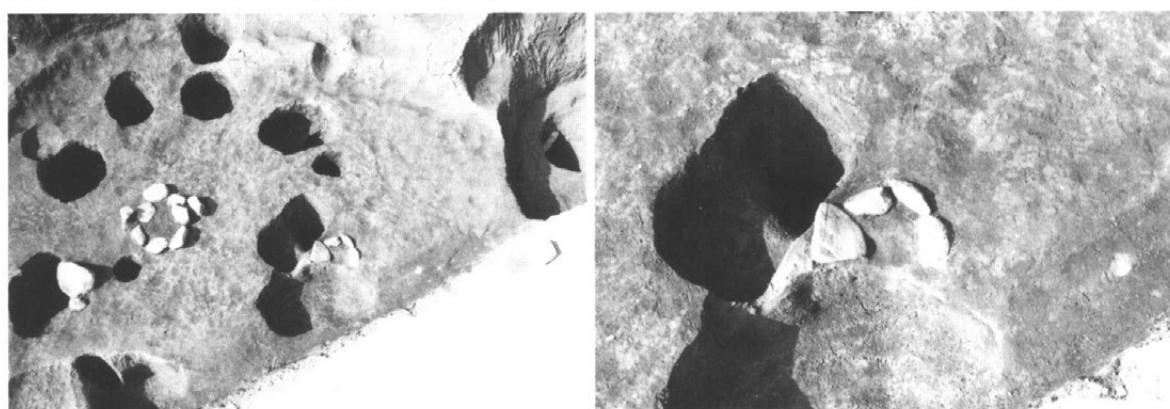
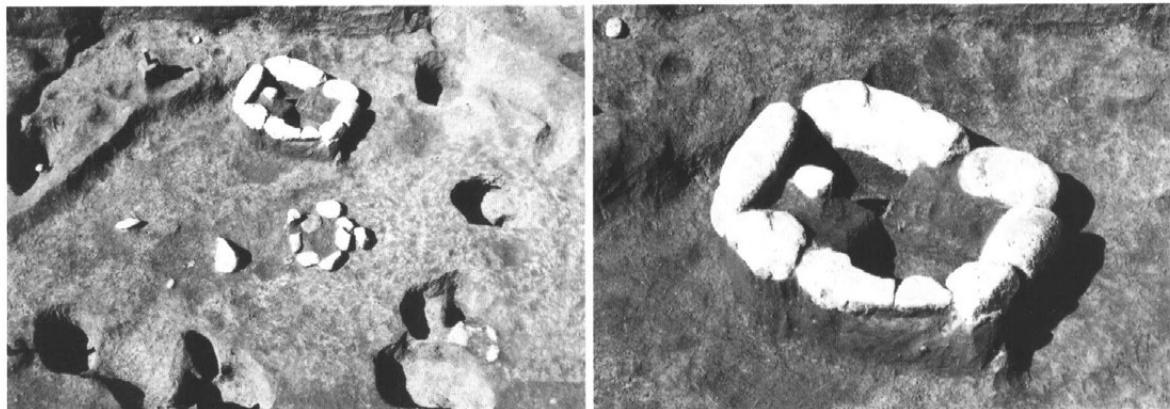
左：SB 12
右：同炉址

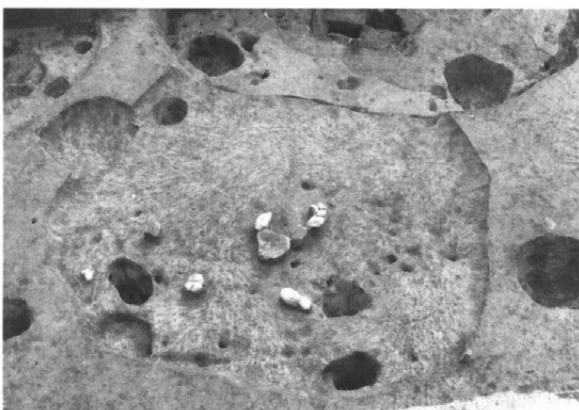


左：SB 13
右：同炉址

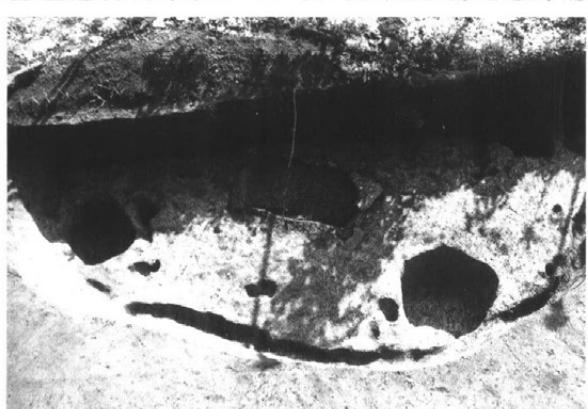


左：SB 14
右：SB 15





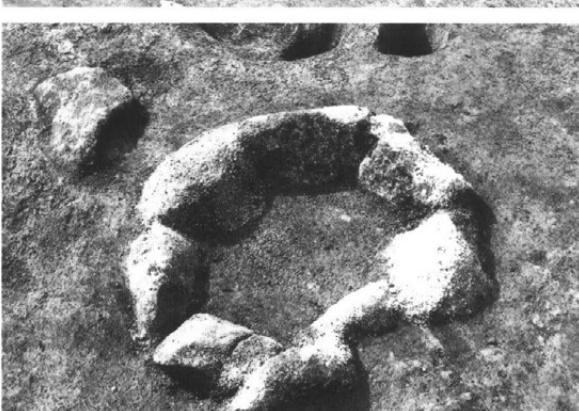
左：SB 22
右：SB 23



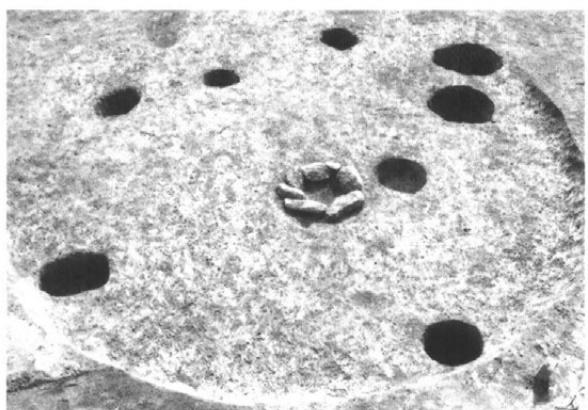
左：SB 24
右：同炉址



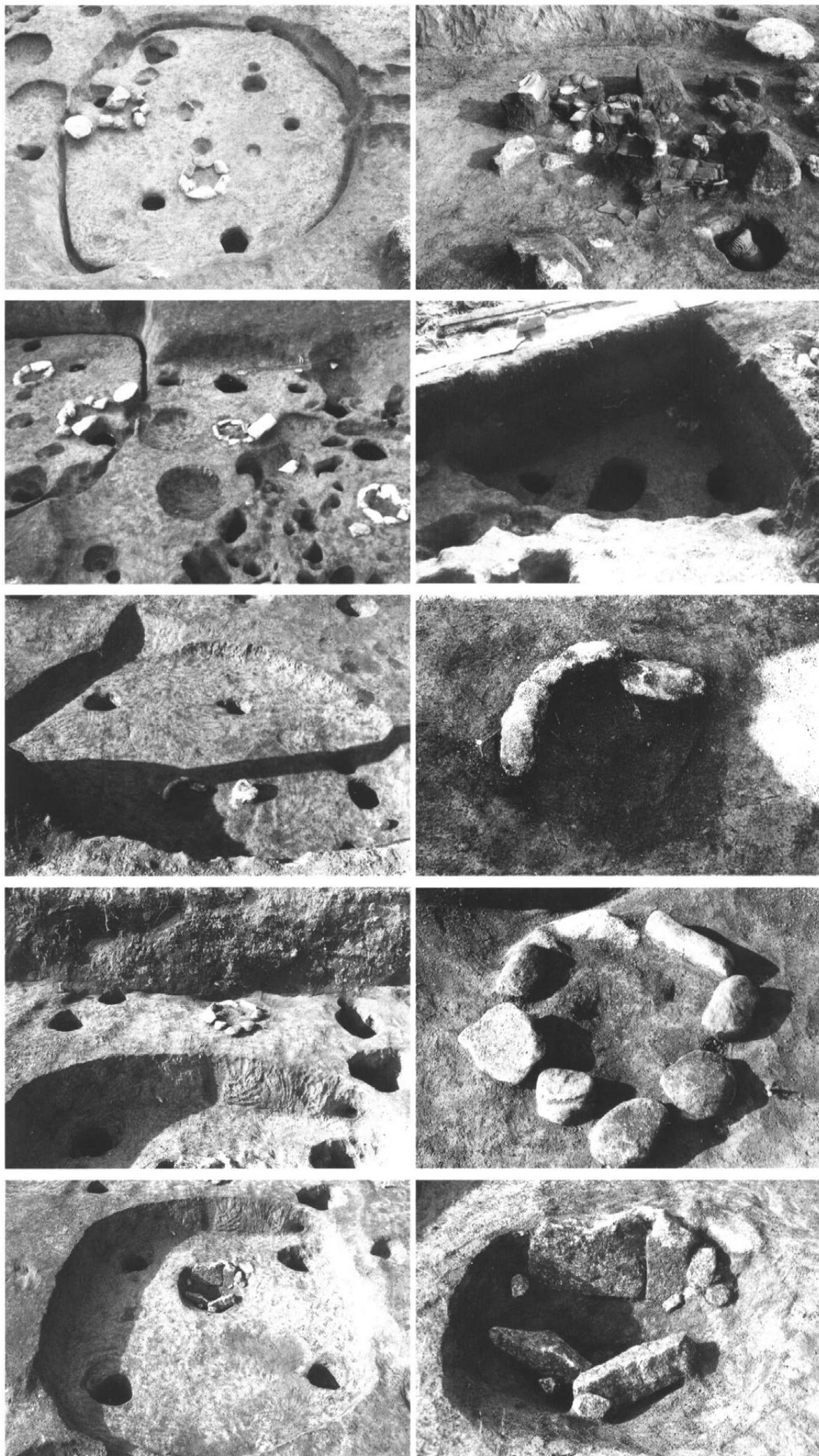
左：SB 29
右：SB 30
SB 37
SB 38

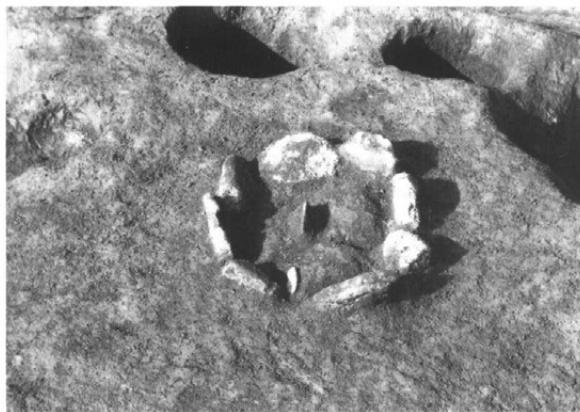


左：SB 31
右：同炉址

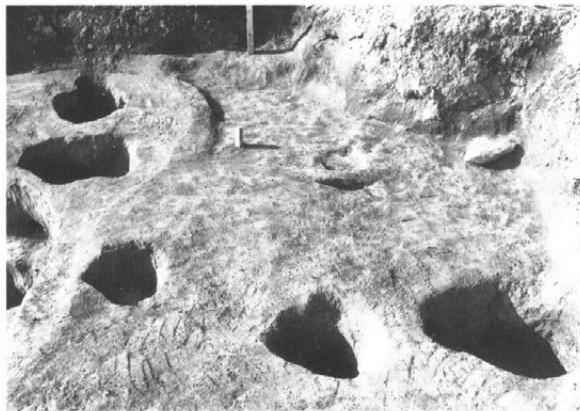
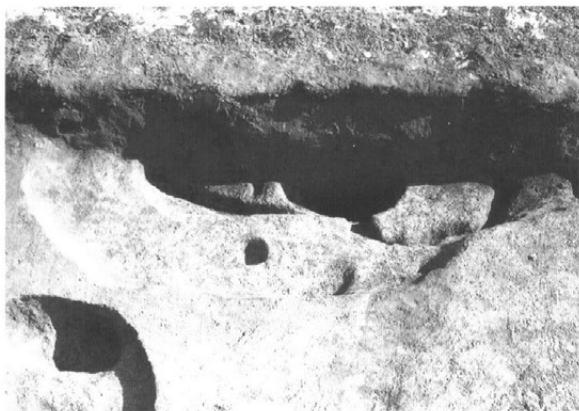


左：SB 32
右：SB 33

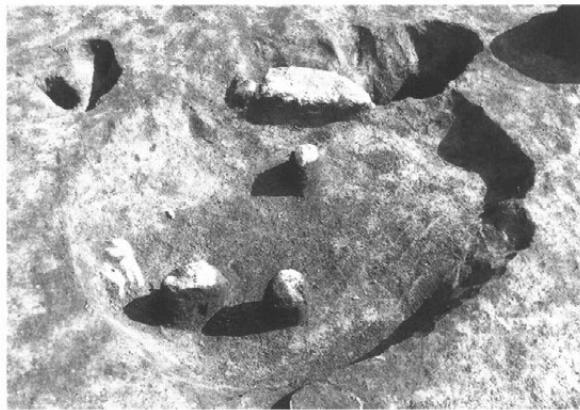




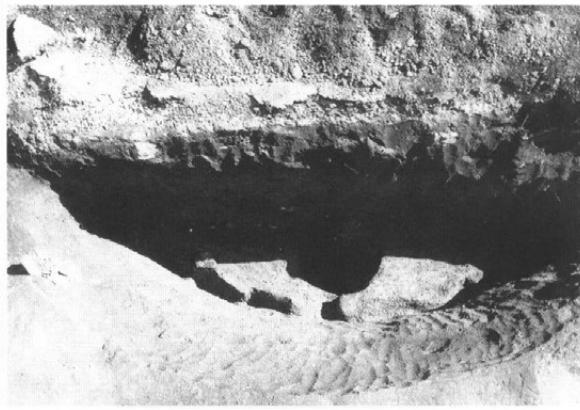
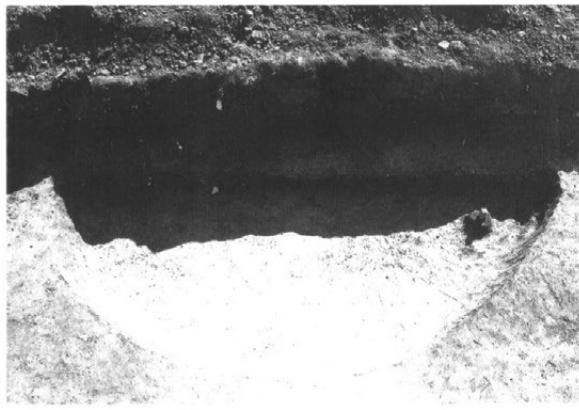
左：SB 46
右：同炉址



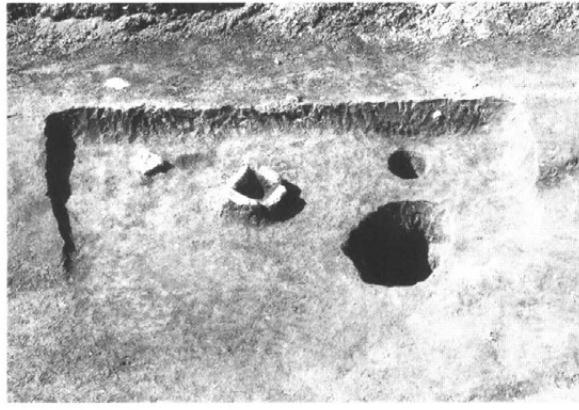
左：SB 47
右：SB 48
SB 50



左：SB 53
右：同炉址



左：SB 54
右：SB 56



左：SB 55
右：同炉址

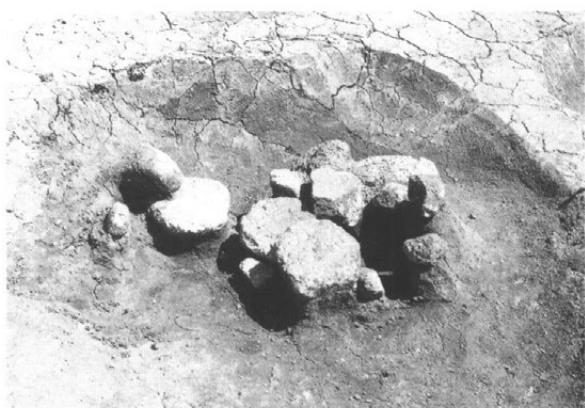
左: SK01
右: SK02



左: SK03
右: SK01



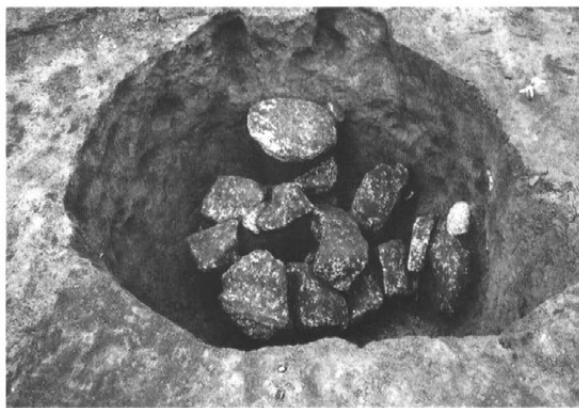
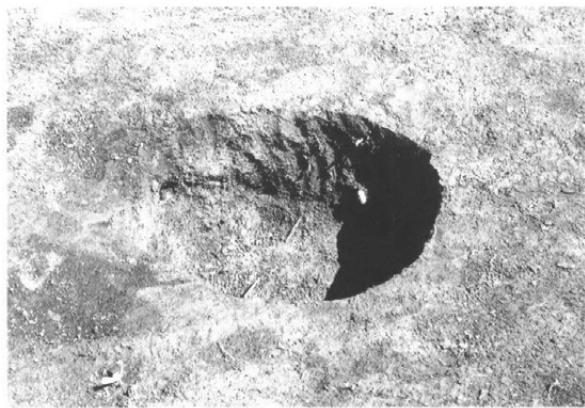
左: SK30
右: SK71

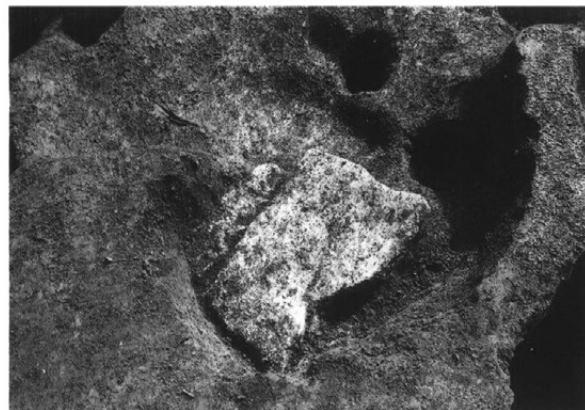


左: SK87
右: SK88



左: SK89
右: SK95





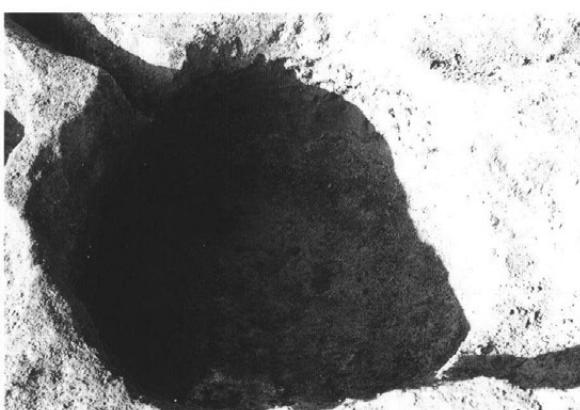
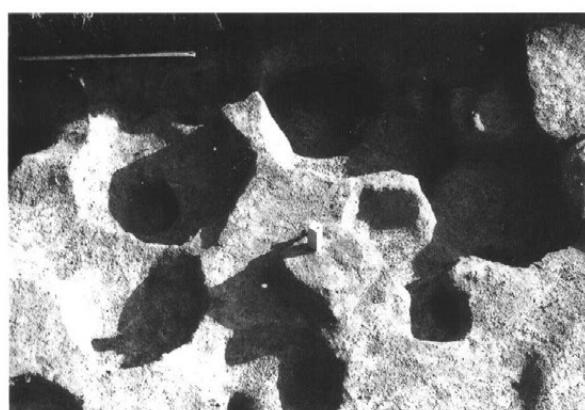
左：SK103

右：SK104



左：SK105

右：SK107



左：SK108

右：SK109

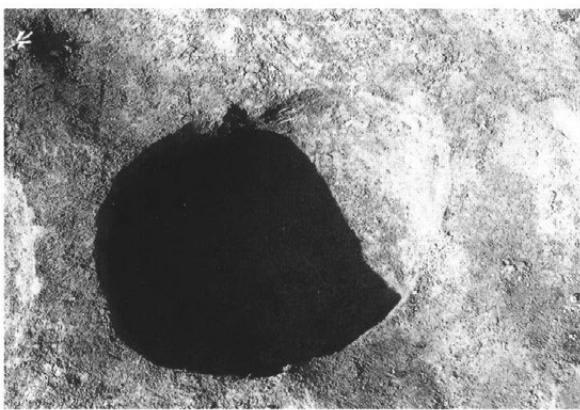
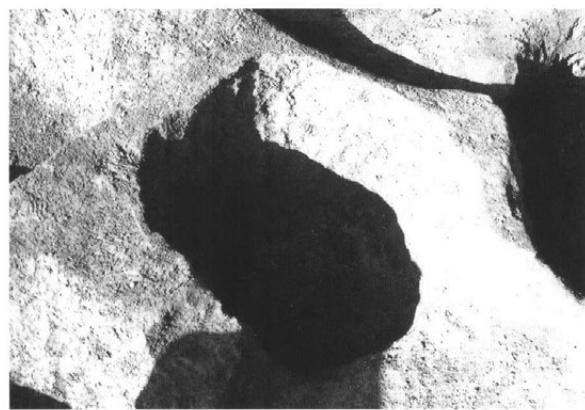
110

右：SK111



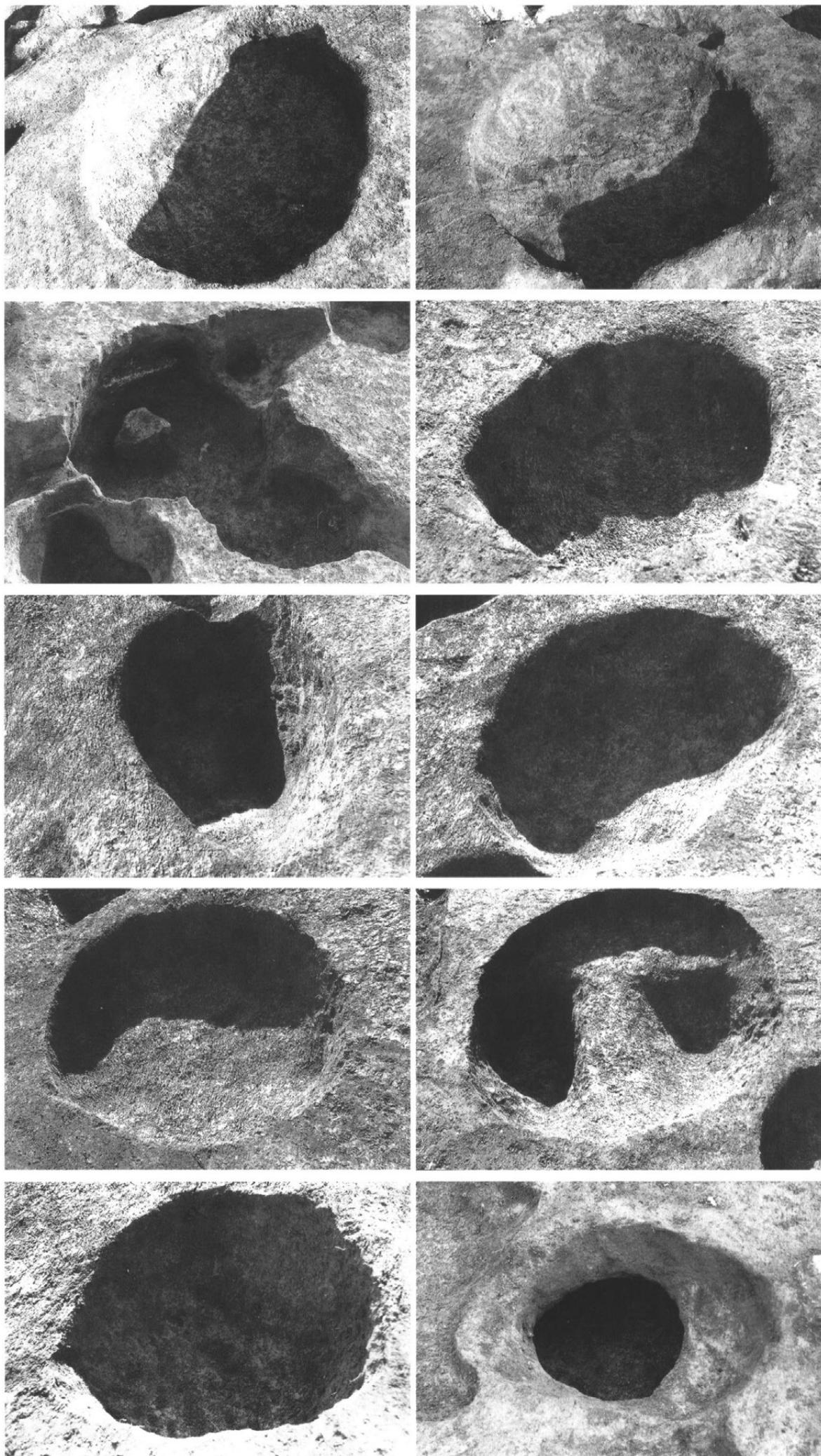
左：SK112

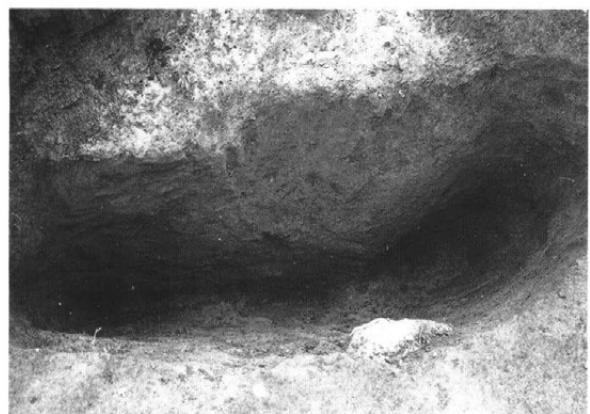
右：SK113



左：SK114

右：SK115

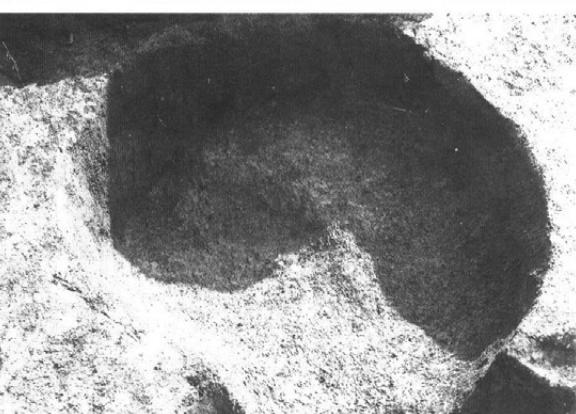
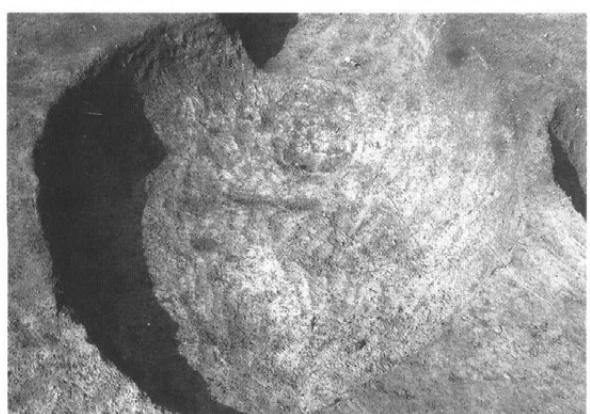




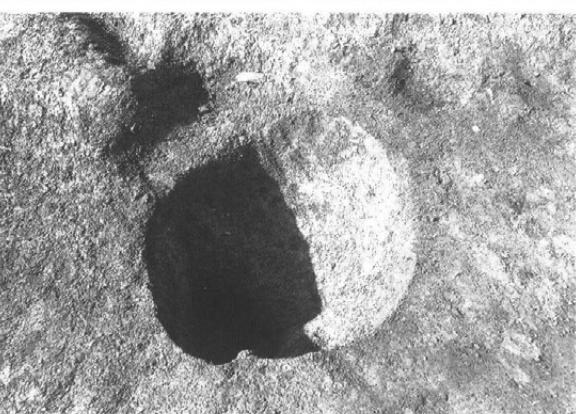
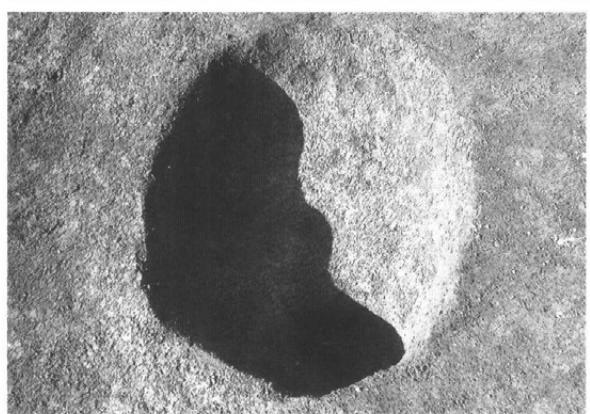
左：SK130
右：SK132



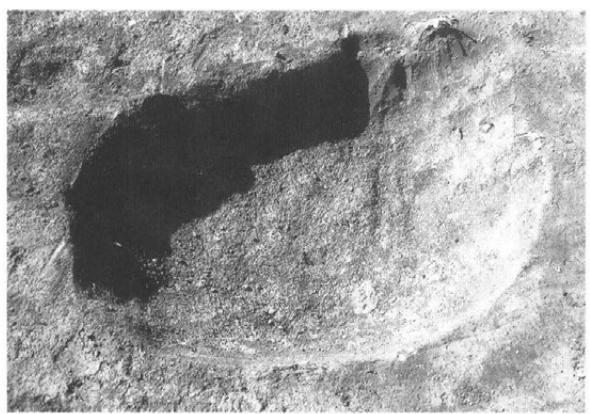
左：SK133
135
右：SK123



左：SK136
右：SK137

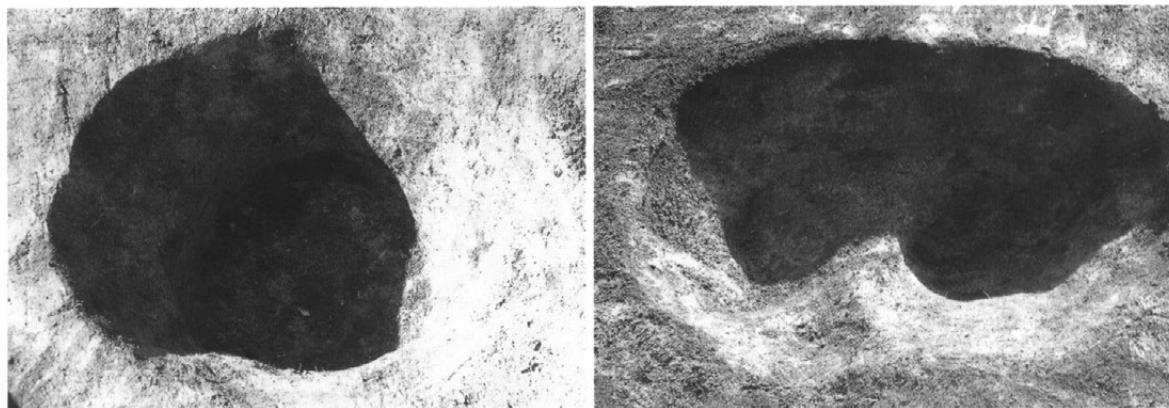


左：SK138
右：SK139

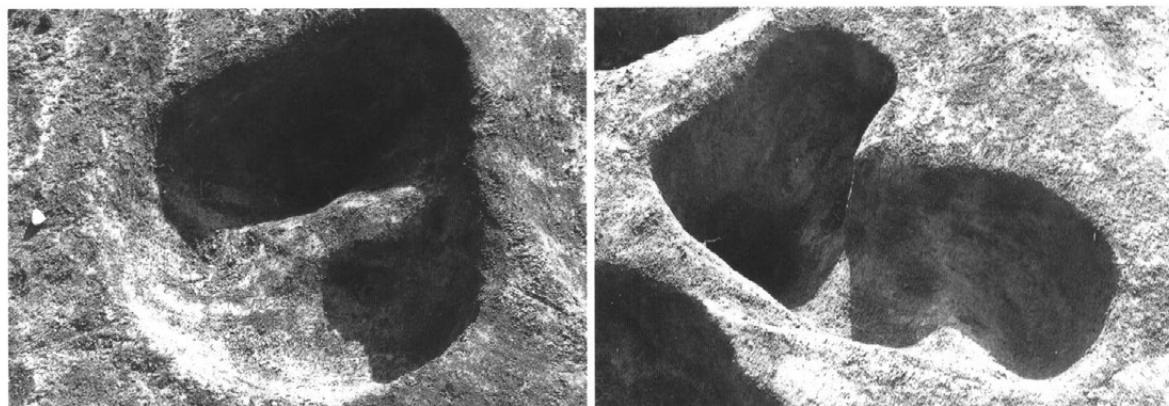


左：SK148
右：SK149

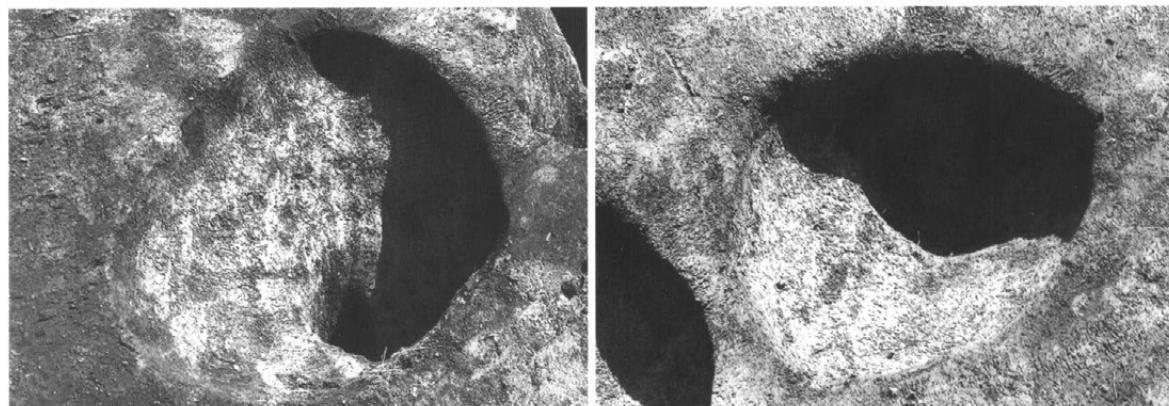
左: SK150
右: SK151



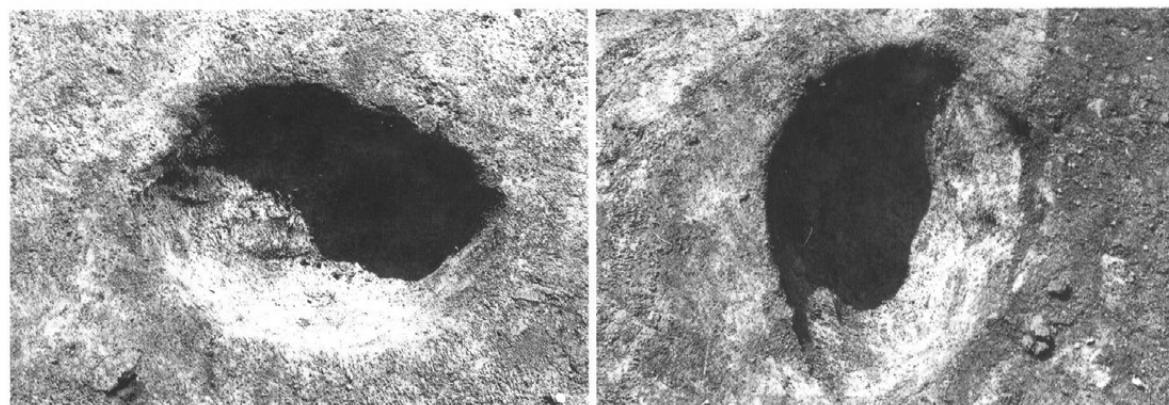
左: SK152
153
右: SK123



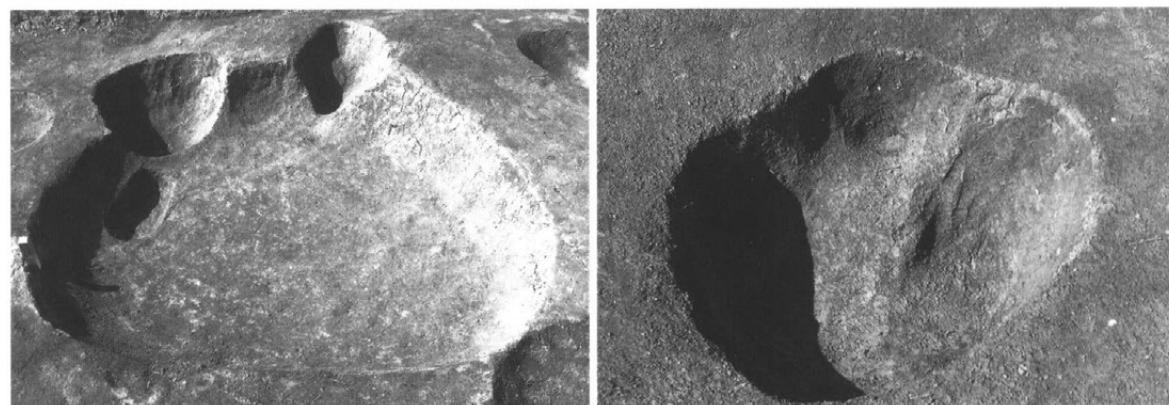
左: SK154
右: SK156



左: SK158
右: SK159



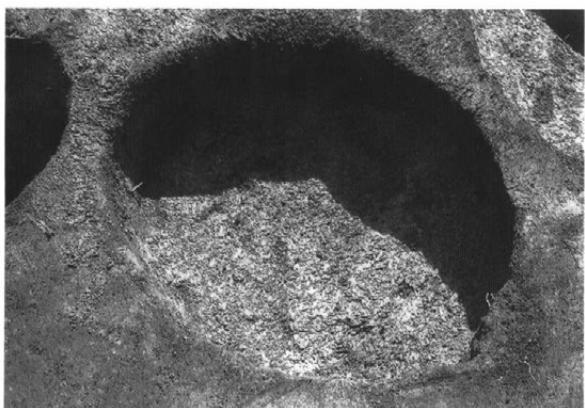
左: SK161
右: SK162





左：SK163

右：SK164



左：SK165

167



左：SK168

右：調査風景



左：調査風景

右：委託測量



左：重機作業

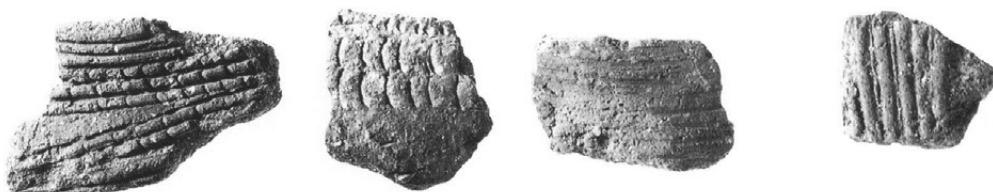
風景

右：同

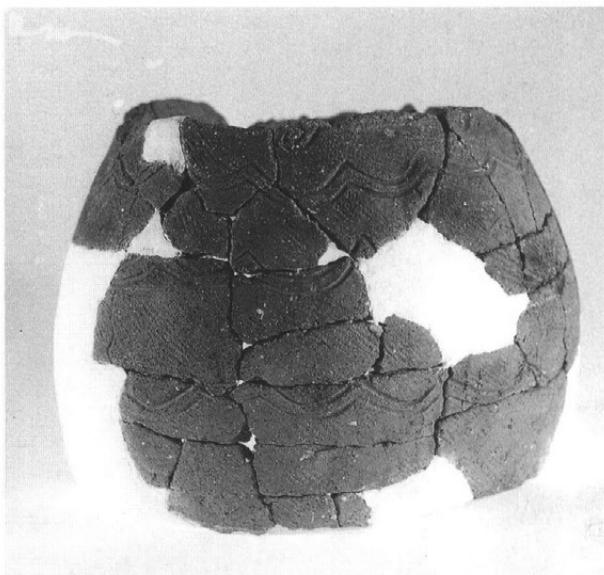
左: SB 04
右: SB 06



SB 06

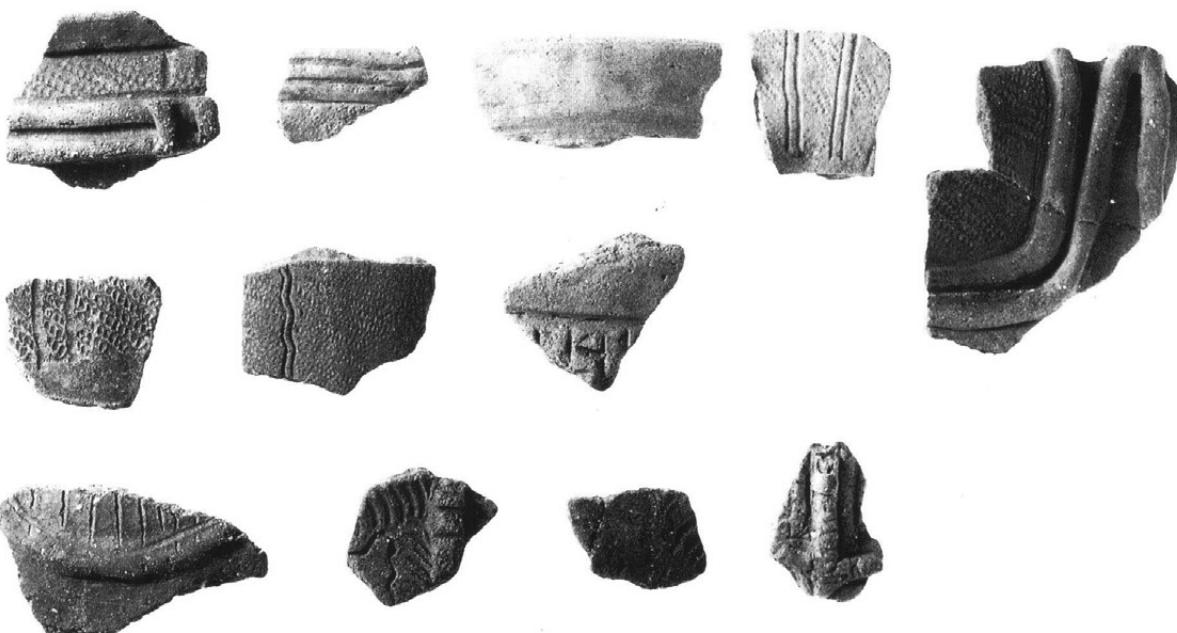


SB 08





S B 1 0



S B 1 0



S B 1 2